

一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXVI

鳥取県鳥取市

# 大桝遺跡Ⅱ

2017

鳥取県教育委員会





1 大柵遺跡（4～6区）調査後全景（西から）



1 4区8溝完掘状況（北西から）



2 6区26土器溜り・28土抗検出状況（西から）



## 序

山陰自動車道は鳥取市を起点とし、山口県美祿市を終点とする、延長380キロメートルの自動車専用道路であり、国土交通省により整備が進められているところです。

鳥取県内の事業区間である「鳥取西道路」は、鳥取市本高から同市青谷町青谷を結ぶ延長19.3キロメートルの区間であり、その改築事業に伴う事前の発掘調査を平成20年度から当教育委員会が実施し、平成21年度からは、財団法人鳥取県教育文化財団（平成25年度から公益財団法人に移行）に現地での発掘調査や出土遺物等の整理作業、報告書作成を委託して調査を進めてまいりました。

大柵遺跡では、平成26年度と平成27年度の2箇年にわたり発掘調査を行いました。平成27年度調査のうち、大柵遺跡4～6区では、古墳時代の竪穴建物2棟を含む集落遺構や中世から近世にかけての居宅と考えられる大型掘立柱建物、弥生時代から中世にかけての水田耕作に係る流路などの遺構、多量の土器や木器など、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。本書は、その記録と成果をまとめたものです。

なお、鳥取西道路改築に係る発掘調査の成果については、現地説明会や県立博物館での展示会の開催などを行い、地元の皆様をはじめとして多くの方々に紹介してまいりました。このような取り組みは、先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承するための、現在に生きる私たちの重要な責務と考えています。

本書をまとめるにあたり、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所ならびに地元関係者の皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御助言、御協力をいただきました。心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

鳥取県教育委員会  
教育長 山本 仁志

## 例 言

- 1 本書は、一般国道9号（鳥取西道路）改築工事に伴い、国土交通省中国地方整備局鳥取河川国道事務所から委託を受け、平成27年度に実施した大柵遺跡（4～6区）の発掘調査報告書である。
- 2 大柵遺跡は、鳥取市大柵字下前田93-1他（4区）、字下前田94-2他（5区）、字僧ヶ谷85他（6区）に所在する。平成27年度の調査面積は758㎡（4～6区）である。現地調査は、平成27年4月1日から平成27年7月14日まで行い、調査記録と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成29年3月まで行った。
- 3 本調査の名称は「大柵遺跡15（4～6区）」である。出土品などの注記には「大カタ15〇区」の略号を用い、15の後に各区名を付した。
- 4 発掘調査を公益財団法人鳥取県教育文化財団（以下、財団）に委託した。
- 5 発掘調査に際し、埋蔵文化財発掘調査支援業務委託（大柵遺跡（4～6区））として国際文化財株式会社を支援を受けた。遺跡での掘削作業、記録作成と測量作業は、財団の監理・指示のもと同社が実施した。
- 6 調査で作成した図面の再編集、出土遺物の整理作業や記録作成は財団に委託し、同財団の職員が作業を行った。
- 7 遺物の写真撮影は、財団職員が行った。
- 8 本書の執筆は、第6章を除いて、財団の牧本哲雄、西山昌孝、森本のぞみ、河合章行が行い、執筆分担は目次に記した。編集は牧本が行い、西山と河合がこれを補佐した。
- 9 出土した木杭の樹種同定にあたって、鳥取大学地域学部准教授 中原 計 氏に御指導、御助言いただき、第6章第2節に寄稿いただいた。
- 10 大柵遺跡（4～6区）の堆積環境について、独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センターの村田泰輔氏に現地指導いただき、軟X線写真撮影観察等による調査成果を第6章第4節に寄稿いただいた。
- 11 調査区堆積土壌等を利用した放射性炭素年代測定、植物珪酸体分析、花粉分析、掘立柱建物跡出土土の樹種同定と放射性炭素年代測定をバリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 12 4区8溝から出土した木製鍬の保存処理を、公益財団法人元興寺文化財研究所に委託した。
- 13 本調査に係る図面・写真等の記録及び出土遺物は、全て台帳等に登録して収納しており、今後活用できるように、随時検索できる状態で鳥取県埋蔵文化財センターに移管する。
- 14 現地調査、報告書の作成にあたって、下記の方々、機関から、様々な御指導、御助言、御支援を賜った。記して感謝申し上げます（順不同、敬称略）。

公益財団法人大阪府文化財センター、公益財団法人鳥取市文化財団 鳥取市埋蔵文化財センター、国土交通省中国地方整備局 鳥取河川国道事務所、鳥取県土整備部 鳥取県土整備事務所、鳥取県立生涯学習センター 県民ふれあい会館、鳥取市教育委員会、大溝地区自治会、嶋地区自治会

## 凡 例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系に基づいている。図中のX・Y座標は、平面直角座標系（平成14年国土交通省告示第9号）第V系（原点：東経134度20分0秒0000、北緯36度0分0秒0000）によるもので、m単位で表記した。また、平面図の方位は座標北を示している。
- 2 標高は、東京湾平均海面（T.P.）からの高さを表し、m単位で表記した。
- 3 第1図・第7図の地図は、国土地理院発行（1/25,000、1/200,000地形図）を縮小・加筆して使用した。また、第2図・第8図・第117図の地図は、測量法第43条に基づく複製承認を得て、鳥取市都市計画図を複製し、縮小・加筆して使用した。（承認番号：平成28年12月12日付け鳥取市指令受都第171号）
- 4 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定した。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworth（1922）の粒径区分を使用した。なお、同一地層内に異なる粒径のものが幅をもって認められるときには、基本的により細粒の粒径を先にして「シルト～粗砂」のように記載した。ただし、場合によっては主体を占めるものを後にして「極粗砂混じりシルト」のように記載したものもある。
- 5 発掘調査時に付した遺構番号、遺構名の設定については、第1章第2節に記した。
- 6 遺構平面図や断面図の縮尺は統一していないが、挿図ごとにスケールバーと縮尺を示した。
- 7 遺物実測図の縮尺については、土器を1/4、土製品を1/2、1/3、石器を2/3、1/2、1/3、木製品を1/4、1/8、金属製品を1/2で示した。
- 8 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、瓦質土器は網掛け、それ以外のものは白抜きで示した。
- 9 石器実測図に用いた  $\longleftrightarrow$  は、使用痕の範囲を示す。
- 10 遺構計測表の法量記載における※は復元値、△は残存値、>数は数字より大、<数は数字より小を示す。
- 11 遺物観察表の法量記載における※は復元値、△は残存値を示す。
- 12 本書における遺構、遺物の時期決定は、以下の文献を主な参考とした。  
岡田裕之・土器検討グループ 2010『出雲地域における古代須恵器の編年』『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』鳥根県古代文化センター  
岡田裕之・八峠興 2014『鳥取県における古代から中世前期の土器編年－須恵器と回転土師器を基に－』『調査研究紀要』5 鳥取県埋蔵文化財センター  
清水真一 1992『因幡・伯耆地域』『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社  
田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店  
谷口恭子 2000『因幡における弥生時代後期から庄内式併行期の土器について』『庄内式土器研究XⅡ－庄内式土器併行期の土器生産とその動き－丹波・丹後・但馬を中心とした庄内式併行期の土器の移動』庄内式土器研究会  
玉木秀幸 2016『鳥取県東部における古代から中世前期の土製煮炊具について』『半田山地理考古』第4号 岡山理科大学 地理考古学研究会  
鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団 1991『岩吉遺跡Ⅲ』  
中森 祥 2010『因幡・伯耆における古代土器の編年とその様相』『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』鳥根県古代文化センター  
乗岡 実 2008『備前焼の編年について』『山陰地方における備前焼』山陰中世土器検討会  
松井 潔 1997『東の土器、南の土器』『古代吉備』第19集 古代吉備研究会  
松山智弘 2015『山陰』『前期古墳編年を再考するⅡ～古墳出土土器をめぐる～』中国四国前方後円墳研究会・第18回研究会集（香川大会）実行委員会

# 目 次

## 巻頭図版

## 序

## 例言・凡例

### 第1章 調査の経緯と経過

第1節	調査に至る経緯	(牧本)	1
第2節	調査の経過と方法	(牧本)	2
第3節	調査体制	(牧本)	8

### 第2章 遺跡の位置と環境

第1節	遺跡の立地と地理的環境	(牧本)	11
第2節	歴史的環境	(牧本)	12
第3節	大柵遺跡における既往の調査成果	(牧本)	16

### 第3章 4区の調査成果

第1節	調査区の概要	(森本・牧本)	19
第2節	基本層序	(森本・牧本)	19
第3節	検出した遺構と遺物	(森本・牧本・河合)	23
第4節	遺構外出土遺物	(河合・牧本)	51
第5節	遺構計測表	(森本・牧本)	53
第6節	遺物観察表	(河合・牧本)	62

### 第4章 5区の調査成果

第1節	調査区の概要	(森本・牧本)	67
第2節	基本層序	(森本・牧本)	67
第3節	検出した遺構と遺物	(森本・牧本・河合)	71
第4節	遺構外出土遺物	(河合・牧本)	91
第5節	遺構計測表	(河合・牧本)	94
第6節	遺物観察表	(河合・牧本)	95

## 第5章 6区の調査成果

第1節	調査区の概要	(西山・牧本)	97
第2節	基本層序	(西山・牧本)	98
第3節	検出した遺構と遺物	(西山・牧本・河合)	102
第4節	遺構外出土遺物	(河合・牧本)	138
第5節	遺構計測表	(西山・牧本)	141
第6節	遺物観察表	(河合・牧本)	144

## 第6章 自然科学分析

第1節	大桷遺跡15(4～6区)の自然科学分析	パリオ・サーヴェイ株式会社	147
第2節	大桷遺跡15(4～6区)出土木質遺物の樹種	鳥取大学地域学部 中原 計	165
第3節	保存処理木製品の樹種同定結果	公益財団法人 元興寺文化財研究所	184
第4節	自然科学分析からみた大桷遺跡15(4～6区)の古環境	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 村田泰輔	186

## 第7章 総括

第1節	弥生時代後期から古墳時代前期の集落と4区流路・杭列群	(牧本)	199
第2節	中世末から近世の集落と「村土居」	(西山)	209

## 写真図版

## 報告書抄録

## 挿図目次

第1図	鳥取西道路建設予定路線図	1	第53図	5区第1遺構面遺構変遷図	81
第2図	調査区位置図	3	第54図	5区第2遺構面遺構配置図	82
第3図	調査樹概念図	4	第55図	5区掘立柱建物1	83
第4図	4～6区グリッド図	5	第56図	5区掘立柱建物2	85
第5図	遺跡の所在地	11	第57図	5区掘立柱建物3	86
第6図	遺跡周辺の地形	12	第58図	5区16土坑	87
第7図	周辺の遺跡	13	第59図	5区17土坑	88
第8図	大柵遺跡の既往調査	17	第60図	5区9ピット・10ピット・11ピット・ 12ピット・13ピット	89
第9図	4区地区割り図	19	第61図	5区14ピット・15ピット・35ピット・ 36ピット・37ピット	90
第10図	4区西壁土層断面図	20	第62図	5区1層出土土器・土製品	91
第11図	4区北壁土層断面図	21	第63図	5区Ⅱ層出土遺物	93
第12図	4区東壁土層断面図	22	第64図	6区調査前測量図	97
第13図	4区第1遺構面遺構配置図	23	第65図	6区地区割り図	98
第14図	4区4溝平面図・断面図及び出土土器	24	第66図	6区東側東壁土層断面図	99
第15図	4区5溝・6溝・10溝平面図・断面図	25	第67図	6区西側東壁・南壁土層断面図	100
第16図	4区第2遺構面遺構配置図	26	第68図	6区第1遺構面遺構配置図	102
第17図	4区7溝平面図・断面図	27	第69図	6区掘立柱建物1	103
第18図	4区7溝出土土器	27	第70図	6区2溝	105
第19図	4区8溝平面図・断面図	29	第71図	6区3溝	106
第20図	4区8溝杭列群検出状況(平面図・断面図)	30	第72図	6区1・4・5・6・7・8・9・10・ 11ピット	107
第21図	4区8溝出土土器	32	第73図	6区14・15・16・17・18・19ピット	108
第22図	4区8溝出土土器	34	第74図	6区94・96・97・98ピット	109
第23図	4区8溝出土土器(1)	35	第75図	6区第2遺構面遺構配置図	110
第24図	4区8溝出土土器(2)	36	第76図	6区竪穴建物1	111
第25図	4区8溝出土土器(3)	37	第77図	6区竪穴建物1遺物出土状況	112
第26図	4区8溝出土土器(4)	38	第78図	6区竪穴建物1出土土器	113
第27図	4区9溝	39	第79図	6区竪穴建物2(1)	115
第28図	4区9溝出土土器	40	第80図	6区竪穴建物2(2)	116
第29図	4区9溝出土土器	41	第81図	6区竪穴建物2遺物出土状況	117
第30図	4区13溝	43	第82図	6区竪穴建物2出土土器(1)・石器	117
第31図	4区13溝出土土器	44	第83図	6区竪穴建物2出土土器(2)	118
第32図	4区13溝出土土器	45	第84図	6区掘立柱建物2	120
第33図	4区15溝	46	第85図	6区26土器溜り・28土坑	121
第34図	4区15溝出土土器	47	第86図	6区26土器溜り出土土器	122
第35図	4区11土坑及び出土土器	48	第87図	6区32土器溜り及び出土土器	123
第36図	4区12土坑	48	第88図	6区115土坑及び出土土器	124
第37図	4区14土坑及び出土土器	49	第89図	6区20・21・22・23・27・29・30・ 31ピット	125
第38図	4区第2遺構面遺構変遷図	50	第90図	6区35・36・37・38・39・40ピット	126
第39図	4区1層出土土器	51	第91図	6区41・42・43・44・45ピット	127
第40図	4区Ⅱ層出土土器・石器	52	第92図	6区46・47・48・49・50ピット	128
第41図	5区地区割り図	67	第93図	6区51・56・57・58・59・60・61・ 62・63ピット	129
第42図	5区西壁・北壁・東壁土層断面図	68	第94図	6区64・65・66・67・68・69・71・ 72ピット	130
第43図	5区第1遺構面遺構配置図	71	第95図	6区74・75・80・81・82・83・84・ 86・89ピット	131
第44図	5区1溝・2溝	72	第96図	6区90・91・92・116・117・118ピット	132
第45図	5区1溝出土遺物	73	第97図	6区119・120・121・122・123・125ピット	132
第46図	5区2溝出土遺物	74			
第47図	5区6溝	76			
第48図	5区6溝出土遺物	77			
第49図	5区7溝出土遺物	77			
第50図	5区3土坑及び出土遺物	78			
第51図	5区4土坑及び出土遺物	79			
第52図	5区5土坑及び出土遺物	80			

	ト	133	第 113 図	5 区北壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像	194
第 98 図	6 区第 3 遺構面遺構配置図	135	第 114 図	5 区東壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像	195
第 99 図	6 区 124・126・127・128・129・130・131・132・133 ビット	136	第 115 図	6 区土壌サンプル採取位置図	196
第 100 図	6 区 134・135・136・137・138・139 ビット	137	第 116 図	6 区南壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像	197
第 101 図	6 区遺構外出土遺物 (1)	139	第 117 図	大柵遺跡周辺地形図	200
第 102 図	6 区遺構外出土遺物 (2)	141	第 118 図	大柵遺跡 4 区杭列群樹種別分布図	202
第 103 図	放射性炭素年代測定結果	150	第 119 図	大柵遺跡 4 区杭列群転用材分布図	202
第 104 図	試料採取位置	152	第 120 図	大柵遺跡 4 区杭列群上端標高別分布図	203
第 105 図	主要珪藻化石群集の層位分布	153	第 121 図	大柵遺跡 4 区杭列群 (標高 7.45 m 以上) 分布図	204
第 106 図	花粉化石群集の層位分布	157	第 122 図	大柵遺跡 4 区杭列群 (標高 7.44 m 以下) 分布図	204
第 107 図	4 区土壌サンプル採取位置図	187	第 123 図	鳥取県内の主な堰・護岸遺構	207
第 108 図	4 区東壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像 (1)	188	第 124 図	中世後半から近世の掘立柱建物	209
第 109 図	4 区東壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像 (2)	189	第 125 図	周辺の字名	211
第 110 図	4 区北壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像 (1)	191	第 126 図	寛文大図 (部分)	213
第 111 図	4 区北壁から採取した土壌試料の岩相と軟 X 線画像 (2)	192			
第 112 図	5 区土壌サンプル採取位置図	193			

## 挿表目次

第 1 表	大柵遺跡の既往調査と成果	16	第 20 表	6 区土製品観察表	146
第 2 表	4 区溝計測表	53	第 21 表	6 区石器観察表	146
第 3 表	4 区土坑・ビット計測表	53	第 22 表	6 区銭貨観察表	146
第 4 表	4 区 8 溝検出坑一覧表	53	第 23 表	年代測定試料一覧	147
第 5 表	4 区土器観察表	62	第 24 表	大柵遺跡 4～6 区の放射性炭素年代測定結果	149
第 6 表	4 区石器観察表	66	第 25 表	珪藻分析結果	154
第 7 表	4 区木器観察表	66	第 26 表	花粉分析結果	156
第 8 表	5 区掘立柱建物計測表	94	第 27 表	樹種同定試料一覧	166
第 9 表	5 区溝計測表	94	第 28 表	出土木材の解剖学的特徴 (針葉樹)	172
第 10 表	5 区土坑・ビット計測表	94	第 29 表	出土木材の解剖学的特徴 (広葉樹)	172
第 11 表	5 区土器観察表	95	第 30 表	水利施設の施設材の樹種	175
第 12 表	5 区土製品観察表	96	第 31 表	各杭列の使用樹種	176
第 13 表	5 区石器観察表	96	第 32 表	弥生時代後期から古墳時代前期の時期区分	199
第 14 表	5 区木器観察表	96	第 33 表	鳥取県内の主な堰・護岸遺構 (縄文時代～古墳時代)	206
第 15 表	6 区竪穴建物計測表	141			
第 16 表	6 区掘立柱建物計測表	141			
第 17 表	6 区溝計測表	141			
第 18 表	6 区土坑・ビット計測表	142			
第 19 表	6 区土器観察表	144			

## 写真目次

写真 1	珪藻化石	163	写真 6	顕微鏡写真 (広葉樹) (3)	180
写真 2	花粉化石	164	写真 7	顕微鏡写真 (広葉樹) (4)	181
写真 3	顕微鏡写真 (針葉樹)	177	写真 8	顕微鏡写真 (広葉樹) (5)	182
写真 4	顕微鏡写真 (広葉樹) (1)	178	写真 9	顕微鏡写真 (広葉樹) (6)	183
写真 5	顕微鏡写真 (広葉樹) (2)	179	写真 10	木材組織顕微鏡写真	185

## 巻頭図版目次

### 巻頭図版 1

- 1 大柵遺跡 (4～6区) 調査後全景 (西から)

### 巻頭図版 2

- 1 4区8溝完掘状況 (北西から)
- 2 6区26土器溜り・28土坑検出状況 (西から)

## 写真図版目次

### 全体

#### 写真図版 1

- 1 調査前遠景 (南西から)
- 2 調査前遠景 (東から)

### 4区

#### 写真図版 2

- 1 調査前近景 (南西から)
- 2 東壁土層断面 (北西から)
- 3 北壁土層断面 (南から)

#### 写真図版 3

- 1 第1遺構面完掘状況 (南東から)
- 2 4溝完掘状況 (東から)
- 3 4溝土層断面 (東から)
- 4 5溝完掘状況 (東から)
- 5 5溝土層断面 (西から)

#### 写真図版 4

- 1 6溝完掘状況 (東から)
- 2 6溝土層断面 (西から)
- 3 10溝完掘状況 (西から)
- 4 10溝土層断面 (東から)
- 5 第2遺構面完掘状況 (南から)

#### 写真図版 5

- 1 8溝杭検出状況 1 (北西から)
- 2 8溝杭検出状況 2 (北西から)

#### 写真図版 6

- 1 8溝杭検出状況 3 (南から)
- 2 8溝杭検出状況 4 (南から)

#### 写真図版 7

- 1 8溝杭検出状況 5 (北西から)
- 2 8溝杭検出状況 6 (西から)

#### 写真図版 8

- 1 7溝・8溝土層断面 (南東から)
- 2 8溝土器出土状況 (南から)
- 3 8溝木器出土状況 (北北西から)
- 4 8溝杭列群取り上げ状況 (西から)

#### 写真図版 9

- 1 9溝完掘状況 (北東から)
- 2 9溝土層断面 (南西から)
- 3 9溝土層断面 (東から)
- 4 13溝・15溝完掘状況 (南西から)
- 5 13溝土器出土状況 (南から)
- 6 15溝土器出土状況 (南から)

### 写真図版 10

- 1 11土坑完掘状況 (北東から)
- 2 11土坑土層断面 (東から)
- 3 12土坑完掘状況 (北東から)
- 4 12土坑土層断面 (南西から)
- 5 14土坑完掘状況 (東から)
- 6 14土坑土層断面 (西から)

### 写真図版 11

- 1 4溝出土土器
- 2 4溝・7溝出土土器
- 3 7溝出土土器

### 写真図版 12

- 1 8溝出土土器 (1)
- 2 8溝出土土器 (2)

### 写真図版 13

- 1 8溝出土土器 (3)
- 2 9溝出土土器 (1)

### 写真図版 14

- 1 9溝出土土器 (2)
- 2 9溝出土土器 (3)

### 写真図版 15

- 1 13溝出土土器 (1)
- 2 13溝出土土器 (2)

### 写真図版 16

- 1 13溝出土土器 (3)
- 2 13溝出土土器 (4)・15溝出土土器 (1)
- 3 15溝出土土器 (2)

### 写真図版 17

- 1 11土坑出土土器
- 2 14土坑出土土器
- 3 I層出土土器
- 4 II層出土土器 (1)
- 5 II層出土土器 (2)

### 写真図版 18

- 1 4区出土石器 (1)
- 2 4区出土石器 (2)
- 3 8溝出土木器 (1)

### 写真図版 19

- 1 8溝出土木器 (2)
- 2 8溝出土木器 (3)
- 3 8溝出土木器 (4)
- 4 8溝出土木器 (5)



#### 写真図版 20

- 1 8 溝出土木器 (6)
- 2 8 溝出土木器 (7)
- 3 8 溝出土木器 (8)

#### 5区

##### 写真図版 21

- 1 調査前近景 (南西から)
- 2 北壁土層断面 (南東から)
- 3 東壁土層断面 (北西から)

##### 写真図版 22

- 1 第1遺構面全景 (南から)
- 2 6 溝完掘状況 (東から)
- 3 6 溝Aライン土層断面 (東から)
- 4 5 土坑完掘状況 (北東から)
- 5 5 土坑土層断面 (北東から)

##### 写真図版 23

- 1 1 溝・2 溝土層断面 (東から)
- 2 1 溝完掘状況 (東から)
- 3 2 溝完掘状況 (東から)
- 4 1 溝土器出土状況 (北西から)
- 5 1 溝土器出土状況 (南西から)
- 6 2 溝土器出土状況 (西から)
- 7 2 溝木器出土状況 (北西から)

##### 写真図版 24

- 1 3 土坑完掘状況 (南東から)
- 2 3 土坑土層断面 (西から)
- 3 4 土坑検出状況 (東から)
- 4 4 土坑完掘状況 (南東から)
- 5 4 土坑蹠等検出状況 (東から)
- 6 4 土坑蹠等検出状況 (南東から)
- 7 4 土坑Aライン土層断面 (南東から)
- 8 4 土坑Bライン土層断面 (南から)

##### 写真図版 25

- 1 第2遺構面全景 (東から)
- 2 掘立柱建物1・掘立柱建物3完掘状況 (東から)

##### 写真図版 26

- 1 掘立柱建物1 22 ビット断面 (北から)
- 2 掘立柱建物1 23 ビット断面 (北から)
- 3 掘立柱建物1 24 ビット断面 (北から)
- 4 掘立柱建物1 25 ビット断面 (南から)
- 5 掘立柱建物1 26 ビット断面 (南から)
- 6 掘立柱建物1 27 ビット断面 (南から)
- 7 掘立柱建物3 8 ビット断面 (南西から)
- 8 掘立柱建物3 18 ビット断面 (南西から)

##### 写真図版 27

- 1 掘立柱建物3 19 ビット断面 (南西から)
- 2 掘立柱建物3 20 ビット断面 (南西から)
- 3 掘立柱建物3 33 ビット断面 (南西から)
- 4 掘立柱建物3 34 ビット断面 (南西から)
- 5 掘立柱建物2完掘状況 (東から)

#### 写真図版 28

- 1 掘立柱建物2 21 ビット断面 (南西から)
- 2 掘立柱建物2 28 ビット断面 (南西から)
- 3 掘立柱建物2 29 ビット断面 (南西から)
- 4 掘立柱建物2 30 ビット断面 (南西から)
- 5 掘立柱建物2 31 ビット断面 (北東から)
- 6 掘立柱建物2 32 ビット断面 (北東から)
- 7 16 土坑完掘状況 (南から)
- 8 16 土坑土層断面 (南から)

#### 写真図版 29

- 1 17 土坑完掘・土器出土状況 (北から)
- 2 17 土坑土層断面 (南から)
- 3 12 ビット完掘状況 (南から)
- 4 12 ビット土層断面 (南から)
- 5 35 ビット完掘状況 (南から)
- 6 35 ビット土層断面 (南から)
- 7 36 ビット完掘状況 (北から)
- 8 36 ビット土層断面 (西から)

#### 写真図版 30

- 1 1 溝出土土器 (1)
- 2 1 溝出土土器 (2)
- 3 2 溝出土土器
- 4 6 溝出土土器

#### 写真図版 31

- 1 7 溝出土土器
- 2 3 土坑出土土器
- 3 4 土坑出土土器
- 4 5 土坑出土土器
- 5 掘立柱建物2 (29 ビット) 出土土器
- 6 17 土坑出土土器

#### 写真図版 32

- 1 I 層出土土器
- 2 II 層出土土器 (1)
- 3 II 層出土土器 (2)
- 4 5区出土土製品

#### 写真図版 33

- 1 5区出土石器
- 2 2 溝出土木器
- 3 4 土坑出土木器
- 4 II 層出土木器

#### 6区

##### 写真図版 34

- 1 調査前近景 (北東から)
- 2 西側東壁土層断面 (西から)
- 3 南壁土層断面 (北から)
- 4 東側東壁土層断面 (西から)

##### 写真図版 35

- 1 第1遺構面全景 (北東から)
- 2 掘立柱建物1完掘状況 (東から)

**写真図版 36**

- 1 掘立柱建物 1 12 ビット断面 (南から)
- 2 掘立柱建物 1 12 ビット完掘 (北から)
- 3 掘立柱建物 1 13 ビット断面 (西から)
- 4 掘立柱建物 1 13 ビット完掘 (南から)
- 5 掘立柱建物 1 93 ビット断面 (北から)
- 6 掘立柱建物 1 95 ビット断面 (東から)
- 7 2 溝完掘状況 (東から)

**写真図版 37**

- 1 3 溝完掘状況 (東から)
- 2 2 溝 (右)・3 溝土層断面 (南から)
- 3 7 ビット完掘状況 (北西から)
- 4 7 ビット土層断面 (北西から)
- 5 10 ビット完掘状況 (東から)
- 6 10 ビット土層断面 (東から)

**写真図版 38**

- 1 第2遺構面全景 (北東から)
- 2 竪穴建物 1・2 完掘状況 (南から)

**写真図版 39**

- 1 竪穴建物 1 完掘状況 (南から)
- 2 竪穴建物 1 東西セクション (南から)
- 3 竪穴建物 1 南北セクション (西から)
- 4 竪穴建物 1 遺物出土状況 (南から)
- 5 竪穴建物 1 77 ビット完掘状況 (北から)

**写真図版 40**

- 1 竪穴建物 2 完掘状況 (南から)
- 2 竪穴建物 2 東西セクション東半 (南から)
- 3 竪穴建物 2 東西セクション西半 (北から)
- 4 竪穴建物 2 南北セクション北半 (西から)
- 5 竪穴建物 2 南北セクション南半 (東から)

**写真図版 41**

- 1 竪穴建物 2 52 ビット断面 (南から)
- 2 竪穴建物 2 53 ビット断面 (南から)
- 3 竪穴建物 2 54 ビット断面 (南から)
- 4 竪穴建物 2 55 ビット断面 (南から)
- 5 竪穴建物 2 85 炉完掘状況 (南から)
- 6 竪穴建物 2 85 炉断面 (南から)
- 7 竪穴建物 2 遺物出土状況 1 (南から)
- 8 竪穴建物 2 遺物出土状況 2 (南から)

**写真図版 42**

- 1 掘立柱建物 2 完掘状況 (南から)
- 2 掘立柱建物 2 70 ビット断面 (南から)
- 3 掘立柱建物 2 73 ビット断面 (西から)
- 4 掘立柱建物 2 87 ビット断面 (北東から)
- 5 掘立柱建物 2 88 ビット断面 (南から)

**写真図版 43**

- 1 26 土器溜り検出状況 (南から)
- 2 32 土器溜り検出状況 (北東から)
- 3 28 土坑集石検出状況 (南から)
- 4 28 土坑土層断面 (南東から)
- 5 28 土坑完掘状況 (南東から)
- 6 115 土坑完掘状況 (北から)
- 7 115 土坑遺物出土状況 (北から)
- 8 115 土坑土層断面 (西から)

**写真図版 44**

- 1 39 ビット完掘状況 (東から)
- 2 39 ビット土層断面 (東から)
- 3 41 ビット (右)・42 ビット完掘状況 (南東から)
- 4 41 ビット (右)・42 ビット断面 (南東から)
- 5 43 ビット (右)・44 ビット完掘状況 (南東から)
- 6 43 ビット (右)・44 ビット断面 (南東から)
- 7 45 ビット完掘状況 (南東から)
- 8 45 ビット土層断面 (南から)

**写真図版 45**

- 1 57 ビット完掘状況 (南から)
- 2 57 ビット土層断面 (南から)
- 3 64 ビット完掘状況 (北から)
- 4 64 ビット土層断面 (北から)
- 5 84 ビット完掘状況 (北から)
- 6 84 ビット土層断面 (北から)
- 7 125 ビット完掘状況 (南東から)
- 8 125 ビット土層断面 (南東から)

**写真図版 46**

- 1 第3遺構面全景 (東から)
- 2 127 ビット完掘状況 (南から)
- 3 127 ビット土層断面 (南から)
- 4 134 ビット完掘状況 (西から)
- 5 134 ビット土層断面 (西から)

**写真図版 47**

- 1 竪穴建物 1 出土土器 (1)
- 2 竪穴建物 1 出土土器 (2)
- 3 竪穴建物 2 出土土器 (1)
- 4 竪穴建物 2 出土土器 (2)

**写真図版 48**

- 1 26 土器溜り出土土器 (1)
- 2 26 土器溜り出土土器 (2)
- 3 32 土器溜り出土土器 (1)
- 4 32 土器溜り出土土器 (2)

**写真図版 49**

- 1 115 土坑出土土器
- 2 I 層出土土器
- 3 II 層出土土器
- 4 III 層出土土器

**写真図版 50**

- 1 6区出土土製品
- 2 6区出土石器 (1)
- 3 6区出土石器 (2)
- 4 3溝出土銭貨
- 5 3溝出土銭貨 (軟X線透過)

## 第1章 調査の経緯と経過

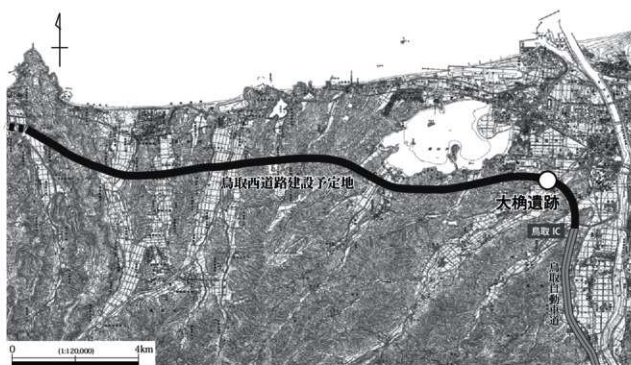
### 第1節 調査に至る経緯

鳥取県教育委員会は、一般国道9号（鳥取西道路）改築工事に伴い、鳥取市大柁字下前田、僧ヶ谷奥他に所在する大柁遺跡4～6区の発掘調査を平成27年度に実施した。

山陰地方では、観光、物流などの地域活性化をめざした幹線道路ネットワークの形成、交通渋滞の解消及び緩和、災害時の緊急輸送路確保等を目的とし、鳥取自動車道（中国横断自動車道姫路鳥取線）や山陰自動車道等の国土開発幹線道路の整備が進められている。鳥取市本高と鳥取市青谷町青谷を結ぶ全長19.3kmの鳥取西道路の建設事業も山陰自動車道の一部となる事業である（第1図）。

鳥取西道路の計画地内には多くの遺跡が存在しており、道路建設に先立って国土交通省、鳥取県、鳥取市により埋蔵文化財の取扱いについて協議がもたれ、計画地内に存在する遺跡の状況を把握する必要性が確認された。これを受け、平成17年度から計画地内の踏査による分布調査や鳥取市教育委員会による範囲確認調査が逐次行われた。

大柁地区では、計画地内にある遺跡の範囲、内容を確認するため、平成25・26年にわたり鳥取市教育委員会が文化庁の国庫補助と県費補助を受けて試掘調査を行ったところ、各トレンチで縄文時代から中世にかけての遺構、遺物が確認されたため、計画地内の埋蔵文化財の取扱いについて再度国土交通省、鳥取県、鳥取市が慎重に協議を重ねた。その結果、道路盛土及び橋脚部分となる計13,517㎡を対象として記録保存のための発掘調査が行われることになり、文化財保護法第94条による手続きを踏まえ、平成26年度及び平成27年度に鳥取県教育委員会（以下、県教委）が国土交通省中国地方



第1図 鳥取西道路建設予定路線図

整備局鳥取河川国道事務所の委託を受けて、大柵遺跡の発掘調査を実施することとなった。

県教委は、発掘作業、出土遺物の整理作業及び報告書の作成を公益財団法人鳥取県教育文化財団（以下、財団）に再委託した。平成26年度は、盛土部分の1-1区及び橋脚部分の2区・3区が対象となり、調査成果は平成28年度に報告書として刊行した。平成27年度は、盛土部分に当たる1-2～1-4区、橋脚・橋台部分等に当たる4～6区が調査対象となり、財団は、1-2区での発掘作業並びに調査記録作業等について、株式会社アーキジオ・アサヒコンサルタント株式会社共同企業体に、1-3区及び1-4区での発掘作業並びに調査記録作業等について、株式会社島田組・アイコンヤマト株式会社共同企業体に、4～6区での発掘作業並びに調査記録作業等について、国際文化財株式会社鳥取営業所に発掘調査支援を委託した。

## 第2節 調査の経過と方法

大柵遺跡は、水源を高山と鷲峰山の谷間に発する野坂川によって開析された谷底平野に位置する縄文時代から中世の複合遺跡である。大柵遺跡は過去の発掘調査成果から県の重要遺跡として認識されており、その範囲は野坂川左岸の平野部一帯、東西約1.6km、南北約0.8kmに及ぶ。このうち大柵遺跡4～6区は、遺跡の北西側に当たる（第2図）。

調査は、鳥取市が実施した試掘調査の結果を受け、当初設計では、4区が弥生時代から中世にかけての2面の遺構面（1面105㎡）、5区が弥生時代から中世にかけての3面の遺構面（1面231㎡）、6区が弥生時代から中世にかけての2面の遺構面（1面290㎡）を対象とした。しかし、その後で道路設計に変更があったため、調査面積は5区が201㎡、6区が450㎡に変更となるとともに、調査開始後に設定した土層断面確認用の断ち割り調査により、5区の遺構面数が2面、6区の遺構面数が3面に変更となった。

### 1 現地調査

現地調査は、4区・6区から行い、4月1日から基準点測量に着手し、6区では調査前現況地形測量も併せて行った。4月2日にはラジコンヘリコプターによる、4～6区の調査前空中写真撮影を行った。4区は4月7日、6区は4月8日から13日にかけて重機による表土掘削作業を行い、4区は4月9日から、6区は4月14日から人力による掘削作業に着手し、図化、写真撮影等の記録作業を行った。5区は5月7日に重機による表土掘削作業を行い、5月14日から人力による掘削作業に着手し、図化、写真撮影等の記録作業を行った。

4区では、第1遺構面の完掘写真撮影を4月22日に高所作業車によって行い、第2遺構面の完掘写真撮影を5月11日に高所作業車によって行った。その後、8溝内から出土した多量の木杭の記録作業、取上げ作業及び土層観察用ベルト除去作業並びに遺構記録作業を6月29日まで行った。検出作業の結果、第1遺構面では古代以降の溝3条、第2遺構面では弥生時代後期から古墳時代前期の溝8条、土坑3基などを確認した。

5区では、第1遺構面の完掘写真撮影を6月4日、第2遺構面の完掘写真撮影を7月6日に高所作業車によって行った。その後、一部の掘削作業並びに記録作業を行い、7月13日をもってすべての作業を終了した。検出作業の結果、第1遺構面では古代末から中世の溝4条、土坑3基を確認した。

第2遺構面では古代と考えられる掘立柱建物3棟、土坑2基、ピットなどを確認した。

6区では、第1遺構面の完掘写真撮影を4月27日、第2遺構面の完掘写真撮影を6月5日、第3遺構面の完掘写真撮影を7月3日に高所作業車によって行った。その後、一部の掘削作業並びに記録作業を行い、7月13日をもってすべての作業を終了した。検出作業の結果、第1遺構面では古代から近世にかけての礎盤石をもつ掘立柱建物1棟、溝2条、ピットなどを確認した。第2遺構面では古墳時代前期から後期の竪穴建物2棟、掘立柱建物1棟、溝8条、土坑2基、土器溜り2基、ピットなどを確認した。第3遺構面では古墳時代と考えられるピットを確認した。

7月6日には、ラジコンヘリコプターによって4～6区の調査後空中写真撮影を行い、いずれの調査区においても、7月13日までですべての現場作業を終了した。

## 2 整理作業・報告書作成作業

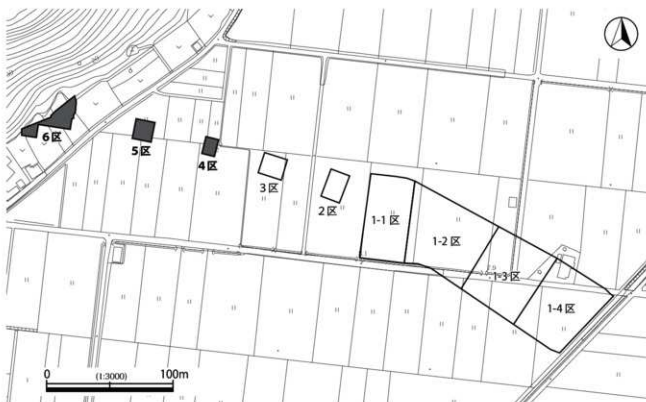
現地で作成した図面の整理、編集図作成業務、写真整理、台帳作成作業については、財団の監視の下で発掘調査支援業者によって行われ、平成27年8月21日に成果品として納品された。

現地調査終了後は引き続き財団が遺物整理作業を行い、遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測、写真撮影作業、遺物移管作業を、平成29年3月まで実施した。

報告書作成作業は、現場作業終了後から行い、整理作業の進捗に合わせて平成28年12月まで行い、平成29年3月に刊行した。

## 3 情報提供

平成27年度の調査成果については、財団ホームページや月刊広報紙「鳥取西道路の遺跡を掘る！」\*



第2図 調査区位置図

で紹介した他、平成27年6月20日に大柵地区の方を対象に6区の現地説明会を開催し、30名の方に参加いただいた。また、平成27年8月8日には、大柵遺跡1-2区から1-4区の現地説明会を開催したところ、150名の方に参加いただき、4-6区の成果についてもパネル展示で紹介した。

さらに、平成28年3月24日から4月24日にかけて、鳥取県立博物館「歴史の窓」コーナーにおいて、展示を行った。

※公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室ホームページ (<http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosaisitsu%20new.htm>)

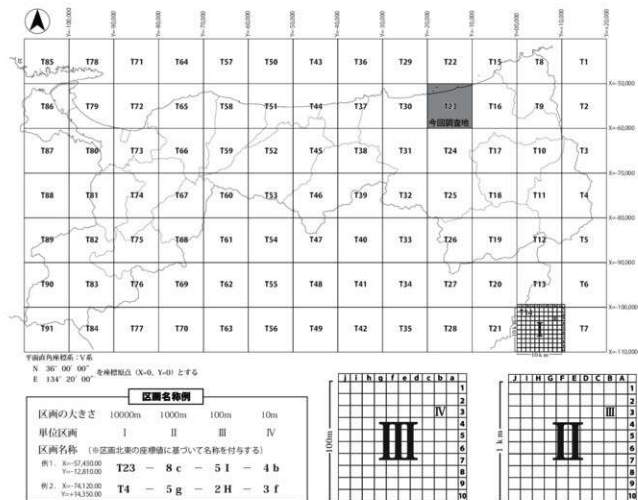
## 4 調査の方法

### (1) 地区割の方法と名称

県教委が財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取り上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第V系（世界測地系）を使用している。地区割については、10m×10m（100㎡）の区画を基本的な最小単位とし、その名称（記号）については、以下のように設定した（第3図）。

**第I区画** 鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000m×10,000mで、1～91の区画を設け、北東隅からT1～T91の記号を付した。

**第II区画** 第I区画の1区画内を1,000m×1,000mに100分割した区画である。第II区画について



第3図 調査割概念図

ては、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

**第Ⅲ区画** 第Ⅱ区画の1区画内を100m×100mに100分割した区画である。第Ⅲ区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にA～Jを付し、1A～10Jの記号を付した。

**第Ⅳ区画** 第Ⅲ区画の1区画内を10m×10mに100分割した区画である。第Ⅳ区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

## (2) 大柵遺跡における地区割

大柵遺跡の発掘調査は、第1章第1節で述べたように、大きくは道路橋脚及び橋台部分(2～6区)と盛土部分(1区)に二分される。上記のうち、平成27年度の発掘調査は、盛土部分中央東側の1-2～1-4区、橋脚部の4・5区、橋台部の6区を対象として行った。

このうち、4～6区について、前項で述べた10m単位の地区割を設定したものが第4図である。本書で報告する調査範囲は、T23(第Ⅰ区画)内に位置しており、遺物の取り上げ等については、第Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ区画の記号を用いて7d-1C-2jのように記した。

## 5 記録の方法

### (1) 発掘調査と記録の対象

調査対象としたのは、合計756m<sup>2</sup>(4区:105m<sup>2</sup>、5区:201m<sup>2</sup>、6区:450m<sup>2</sup>)である。掘削については、盛土や現代耕作土などの表土掘削を重機で、包含層及び遺構の検出・掘削は人力で行い、調査の記録作業は表土除去後から行った。

### (2) 地層と遺構面の認識

大柵遺跡は丘陵裾部及び低位段丘から沖積低地に立地しているため、地区によって地層の堆積環境が大きく異なる。具体的には、4・5区が低位段丘面に、6区が丘陵裾部にそれぞれ立地する。

4区については銅矢板際に、5区は調査区四周に排水溝を兼ねた地層観察用のトレンチを設け、東・西・北壁断面を土層観察の基本断面とし、地層の堆積状況の確認を行った。6区については、丘陵裾部各時期の地層が累重した結果として現在の景観が形成されていることが予想されたため、調査にあたっては、まず北部東側、北部南側、南部東側、南部南側に排水溝を兼ねた地層観察用のトレンチを設け、地層の堆積状況の確認を行った。

なお、地層の認識にあたっては、色調と粒度、堆積構造及び同一層準の側方変化等にも注目して分層を行った。認識し



第4図 4～6区グリッド図

た基本層序については、可能な限り隣接調査区との整合を意識して層名を付与したが、各調査区は30～40m程度離れている上に、それぞれの堆積状況が一様でないため、調査区毎に個別に付与せざるを得ず、そのため、次章以下に述べる各調査区の調査成果については、調査時の層名を用いて記述を進めることとした。なお、基本層序名は、ローマ数字で表記した。

なお、それぞれの層名は、基本的に上から順に番号を付与しており、この中にさらに層面が存在して細分できる場合は、枝番号を付与してこれを識別した。

### (3) 遺構名称の設定

県教委が財団に委託した鳥取西道路関連の発掘調査では、検出順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は、遺構番号の後ろに検出された遺構の種別を組み合わせることで1土坑、2溝のようになるが、種別については、調査が進む中で変更されることもある。一方で、一度付与された遺構番号については不変であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている。そのため、調査の過程で遺構でないことと認識されたものについては、欠番とした。

また、遺構番号は各調査区での混乱を防ぐため、調査区単位で付与することとした。このため、同一文章中で異なる調査区の遺構を表記する必要がある場合には、「4区4溝」のように表記することとした。

なお、遺構の種別について、通常「土坑」や「ピット」と呼称されるもののうち、「土坑」は径50cm程度以上のものとした。

### (4) 図面記録および写真撮影

現地での記録作業は、支援業者の支援調査員と測量士が監理者の指示・確認を受けながら行った。

図面記録に関しては、断面図はトータルステーションを用いた測量と写真計測を、対象遺構や壁面の状況によって使い分けている。作成した図面は、監理者の確認後に、現地での一次記録である〈素図〉として管理し、最終的には情報をデジタルデータとして整理・統合し、〈編集図〉を作成した。成果品としての編集図は、主にベクトルデータで構成され、Adobe Illustrator CS5以上での再編集が可能な形(ai形式)で保存している。

写真の撮影は、撮影対象、範囲、アングル、使用機材等に関する発掘調査監理者の指示をもとに支援調査員が行った。撮影用機材としては、中判(6×7cm判)一眼レフカメラ、小型(35mm判)一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズAPSC以上、有効画素数1200万画素以上)を併用し、また必要に応じて発掘調査監理者が大判(4×5in判)カメラによる撮影も行うなど、対象によって機材を適宜選択しながら行った。大判・中判・小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社 プロビア100F(リバーサル)、富士フィルム社 ネオパン100ACROS(黒白フィルム)である。デジタル一眼レフカメラによる撮影はRAW・JPEG形式の同時保存により行った。また、デジタル一眼レフカメラによる撮影は、写真撮影を行う全ての対象に対して行うとともに、撮影対象や日付などの撮影内容を記載した写真ラベルも併せて撮影している。これにより、撮影した画像データを他のフィルムカメラの整理・検索用資料として使用できるようになり、写真記録管理用の〈写真台帳〉の作成時に有用なだけでなく、効率的な写真の管理・活用が可能となっている。また、デジタル一眼レフカメラについては、色補正が可能になるように、発掘調査監理者が指示したものを対象に、グレーカードの写し込みを行った。



**(5) 出土遺物の取上げ**

遺物の取り上げには、財団調査室が用意した遺物カードを使用した。取上番号は通し番号とし、遺物カードに記載された項目に基づいて遺物取上台帳を作成し、出土した遺物を取り上げ、管理した。遺物カードの記載項目・内容は以下のとおりである。

**遺跡名** 「大樽遺跡 15〇区」のように、調査区名を続けて記載した。末尾の「15」は2015年度に調査を実施したことを示す。

**地区名** 遺物の取り上げは、10 m × 10 m のグリッドを基本とし、第Ⅰ～Ⅳ区画で構成される地区割を記載した。

**層位名** 遺物が所属する包含層や遺構内に堆積した層位の番号ないし名称を記載した。

**遺構名** 遺物が所属する遺構の名称を記載した。

**取上No.** 取り上げ順に通し番号を記載した。

**出土年月日** 検出日ではなく、取り上げ日を記載した。

**図面** 遺物の出土状況が記録された図面の有無と図面のスケールを記載した。

**備考** 特記事項を記載した。

**時代・時期** 取り上げた遺物の所属時期を記載するが、この度の調査では記載を省略した。

**種別** 土器や鉄器など素材によって大別される遺物の種別を記載した。

**その他** 上記の記載項目とは別に、取り上げ時に座標値が記録されたものについては、遺物カードのメモ欄に座標値を記載した。

また、取り上げた遺物に付す遺物番号は、それぞれの調査区ごとの通し番号を付した。

**(6) 出土遺物の整理と記録**

出土遺物については、現地での取り上げ後に財団調査室に持ち帰って、以下のような整理作業を行った。

**土器・土製品** 調査終了後に洗浄、接合、注記、復元、実測を行った。器種、形状が判明ないし復元できる個体を実測の対象とした。

**石器・石製品** 調査終了後に洗浄、接合、注記、復元、実測を行った。本調査の出土品は、器種や用途が判明できるものその他、使用痕が明瞭な個体について、実測の対象とした。

**木製品** 調査終了後に洗浄、実測を行った。器種や用途、または、特徴的な加工が施されているものを実測対象とした。

**写真撮影** 以上の出土遺物を対象に、デジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ フルサイズ）で撮影を行った。

**保管** 図面、写真の記録類、出土遺物はすべて台帳に登録して収納作業を行った。

### 第3節 調査体制

発掘調査及び報告書作成は以下の体制で行った。

#### 平成26年度

##### ○鳥取県教育委員会

教育長 山本 仁志

##### 鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長 木本 美喜

課長補佐 土山 和俊

##### 歴史遺産室

室長 松井 潔

文化財主事兼係長 野口 良也

文化財主事 北 浩明

##### ○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 井上 善弘（～平成26年6月30日）

野村 勇二（平成26年7月1日～）

##### 事務局

事務局長 石本 富正

副主幹 岡田 美津子

##### 調査室

室長 北浦 弘人\*1

次長 中川 眞一（～平成26年4月30日）

民本 一美（平成26年5月1日～）

##### 総務企画課

課長 中川 眞一（～平成26年4月30日）（本務：次長）

民本 一美（平成26年5月1日～）（本務：次長）

##### 総務係

係長 川村 悟\*1

主事 福島 亘\*1

事務職員 田中 絵里子

##### 調査企画設計係

係長 玉木 秀幸\*1

文化財主事 浅井 達也\*1

##### 第一工区担当

主幹 牧本 哲雄\*1

##### 大柵地区班

文化財主事 西山 昌孝（4～6区担当）\*1、小林 新平（4～6区担当）\*1

## 平成27年度

## ○鳥取県教育委員会

教育長	山本 仁志
-----	-------

## 鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長	木本 美喜
----	-------

課長補佐	土山 和俊
------	-------

## 歴史遺産室

室長	松井 潔
----	------

文化財主事兼係長	野口 良也
----------	-------

文化財主事	北 浩明
-------	------

## ○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	野村 勇二
-----	-------

## 事務局

事務局長	石本 富正 (平成27年4月1日～平成27年6月30日)
------	------------------------------

	畑中 弘子 (平成27年7月1日～)
--	--------------------

副主幹	岡田 美津子
-----	--------

## 調査室

室長	北浦 弘人*1
----	---------

次長	民木 一美
----	-------

## 総務係

係長	川村 悟*1
----	--------

主事	西村 あかね*1
----	----------

事務職員	田中 絵里子
------	--------

## 調査企画設計係

係長	玉木 秀幸*1
----	---------

文化財主事	淺井 達也*1
-------	---------

## 大柵地区担当

主幹	牧本 哲雄*1
----	---------

## 大柵地区3班 (1-4区・4-6区担当)

副主幹	牧本 哲雄*1 (本務:主幹)、三好 孝一*2
-----	-------------------------

文化財主事	河合 章行*1、西山 昌孝*1、森本 のぞみ*1
-------	--------------------------

## ○発掘調査支援業者

埋蔵文化財発掘調査支援業務委託 (大柵遺跡 (4-6区))

受託者: 国際文化財株式会社鳥取営業所

現場代理人: 星野 賢一

支援調査員: 関 美男、青嶋 邦夫

平成28年度

○鳥取県教育委員会

教育長 山本 仁志

鳥取県教育委員会事務局文化財課

課長 片山 暢博

課長補佐 土山 和俊

歴史遺産室

室長 山根 雅美

文化財主事兼係長 野口 良也

文化財主事 北 浩明

○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 野村 勇二

事務局

事務局長 畑中 弘子

副主幹 岡田 美津子

事務職員 水根 幸子

調査室

室長 牧本 哲雄\*1

次長 民木 一美

総務係

主事 岡 梓\*1、西村 あかね\*1

事務職員 田中 絵里子

調査企画設計係

係長 茶谷 満\*1

美和調査事務所

所長 牧本 哲雄\*1 (本務：調査室長)

第1班 (大柁地区、高住地区担当)

副主幹 大野 哲二\*1 (大柁地区担当)

茶谷 満\*1 (高住地区担当、本務：調査企画設計係長)

文化財主事 水村 直人\*1、河合 章行\*1、門脇 隆志\*1、西山 昌孝\*1

(大柁地区担当)

東方 仁史\*1、柴田 芳之\*1 (高住地区担当)

\*1 鳥取県教育委員会から派遣

\*2 公益財団法人大阪府文化財センターから出向

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の立地と地理的環境

鳥取県は中国地方の北東部に位置し、県域は東西に約125km、南北に約62kmと東西に長い形状をなし、面積は約3,507km<sup>2</sup>を測る。鳥取市は県の東部に位置しており、市域三方は中国山地から派生する山地に囲まれ、北側は鳥取砂丘と日本海に面する。面積765.31km<sup>2</sup>、人口約19万人を有する県庁所在地である。

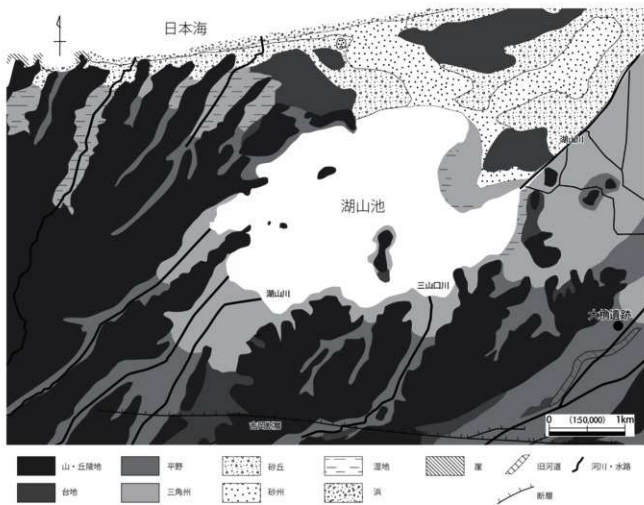
大柵遺跡は、鳥取市中央北寄りの湖山池南東側に位置し、水源を高山(1054m)と鷲峰山(921m)の谷間に発する野坂川沿いに形成された沖積地・低位段丘及び丘陵裾部に立地する、縄文時代から中世の複合遺跡である(第5図・第6図)。過去の発掘調査成果から県の重要遺跡として認識されており、その範囲は野坂川左岸の平野部一帯、東西約1.6km、南北約0.8kmに及ぶ。このうち大柵遺跡4～6区は、遺跡の北西側に当たる。

湖山池南岸には、中国山地からのびる山地や丘陵に挟まれた谷底平野が複数あり、それぞれに遺跡が形成されている。大柵遺跡の所在する地域も例外ではなく、丘陵上及び丘陵に挟まれた平野の広範囲にわたって遺跡が点在する。大柵遺跡の東側を流れる野坂川は、緩やかに蛇行しながら北東に向かい、北流する千代川と合流する。野坂川が現流路に固定された時期は新しく、古くは決壊と氾濫を繰り返して幾度となく流路が変動している。

大柵遺跡周辺は、鳥取市の農業基盤整備事業の一環として、昭和50年代に圃場整備が進められ、現在は主に水田や畑地として利用されている。



第5図 遺跡の所在地



## 第2節 歴史的環境

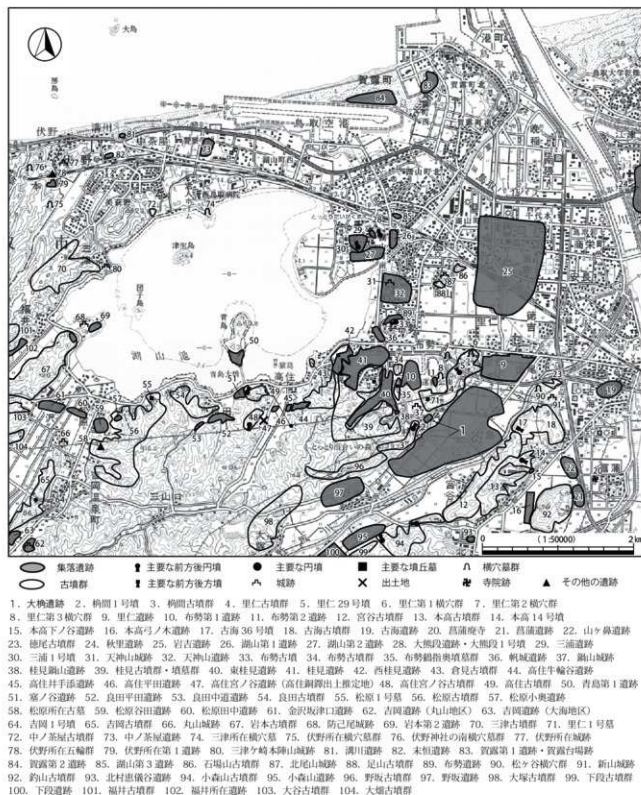
鳥取西道路の計画地の中でも、大柵遺跡の所在する湖山池南東地域とその周辺は、多数の遺跡が密集して分布する地域の一つである。本節では、主に湖山池南岸から千代川西岸にかけての歴史を概観していく。

### 【縄文時代】

湖山池周辺における生活痕跡は、現在のところ縄文時代早期まで遡り、高住井手添遺跡（45）ではネガティブ押型文土器が、高住牛輪谷遺跡（44）と高住宮ノ谷遺跡（47）では、黄鳥式併行の楕円押型文土器が出土している。前期では、高住井手添遺跡や高住平田遺跡（46）から、羽鳥下層Ⅱ式から北白川下層Ⅰa式土器がまとめて出土している。この他に、桂見遺跡（41）や東桂見遺跡（40）で前期末の大歳山式土器が確認されている。

中期では、高住平田遺跡で継続した土地利用が行われ、少量ではあるが石鐘とともに鷹鳥式土器や船元式土器、里木Ⅱ式土器が出土している。また、同じ平野内に所在する高住井手添遺跡や隣接する高住宮ノ谷遺跡からは、船元式土器がみついている。このように、従来まで不明瞭であった湖山池周辺における縄文時代早期から中期にかけての資料が、徐々に蓄積されつつある状況である。

中期末から後期にかけて、桂見地域を中心とした低湿地において顕著に遺跡が認められる。布勢第



第7図 周辺の遺跡

1 遺跡 (10) では多数の木製品が良好な状態でみつかったり、木組みを有する水路や漆塗り木製品などが出土している。また、桂見遺跡からは全長7mにも及ぶ大型の丸木舟を含む、形態が異なる2艘の丸木舟が出土したことで知られている。桂見地域以外にも、湖山池に浮かぶ青島に所在する青島第1遺跡 (50) では後期の土器が出土している他、山ヶ鼻遺跡 (22) からは後期後葉から晩期にか

けての土器が出土している。

晩期から弥生時代前期にかけて、河川によって形成された自然堤防上や平野部の微高地上に遺跡が形成される。千代川の自然堤防上に位置する古海遺跡（19）では晩期末の突帯文土器が多数出土しており、山陰地方における最末期の縄文土器型式である「古海式」の標式遺跡とされている。また、大桸遺跡（1）や本高弓ノ木遺跡（16）などからは、古海式の突帯文土器に伴い遠賀川式土器が出土している。その他、高住井手添遺跡では、編組製品がまとめて出土している。突帯文土器と遠賀川式土器が相伴して出土する遺跡は、湖山池周辺には複数存在しており、鳥取平野における農耕社会成立期の様相を示す資料として評価されている。

#### 【弥生時代】

前期に展開する遺跡は、そのほとんどが縄文時代晩期から継続するものである。しかし、明瞭な遺構を伴うことはほとんどなく、その実態については不明な点が多い。そのようななかで、大桸遺跡からは、近年の調査成果により前期前葉から後葉にかけての畔状遺構や人工的な水路と考えられる溝、水田と考えられる窪地などが検出されている。

中期には、建物跡などの遺構の検出例が増加し、湖山池南岸から南東岸の平野部を中心に集落が形成されるようになる。松原田中遺跡（60）では前期末から中期前葉にかけての溝から多数の木製品が出土した他、中期中葉の玉作関連遺物が多数出土している。その他、特筆すべき遺跡として、中期後葉の自然河川から石応丁や木製容器などが出土した山ヶ鼻遺跡や、流水文銅鐃が出土した高住銅鐃出土推定地（47）の他、分銅形土製品が出土した塞ノ谷遺跡（51）をあげることができる。

後期になると、遺跡数はさらに増加する傾向にある。岩吉遺跡（25）では水田や畦畔、溝、井戸が検出されており、木応丁や堅杵、横槌などが出土している。また、桂見遺跡、西桂見遺跡（42）をはじめ、湖山池を見下ろす丘陵上でも集落が形成されており、西桂見遺跡の多くの住居跡で鍛冶関連遺物が見つまっている。さらに、湖山池南西岸の岩本第2遺跡（69）からはガラス製管玉や分銅形土製品が出土している。

当該期は、顕著な墓域が形成される時期で、丘陵上に布勢鶴指奥墳墓群（35）、西桂見遺跡や桂見墳墓群（39）などがある。布勢鶴指奥1号墳丘墓は、丘陵平坦面に位置し、長軸17.8m、短軸10.6mを測る。因幡地方最大の弥生墳丘墓である西桂見墳丘墓は、一辺64mの規模になると推定されている。松原1号墓（55）では、鉄製品や1000点以上のガラス製玉類が副葬されていた。里仁1号墓（71）では、丹後系土器が多数出土するなど、湖山池南岸から南東岸周辺において、他地域との関係をもった有力首長層の存在が明らかとなっている。

#### 【古墳時代】

古墳時代になると、湖山池南岸から千代川西岸にかけての丘陵上に古墳が築造される。前期古墳としては、湖山池南東岸の桂見古墳群（39）や倉見古墳群（43）があり、これらは弥生時代からの系譜を引く方墳を中心とした古墳群である。なかでも桂見2号墳は、長辺28m、高さ4.5mの方墳で、副葬品として斜縁帯甕鏡や内行花文鏡が出土している。当該期の古墳群には、他にも古海古墳群（18）や徳尾古墳群（23）、本高古墳群（13）などがある。本高14号墳（14）は全長63mを測り、墳丘形態及び出土遺物等から前期中葉に遡る山陰地域最古級の前方後円墳であることが明らかになった。

中期には、大型の前方後円墳が築造されるようになる。櫛間古墳群（3）中の櫛間1号墳（2）は、大桸遺跡の西側丘陵上に位置している。未調査ではあるが、全長92mを測る因幡地域最大の規模を



訪る。他にも、大柁遺跡の北側丘陵上に位置する里仁29号墳（全長81m）（5）や、平野を挟んで大柁遺跡の東側丘陵上に位置する前方後方墳の古海36号墳（全長67m）（17）など、中期の大型古墳が湖山池南岸に集中する。また、里仁古墳群（4）のうち32・33号墳からは、鱈付円筒埴輪を棺に転用した埋葬施設が検出されている。

後期に比定される前方後円墳としては、布勢古墳（全長59m）（33）や大熊段1号墳（全長45m）（28）、三浦1号墳（全長36m）（30）など湖山池北東岸側に近接して築造されているが、中期のものに比べると小規模なものが多い。また、横穴式石室を内包する古墳には倉見9号墳（43）、高住12号墳（49）、松原28号墳（56）、吉岡1号墳（葦岡長者古墳）（64）などがあるが、千代川東岸域の中高式天井石室とは異なる形態で数も少ない。終末期古墳には、7世紀中葉に築造された古海古墳群中の山ヶ鼻古墳があり、一辺11～13mの規模と推定され、内部主体が横口式石郭に類似していることから、畿内地域との関連を考える上で重要である。

湖山池周辺において判明している古墳時代集落は、岩吉遺跡では前期から中期、桂見遺跡、西桂見遺跡及び大柁遺跡では前期、松原田中遺跡では前期から後期、湖山第2遺跡（27）では中期の竪穴建物跡や掘立柱建物跡などがみつまっている。また、本高弓ノ木遺跡では土嚢を使用した前期の盛土や木製構造物を伴う大規模な水利施設がみつまっている。古墳時代中期以降に比定できる遺構は、県中西部と比較して既して少なく、古墳時代の集落については不明な点が多い。

#### 【古代】

湖山池周辺は、令制下における因幡国高草郡に属する。それ以前の7世紀後半には、奈良県石神遺跡（明日香村）から出土した荷札木簡に「高草評野□〔脚カ〕五十戸」の文字があることから、令制施行以前に因幡地域内に「高草郡」の前身となる「高草評」が立評されていたようである。また、千代川西岸下流から湖山池東部の一帯では、天平勝宝8（756）年に東大寺領莊園として高庭莊が成立している。『東大寺東院文書』によれば、南北10条にわたって条里制が施行されたという。しかしながら、莊園の経営はあまり進められず、最終的には藤原氏や国衙役人らの私領となり高庭莊は衰退していく。

高草郡家は、現在の鳥取市菖蒲付近に置かれていたと推定されている。付近には9世紀頃の墨書土器が出土する菖蒲遺跡（21）や、八頭町の土師百井庵寺出土軒丸瓦と同文の瓦が出土する菖蒲庵寺（20）がある。千代川河口寄りの岩吉遺跡からは8～10世紀にかけての墨書土器や人形、題箋軸をはじめとする木簡などが出土した。また、良田平田遺跡（52）では7世紀末に遡る可能性がある前白木簡をはじめ、8～9世紀の木簡や多数の墨書土器、銅製帯金具、木製祭祀具などが出土した。他にも、当該期の供膳具や墨書土器、銅印などが出土した高住平田遺跡や、単弁十二葉蓮華文軒丸瓦をはじめとする瓦類が出土した吉岡遺跡（大海地区）（63）などが分布している。このように、湖山池南岸域は古代山陰道が敷設されていたこともあり、官衙・寺院関連施設が集中する地域である。

#### 【中世】

南北朝争乱期に因幡を含む五カ国を安堵された山名氏時は、貞治3（1346）年に室町幕府から因幡守護を任じられ、以降因幡守護職は山名氏が踏襲している。その守護所として築造されたのが湖山池東岸に位置する天神山城（31）で、一部調査を行った結果、内堀や土塁などが検出されている。天神山城は、但馬山名氏との抗争により城内が戦場になることがあったという。その後、但馬守護山名祐豊の支配下となったのちに山名豊定が城主となる。そして、子の山名豊数が跡を継ぐことになるが、

永禄6（1563）年に武田高信の離反により天神山城を退去することで守護所としての機能を失う。また、湖山池南岸に位置する丸山城跡（66）と防己尾城跡（68）はこの地域を拠点としていた吉岡氏の居城であった。

当該期の墓としては、天神山城北側の三浦遺跡（29）や大熊段遺跡（28）、南側の里仁遺跡（9）、布勢鶴指奥墳墓群、桂見墳墓群などからみつかっており、方形に周溝が巡るものや盛土を持つものなどが確認されている。

### 第3節 大柵遺跡における既往の調査成果

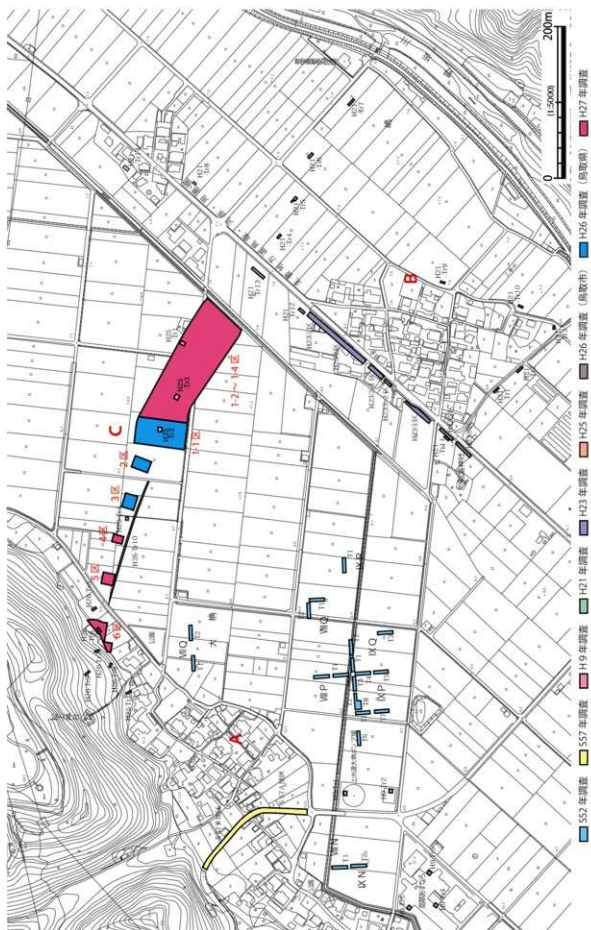
大柵遺跡は、昭和50年に行われた「団体営高草地区ほ場整備事業」の工事中に多数の土器片が出土したことからその存在が明らかとなった。その後、圃場整備事業や福祉施設建設などに伴う発掘調査が、鳥取市教育委員会によって昭和52・57年、平成9・21・23・24・25・26年の数次にわたって断続的に行われている。その結果、大柵遺跡は大溝・鶴岡集落にまたがる東西約1.6km、南北約0.8kmにわたって広がっていることが確認され、縄文時代晩期から中世までの各時代の遺物が出土する複合遺跡であることも明らかとなった。また、鳥取西道路建設に係る発掘調査が広範囲にわたって行われ、遺跡の内容がさらに明らかになりつつある。本節では、既往の調査が行われた範囲を遺跡の西（A）・東（B）・中央（C）の3つのエリアに分け、その成果を概観していく（第8図、第1表）。

西側段丘から平野中央部にかけて（A）は、昭和52・57年、平成9・26・27年に調査が行われている。もっとも古い遺物としては縄文時代晩期末の突帯文土器が出土しているが、遺構は検出されていない。検出された遺構は、弥生時代後期以降のもので、土器が多数出土した袋状土坑や小形の方形竪穴建物跡、布掘り掘立柱建物跡の他、灌漑水路跡が確認されている。また、古墳時代前期前葉から中期初頭にかけての竪穴建物跡が4棟検出された他、近接する西側丘陵の裾部からは、当該期の土壌墓が計11基検出された。また、古代の掘立柱建物跡3棟、中世から近世にかけての居宅と考えられる大型掘立柱建物も検出されている。

野坂川から平野中央部にかけて（B）は、平成21・23年に調査が行われている。このエリアからは、遺構外ではあるが突帯文土器と弥生時代前期古相の特徴を持つ遠賀川式土器が共伴して出土している。また、調査範囲が狭小であったため確認はないものの、このエリアでは畔状遺構などが検出され

第1表 大柵遺跡の既往調査と成果

エリア	調査年	主な遺構	特記事項
A	昭和52年	竪穴建物跡（弥生時代後期、古墳時代前期前葉～中期初頭）、土坑（弥生時代終末期後半～古墳時代前期初頭）	
	昭和57年	竪穴建物跡（古墳時代前期前葉～中期初頭）、土壌墓（古墳時代前期後半）、土坑（弥生時代終末期後半～古墳時代前期初頭）	
	平成9年		突帯文土器が多数出土
	平成26年	布掘り掘立柱建物跡（弥生時代後期中葉）、掘立柱建物跡（弥生時代後期）、土坑	鳥取西道路関係発掘調査
	平成27年	竪穴建物跡（古墳時代前期前葉）、掘立柱建物跡（奈良時代）、土坑（奈良時代）、大型掘立柱建物跡（中世～近世）、井戸（中世）	鳥取西道路関係発掘調査
B	平成21年	溝（古墳時代）	
	平成23年	土坑（縄文時代晩期～弥生時代前期）、水田状遺構（弥生時代前期）、溝（古墳時代中期）	同一の土坑から突帯文土器と弥生土器が共伴して出土
	平成25年	溝（古代）	古代の須恵器、土器が少量出土
C	平成26年	竪穴建物跡（弥生時代後期後葉、古墳時代中期前葉）、流路（古墳時代中期）、掘立柱建物跡（平安時代）、自然流路（奈良時代～中世）	鳥取西道路関係発掘調査、古代の本製砥石が少量出土
	平成27年	本田（弥生時代中期、古墳時代、古代、中世）、溝（弥生時代前期）、掘立柱建物跡（平安時代）、自然流路（縄文時代晩期～弥生時代前期、奈良時代～中世）	鳥取西道路関係発掘調査、古代の本製砥石が少量出土



第8図 大柵遺跡の既往調査

ていることから水田が広がっていた可能性が高い。野坂川や有富川周辺地域では、こうした調査成果が蓄積されつつあり、鳥取平野でも比較的早い時期に水稲耕作を開始した地域といえる。

平野中央部（C）では、鳥取西道路建設に伴う試掘調査や本発掘調査によって様相が明らかになりつつあるエリアである。試掘調査では目立った遺構は検出されていないものの、複数のトレンチからは縄文時代から中世までの土器が出土した。特に、古代の須恵器や土師器が多数出土していたことからこの時代の遺構の存在が想定されていた。平成26・27年度の調査では、その具体像が明らかとなり、弥生・古墳時代のみならず古代にも遺構・遺物が集中することが判明した。

このように、既往の調査では小規模なトレンチ調査が多いとはいえ、広範囲にわたって各時代の遺構・遺物が確認されている。これらの調査成果から、大柵遺跡が長期間にわたって継続し、居住域や生産域のみならず、奈良時代以降は官衙関連施設が展開することも明らかになってきた。今回の調査によって、より具体的大柵遺跡の変遷が明確になるであろう。

#### 【主要参考文献】

- 明日の湖南を考える会1984『葦岡長者古墳（吉岡1号墳）発掘調査報告書』  
財団法人鳥取県教育文化財団1982『湖山第2遺跡発掘調査報告書』  
財団法人鳥取市文化財団2012『大柵遺跡』  
財団法人鳥取市教育福祉振興会1995『山ヶ鼻遺跡』  
財団法人鳥取市教育福祉振興会1999『防己尾城跡・岩本第2遺跡』  
鳥取県1972『鳥取県史』第1巻 原始古代  
鳥取県教育委員会2000『天神山遺跡発掘調査報告書』  
鳥取県教育委員会2010『本高古墳群』  
鳥取県教育委員会2012『高住平田遺跡Ⅰ』  
鳥取県教育委員会2013『松原田中遺跡Ⅰ』  
鳥取県教育委員会2013『本高弓ノ木遺跡（5区）Ⅰ』  
鳥取県教育委員会2014『東桂見遺跡』  
鳥取県教育委員会2014『本高弓ノ木遺跡（5区）Ⅱ』  
鳥取県教育委員会2014『良田平田遺跡』  
鳥取県教育委員会2017『大柵遺跡Ⅰ』  
鳥取市1983『新修鳥取市史』第1巻  
鳥取市教育委員会1978『大柵遺跡Ⅰ』  
鳥取市教育委員会1981『古海遺跡発掘調査概報』  
鳥取市教育委員会1983『大柵遺跡Ⅱ』  
鳥取市教育委員会1991『岩古遺跡Ⅲ』  
鳥取市教育委員会1998『平成9年度 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書』  
鳥取市教育委員会2010『平成21年度 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書』

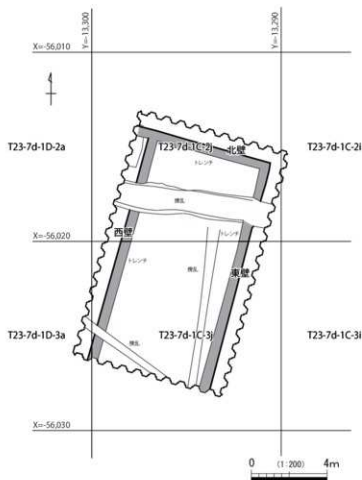
## 第3章 4区の調査成果

### 第1節 調査区の概要

4区は低位段丘上に位置し、調査前は水田地として利用されていた。調査前の標高は約8.2mである。

当調査区の東側には、鳥取市教育委員会による試掘トレンチ4が位置する。このトレンチからは、南北方向に流れる古代の溝が1条検出されており、近接する当調査区でも同時期の遺構の存在が想定された。そのため、当調査区では現代の耕作土を表土掘削の対象とし、それ以下を調査対象としている。

調査の結果、4層の基本層と2面の遺構面を確認した。I層除去後に検出した第1遺構面では、古墳時代前期以降の溝4条を検出した。また、II層除去後に検出した第2遺構面では、弥生時代後期から古墳時代前期にわたる溝4条と土坑4基を検出した。特に、調査区北側では3条の溝が重複しており、このうち8溝の東岸には計564本の杭が複数回に分けて打ちこまれていた。



第9図 4区地区区割り図

### 第2節 基本層序

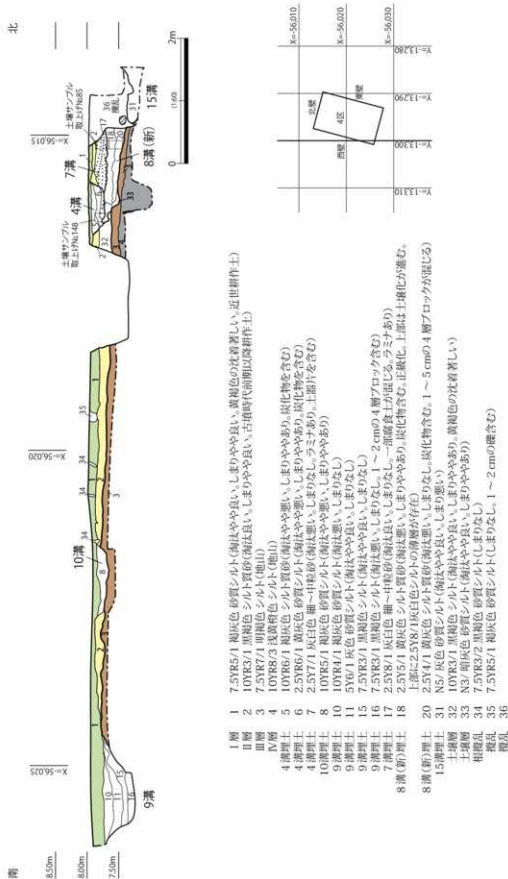
本調査区では、土層観察用のトレンチを調査区銅矢板際の北・西・東の三方向に設定した。その上で、調査区北側に存在した現代用水路による攪乱の壁面も利用しながら断面観察を行った。

なお、基本層には各壁面上層から番号を付し、遺構埋土と攪乱土、その他の堆積層については基本層名(1~4)より後の番号を振っている(第9図~第11図)。

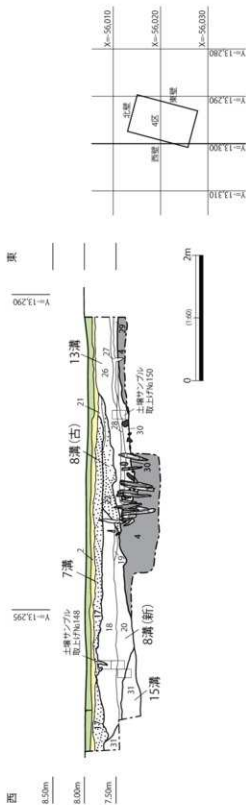
**I層** 近世以降の耕作土である。褐灰色砂質シルトで、層厚10~15cmを測り、ほぼ水平に調査区全体に堆積する。削平により、調査区の南東部分には認められない。

当層からは、石州瓦や瀬戸・美濃系天目茶碗、勝間田焼、瓦質土器、須恵器、土師器、弥生土器など幅広い時代の遺物が出土した。出土点数の割合は、土師器、弥生土器が多くを占めている。

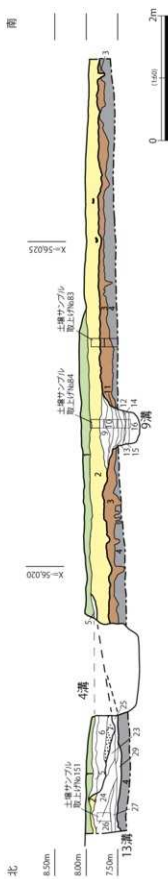
**II層** 古墳時代前期以降の土壌層である。黒褐色シルト質砂で、調査区北側では5~10cm、南側で



第10図 4区西壁土層断面図



第11図 4区北壁土層断面図



- |      |          |  |
|------|----------|--|
| 1 層  | 7.5W85/1 | 緑灰色 砂質シルト(腐食やや良い、しまりやや良い、黄褐色の沈着著しい、近世耕作土)                |
| 2 層  | 10YR5/1  | 黒褐色 シルト質砂(腐食良い、しまりやや良い、古畑時代の層(以深耕作土))                    |
| 3 層  | 7.5YR7/1 | 黒褐色 シルト(0.01)  |
| 4 層  | 10YR5/3  | 黄褐色 シルト(0.01)  |
| 5 層  | 10YR5/1  | 黒褐色 シルト質砂(腐食やや悪い、しまりややあり、炭化物を含む)                         |
| 6 層  | 2.5YR6/1 | 黄灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりややあり、炭化物を含む)                         |
| 7 層  | 2.5Y7/1  | 灰白色 土 中粒砂(腐食悪い、しまりなし、クマアザを含む)                            |
| 8 層  | 10YR4/1  | 灰褐色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりややあり、土器片・炭化物を含む)                     |
| 9 層  | 10YR4/1  | 灰褐色 砂質シルト(腐食悪い、しまりなし)                                    |
| 10 層 | 10YR4/1  | 灰褐色 シルト(腐食やや良い、しまりなし)                                    |
| 11 層 | 5Y6/1    | 灰色 砂質シルト(腐食やや良い、しまりなし)                                   |
| 12 層 | 5Y5/1    | 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりなし)                                   |
| 13 層 | 5Y5/1    | 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりなし)                                   |
| 14 層 | 2.5Y6/1  | 灰白色 細粒砂～粗粒砂(腐食悪い、しまりなし)                                  |
| 15 層 | 7.5YR5/1 | 黒褐色 シルト(腐食悪い、しまりなし)                                      |
| 16 層 | 7.5YR5/1 | 黒褐色 シルト(腐食悪い、しまりなし、1～2cmのA層の偽層を含む)                       |
| 13層上 | 23       | 5Y5/1 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりややあり、クマアザあり、正炭化)                |
| 13層上 | 24       | 5Y5/1 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりなし)                             |
| 13層上 | 25       | 5Y4/1 灰色 砂質シルト(腐食悪い、しまりなし)                               |
| 13層上 | 26       | 5Y5/1 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりややあり、炭化物を含む、逆炭化、上位では土壌化著しい部分あり) |
| 13層上 | 27       | 5Y5/1 灰色 砂質シルト(腐食やや悪い、しまりややあり)                           |
| 13層上 | 29       | 7.5Y4/1 灰褐色 砂質シルト(腐食悪い、しまりなし)                            |



第12図 4区東壁土層断面図



は30cm程度を測る。調査区北側では、下層の溝埋土の影響からか、南側よりも砂の含有量が多い。

当層からは土師器、弥生土器が出土した。

**Ⅲ層** 明褐色シルトで、層厚10～30cmを測る。調査区南側では暗色化が進み、南北で様相が異なる。調査区の全域に堆積していたと考えられるが、溝による削平のため、北西隅では未確認である。無遺物層である。

**Ⅳ層** 浅黄橙色シルトで、調査区南側では、かなりしまりが弱い部分がある。その他、調査区中央付近では一部グライ化している箇所を確認した。無遺物層である。

Ⅲ層・Ⅳ層はいずれも無遺物層であり、地山と判断した。そのため、Ⅲ層上面で調査を終了した。

## 第3節 検出した遺構と遺物

### 第1項 第1遺構面

近世以降の耕作土と考えられるⅠ層を掘削後に検出した遺構面である。標高は約8.0mで、ほぼ平坦である。当遺構面において、溝を4条検出した(第13図)。

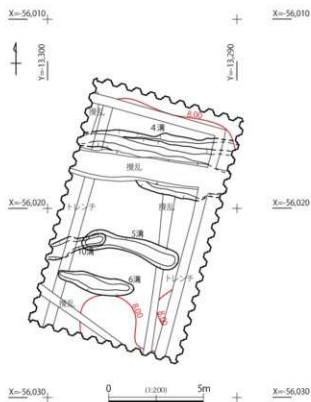
#### 1 溝

#### 4溝(第14図、写真図版3・11)

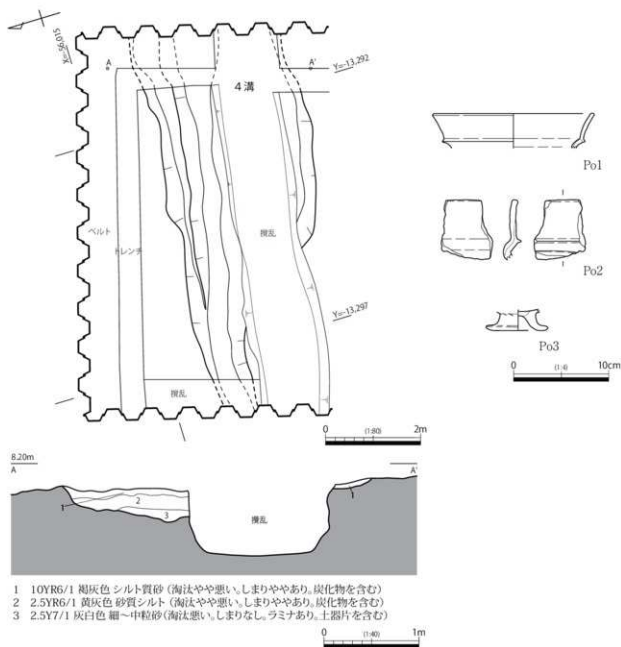
T23-7d-1C-2j グリッドに位置する西北西—東南東方向の溝である。調査区外へ延びるため、全体の形状は不明である。規模は、検出長約6.9m、最大幅約3.3m、検出面からの深さ18cm(西端)～43cm(東端)を測る。断面は逆台形を呈する。底面の高さは西から東に向かい10cm程度低くなり、その方向へ流れたと考えられる。平面形は東に向かい幅広になる。

埋土は3層に分層できる。上層2層は、褐灰色シルト質砂から黄灰色砂質シルトで土壌化が進んでおり、炭化物が多く混じる。最下層は灰白色細砂から中砂で、部分的にラミナを確認した。現代用水路の掘削によって溝南側の大部分が攪乱を受けているため全体像は明らかではないが、水田耕作に伴う用水または自然流路と考えられる。

出土遺物には、弥生土器や土師器が認められる。Po1は弥生土器で、甕の口縁部片である。全体的に丁寧にヨコナデし、口縁端部は丸くおさめている。弥生時代終末期の特徴を示す。Po2・3は土師器である。Po2は甕の口縁部片で、口縁端部にあまい平坦面を持つ。Po3は低脚坏の脚部で、坏



第13図 4区第1遺構面遺構配置図



第14図 4区4溝平面図・断面図及び出土土器

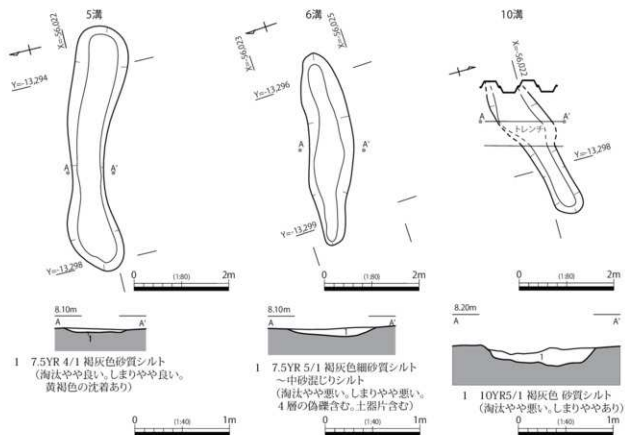
部との境界付近に工具痕が認められる。Po2・3は、いずれも古墳時代前期の特徴を示す。

遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅱ層の時期と出土遺物から古墳時代前期以降と考えられる。

### 5溝 (第15図、写真図版3)

T23-7d-1c-3j グリッドに位置する西北西—東南東方向の溝である。全体の形状は、中央部がややすぼまった形をなす。断面形は浅い皿状で、底面の高さはほぼ一定である。規模は、全長5.2m、最大幅1.1m、検出面からの深さ4cmを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層で、管状斑鉄が著しい。耕作に関する溝と想定されるが、性格は不明である。

出土遺物には、弥生土器と土師器の細片が認められる。遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅱ層の時期から古墳時代前期以降と考えられる。



第15図 4区5溝・6溝・10溝平面図・断面図

## 6溝 (第15図、写真図版4)

T23-7d-1C-3jグリッドに位置する西北西—東南東方向の溝である。全体の形状は、中央部がやや影らんだ形をなす。規模は、全長4.1m、最大幅0.9m、検出面からの深さ約10cmを測る。断面形は浅い皿状であり、底面の高さはほぼ一定である。埋土は褐灰色砂質シルトの単層で、4層の偽礫が少量混じる。耕作に関する溝と想定されるが、性格は不明である。

出土遺物には、弥生土器と土師器の細片が認められる。遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅱ層の時期から古墳時代前期以降と考えられる。

## 10溝 (第15図、写真図版4)

T23-7d-1C-3jグリッドに位置する西南西—東北東方向の溝である。調査時には第2遺構面で検出した遺構であるが、断面観察の所見から第1遺構面の遺構と認識した。5溝との切り合い関係から、それより新しい時期の溝と考えられる。

調査区外へ延びるため、全体の形状は不明である。規模は、検出長約2.9m、最大幅0.9m、検出面からの深さ56cmを測る。断面形は皿状であり、底面の高さはほぼ一定である。埋土は、褐灰色砂質シルトの単層である。耕作に関する溝と想定されるが、性格は不明である。

出土遺物には、弥生土器と土師器の細片が認められる。遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅱ層の時期から古墳時代前期以降と考えられる。

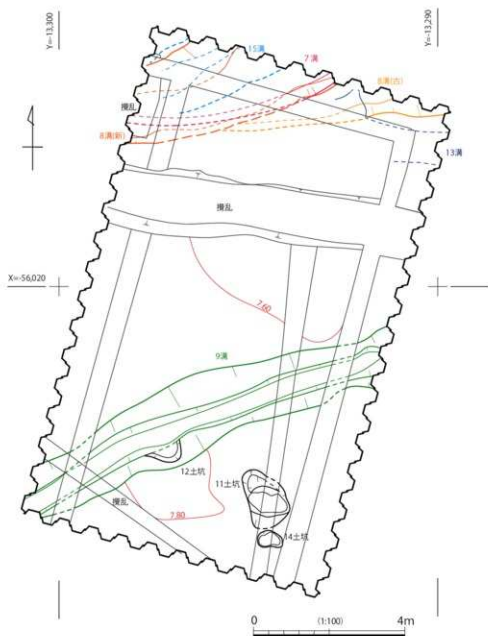
## 第2項 第2遺構面

古墳時代前期以降の土壌層であるⅡ層を掘削後に検出した遺構面である。標高は7.6～7.8mで、調査区南側に標高が20cm程度高い部分がある。当遺構面で、溝5条、土坑2基を検出した（第16図）。

### 1 溝

#### 7溝（第17図・第18図、写真図版8・11）

T23-7d-1C-2j グリッドに位置する北東—南西方向の溝である。調査区北側西隅でのみ確認した。攪乱や第1遺構面の4溝に切られることと調査区外へ延びることから、全体の形状は不明である。規模は、検出長5.6m、検出幅2.6m以上、検出面からの深さ約10～20cmを測る。断面は浅い皿状を呈し、



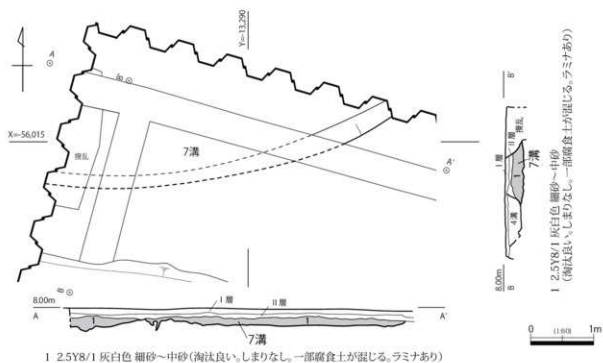
第16図 4区第2遺構面遺構配置図

底面の高さはほぼ一定である。

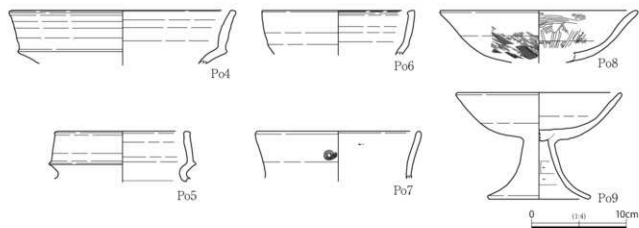
埋土は、灰白色細砂から中砂の単層である。北壁断面では、部分的に中砂と腐食土の水平ラミナを確認した。そのため、流速は幾度も変化した可能性が高い。南東側では灰白色細砂から中砂が主であるのに対し、西側に向かって粗砂や炭化物などの混入物が多くなる傾向が認められ、側方変化が顕著である。この溝は、後述する8溝（新段階）とほぼ同位置で検出しており、8溝埋没後の自然流路と考えられる。

出土遺物には、弥生土器や土師器が認められる。ここでは土師器を図化した。

Po4～Po6は甕の口縁部である。Po4は、口縁部が外傾・外反する。口縁端部は、明瞭な平坦面を持ち、外側にやや肥厚する。Po5は、口縁部がやや内傾する。口縁端部は、あまい平坦面を持ち、外側にやや肥厚する。Po6は、口縁部が僅かに外傾し、やや内湾する。口縁端部は、明瞭な平坦面を持



第17図 4区7溝平面図・断面図



第18図 4区7溝出土土器

ち、内側に肥厚する。Po7は壺の口縁部である。外面にスタンプ文が認められる。Po8・Po9は高坏である。Po8は坏部の破片で、口縁部がやや外反する。Po9はPo8に比べて口径が小さく、口縁部が僅かに外反する。これらは、古墳時代前期中葉から後葉の特徴を示す。

遺構の時期は、先行する8溝の埋没時期と出土遺物から古墳時代前期中葉から後葉と考えられる。

## 8溝 (第19図～第26図、写真図版5～8・12・13・18～20)

T23-7d-1C-2j グリッドに位置する北東—南西方向の溝である。調査時には8溝を3段階(旧・中・新)に区分して捉えていたが、「8溝(旧)」を後述する13溝に含めることとしたため、ここでは調査時の「8溝(中)」を8溝(古段階)、「8溝(新)」を8溝(新段階)として報告する。

### (1) 8溝(古段階)

後述する8溝(新段階)に大部分を切られることと調査区外に延びることから、全体の形状は不明である。規模は、検出長6.0m、検出幅1.0m、検出面からの深さ30～40cmを測る。北側鋼矢板際では、高さ5cm程度の中州状の高まりを確認した。

埋土は2層に分層できる。上層は黄灰色砂質シルトで、5cm程度の厚さで溝の南東肩部にのみ残存する。下層は黄灰色シルト質砂で、上部は極細砂から粗砂がブロック状に多く混じる。

### (2) 8溝(新段階)

7溝に切られることと調査区外に延びることから、全体の形状は不明である。規模は、検出長6.1m、検出幅2.5m、検出面からの深さ55cmを測る。

埋土は大きく2層に分層できる。上層は黄灰色シルト質砂で、下層に比べてややしまりがあり、炭化物をまばらに含む。上方に向かって細粒化しており、上部は土壌化が進んでいる。下面において、自然木や木製品が横たわった状態で出土した。下層は黄灰色シルト質砂で、しまりがなく淘汰も悪い。上部には、ブロックまたはラミナ状に粗砂が混じる。下部では、下層の影響を受けて粘性が強くなり、炭化物和IV層の偽礫が混入する。上層と下層の間には、一部で黄灰色シルトが認められる。層厚は薄く、最厚5cm程度で溝の肩部周辺にのみ残存する。

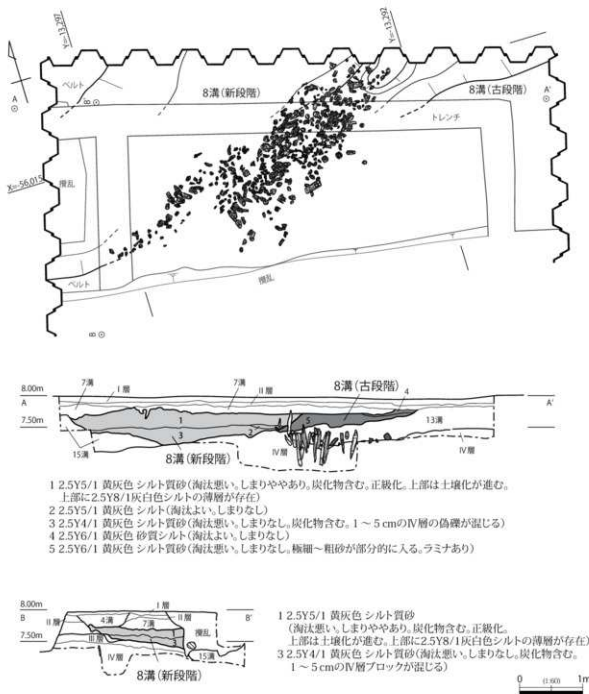
### (3) 杭列群

8溝を調査中に、多数の杭・矢板を検出した。そのため、平面分布による分類を行い、杭列A～杭列Dに分けて調査を行った。ここでは調査時の所見を踏まえ、杭列ごとに記述する。なお、整理作業段階で行った杭列の詳細な検討結果は、第7章第1節(pp.199-208)に記載している。

#### 1) 杭列A

最も西側に分布する杭列で、検出長は約2.8mに及ぶ。杭は直立または斜めに打設され、複数列にわたる。基本的に高密度で打設されているが、南西に向かって杭の密度は低くなる。杭先端部(下端)の標高は6.73～7.44mであり、基本層のIV層まで及ぶものが多い。

杭列Aで検出した杭の総数は111点である。素材の割合は、自然木(丸木)が2割弱で、加工材(棒材・板材・割材・転用材)が8割以上を占める。加工材の内訳は、割材(半裁・四分の一・みかん割)が大半を占め、板材、転用材、棒材(丸材・角材)と続く。被熱したものは16点、樹皮が残るものは6点である。樹皮があるもの、被熱を受けたものは他の杭列に比べて少ない。転用材の割合は最も高いが、他の杭列で数点ずつ認められる柱転用材はない。使用されている樹種は、8割以上が針葉樹である。



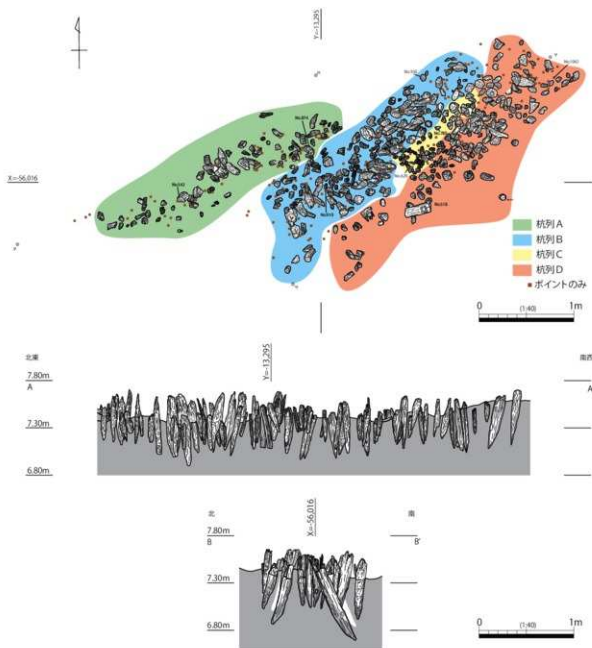
第19図 4区8溝平面図・断面図

取上 No.542, 874 を放射性炭素年代測定した結果, 542 は  $1820 \pm 20\text{BP}$  (127-251calAD), 874 は  $1830 \pm 20\text{BP}$  (126-245calAD) であった。

## 2) 杭列 B

杭列 A の東側に分布する杭列で, 検出長は約 3.0 m に及ぶ。杭は直立または斜めに打設され, 杭は不規則かつ高密度で打設されている。杭先端部の標高は 6.69 ~ 7.44 m であり, 基本層の 4 層まで及ぶものが多い。

杭列 B で検出した杭の総数は 229 点である。素材の割合は, 自然木が 3 割弱で, 加工材が 7 割以上



第20図 4区8溝杭列群検出状況(平面図・断面図)

を占める。杭列Aに比べて、やや加工材の割合が高い。加工材の内訳は、割材が最も多く、板材、転用材(柱転用材を含む)、棒材と続く。被熱したものは28点、樹皮が残るものは35点である。使用されている樹種は、針葉樹と広葉樹の割合がほぼ同率である。

取上 No.910,950 を放射性炭素年代測定した結果、910 は  $1850 \pm 20\text{BP}$  ( $86\text{-}108\text{calAD}$ ,  $119\text{-}235\text{calAD}$ )、950 は  $1840 \pm 20\text{BP}$  ( $90\text{-}100\text{calAD}$ ,  $124\text{-}237\text{calAD}$ ) であった。

### 3) 杭列C

杭列Bと杭列Dの間で確認した杭列で、検出長は約1.1mに及ぶ。他の杭列と比べ、分布密度と自然木の割合が高いことから一つの杭列として認識した。杭は直立または斜めに打設される。杭先端部の標高は6.83～7.31mで、基本層のIV層まで及ぶものが多い。



杭列Cで検出した杭の総数は48点である。素材の内訳は、自然木が4割弱で、加工材が6割強を占める。加工材の内訳は、割材が大半を占め、棒材、板材、転用材（柱転用材を含む）が僅かに認められる。被熱したものは4点、樹皮が残るものは18点である。使用されている樹種は、針葉樹と広葉樹の割合がほぼ同率である。

取上 No.629、780 を放射性炭素年代測定した結果、629 は  $1830 \pm 20BP$  (128-241calAD)、780 は  $1870 \pm 20BP$  (80-222calAD) であった。

#### 4) 杭列D

最も東側に分布する杭列で、検出長は約3.4mに及ぶ。杭は直立または斜めに打設され、8溝（古段階）の高まり部分から肩部を越えて打設されている。杭先端部の標高は6.63～7.35mで、基本層のIV層まで及ぶものが多い。

杭列Dで検出した杭の総数は175点である。素材の内訳は、自然木が2割弱で、加工材が8割以上を占める。加工材の内訳は、割材が最も多く、板材、転用材（柱転用材を含む）、棒材と続く。被熱したものは32点、樹皮が残るものは31点である。被熱を受けたものの割合が他の杭列に比べて多い。使用されている樹種は、約7割が針葉樹である。

取上 No.518、1042 を放射性炭素年代測定した結果、518 は  $1830 \pm 20BP$  (127-241calAD)、1042 は  $1840 \pm 20BP$  (89-102calAD, 123-238calAD) であった。

#### (4) 出土遺物

8溝からは、新段階の埋土を中心に多数の弥生土器、土師器、石器、木器が出土した。

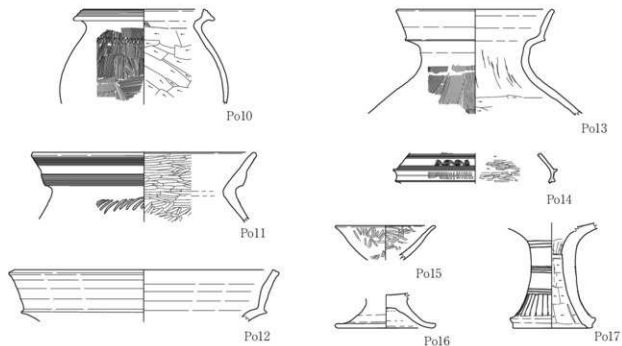
**土器** Po10～Po17は、新段階の埋土上層出土土器及び出土層位を特定できなかった土器である。

Po10～Po12は甕である。Po10は口縁部から胴部の破片で、口縁部は内傾する。口縁端部を上下に拡張して3条の平行沈線が施され、肩部外面には柁目の板状工具による連続刺突文が施される。内面は、頸部から胴部をヘラケズリで成形される。弥生時代後期前葉の特徴を示す。Po11は口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁部外面に平行沈線が施されるが、強いヨコナデによって一部がナデ消されている。肩部外面には貝殻腹縁による連続刺突文が施され、内面は全体的に丁寧なミガキが施される。弥生時代後期後葉の特徴を示す。Po12は新段階の埋土上層から出土した口縁部の破片で、複合口縁をなす。全体的に強いヨコナデが施され、口縁端部に明瞭な平坦面を持つ。古墳時代前期前半の特徴を示す。

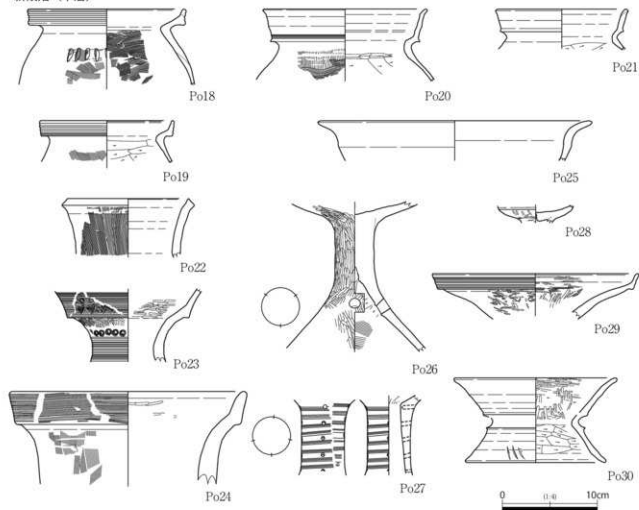
Po13・Po14は壺である。Po13は新段階埋土上層から出土した口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁端部は丸くおさまられているが、口縁端部に指爪の痕跡が巡っており、古墳時代前期初頭の甕と技法上の共通点が認められる。頸部外面は縦方向のハケメやヨコナデで調整が施されるが、頸部内面はシボリの痕跡が残存しており、やや粗雑な作りである。Po14は、いわゆる「台付装飾壺」の破片と考えられる。新段階の埋土上層から出土した。胴部最大径部分には2条の鋭い突帯が作出され、突帯間の凹面にはスタンプ文が巡らされ、外面は赤色塗彩される。突帯より上位の胴部上半には、上から順に3条の平行沈線、スタンプによる連続渦文（渦文二個一単位）、2条の平行沈線が巡らされる。胴部内面は、左方向のヘラケズリの後に横方向のミガキが施される。

Po15は小型器台、Po16は低脚環である。Po15は新段階の埋土上層から出土した口縁部の破片で、内外面ともミガキが施される。Po16は脚部の破片で、全体的にヨコナデが施される。僅かに残存する坏部内面にはミガキが施される。

新段階（上層ほか）



新段階（下層）



第21図 4区8溝出土土器

Po17は高坏である。新段階の埋土上層から出土したもので、脚部がほぼ完存している。外面は、上から針状工具による3条の横位沈線、4条の横位沈線、3条の横位沈線、45条の縦位沈線及び菱形刺突文が施される。瀬戸内地方の弥生時代中期後葉から後期前葉に類例が認められる。

Po18～Po30は、新段階の埋土下層出土土器である。

Po18～Po21は甕である。Po18は口縁部から胴部の破片である。口縁部は複合口縁をなし、直立・やや外傾する。口縁部外面には3条の平行沈線が施され、肩部外面には柁目の板状工具による連続押引文が認められる。頸部から胴部の内面にはハケメが施され、ヘラケズリは行われない。内面の調整が異質であるが、それ以外は弥生時代後期中葉の特徴を示す。Po19は口縁部から肩部の破片である。口縁部は複合口縁をなし、直立・やや外傾する。口縁部外面には4条の平行沈線が施され、頸部から肩部の内面はヘラケズリが施される。弥生時代後期中葉の特徴を示す。Po20は口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁部外面には横位のハケメ状の痕跡と強いヨコナデが認められる。口縁部は丸くおさめられ、上方やや外側につまみ上げられる。頸部内面には、一部にミガキが施され、その下方は丁寧なヘラケズリが施される。弥生時代終末期後半の特徴を示す。Po21は口縁部から頸部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁部には、あまい平坦面が成形される。古墳時代前期初頭の特徴を示す。

Po22～Po24は壺である。Po22は直口壺の口縁部片で、口縁部が上方につまみ上げられる。外面は縦方向のハケメ、内面はヨコナデとナデが施される。Po23は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片で、口縁部を欠損する。口縁部外面に櫛歯状工具による平行沈線、頸部外面に貝殻腹縁による平行沈線が施される。また、口縁部外面にスタンプによる二重同心円文・V字状文、頸部外面にスタンプによる三重同心円文が連続して施される。Po24は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。口縁部外面に15条の平行沈線が施される。頸部外面は縦方向のハケメ、口縁部内面は横方向のミガキが認められる。Po23・Po24は、弥生時代後期後葉の特徴を示す。

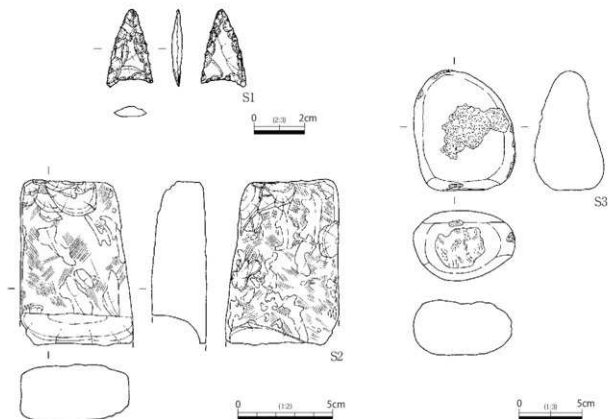
Po25～Po27は高坏である。Po25は口縁部の破片で、端部が強く外反する。外面に煤が付着する。Po26は坏部から脚部の破片で、坏部の大半と脚部を欠損する。外面はミガキが施され、脚部内面はヘラケズリとハケメが施される。脚部には3方向に円孔が穿たれる。弥生時代後期から終末期に但馬地域などで類例が認められる。Po27は脚柱部の破片である。3～5条の平行沈線が8列施されるが、いずれも一周せず、180度の位置に合わせ目が認められる。また、4方向にそれぞれ5段の円孔が穿たれるが、最上部の円孔のみ貫通していない。貫通させた円孔についても内面を丁寧に調整していて、貫通による粘土の隆起は認められない。

Po28は小型器台の坏部片である。坏部上半及び脚部を欠損しており、詳細は不明である。

Po29は器台の口縁部片である。口縁部外面に5条の平行沈線が施される。弥生時代後期から終末期に、但馬地域などで類例が認められる。

Po30は鼓形器台である。器高の扁平化が進んでいるが、筒部幅の縮減は進行していない。脚部外面にヘラ状工具による工具痕が認められる。古墳時代前期初頭頃の特徴を示す。

**石器** S1は凹基式の石鏃である。安山岩製で、周縁から押圧剥離によって成形する。裏面に素材の剥離面を残す。S2は石斧の基部と考えられる。輝緑凝灰岩製で、剥離調整によって粗加工した後、研削によって成形している。横断面は長方形を呈しており、扁平片刃石斧の可能性もあるが、刃部を欠損するため詳細は不明である。S3は敲石である。デイサイト製で、正面中央付近に顕著な敲打痕



第22図 4区8溝出土石器

が認められる。下面にも敲打痕が認められるが、敲打後に摩耗している。被熱する。

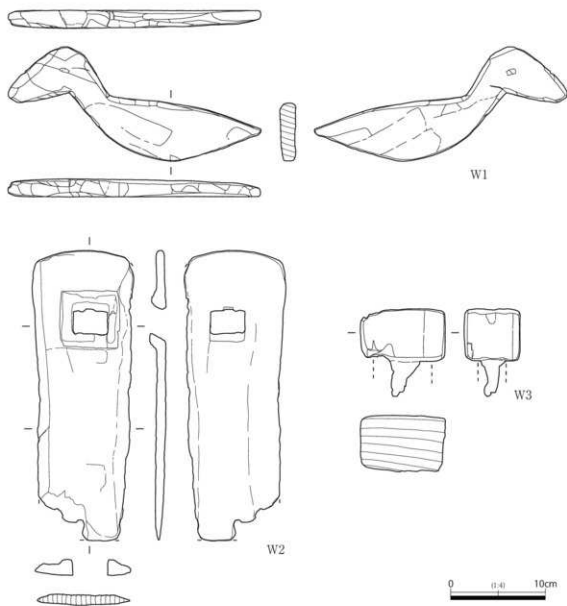
**木器** W1は鳥形木製品である。いわゆる「板作り」で、鳥を横から見た様子を表現している。針葉樹の柾目板を素材とし、上下端部を鉄製工具による切削で成形して、頭部・胴部・尾部を明確に作出している。翼を装着した痕跡や孔は認められない。

W2は直柄平鋏である。平面形は縦長の長方形で、上端面がやや丸みを帯びる。刃縁は大半を欠損しているが、残存部は直状である。柄孔は長方形で、正面（後面）側の柄孔周辺に方形の隆起を成形する。柄孔の裏面（前面）側上辺には、目釘をおさめる方形の窪みを成形する。着柄角度は60度である。アカガシ亜属の柾目板を素材とする。

W3は栓の頭部と考えられる。針葉樹の芯去材を素材とし、頭部を直方体状に成形している。軸部は腐朽によって失われており、詳細は不明である。

杭列群で検出した杭と矢板は、21点を図化した（W4～W24）。

W4～W11は転用材・丸棒材・角棒材を素材とした杭である。W4は有頭状の角棒材を素材とするが、先端を欠損しており、詳細は不明である。W5は孔や抉りを持つ板を素材とし、先端の側面を矢板状に加工している。W6・W7は建築部材の転用と考えられるが、先端部を尖鋭に加工していない。W8は弓状になつた丸棒材を素材とし、先端をへら状に成形している。W9は角棒材、W10は板目材を素材するが、いずれも先端部を欠損しており、詳細は不明である。W11は表裏に切削痕が明瞭に認められ、建築部材の転用と考えられる。樹種は、W4～W8、W10がスギで、W9、W11がヒノキである。



第23図 4区8溝出土木器(1)

W12～W16は、割材を素材とした杭である。W12は、みかん割材の一端を尖鋭に加工している。W13・W15・W16は、素材の一部に年輪界の割れ肌が認められ、一端を尖鋭に加工している。W14は、半裁材の一端を尖鋭に加工している。樹種は、W12がエゴノキで、W13～W16がスギである。

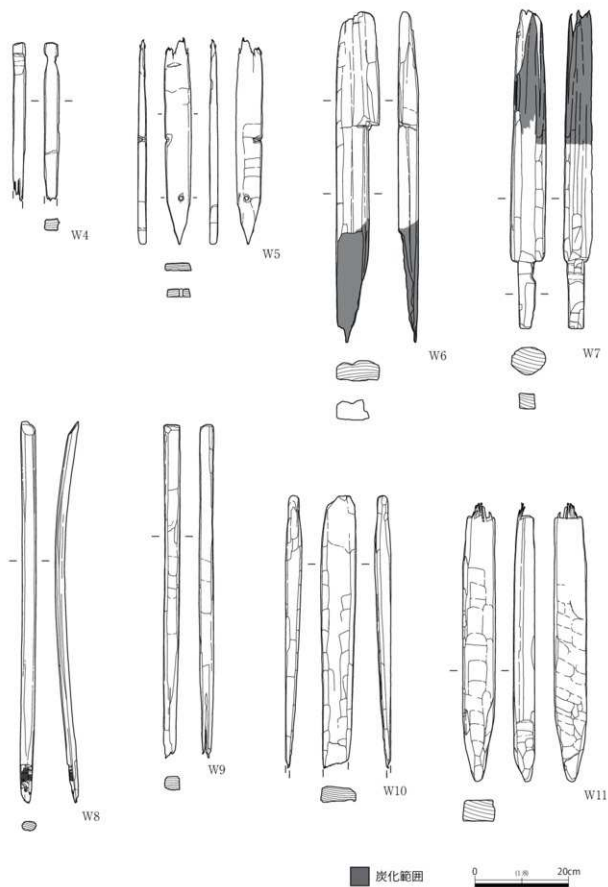
W17は、丸木(自然木)を素材とした杭である。樹種は、シイノキ属である。

W18～W24は、矢板である。W18・W21～W24は割材を素材としたもので、正面、裏面に年輪界の割れ肌が認められる。W19は正面に切削痕の痕跡が認められ、転用材の可能性がある。W20は2カ所に方形の柄孔が認められ、建築部材の転用と考えられる。樹種は、W18・W22がモミ属、W19がヒノキ、W20・W21・W24がスギ、W23がクリである。

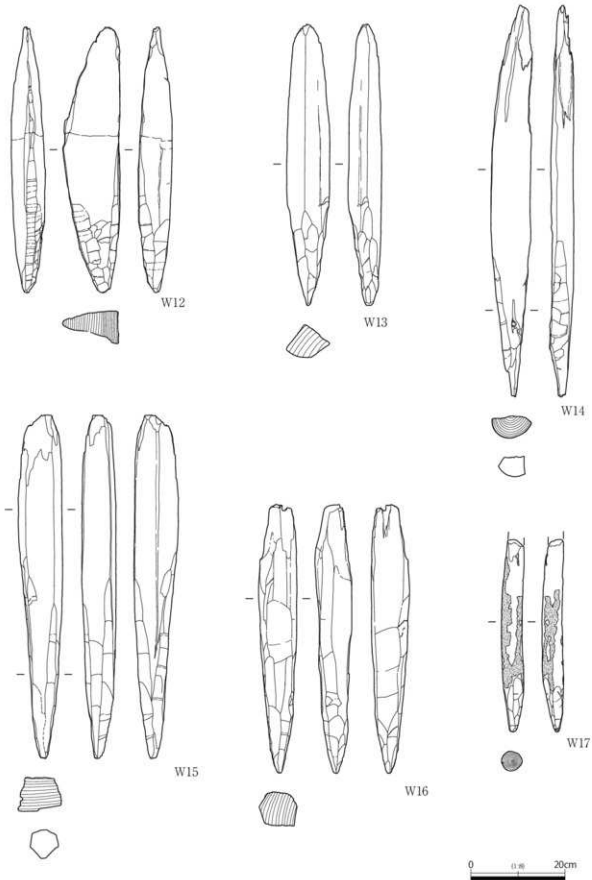
#### (5) 遺構の性格と時期

8溝は杭列群を伴う流路と考えられ、途中で流路の方向が北東側へ変更されている。

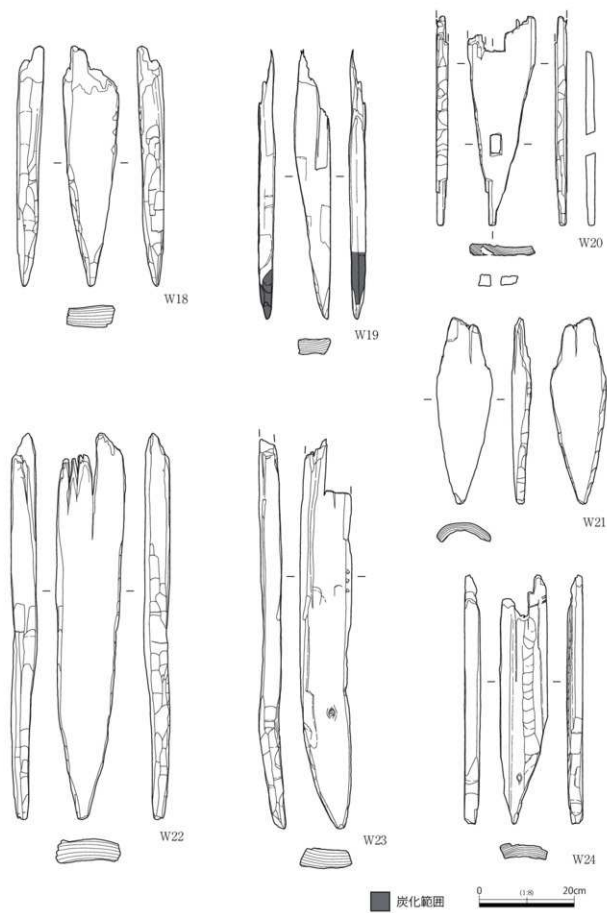
8溝出土土器のうち最新相の土器はPo12であり、Po12の特徴から古墳時代前期前半までに埋没し



第24図 4区8溝出土木器(2)



第25図 4区8溝出土木器(3)



第26図 4区8溝出土木器(4)

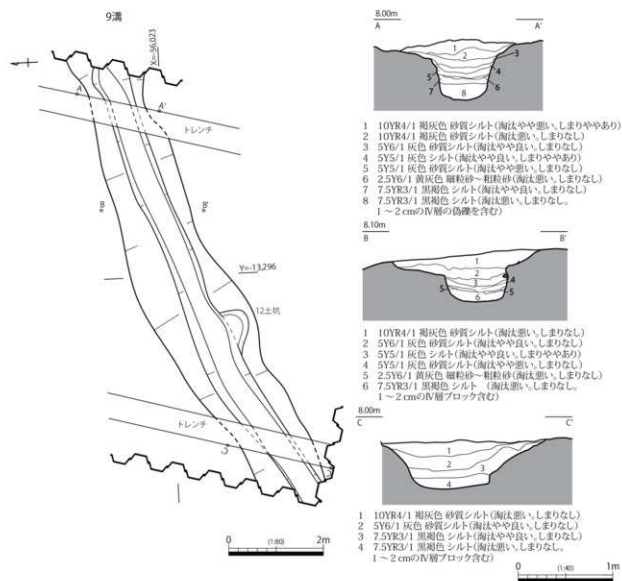


たと考えられる。また、先行する13溝の埋没時期（古墳時代前期初頭）を踏まえると、8溝が機能したのは古墳時代前期初頭から前期前半頃と想定される。8溝からは弥生時代後期の特徴を有する土器が多数出土し、出土数の過半を占めているが、これらは重複する13溝や15溝に伴う土器が8溝中に二次的に埋没したものと考えられる。

### 9溝（第27図～第29図、写真図版9・13・14・18）

T23-7d-1C-3jに位置する南西—北東方向の溝である。調査区外へ延びるため、全体の形状は不明である。規模は、検出長約10.4m、最大幅2.0m、検出面からの深さ56cmを測る。断面形状は場所によって異なり、西端で逆台形、東端でU字形を呈するが、中央部から東側にかけて上方が外側へ開く。底面の高さは、西から東へ9cm程度低くなる。

埋土は、東壁で8層に分かれ、上層（1・2層：褐灰色砂質シルト）、中層（3～6層：灰色砂質シルト・灰色シルト・黄灰色細砂～粗砂）、下層（7・8層：黒褐色シルト）の3層に大別できる。上層は、土壌化がやや進行している。中層は、砂質シルトとシルトが互層を呈し、最下部に細砂～粗



第27図 4区9溝

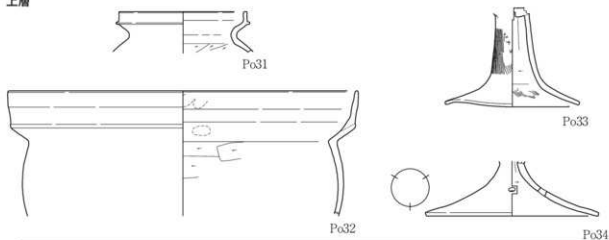
砂が認められることから、流水環境にあったと想定される。下層は、黒褐色シルト層であり、滞水環境にあった可能性が高い。形状、埋土の様相から人工的に開削された水路と考えられる。

出土遺物には、弥生土器、土師器、石器が認められる。

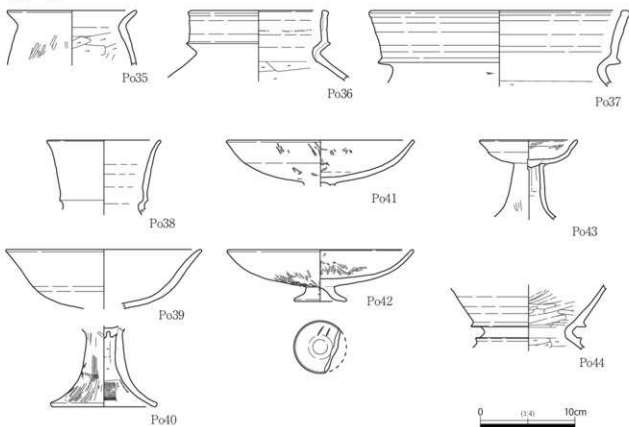
**土器** ここでは土師器を図化した。Po31～Po34は埋土上層、Po35～Po44は埋土中層又は下層から出土した。

Po31は壺の口縁部から肩部の破片である。口縁部は複合口縁をなし、口縁端部は直立・僅かに内傾するとともに口縁部下端が外側に強く突出する。Po32は壺の口縁部から胴部の破片である。口縁

上層



中層・下層



第28図 4区9溝出土土器

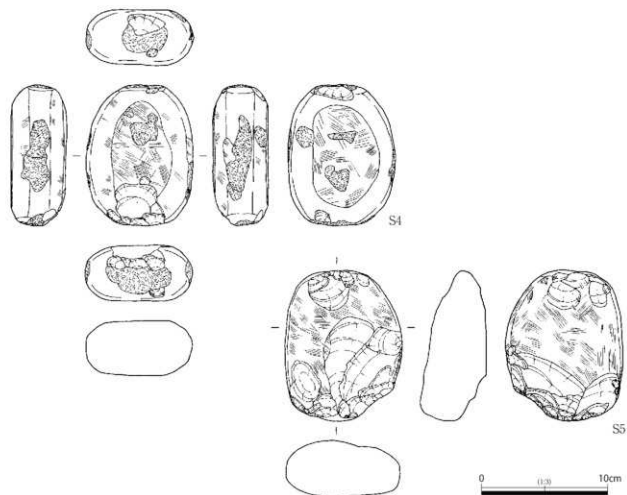
部は複合口縁をなし、僅かに外傾する。口径が胴部最大径よりも大きく、特徴的である。Po33・Po34は高坏の脚部である。Po33は脚柱部が長く、脚端部が歪んでいる。Po34は布留系高坏の脚部であり、3方向に円孔が穿たれている。これらは、いずれも古墳時代前期前葉から中葉の特徴を示す。

Po35～Po37は甕である。Po35は口縁部から胴部の破片で、口縁部は外反する単純口縁である。外面は丁寧なナデが施され、一部にミガキの痕跡が認められる。Po36は口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁部は直立し、口縁端部には明瞭な平坦面が形成される。口縁下端部は外側に鋭く突出する。口縁部は、内外面とも丁寧にヨコナデされる。Po37は口縁部から頸部の破片で、口縁部は複合口縁をなす。口縁部は外傾し、口縁端部は内面にやや肥厚するとともに甘い面を持つ。口縁部下端は外側へ強く突出する。内外面とも丁寧にヨコナデされる。

Po38は直口壺の口縁部から頸部の破片である。口縁部はやや外反し、口縁端部が外側へ僅かにつまみ出される。口縁下端部は外側へ僅かに突出する。

Po39・Po40は高坏である。Po39は口縁部が外反する皿状の坏部の破片で、径がやや大きい。風化のため調整は不明である。Po40は坏接合部から脚部の破片である。外面はハケメの後に縦方向のミガキが施され、内面は脚柱部がシボリとヘラケズリ、脚部が横方向のハケメが施される。

Po41・Po42は低脚坏である。Po41は皿状の坏部の破片で、内外面の一部にミガキの痕跡が認められる。Po42は口縁部から脚部の破片で、坏部は皿状を呈する。坏部は内外面にミガキが施され、脚



第29図 4区9溝出土石器

部は内外面にヨコナデが施される。脚部内面にヘラ状工具のキズが2条認められる。

Po43は小型器台の口縁部から脚部の破片である。坏部の屈曲部が明瞭で、段を有する。風化により調整は不明瞭だが、一部にミガキが認められる。脚端部を欠損する。

Po44は鼓形器台の受部下半から脚部上端の破片である。受部下端の径に比べて筒部の径が小さく、筒部のくびれが明瞭である。外面はヨコナデ、内面は受部がミガキ、脚部がヘラミガキが施される。胎土に7～12mmの赤色土粒を含む。

埋土中層・下層から出土した土師器は、古墳時代前期初頭から前葉の特徴を示す。

**石器** S4は、輝緑凝灰岩製の磨石である。やや扁平な円礫が用いられ、正面・裏面が顕著に摩滅して平坦面となっている。上下端部と左右両側縁に顕著な敲打痕が認められるとともに、正面・裏面の摩滅面にも部分的に敲打痕が認められる。S5は、安山岩のやや扁平な円礫が用いられ、礫面が摩耗している。上下端部に敲打痕が認められ、それらに伴う剥離痕が認められることから敲石と考えられる。S4・S5は、いずれも埋土中層又は下層から出土した。

遺構の時期は、掘削された時期は特定できないものの、古墳時代前期初頭から前葉には埋没し始め、遅くとも古墳時代前期中葉には完全に埋没したと考えられる。

### 13溝(第30図～第32図、写真図版9・15・16・18)

T23-7d-1C-2jに位置する東西方向へ延びる溝である。当初は、3条の溝(13溝・16溝・17溝)が重複すると考えていたが、最終的に13溝の埋没過程に伴うものと判断して一括した。北側及び東側は調査区外に広がり、西側は8溝、南側は攪乱及び4溝にそれぞれ切られるため、形状や規模は不明である。

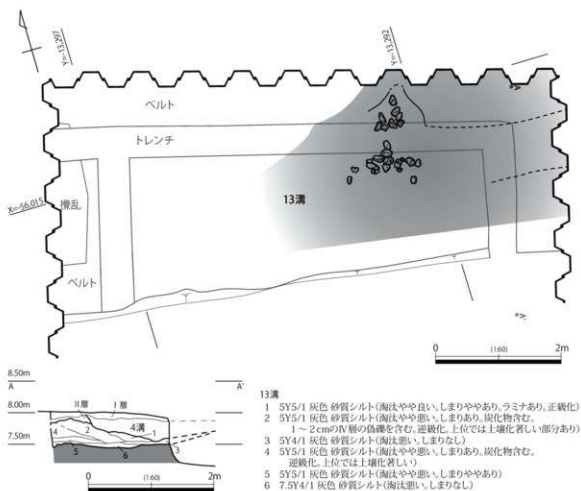
溝底面に拳大の礫が集中する箇所が認められた。堰などの可能性を考慮し、慎重に調査を進めたが、これらの性格を明らかにすることはできなかった。

埋土は東壁で6層に分層でき、4段階に大別することができる。即ち、5～6層が堆積する第1段階、4層が堆積する第2段階、2～3層が堆積する第3段階、1層が堆積する第4段階である。第2段階の4層及び第3段階の2層は逆級化構造が認められ、増水時における低水路からの溢流によって堆積したものと想定される。第4段階の1層ではラミナが認められ、この段階は緩やかな流水環境にあったと考えられる。礫集中部の解釈が課題ではあるが、遺構の性格は流水と濁水を繰り返すような流路と考えられる。

出土遺物には、縄文土器、弥生土器、石器がある。

**土器** Po45は、刻目突帯文土器の口縁部片である。尖り気味におさめた口縁に、その端部に接して凸帯を貼り付け、突帯下部の稜上に小D字状の刻目を施している。口縁部外面の突帯上及び口縁部内面に指オサエの痕跡が顕著である。小破片であるが、縄文時代晩期後半の古海式の特徴を示す。

Po46～Po53は弥生土器の甕で、口縁部から頸部又は口縁部から頸部の破片である。Po46は口縁部が内傾して口縁端部が上下に拡張され、外面に3条の凹線文が施される。外面の調整は、肩部において縦方向のハケメが顕著に認められるが、頸部付近ではヨコナデでハケメがナデ消される。内面の調整は、口縁部でヨコナデが顕著で、頸部直下はナデ及び指オサエ、肩部以下でヘラケズリが施される。弥生時代中期後葉の特徴を示す。Po47～Po54の口縁部は複合口縁を呈する。Po47の口縁部は短く直立し、外面に貝殻腹縁による7条の平行沈線が施される。弥生時代後期中葉の特徴を示す。



第30図 4区13溝

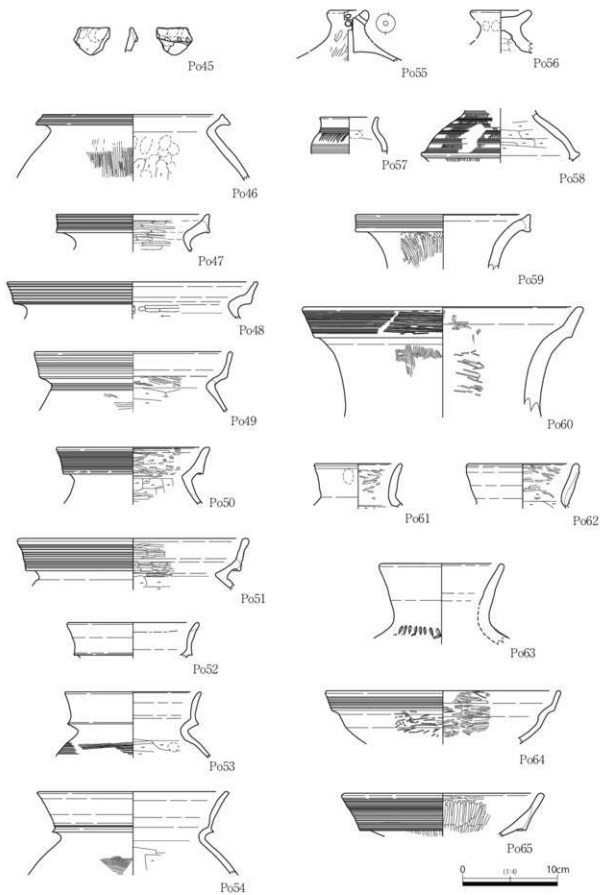
Po48の口縁部は外傾し、外面に貝殻腹縁による6~7条の平行沈線が施される。弥生時代後期中葉から後葉の特徴を示す。Po49~Po51の口縁部は外傾・外反し、Po47・Po48と比べて上方に長く延びる。外面には7~12条の平行沈線が施される。弥生時代後期後葉の特徴を示す。Po52・Po53は口縁部が外反し、外面は強いヨコナデが施されて平行沈線は認められない。弥生時代終末期の特徴を示す。

Po54は土師器の甕である。口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁を呈する。口縁部は強く外傾・外反し、口縁端部に甘い面を持つ。口縁部下端は外側に鋭く突出する。古墳時代前期初頭の特徴を示す。

Po55・Po56は蓋の破片である。Po55は中央に縦方向の孔を貫通させ、つまみ部分にも2孔が穿たれる。内外面とも丁寧にミガキ・ナデが施されるが、つまみ上面は穿孔後の調整が施されない。Po56はつまみ上面に丁寧なナデが施されるが、内面上部には指オサエの痕跡が顕著に認められる。穿孔は認められない。

Po57は直口壺を模したミニチュア土器の口縁部から胴部の破片で、頸部には3条の沈線、胴部には3条の凹線が巡らされる。肩部には貝殻腹縁による連続刺突文が施される。

Po58は、いわゆる「台付装飾壺」の胴部片と考えられる。胴部最大径部分に鋭い突帯が作出され、その下部には沈線とそれに直交する爪形の連続刺突文（以下、直交連続爪形文）が施される。突帯よ



第31図 4区13溝出土土器

り上位の胴部上半には、上から順に2条の平行沈線、直交連続爪形文、4条の平行沈線、平行沈線に斜行する爪形の連続刺突文（以下、斜行連続爪形文）、4条の平行沈線、斜行連続爪形文、4条の平行沈線、斜行連続爪形文、4条の平行沈線、直交連続爪形文、4条の平行沈線が巡らされる。斜行連続爪形文は、上から「右下がり・右上がり・右下がり」又は「右上がり・右下がり・右上がり」となるように施文され、施文帯の途中で右上がりと右下がりを逆転させている。外面には赤色顔料の痕跡が認められ、赤色塗彩されていたと考えられる。

Po59・Po60は、複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。Po59の口縁部は上下への拡張が弱く、外面に4条の平行沈線が施される。Po60の口縁部は上方へ大きく拡張され、外面に13条の平行沈線が施される。

Po61～Po63は直口壺の破片である。Po61・Po62は口縁部から頸部の破片で、口縁部外面に1条の凹線が巡らされる。Po63は口縁部から肩部の破片で、肩部外面に柵目の板状工具による連続刺突文（上段右下がり・下段左下がり）が施される。

Po64は高坏の口縁部片である。口縁部は複合口縁状を呈し、外面に5～6条の平行沈線が施される。内外面ともミガキで丁寧に調整される。8溝（新段階）から出土した資料と接合した。弥生時代後期に但馬地域などで認められる特徴を持つ。

Po65は器台の口縁部片と考えられる。口縁部は複合口縁状を呈し、外面に16～17条の平行沈線が施される。調整は、内外面に丁寧にミガキが施される。

**石器** S6は凝灰岩製の凹石である。やや扁平な円磔を素材とし、正面中央部が敲打等によって凹状を呈する。右上半部を欠損する。

遺構の時期は、後述する15溝の時期や出土土器の特徴から、弥生時代後期前葉から古墳時代前期初頭と考えられる。

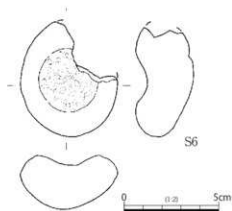
### 15溝（第33図・第34図、写真図版9・16）

T23-7d-1C-2jに位置する南西から北東方向に延びる溝である。調査区北西端での検出であること、上部を7溝と8溝に切られることから、本来の形状や規模は不明である。

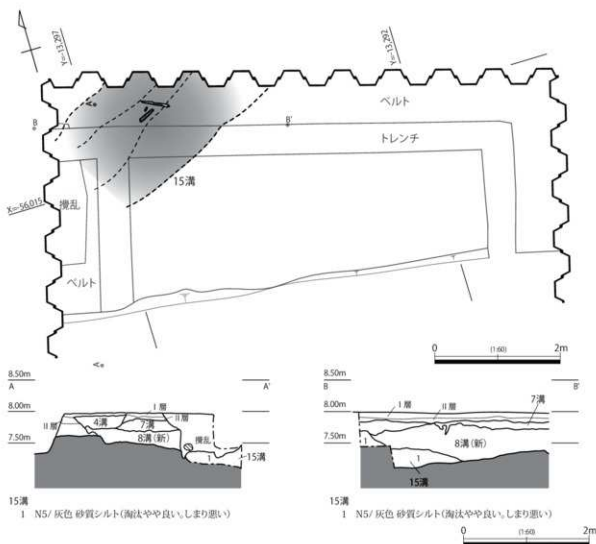
埋土は、灰色砂質シルトの単層である。しまりがなく、グライ化した基本層IV層の偽礫を少量含む。溝の底面東側には杭が散見されたが、詳細は不明である。部分的な検出であることと杭の存在が課題ではあるが、遺構の性格は流路と考えられる。

出土遺物には、弥生土器、棒状・板状の木製品、杭などが認められるが、ここでは土器のみを図化した。

Po66～Po68は甕である。Po66は口縁部から胴部の破片である。口縁部が内傾し、口縁端部が上下に拡張され、その外面には2条の凹線文が施される。外面の調整は頸部から胴部にかけて丁寧にハケメが施され、内面の調整は頸部直下から胴部までハケメ、胴部が横方向のケズリが施される。口縁部は内外面ともヨコナデが施される。弥生時代中期後葉の特徴を示す。Po67・Po68は口縁部から頸



第32図 4区13溝出土石器



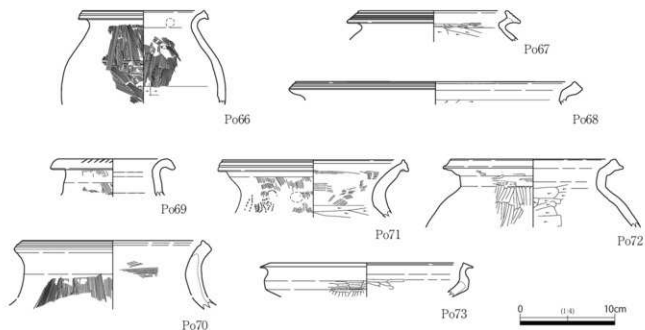
第33図 4区15溝

部の破片である。Po67は口縁部が内傾し、口縁端部が上下に強く拡張される。口縁部外面には4条の沈線文が施され、内面は頸部直下までヘラケズリが及んでいる。弥生時代後期前葉の特徴を示す。Po68は口縁部が内傾し、口縁端部が僅かに上方へ拡張される。口縁部外面には3条の沈線文が施され、内面は頸部直下までヘラケズリが及んでいる。弥生時代後期前葉の特徴を示す。

Po69～Po72は壺である。Po69は口縁部から頸部の破片で、口縁部を外側に折り曲げて垂下させている。口縁部外面にはヘラ状工具による連続刺突文が施される。Po70・Po71は口縁部から頸部の破片で、口縁部が内傾する。Po70は口縁端部が上方にやや拡張され、外面に2条の凹線文が施される。口縁部直下の頸部外面は強いヨコナデが施され、先行する縦方向のハケメがナゲ消される。Po71は口縁端部が上下に拡張され、外面に2条の沈線文が施される。頸部外面の一部に貝殻腹縁による刺突の痕跡が認められるが、全体には巡らない。内面は頸部直下までヘラケズリが及んでいる。弥生時代後期前葉の特徴を示す。Po72は口縁部から胴部の破片で、口縁部が内傾する。口縁端部は上方と側方に拡張され、外面に強いヨコナデによる凹線状の窪みが成形される。外面は頸部以下に丁寧なミガキが施され、内面は頸部直下までヘラケズリが及ぶ。弥生時代後期前葉の特徴を示す。

Po73は高坏の口縁部から坏部の破片と考えられる。口縁端部を外側へ拡張し、内側を僅かに肥厚





第34図 4区15溝出土土器

させる。口縁部はヨコナデ、その下部は丁寧なミガキが内外面とも施される。当地域に一般的な器形ではないため、搬入品と考えられる。

遺構の時期は、出土遺物から弥生時代中期後葉から後期前葉と考えられる。

## 2 土坑

### 11 土坑（第35図、写真図版10・17）

T23-7d-1C-3jに位置し、平面形は不整楕円形を呈する。規模は、検出長約1.6m、検出幅約1.1m、検出面からの深さ55cmを測る。主軸方位はN-20°-Wである。土坑の中央付近は調査区を南北に走る暗渠により、攪乱を受けている。

埋土は2層に細分でき、上層が褐色シルト質砂、下層が褐色シルトである。いずれも基本層IV層の偽礫を含むが、下層の偽礫はグライ化している。

出土遺物は、弥生土器が認められる。Po74は甕の口縁部から頸部の破片である。口縁部は複合口縁を呈し、やや外反する。口縁下端部の下垂が顕著である。口縁部外面には5条の平行沈線が施される。内面は、頸部に横方向のハケメが認められ、頸部以下にヘラケズリとそれを切る棒状の工具痕が認められる。内面の調整に特徴があるが、口縁部の形態は弥生時代後期中葉の特徴を示す。

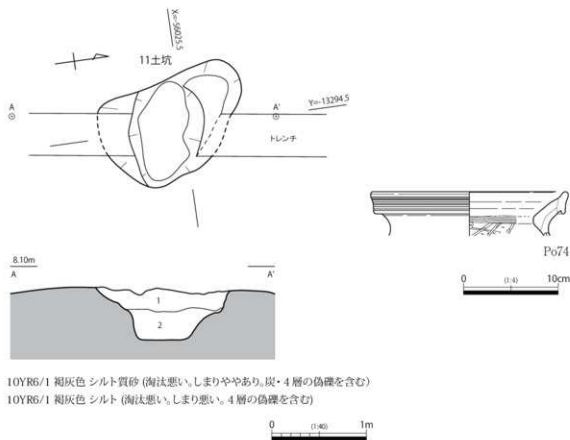
遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。

### 12 土坑（第36図、写真図版10）

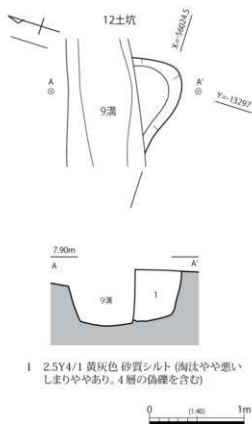
T23-7d-1C-3jに位置する。過半を9溝に切られるため、全体の形状は不明である。規模は、検出長約1.0m、検出幅約0.5m、検出面からの深さ53cmを測る。主軸方位はN-75°-Wである。

埋土は、黄灰色砂質シルトの単層である。部分的にグライ化した基本層IV層の偽礫を少量含む。

出土遺物は、弥生土器の細片が認められる。



第35図 4区11土坑及び出土土器



第36図 4区12土坑

遺構の時期は、当遺構を切る9溝の時期から、古墳時代前期初頭以前と考えられる。

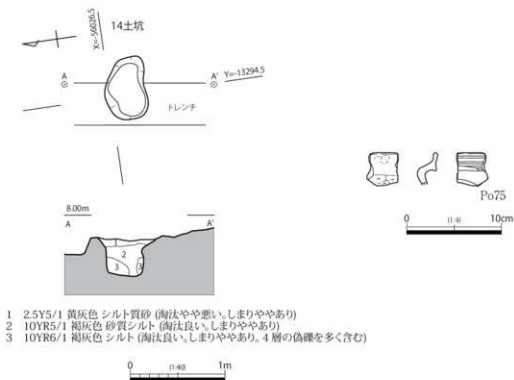
#### 14土坑 (第37図、写真図版10・17)

T23-7d-1C-3jに位置し、平面形は不整楕円形を呈する。規模は、検出長径0.65m、検出短径0.43m、検出面からの深さ21cmを測る。主軸方位はN82°-Wである。

埋土は3層に細分でき、上から黄灰色シルト質砂、褐灰色砂質シルト、褐灰色シルトである。最下層の褐灰色シルトは、グライ化した基本層IV層の偽礫を多く含む。

出土遺物は、弥生土器が認められる。Po75は口縁部から頸部の破片である。口縁部は複合口縁を呈し、僅かに外傾する。口縁部下端部は僅かに下垂し、口縁部外面には3条の平行沈線が施される。小破片ではあるが、弥生時代後期中葉の特徴を示す。

遺構の時期は、出土遺物から弥生時代後期中葉と考えられる。



第37図 4区14土坑及び出土土器

### 3 遺構の変遷 (第38図)

第2遺構面の遺構の変遷をまとめると、以下のようになる。

#### 1) 第1段階 (弥生時代中期後葉から後期前葉)

4区北西隅で、15溝が南西から北東方向に流れる。

#### 2) 第2段階 (弥生時代後期中葉)

4区北側で、13溝が西から東方向へ流れる。4区南側では、11土坑と14土坑が掘られる。12土坑の時期は特定できないが、他の土坑とともに第2段階に掘られた可能性がある。

#### 3) 第3段階 (弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭)

第2段階から存在する13溝が、徐々に埋没しながら継続して機能する。

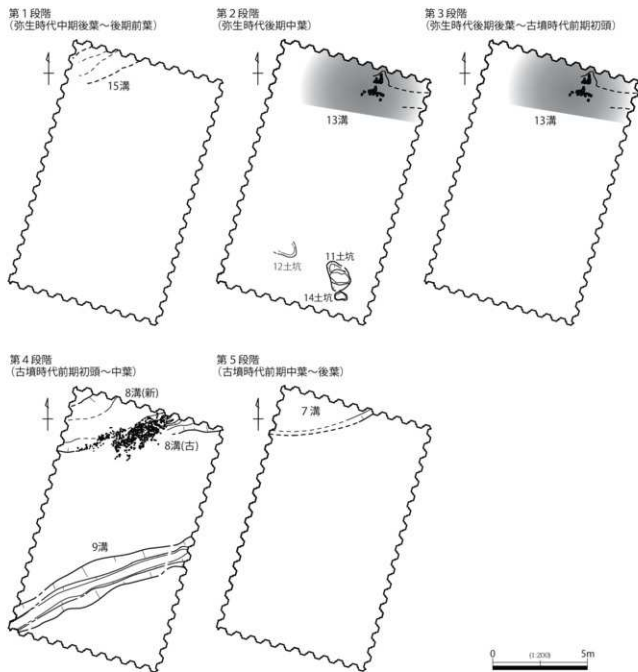
#### 4) 第4段階 (古墳時代前期初頭から古墳時代前期中葉)

13溝が完全に埋没する。4区北西隅では、8溝が南西から北東方向へ流れるようになる。8溝は途中で護岸の改修が行われ、流向が北よりに変更される。調査区南側では、南西から北東方向に流れる9溝が掘られる。

#### 5) 第5段階 (古墳時代前期中葉から後葉)

8溝が完全に埋没し、流向をほぼ踏襲して7溝が機能するようになる。9溝は完全に埋没する。

第3章 4区の調査成果



第38図 4区第2遺構面遺構変遷図

## 第4節 遺構外出土遺物

### 第1項 I層出土遺物

当層からは、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、勝間田焼、瀬戸・美濃系天目茶碗、平埴、石川瓦などが出土した。ここでは特徴的な遺物を抽出し、報告する。

#### 1 土器（第39図、写真図版17）

Po76は、瀬戸・美濃系天目茶碗の底部片である。内外面とも鉄釉で施釉され、外面には鉄釉の垂れ下がりが認められる。貼付高台の内面及び外側底面は露胎しており、外側底面には回転糸切りの痕跡が認められる。

Po77は、瀬戸・美濃系平埴の口縁部片である。ロクロ成形で、全面に施釉される。

Po78は、勝間田焼の甕である。頸部から肩部の破片で、外面の頸部上半はヨコナデ、下半は粗い縦方向のハケメ後ヨコナデ、肩部は格子目タタキが施される。内面は、頸部上半がヨコナデ、頸部下半から肩部が斜め方向のナデ、頸部の一部に指オサエが認められる。

### 第2項 II層出土遺物

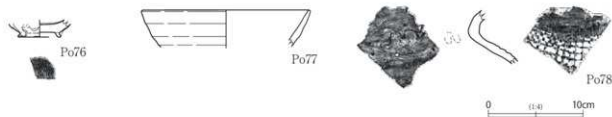
当層からは、弥生土器、土師器、石器などが出土した。ここでは、当層の時期決定に必要な土器と片刃石斧を報告する。

#### 1 土器（第40図、写真図版17）

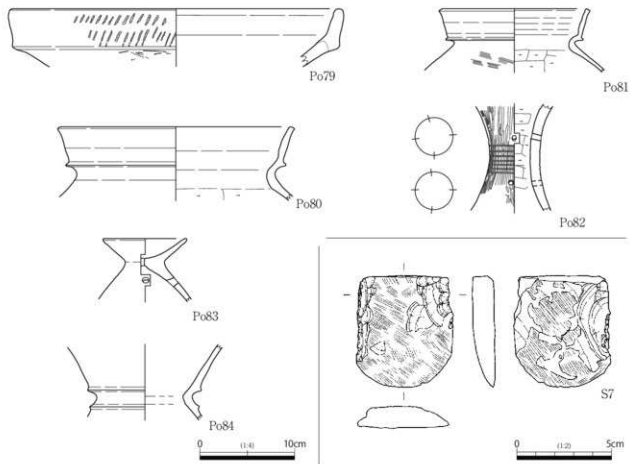
Po79は、弥生土器の壺と考えられる。口縁部から頸部の破片で、口縁部は複合口縁を呈する。口縁部外面は、強くヨコナデされた後、14歯の櫛状工具による連続刺突文が2段に渡って巡らされる。外面頸部は風化により調整が不明瞭であるが、横方向のヘラケズリの痕跡が認められる。内面は風化により、調整不明である。弥生時代終末期の特徴を示す。

Po80・Po81は、土師器の甕である。Po80は口縁部から頸部の破片で、口縁部は複合口縁を呈する。口縁端部には明瞭な平坦面を持ち、口縁部下端の突出も明瞭である。Po81は口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁を呈する。口縁端部には明瞭な平坦面を持ち、面中央がやや凹む。口縁部下端の突出も明瞭である。いずれも、古墳時代前期前葉の特徴を示す。

Po82は、器台の脚柱部と考えられる。脚柱部の中央には7条の沈線が巡らされ、4方向の円孔が



第39図 4区I層出土土器



第40図 4区Ⅱ層出土土器・石器

沈線上下の2段に分けて穿孔される。外面は縦方向の丁寧なミガキが施され、全面に赤色塗彩される。内面の調整はヘラケズリである。

Po83は、土師器の小型器台である。口縁部から脚部の破片で、受部底面には縦方向の孔が穿孔される。脚部には円孔が認められるが、残存部位から4方向に穿孔されたと考えられる。風化のため、調整は全体的に不明瞭である。古墳時代前期前葉から中葉の特徴を示す。

Po84は、土師器の鼓形器台である。受部下半から脚部上半の破片で、全体的に風化が進んでいる。筒部の縮減は進行しておらず、古墳時代前期初頭頃の特徴を示すと考えられる。

## 2 石器 (第40図、写真図版18)

S7は、輝緑凝灰岩製の片刃石斧である。左右両側縁に、調整剥離が施される。正面は全体的に研削されているが、裏面は平坦な剥離面の一部が研削されている。裏面の剥離面は、石材の節理面に沿っており、両刃石斧などの破片を再利用して片刃石斧とした可能性がある。

## 第5節 遺構計測表

第2表 4区溝計測表

個別 遺構名	地区名 T23-7d-	遺構面	規模 (m)			備考 (※新>古)
			検出長	検出幅	残存深	
4溝	1C-2j	1	6.9	3.26	0.4	4溝>7溝
5溝	1C-3j	1	5.17	1.07	0.04	
6溝	1C-3j	1	4.09	0.93	0.1	
7溝	1C-2j	2	5.6	2.6	0.2	7溝>8溝
8溝	1C-2j	2	古:6.0 新:6.05	古:1.03 新:2.5	古:0.4 新:0.55	8溝>15溝、8溝>13溝、7溝>8溝 杭列群伴う。
9溝	1C-3j	2	10.36	1.97	0.56	9溝>12土坑
10溝	1C-3j	1	2.9	0.88	0.09	
13溝	1C-2j	2			0.4	8溝>13溝
15溝	1C-2j	2	3.25	1.78	0.35	8溝>15溝

第3表 4区土坑・ピット計測表

個別 遺構名	地区名 T23-7d-	遺構面	規模 (cm)			備考 (※新>古)
			検出長	検出幅	残存深	
11土坑	1C-3j	2	161	105	55	
12土坑	1C-3j	2	98	47	53	9溝>12土坑
14土坑	1C-3j	2	65	43	21	

第4表 4区8溝検出杭一覧表

取上番号	地区 T23-7d-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
501	1C-2j	D	半丸丸太	先端杭状	56015.39	-13293.29	7.63	7.29	
502	1C-2j	D	板状	先端杭状	56016.99	-13294.72	7.45	7.28	
503	1C-2j	D	みかん割材	先端杭状	56016.87	-13158.83	7.43	7.13	
504	1C-2j	D	割材	先端杭状	56016.77	-13197.98	7.45	7.04	
505	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56015.95	-13293.20	7.42	6.88	樹種同定試料
506	1C-2j	D	丸太	先端杭状、表面	56015.56	-13292.93	7.29	6.96	樹種同定試料
507	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56016.80	-13294.65	7.44	7.05	樹種同定試料
508	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56016.57	-13294.76	7.38	6.89	樹種同定試料
509	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56016.14	-13293.07	7.37	7.09	樹種同定試料
510	1C-2j	A	棒状	先端杭状	56015.27	-13295.51	7.58	7.11	
511	1C-2j	D	板状	先端杭状	56016.47	-13294.58	7.55	6.63	
512	1C-2j	D	割材	先端杭状	56016.34	-13294.38	7.43	6.89	樹種同定試料
513	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56016.42	-13294.36	7.30	7.01	樹種同定試料
514	1C-2j	D	板状	先端杭状	56016.38	-13218.40	7.53	6.64	転用材
515	1C-2j	D	角材	先端杭状	56015.53	-13293.12	7.48	6.69	樹種同定試料
516	1C-2j	D	角材	先端杭状	56015.40	-13293.06	7.37	6.90	
517	1C-2j	D	半割材	先端杭状、表面	56015.47	-13293.21	7.45	6.94	
518	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56016.19	-13293.86	7.42	6.97	年代同定試料、 樹種同定試料
519	1C-2j	D	丸太	先端杭状	56015.62	-13293.28	7.36	6.96	
520	1C-2j	D	割材	先端杭状	56015.92	-13293.46	7.51	6.88	
521	1C-2j	D	割材か	先端杭状	56015.83	-13293.39	7.36	7.00	樹種同定試料
522	1C-2j	A	板状	先端杭状	56015.31	-13295.04	7.60	7.21	本構小か、転用、 樹種同定試料
523	1C-2j	A	割材	先端杭状	56015.38	-13294.96	7.52	7.06	
524	1C-2j	A	不明	先端杭状	56016.33	-13297.44	7.58	7.33	
525	1C-2j	A	割材	先端杭状	56016.28	-13297.32	7.67	7.15	

第3章 4区の調査成果

取上番号	地区 T23-70-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
526	IC-2	A	板状	先端杭状	-56016.49	-13297.24	7.61	7.05	
527	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.11	-13294.23	7.34	6.96	榎樹同定試料
528	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.20	-13294.27	7.44	7.07	榎樹同定試料
529	IC-2	A	丸木	先端杭状	-56016.39	-13297.10	7.60	7.21	榎樹同定試料
530	IC-2	B	新材		-56015.11	-13294.15	7.35	7.06	
531	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.29	-13294.32	7.41	6.94	榎樹同定試料
532	IC-2	A	新材		-56016.29	-13297.00	7.48	7.20	
533	IC-2	A	板状	板:面取り有	-56015.59	-13295.80	7.55	6.98	転用材か、 榎樹同定試料
534	IC-2	B	半新材	先端杭状	-56015.32	-13294.43	7.66	7.02	転用材
535	IC-2	A	角材	先端杭状	-56016.19	-13296.90	7.49	6.98	
536	IC-2	A	新材	先端杭状	-56015.85	-13296.00	7.61	7.07	榎樹同定試料
537	IC-2	A	角材、新材	先端杭状	-56016.39	-13296.86	7.60	6.96	
538	IC-2	A	新材	先端杭状	-56015.72	-13295.96	7.40	7.14	
539	IC-2	A	新材	先端杭状	-56016.14	-13296.80	7.50	7.07	
540	IC-2	A	新材	先端杭状、面取り	-56015.66	-13295.70	7.54	7.00	
541	IC-2	A	角材	先端杭状	-56016.13	-13296.32	7.62	6.88	転用材か、 榎樹同定試料
542	IC-2	A	丸木	先端杭状	-56016.16	-13296.49	7.57	7.19	年代同定試料、 榎樹同定試料
543	IC-2	A	丸木	先端杭状	-56015.48	-13295.60	7.31	7.12	榎樹同定試料
544	IC-2	A	板状	先端杭状	-56015.52	-13295.61	7.46	7.06	
545	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.04	-13294.07	7.41	6.81	榎樹同定試料
546	IC-2	A	新材		-56015.59	-13295.25	7.50	7.24	
547	IC-2	A	新材か	先端杭状	-56015.93	-13296.29	7.47	7.11	転用材か
548	IC-2	A	丸木	先端杭状	-56015.49	-13295.23	7.27	7.09	榎樹同定試料
549	IC-2	A	新材	先端杭状	-56016.21	-13296.37	7.57	7.19	
550	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56014.99	-13294.09	7.27	6.94	榎樹同定試料
551	IC-2	A	角材	先端杭状	-56016.29	-13296.87	7.69	7.08	転用材か、 榎樹同定試料
552	IC-2	A	板状、新材		-56016.21	-13296.39	7.51	7.14	
553	IC-2	D	みかん、新材		-56015.41	-13293.15	7.46	7.11	榎樹同定試料
554	IC-2	D	丸木	先端杭状	-56016.10	-13293.96	7.52	7.05	榎樹同定試料
555	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.78	-13293.36	7.38	7.00	
556	IC-2	D	板状	先端杭状	-56015.72	-13293.29	7.30	6.92	
557	IC-2	D	丸木	先端杭状	-56015.71	-13293.39	7.39	7.06	
558	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56016.02	-13293.77	7.40	6.87	榎樹同定試料
559	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56016.08	-13293.85	7.53	6.92	
560	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.89	-13293.58	7.23	6.84	榎樹同定試料
561	IC-2	D	板状	先端杭状	-56016.38	-13294.03	7.22	6.99	
562	IC-2	D	丸木	先端杭状	-56015.59	-13293.32	7.38	6.86	榎樹同定試料
563	IC-2	D	角材	先端杭状	-56016.23	-13294.05	7.30	6.90	
564	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.89	-13293.67	7.54	6.83	
565	IC-2	D	半新材	先端杭状	-56015.48	-13293.30	7.35	6.90	榎樹同定試料
566	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.69	-13293.36	7.38	7.00	
567	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56016.04	-13293.93	7.41	7.07	
568	IC-2	D	角材	先端杭状	-56016.13	-13294.04	7.44	6.92	
569	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.98	-13293.41	7.39	7.06	
570	IC-2	D	丸木	先端杭状	-56015.71	-13293.48	7.38	7.00	榎樹同定試料
571	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.95	-13293.74	7.47	6.79	
572	IC-2	D	角材	先端杭状	-56016.22	-13294.33	7.34	6.85	
573	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.60	-13293.47	7.44	7.01	榎樹同定試料
574	IC-2	D	板状	先端杭状	-56015.68	-13293.47	7.39	6.97	
575	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.57	-13293.67	7.42	7.02	榎樹同定試料
576	IC-2	D	角材	先端杭状	-56015.33	-13293.16	7.46	7.12	
577	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.39	-13293.21	7.40	6.80	
578	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.95	-13293.83	7.43	6.83	榎樹同定試料
579	IC-2	D	板状	先端杭状	-56015.71	-13293.52	7.40	6.97	
580	IC-2	A	枝状、丸木	先端杭状	-56015.52	-13295.43	7.34	7.03	榎樹同定試料
581	IC-2	D	丸木	先端杭状	-56015.77	-13293.51	7.40	7.06	榎樹同定試料
582	IC-2	D	みかん、新材	先端杭状	-56015.56	-13293.50	7.36	7.06	榎樹同定試料
583	IC-2	A	板状		-56015.82	-13296.17	7.45	7.10	
584	IC-2	A	板状		-56015.86	-13296.17	7.52	7.37	
585	IC-2	A	みかん、新材		-56015.81	-13296.11	7.58	7.21	
586	IC-2	A	角材	先端杭状	-56015.71	-13295.67	7.50	6.92	榎樹同定試料
587	IC-2	A	丸木		-56015.57	-13295.55	7.37	6.93	
588	IC-2	B	板状	先端杭状	-56015.22	-13294.24	7.51	6.90	
589	IC-2	B	板状	先端杭状	-56015.24	-13294.16	7.55	7.16	
590	IC-2	B	板状	先端杭状	-56015.27	-13294.12	7.50	7.08	穿孔あり、 榎樹同定試料
591	IC-2	B	みかん、新材	先端杭状	-56015.16	-13294.06	7.42	6.85	榎樹同定試料
592	IC-2	B	みかん、新材	先端杭状	-56015.10	-13294.00	7.41	6.96	榎樹同定試料



取上番号	地区 T23-76-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
593	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56015.33	-13294.35	7.40	6.93	榎樹固定試料
594	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56015.44	-13294.45	7.66	7.08	
595	IC-2	A	半圓材	先端枕状	56016.19	-13296.75	7.41	6.95	
596	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56015.48	-13294.51	7.70	7.00	
597	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56016.36	-13296.95	7.67	7.11	
598	IC-2	B	割材	先端枕状	56015.70	-13295.76	7.55	7.10	
599	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56015.56	-13294.63	7.58	6.98	榎樹固定試料
600	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56016.33	-13296.82	7.68	7.00	
601	IC-2	A	角材	先端枕状	56015.84	-13295.77	7.58	6.98	
602	IC-2	A	半圓材		56015.82	-13296.14	7.41	7.08	
603	IC-2	A	板状	先端枕状	56015.90	-13296.16	7.49	7.23	
604	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56015.83	-13295.92	7.59	6.96	榎樹固定試料
605	IC-2	A	角材	先端枕状	56016.37	-13297.04	7.49	7.03	
606	IC-2	B	角材	先端枕状	56015.36	-8888.88	7.48	6.98	榎樹固定試料
607	IC-2	B	丸木状	先端枕状	56016.09	-13294.44	7.60	7.08	軸用材、榎樹固定試料
608	IC-2	D	割材	先端枕状	56016.10	-13294.27	7.44	6.92	榎樹固定試料
609	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56016.17	-13294.57	7.49	6.74	榎樹固定試料
610	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56016.08	-13294.33	7.47	7.03	榎樹固定試料
611	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56016.27	-13294.68	7.31	6.81	榎樹固定試料
612	IC-2	D	みかん割材	先端枕状	56015.63	-13293.52	7.43	6.99	榎樹固定試料
613	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.82	-13293.61	7.41	6.90	榎樹固定試料
614	IC-2	D	みかん割材	先端枕状	56015.80	-13293.70	7.55	7.00	
615	IC-2	D	丸木	先端枕状	56015.41	-13293.31	7.44	6.73	榎樹固定試料
616	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.38	-13293.25	7.36	6.92	
617	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.40	-13293.35	7.40	7.21	
618	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.68	-13293.58	7.40	6.89	
619	IC-2	D	丸木	先端枕状	56015.94	-13294.03	7.39	6.97	榎樹固定試料
620	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.91	-13293.91	7.41	7.19	
621	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.87	-13293.80	7.44	7.06	榎樹固定試料
622	IC-2	D	丸木	両端枕状	56015.78	-13293.80	7.52	6.98	榎樹固定試料
623	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.63	-13293.62	7.43	6.92	
624	IC-2	D	板状	先端枕状	56015.76	-13293.74	7.47	7.19	
625	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.47	-13293.42	7.47	6.86	榎樹固定試料
626	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.38	-13293.38	7.45	6.79	榎樹固定試料
627	IC-2	D	板状	先端枕状	56015.89	-13294.01	7.42	7.11	榎樹固定試料
628	IC-2	C	丸木	先端枕状	56015.87	-13293.97	7.43	6.96	榎樹固定試料
629	IC-2	C	丸木、みかん割材	両端枕状	56015.82	-13294.08	7.52	7.08	年代測定試料、榎樹固定試料
630	IC-2	D	柱	先端枕状	56015.81	-13293.83	7.44	7.13	榎樹固定試料
631	IC-2	B	割材	先端枕状	56015.86	-13294.24	7.36	6.83	
632	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.32	-13293.36	7.44	6.69	榎樹固定試料
633	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.33	-13293.32	7.34	7.15	
634	IC-2	D	みかん割材	先端枕状	56015.30	-13293.21	7.42	6.81	
635	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.26	-13293.38	7.43	6.86	
636	IC-2	D	板状割材	先端枕状	56015.45	-13293.46	7.43	7.17	
637	IC-2	D	板状割材	先端枕状	56015.42	-13293.49	7.47	7.07	
638	IC-2	D	割材小		56015.28	-13293.48	7.19	7.12	軸用材、駒穴部
639	IC-2	D	半圓材	先端枕状	56015.51	-13293.51	7.32	7.00	
640	IC-2	D	板状割材	先端枕状	56015.54	-13293.54	7.43	7.00	
641	IC-2	D	みかん割材	両端枕状	56015.59	-13293.56	7.41	6.99	
642	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.53	-13293.58	7.54	7.21	軸用材
643	IC-2	D	板状割材	先端枕状	56015.49	-13293.61	7.45	6.75	軸用材、榎樹固定試料
644	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.43	-13293.55	7.47	6.99	
645	IC-2	B	棒状	先端枕状	56015.07	-13293.97	7.38	6.99	榎樹固定試料
646	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56015.30	-13294.16	7.46	6.89	
647	IC-2	B	半圓材	先端枕状	56015.41	-13294.36	7.45	7.07	榎樹固定試料
648	IC-2	B	板状割材	先端枕状	56015.45	-8888.88	7.56	7.05	
649	IC-2	B	板状割材	先端枕状	56015.53	-13294.42	7.38	7.11	
650	IC-2	A	割材	先端枕状	56015.80	-13295.69	7.55	6.90	
651	IC-2	A	みかん割材	先端枕状、表面	56015.90	-13296.01	7.50	7.04	榎樹固定試料
652	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56015.69	-13295.62	7.45	6.88	
653	IC-2	A	丸木	先端枕状	56015.45	-13295.48	7.46	6.98	
654	IC-2	A	不明	先端枕状	56015.49	-13295.40	7.29	7.13	先端部分
655	IC-2	D	割材	先端枕状	56015.36	-13293.54	7.51	6.97	
656	IC-2	D	板状割材	先端枕状	56015.66	-13293.68	7.47	7.19	
657	IC-2	C	割材		56015.74	-13293.84	7.44	7.31	
658	IC-2	C	みかん割材	先端枕状	56015.80	-13293.87	7.43	7.22	
659	IC-2	C	丸木	先端枕状	56015.83	-13294.04	7.39	7.08	榎樹固定試料
660	IC-2	C	丸木小	先端枕状	56015.82	-13293.93	7.46	7.14	榎樹固定試料
661	IC-2	C	割材	先端枕状	56015.61	-13293.69	7.48	7.12	
662	IC-2	C	割材	先端枕状	56015.59	-13293.72	7.56	7.26	

## 第3章 4区の調査成果

取上番号	地区 T23-70-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
663	IC-2	C	半圓材	先端杭状	5601564	-13293.75	7.42	6.84	掘削同定試料
664	IC-2	C	みかん割材		5601578	-13293.95	7.46	7.27	掘削同定試料
665	IC-2	C	割材	先端杭状	5601578	-13294.03	7.43	7.17	掘削同定試料
666	IC-2	C	半圓材	先端杭状	5601578	-13294.09	7.41	7.15	掘削同定試料
667	IC-2	C	割材		5601579	-13294.14	7.42	7.18	掘削同定試料
668	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601577	-13294.26	7.40	7.08	
669	IC-2	A	みかん割材	両端杭状	5601646	-13297.11	7.65	7.10	転用材
670	IC-2	A	角柱状、割材	先端杭状	5601646	-13297.05	7.60	7.18	
671	IC-2	A	みかん割材	両端杭状	5601644	-13296.99	7.69	7.17	
672	IC-2	A	割材	先端杭状	5601641	-13296.86	7.69	7.20	
673	IC-2	A	割材	先端杭状	5601628	-13296.68	7.59	7.10	転用材、掘削同定試料
674	IC-2	A	板状割材	先端杭状	5601631	-13296.67	7.58	7.23	
675	IC-2	A	割材	先端杭状	5601639	-13296.72	7.63	7.10	
676	IC-2	A	半圓材	先端杭状	5601581	-13296.67	7.42	7.12	
677	IC-2	A	板状割材	先端杭状	5601581	-13296.67	7.55	6.99	掘削同定試料
678	IC-2	A	割材	先端杭状	5601586	-13296.69	7.54	7.07	
679	IC-2	B	割材	先端杭状	5601615	-13295.55	7.51	7.14	
680	IC-2	B	不明	先端杭状	5601642	-13295.50	7.28	7.08	
681	IC-2	B	割材	先端杭状	5601634	-13295.78	7.41	7.05	
682	IC-2	B	割材	先端杭状	5601630	-13295.76	7.31	7.09	
683	IC-2	A	角柱状	両端杭状	5601650	-13296.50	7.56	7.29	転用材か、掘削同定試料
684	IC-2	A	割材	先端杭状	5601562	-13295.66	7.34	6.98	転用材
685	IC-2	A	角柱状	先端杭状	5601561	-13295.70	7.09	6.93	掘削同定試料
686	IC-2	A	割材	先端杭状	5601582	-13295.62	7.31	7.08	
687	IC-2	A	板状割材		5601586	-13295.67	7.28	7.12	
688	IC-2	B	不明		5601655	-13295.33	7.34	7.22	
689	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601679	-13295.50	7.23	7.10	
690	IC-2	B	半圓材	両端杭状	5601512	-13293.88	7.66	6.88	転用材、掘削同定試料
691	IC-2	B	半圓材	両端杭状	5601520	-13293.93	7.66	6.84	柱材転用
692	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601539	-13294.11	7.60	6.85	柱材転用
693	IC-2	B	角柱状	両端杭状	5601536	-13294.21	7.61	7.09	転用材
694	IC-2	B	割材	先端杭状	5601541	-13294.20	7.53	7.14	柱材転用
695	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601569	-13294.54	7.67	6.92	
696	IC-2	B	割材	先端杭状	5601564	-13294.69	7.45	7.22	
697	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601498	-13294.58	7.42	6.88	掘削同定試料
698	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601548	-13294.33	7.48	7.09	掘削同定試料
699	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601534	-13293.93	7.67	6.83	柱材転用、抜き穴有
700	IC-2	B	板状割材	先端杭状	5601525	-13293.93	7.47	7.00	転用材か、掘削同定試料
701	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601548	-13294.41	7.41	7.13	掘削同定試料
702	IC-2	B	角柱状割材	先端杭状	5601557	-13294.38	7.56	7.16	掘削同定試料
703	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601565	-13294.62	7.51	6.96	掘削同定試料
704	IC-2	B	板状割材	先端杭状	5601517	-13294.00	7.38	7.10	
705	IC-2	C	丸木	両端杭状	5601571	-13293.92	7.54	6.86	掘削同定試料
706	IC-2	C	みかん割材	先端杭状	5601569	-13293.80	7.41	7.00	転用材、掘削同定試料
707	IC-2	C	丸木か		5601568	-13293.90	7.44	7.31	抜き、掘削同定試料
708	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601572	-13293.97	7.43	7.02	掘削同定試料
709	IC-2	C	割材	先端杭状	5601563	-13293.92	7.47	7.14	掘削同定試料
710	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601576	-13294.12	7.38	7.08	掘削同定試料
711	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601574	-13294.09	7.39	6.94	掘削同定試料
712	IC-2	C	半圓材	先端杭状	5601572	-13294.08	7.41	7.03	掘削同定試料
713	IC-2	C	角柱状割材	先端杭状	5601533	-13293.45	7.34	7.13	
714	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601531	-13293.52	7.39	7.07	掘削同定試料
715	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601528	-13293.49	7.36	7.06	掘削同定試料
716	IC-2	D	半圓材	先端杭状	5601527	-13293.29	7.44	7.06	掘削同定試料
717	IC-2	D	割材	先端杭状	5601524	-13293.28	7.40	7.07	
718	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	5601523	-13293.35	7.34	6.79	柱材転用小、掘削同定試料
719	IC-2	D	丸木	先端杭状	5601520	-13293.26	7.37	6.89	掘削同定試料
720	IC-2	D	みかん割材		5601526	-13293.32	7.45	7.06	掘削同定試料
721	IC-2	D	割材	先端杭状	5601647	-13294.85	7.37	6.99	掘削同定試料
722	IC-2	D	丸木	先端杭状	5601648	-13294.74	7.36	7.09	掘削同定試料
723	IC-2	C	みかん割材	先端杭状	5601522	-13293.43	7.43	6.95	柱材転用小、掘削同定試料
724	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601636	-13294.78	7.30	6.75	柱材転用小、掘削同定試料
725	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601600	-13294.53	7.54	6.95	転用
726	IC-2	B	半圓材	先端杭状、表面	5601619	-13294.67	7.38	6.86	
727	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601602	-13294.44	7.48	6.80	掘削同定試料
728	IC-2	B	丸木	両端杭状	5601641	-13295.35	7.47	6.96	掘削同定試料
729	IC-2	B	割材	先端杭状	5601636	-13295.45	7.41	7.11	

取上番号	地区 T23-70-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
730	IC-2	B	板状	先端杭状、表面	-56016.23	-13295.46	7.49	7.11	
731	IC-2	B	板状	先端杭状	-56016.22	-13295.46	7.52	7.10	
732	IC-2	B	板状副材	先端杭状	-56016.20	-13295.44	7.53	7.10	
733	IC-2	B	板状副材	先端杭状	-56016.14	-13295.47	7.53	6.99	
734	IC-2	B	板状	先端杭状、表面	-56016.02	-13295.54	7.56	7.10	
735	IC-2	B	板状	先端杭状、表面	-56016.10	-13295.43	7.49	6.94	樹種同定資料
736	IC-2	B	板状	先端杭状、表面	-56015.98	-13295.50	7.36	6.94	
737	IC-2	A	板状	表面	-56015.79	-13295.52	7.49	7.04	樹種同定資料
738	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56016.00	-13219.34	7.36	7.11	樹種同定資料
739	IC-2	B	板状副材	先端杭状	-56016.01	-13295.44	7.48	7.18	
740	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.95	-13295.11	7.53	7.07	
741	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.96	-13296.09	7.51	7.24	
742	IC-2	A	副材	先端杭状、表面	-56015.95	-13296.03	7.41	6.89	樹種同定資料
743	IC-2	A	半副材	先端杭状	-56016.12	-13295.98	7.34	6.78	
744	IC-2	A	板状副材	表面	-56016.22	-13296.12	7.53	6.92	
745	IC-2	A	板状副材	表面	-56016.01	-13296.05	7.52	7.25	
746	IC-2	A	副材	先端杭状	-56016.10	-13296.14	7.42	7.00	
747	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56016.91	-13295.35	7.36	7.16	樹種同定資料
748	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56016.81	-13295.25	7.36	7.06	
749	IC-2	B	みかん副材	先端杭状	-56016.80	-13295.14	7.34	7.12	
750	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56016.71	-13295.16	7.34	7.12	
751	IC-2	C	副材	先端杭状	-56015.31	-13293.59	7.48	6.97	
752	IC-2	C	みかん副材	先端杭状	-56015.26	-13293.55	7.49	7.00	
753	IC-2	D	板状副材	先端杭状	-56015.21	-13293.51	7.49	7.16	
754	IC-2	D	半副材	先端杭状	-56015.18	-13293.49	7.40	7.14	
755	IC-2	D	副材	先端杭状	-56015.29	-13293.63	7.44	7.00	
756	IC-2	D	板状副材	先端杭状	-56015.31	-13293.62	7.45	7.06	
757	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.06	-13293.86	7.44	6.93	樹種同定資料
758	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.17	-13293.89	7.37	6.93	
759	IC-2	B	板状副材	先端杭状	-56015.51	-13294.32	7.60	7.12	耐用材
760	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.56	-13294.34	7.51	7.02	樹種同定資料
761	IC-2	B	角柱副材	先端杭状	-56015.63	-13294.44	7.56	7.07	
762	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.40	-13294.96	7.53	7.06	耐用材少
763	IC-2	A	丸木	先端杭状	-56015.43	-13294.95	7.47	6.89	樹種同定資料
764	IC-2	A	半副材	先端杭状	-56015.37	-13294.91	7.51	7.04	耐用材少
765	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.37	-13294.83	7.65	6.94	耐用材少
766	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.76	-13295.37	7.51	7.07	
767	IC-2	A	みかん副材	先端杭状	-56015.83	-13295.45	7.41	6.97	耐用材少
768	IC-2	A	丸木	先端杭状	-13295.40	-56015.83	7.49	7.02	樹種同定資料
769	IC-2	A	板状副材	先端杭状	-56015.52	-13294.92	7.51	7.01	
770	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.51	-13294.28	7.52	6.92	樹種同定資料
771	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.61	-13294.26	7.50	7.15	樹種同定資料
772	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.49	-13294.14	7.43	6.95	樹種同定資料
773	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.39	-13293.84	7.49	6.98	樹種同定資料
774	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.43	-13293.95	7.49	6.89	樹種同定資料
775	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.27	-13293.89	7.35	6.89	樹種同定資料
776	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.23	-13293.85	7.36	6.86	樹種同定資料
777	IC-2	C	半副材	先端杭状	-56015.19	-13293.60	7.43	6.90	柱材転用、 樹種同定資料
778	IC-2	C	角柱副材	先端杭状	-56015.25	-13293.67	7.45	7.02	
779	IC-2	C	板状副材	先端杭状	-56015.31	-13293.70	7.44	7.04	
780	IC-2	C	丸木	両端杭状	-56015.43	-13293.75	7.42	7.00	年代測定資料、 樹種同定資料
781	IC-2	C	丸木	先端杭状	-56015.52	-13293.77	7.35	6.91	樹種同定資料
782	IC-2	C	丸木	先端杭状	-56015.59	-13293.80	7.40	6.99	樹種同定資料
783	IC-2	C	みかん副材	先端杭状	-56015.61	-13293.86	7.45	7.21	樹種同定資料
784	IC-2	C	半副材	先端杭状	-56015.67	-13294.01	7.45	7.02	
785	IC-2	C	丸木	先端杭状	-56015.70	-13294.05	7.43	7.24	樹種同定資料
786	IC-2	C	丸木	先端杭状	-56015.70	-13294.12	7.40	7.00	樹種同定資料
787	IC-2	C	丸木	先端杭状	-56015.72	-13294.16	7.43	7.07	樹種同定資料
788	IC-2	B	板状副材	先端杭状	-56015.95	-13295.27	7.56	6.85	物少、樹種同定資料
789	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56016.55	-13295.26	7.55	6.91	耐用材少、 樹種同定資料
790	IC-2	B	半副材	先端杭状、表面	-56016.35	-13295.27	7.63	6.97	柱材転用小
791	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56016.29	-13295.36	7.48	7.03	樹種同定資料
792	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.08	-13293.79	7.65	6.81	柱材転用小
793	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.17	-13293.78	7.38	6.99	樹種同定資料
794	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.23	-13293.77	7.39	6.96	樹種同定資料
795	IC-2	B	半副材	先端杭状	-56015.61	-13294.29	7.51	7.05	樹種同定資料
796	IC-2	B	みかん副材	先端杭状	-56015.19	-13293.73	7.45	6.89	
797	IC-2	B	丸木	先端杭状	-56015.44	-13293.91	7.51	6.77	樹種同定資料

## 第3章 4区の調査成果

取上番号	地区 T23-70-	分類	形状	加工状況	X座標(m)	Y座標(m)	上端標高(m)	下端標高(m)	備考
798	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601554	-13294.01	7.46	6.84	櫛椽固定史料
799	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601555	-13294.21	7.52	6.75	櫛椽固定史料
800	IC-2	B	厨材	先端杭状	5601561	-13294.42	7.59	7.12	
801	IC-2	B	みかん割材	先端杭状	5601551	-13294.12	7.44	6.99	
802	IC-2	B	板状厨材	先端杭状	5601593	-13295.37	7.42	7.06	
803	IC-2	B	板状厨材	先端杭状	5601591	-13295.34	7.46	7.03	転用材か、納有、櫛椽固定史料
804	IC-2	A	板状厨材	先端杭状	5601567	-13295.40	7.58	7.34	櫛椽固定史料
805	IC-2	A	板状厨材	先端杭状	5601565	-13295.47	7.48	6.90	
806	IC-2	A	板状厨材	先端杭状	5601560	-13295.46	7.53	7.24	
807	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601572	-13295.31	7.57	7.10	櫛椽固定史料
808	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601656	-13295.21	7.39	7.12	櫛椽固定史料
809	IC-2	A	半圓材	先端杭状	5601556	-13295.18	7.49	7.01	櫛椽固定史料
810	IC-2	A	板状厨材	先端杭状	5601608	-13296.22	7.44	6.73	
811	IC-2	A	板状厨材	先端杭状	5601623	-13296.43	7.50	7.22	
812	IC-2	A	厨材	先端杭状	5601619	-13296.52	7.43	7.18	
813	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601618	-13296.32	7.42	7.08	櫛椽固定史料
814	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601622	-13296.11	7.56	6.95	櫛椽固定史料
815	IC-2	A	角柱状厨材	先端杭状	5601626	-13296.55	7.46	7.15	
816	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601635	-13296.65	7.55	7.20	転用材、有頭棒状、櫛椽固定史料
817	IC-2	A	厨材	先端杭状	5601645	-13296.61	7.48	7.22	
818	IC-2	A	角柱状厨材	先端杭状	5601637	-13296.50	7.45	7.12	
819	IC-2	A	棒状	表面	5601635	-13296.26	7.50	6.77	櫛椽固定史料
820	IC-2	A	半圓材	先端杭状	5601637	-13296.59	7.55	7.20	転用材、櫛椽固定史料
821	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601516	-13293.86	7.38	7.02	
822	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601508	-13293.83	7.36	7.02	櫛椽固定史料
823	IC-2	C	半圓材	先端杭状	5601550	-13293.85	7.39	7.13	櫛椽固定史料
824	IC-2	C	丸木	両端杭状	5601554	-13293.91	7.46	6.83	櫛椽固定史料
825	IC-2	C	半圓材	先端杭状	5601557	-13293.95	7.44	7.12	櫛椽固定史料
826	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601556	-13294.01	7.44	7.05	櫛椽固定史料
827	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601566	-13293.97	7.41	7.05	櫛椽固定史料
828	IC-2	C	丸木	先端杭状	5601565	-13294.10	7.48	7.05	櫛椽固定史料
829	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601562	-13294.13	7.43	6.96	櫛椽固定史料
830	IC-2	B	丸木	両端杭状	5601560	-13294.14	7.50	7.00	櫛椽固定史料
831	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601558	-13294.14	7.48	7.10	櫛椽固定史料
832	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601562	-13294.20	7.61	7.05	転用材か
833	IC-2	B	棒状	先端杭状	5601569	-13294.24	7.49	7.21	転用材、櫛椽固定史料
834	IC-2	B	丸木	両端杭状	5601571	-13294.27	7.45	6.97	櫛椽固定史料
835	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601567	-13294.45	7.61	6.95	
836	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601570	-13294.45	7.46	6.80	
837	IC-2	B	板状厨材	先端杭状	5601570	-13294.41	7.43	7.21	櫛椽固定史料
838	IC-2	B	棒状	先端杭状	5601654	-13295.20	7.43	7.28	転用材か
839	IC-2	B	板状厨材	先端杭状	5601638	-13295.23	7.46	7.27	
840	IC-2	B	角柱状厨材	両端杭状	5601622	-13295.28	7.54	6.96	転用材か
841	IC-2	B	板状厨材	先端杭状	5601598	-13295.26	7.39	7.07	
842	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601613	-13295.30	7.52	6.99	櫛椽固定史料
843	IC-2	B	角柱状	先端杭状	5601606	-13295.27	7.49	7.02	櫛椽固定史料
844	IC-2	A	板状 厨材	先端杭状	5601570	-13295.31	7.57	7.27	
845	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601583	-13295.29	7.43	7.08	櫛椽固定史料
846	IC-2	A	板状 厨材	先端杭状	5601575	-13295.28	7.44	7.09	
847	IC-2	B	丸木か	先端杭状	5601585	-13295.26	7.59	6.95	櫛椽固定史料
848	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601509	-13293.65	7.38	6.88	櫛椽固定史料
849	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601507	-13293.76	7.45	7.15	櫛椽固定史料
850	IC-2	A	柱状 厨材	先端杭状	5601546	-13295.10	7.65	7.12	
851	IC-2	A	丸木	先端杭状	5601566	-13295.20	7.42	7.17	櫛椽固定史料
852	IC-2	A	板状	先端杭状	5601563	-13295.19	7.46	7.18	
853	IC-2	A	板状 半圓材	先端杭状	5601574	-13295.24	7.63	6.93	
854	IC-2	A	厨材	先端杭状	5601630	-13295.17	7.60	6.89	転用、櫛椽固定史料
855	IC-2	B	厨材	先端杭状	5601650	-13295.16	7.57	7.01	
856	IC-2	B	板状 厨材	先端杭状	5601635	-13295.07	7.53	7.12	
857	IC-2	B	厨材	先端杭状	5601659	-13294.96	7.30	7.06	櫛椽固定史料
858	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601651	-13294.92	7.29	7.02	櫛椽固定史料
859	IC-2	B	みかん割材	先端杭状	5601625	-13294.78	7.42	7.18	櫛椽固定史料
860	IC-2	B	厨材	先端杭状	5601632	-13294.75	7.35	6.91	櫛椽固定史料
861	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601625	-13294.74	7.32	6.75	櫛椽固定史料
862	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601597	-13294.35	7.43	6.75	櫛椽固定史料
863	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601592	-13294.29	7.31	6.76	櫛椽固定史料
864	IC-2	B	丸木	先端杭状	5601598	-13294.41	7.42	6.74	櫛椽固定史料
865	IC-2	B	みかん割材	先端杭状	5601601	-13294.63	7.54	6.99	転用
866	IC-2	B	半圓材	先端杭状	5601612	-13294.70	7.49	6.91	櫛椽固定史料

取上番号	地区 T23-70-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
867	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56016.19	-13294.71	7.44	6.94	樹種同定試料
868	IC-2	B	割材	先端枕状	56016.21	-13295.15	7.31	6.93	
869	IC-2	B	角柱状	先端枕状	56016.03	-13295.14	7.59	6.90	樹種同定試料
870	IC-2	A	板状		56015.76	-13295.23	7.43	7.00	樹種同定試料
871	IC-2	A	半割材	先端枕状	56015.53	-13295.00	7.50	7.23	樹種同定試料
872	IC-2	A	板状	先端枕状	56015.51	-13295.05	7.53	7.14	
873	IC-2	A	半割材	先端枕状	56015.59	-13295.08	7.44	6.98	樹種同定試料
874	IC-2	A	丸木	先端枕状	56015.65	-13295.10	7.56	7.22	年代測定試料, 樹種同定試料
875	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56015.68	-13295.21	7.33	7.12	樹種同定試料
876	IC-2	B	板状	先端枕状	56015.86	-13295.14	7.46	7.00	
877	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.12	-13295.21	7.49	7.11	樹種同定試料
878	IC-2	B	丸木	先端枕状, 側面	56016.21	-13295.31	7.57	6.92	樹種同定試料
879	IC-2	B	半割材		56016.25	-13294.88	7.35	6.93	樹種同定試料
880	IC-2	A	丸木	先端枕状	56015.51	-13294.94	7.58	6.99	
881	IC-2	A	みかん割材	先端枕状	56015.49	-13295.00	7.44	7.11	樹種同定試料
882	IC-2	A	割材	先端枕状	56015.53	-13295.02	7.48	6.89	
883	IC-2	A	割材	先端枕状	56015.72	-13295.10	7.64	6.98	樹種同定試料
884	IC-2	B	板状	先端枕状	56015.81	-13295.05	7.53	7.16	
885	IC-2	B	板状 割材	先端枕状	56015.86	-13295.02	7.62	7.16	
886	IC-2	B	半割材		56015.96	-13295.10	7.34	7.06	樹種同定試料
887	IC-2	B	割材	先端枕状	56016.10	-13295.14	7.56	6.88	転用, 加工あり, 樹種同定試料
888	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56016.22	-13294.98	7.51	7.17	
889	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56016.20	-13294.86	7.53	7.18	
890	IC-2	B	角材	先端枕状	56016.07	-13294.73	7.55	7.18	
891	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.12	-13294.83	7.37	7.18	樹種同定試料
892	IC-2	B	板状 割材	先端枕状	56016.13	-13294.79	7.38	6.93	
893	IC-2	B	角材	先端枕状	56016.25	-13295.02	7.45	7.05	
894	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.48	-13295.33	7.25	7.07	一部炭化, 樹種同定試料
895	IC-2	B	板状		56016.45	-13295.10	7.27	6.97	
896	IC-2	B	丸木		56016.59	-13295.11	7.31	7.10	樹種同定試料
897	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.60	-13295.13	7.31	7.12	樹種同定試料
898	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.91	-13294.48	7.52	6.95	樹種同定試料
899	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.88	-13294.26	7.53	6.79	樹種同定試料
900	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.95	-13294.32	7.55	6.79	樹種同定試料
901	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.78	-13294.52	7.49	7.02	樹種同定試料
902	IC-2	B	半割材	先端枕状	56015.64	-13294.71	7.31	6.87	樹種同定試料
903	IC-2	A	板状 割材	先端枕状	56015.46	-13294.92	7.45	7.04	
904	IC-2	B	割材	先端枕状	56015.65	-13294.96	7.54	7.15	
905	IC-2	B	板状割材	両端枕状	56015.69	-13294.94	7.56	7.18	
906	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56015.79	-13295.08	7.51	7.13	
907	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.04	-13295.19	7.50	6.98	樹種同定試料
908	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.10	-13295.17	7.36	6.98	樹種同定試料
909	IC-2	B	半割材	先端枕状	56016.21	-13295.06	7.36	6.97	樹種同定試料
910	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.08	-13294.95	7.39	6.95	年代測定試料, 樹種同定試料
911	IC-2	B	丸木	両端枕状	56016.02	-13294.71	7.53	6.96	樹種同定試料
912	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.06	-13294.83	7.49	6.99	樹種同定試料
913	IC-2	B	みかん割材か	先端枕状	56015.97	-13294.71	7.56	7.19	
914	IC-2	B	板状割材	先端枕状	56015.86	-13294.53	7.50	7.28	
915	IC-2	B	丸木	両端枕状	56015.87	-13294.56	7.49	6.90	樹種同定試料
916	IC-2	B	板状		56015.83	-13294.48	7.56	7.44	樹種同定試料
917	IC-2	B	割材	先端枕状, 両端枕状	56015.88	-13294.31	7.67	7.15	
918	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.79	-13294.34	7.52	6.90	樹種同定試料
919	IC-2	B	みかん割材	両端枕状	56015.92	-13294.87	7.57	7.19	
920	IC-2	B	割材	先端枕状	56015.89	-13294.72	7.49	6.77	転用材か
921	IC-2	B	丸木	先端枕状	56016.18	-13295.17	7.40	7.04	樹種同定試料
922	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56015.95	-13294.93	7.54	6.81	転用材か
923	IC-2	B	割材	先端枕状	56015.98	-13295.03	7.51	6.73	
924	IC-2	B	板状割材	先端枕状	56016.00	-13295.15	7.29	6.69	
925	IC-2	B	みかん割材	両端枕状	56015.66	-13294.78	7.55	6.73	転用材か
926	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56015.79	-13294.89	7.51	6.72	樹種同定試料
927	IC-2	B	みかん割材	先端枕状	56016.11	-13295.06	7.57	6.69	
928	IC-2	B	角柱状割材	両端枕状	56016.05	-13294.95	7.43	7.03	樹種同定試料
929	IC-2	B	板状割材, 表面	先端枕状, 表面	56016.00	-13294.86	7.58	7.15	
930	IC-2	B	丸木か	先端枕状	56015.97	-13294.82	7.52	7.11	樹種同定試料
931	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.93	-13294.79	7.55	7.03	樹種同定試料
932	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.86	-13294.67	7.48	7.07	樹種同定試料
933	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.82	-13294.60	7.47	6.85	樹種同定試料
934	IC-2	B	丸木	先端枕状	56015.81	-13294.53	7.44	7.02	樹種同定試料

## 第3章 4区の調査成果

取上番号	地区 T23-76-	分類	形状	加工状況	X座標(m)	Y座標(m)	上端標高(m)	下端標高(m)	備考
935	IC-2	B	板状副材小		56016.12	-13294.98	7.22	7.05	
936	IC-2	B	丸木	先端杭状	56016.03	-13294.78	7.36	7.04	併様同定試料
937	IC-2	B	不明	先端杭状	56015.87	-13294.80	7.33	6.97	併様同定試料
938	IC-2	B	半副材	先端杭状、表面	56015.76	-13294.62	7.65	6.89	転用材小
939	IC-2	B	副材	先端杭状	56015.79	-13294.76	7.24	6.89	
940	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.36	-13292.81	7.23	7.02	
941	IC-2	D	みかん副材	先端杭状	56015.30	-13292.99	7.32	7.07	
942	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.16	-13293.17	7.45	6.92	転用材小
943	IC-2	C	板状	先端杭状	56015.16	-13293.39	7.42	6.95	
944	IC-2	B	副材	先端杭状	56015.01	-13293.66	7.47	7.04	
945	IC-2	D	板状	先端杭状	56015.17	-13293.25	7.41	7.23	
946	IC-2	B	副材	両端杭状	56015.02	-13293.54	7.44	6.96	
947	IC-2	B	丸木	先端杭状	56015.11	-13293.68	7.43	6.99	併様同定試料
948	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.33	-13292.75	7.44	6.95	転用材小
949	IC-2	D	丸木	先端杭状	56015.29	-13292.90	7.40	7.02	
950	IC-2	B	丸木	両端杭状	56014.89	-13293.91	7.63	6.97	年代測定試料、併様同定試料
951	IC-2	B	丸木	先端杭状	56014.84	-13293.87	7.44	6.99	併様同定試料
952	IC-2	B	副材	先端杭状	56014.79	-13293.77	7.48	7.10	併様同定試料
953	IC-2	B	板状副材		56014.69	-13293.66	7.48	7.21	
954	IC-2	B	板状	先端杭状	56014.68	-13293.60	7.45	7.16	
955	IC-2	B	丸木		56014.93	-13293.84	7.43	6.94	併様同定試料
956	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.22	-13292.65	7.38	6.95	
957	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.28	-13292.83	7.34	6.97	
958	IC-2	D	副材	両端杭状	56015.23	-13292.97	7.48	7.13	併様同定試料
959	IC-2	D	板状	先端杭状	56015.14	-13293.20	7.45	7.28	
960	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.10	-13293.26	7.54	6.90	併様同定試料
961	IC-2	C	副材	先端杭状	56015.16	-13293.34	7.47	7.10	併様同定試料
962	IC-2	B	丸木	両端杭状	56015.03	-13293.60	7.41	6.94	併様同定試料
963	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.14	-13293.08	7.48	6.92	
964	IC-2	D	丸木	先端杭状	56015.12	-13293.11	7.42	7.02	併様同定試料
965	IC-2	C	みかん副材	先端杭状	56015.08	-13293.42	7.42	7.00	
966	IC-2	B	丸木	先端杭状	56015.07	-13293.50	7.42	7.05	併様同定試料
967	IC-2	B	副材	先端杭状	56014.81	-13293.68	7.29	7.06	
968	IC-2	B	不明	先端杭状	56014.69	-13293.57	7.29	7.17	
969	IC-2	C	みかん副材	先端杭状	56015.13	-13293.38	7.41	7.12	
970	IC-2	D	半副材	両端杭状、表面	56015.19	-13292.72	7.53	6.96	転用材小、併様同定試料
971	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.19	-13292.82	7.37	7.02	
972	IC-2	B	板状副材	先端杭状小	56014.53	-13293.31	7.35	7.10	
973	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.19	-13292.90	7.38	7.03	
974	IC-2	D	丸木	先端杭状	56015.22	-13293.01	7.35	7.04	併様同定試料
975	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.10	-13293.08	7.44	6.87	併様同定試料
976	IC-2	D	みかん副材	先端杭状	56015.21	-13293.04	7.44	6.79	
977	IC-2	B	丸木	先端杭状	56014.98	-13293.68	7.41	7.23	併様同定試料
978	IC-2	C	棒状	先端杭状	56015.08	-13293.33	7.40	7.08	併様同定試料
979	IC-2	B	半副材	先端杭状	56015.01	-13293.41	7.49	6.83	転用材、丸木を半副、併様同定試料
980	IC-2	B	丸木	両端杭状、表面	56015.04	-13293.28	7.46	6.94	併様同定試料
981	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.05	-13293.19	7.59	6.93	
982	IC-2	D	みかん副材	先端杭状	56015.07	-13293.12	7.38	6.99	
983	IC-2	D	板状	先端杭状	56014.54	-13293.10	7.55	7.27	
984	IC-2	B	板状	先端杭状	56014.64	-13293.52	7.43	7.19	
985	IC-2	B	板状	先端杭状	56014.74	-13293.47	7.50	7.11	
986	IC-2	B	副材	先端杭状	56014.75	-13293.57	7.65	7.07	併様同定試料
987	IC-2	B	半副材	先端杭状、表面	56014.79	-13293.47	7.69	6.98	転用材
988	IC-2	B	半副材	先端杭状、表面	56014.81	-13293.62	7.72	7.08	転用材、丸木を半副
989	IC-2	B	半副材	両端杭状	56014.93	-13293.72	7.74	7.08	転用材小、併様同定試料
990	IC-2	B	半副材	先端杭状	56015.03	-13293.03	7.45	6.93	
991	IC-2	B	丸木	先端杭状、表面	56014.91	-13293.70	7.41	7.06	
992	IC-2	B	不明	先端杭状	56014.95	-13293.69	7.43	6.98	併様同定試料
993	IC-2	D	みかん副材	先端杭状、表面	56014.99	-13293.19	7.44	7.05	
994	IC-2	D	板状	先端杭状	56015.00	-13293.12	7.38	7.04	
995	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.00	-13292.48	7.25	7.01	併様同定試料
996	IC-2	D	半副材	先端杭状	56015.05	-13292.62	7.30	7.02	
997	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.02	-13292.51	7.33	7.00	併様同定試料
998	IC-2	D	半副材	先端杭状	56014.97	-13292.62	7.32	6.98	併様同定試料
999	IC-2	D	副材	先端杭状	56015.13	-13292.88	7.27	6.97	併様同定試料
1000	IC-2	D	半副材	両端杭状	56014.97	-13293.30	7.50	6.98	柱材転用材、併様同定試料
1001	IC-2	D	半副材	先端杭状	56014.91	-13293.46	7.40	7.08	併様同定試料

取上番号	地区 T23-76-	分類	形状	加工状況	X座標 (m)	Y座標 (m)	上端標高 (m)	下端標高 (m)	備考
1002	IC-2	D	半圓材	先端杭状	-5601493	-13293.53	7.42	6.89	樹精固定試料
1003	IC-2	B	丸木	先端杭状	-5601491	-13293.67	7.41	7.04	樹精固定試料
1004	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	-5601494	-13292.56	7.37	7.00	樹精固定試料
1005	IC-2	D	半圓材	先端杭状	-5601501	-13292.60	7.34	7.01	
1006	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601515	-13293.01	7.40	6.89	樹精固定試料
1007	IC-2	D	半圓材	両端杭状	-5601497	-13293.11	7.54	6.97	船用材小。
1008	IC-2	D	半圓材	先端杭状	-5601490	-13292.49	7.39	6.97	樹精固定試料
1009	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601495	-13292.69	7.38	6.95	船用材小。
1010	IC-2	D	板状割材	先端杭状	-5601503	-13292.72	7.35	7.08	樹精固定試料
1011	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601510	-13292.79	7.26	7.03	樹精固定試料
1012	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	-5601491	-13293.22	7.43	6.89	柱材船用小。
1013	IC-2	B	丸木	先端杭状	-5601487	-13293.33	7.36	6.93	樹精固定試料
1014	IC-2	B	半圓材	先端杭状	-5601482	-13293.46	7.44	6.95	樹精固定試料
1015	IC-2	B	割材	加工あり小	-5601475	-13293.44	7.45	7.05	船用材小。
1016	IC-2	B	丸木	先端杭状	-5601484	-13293.38	7.42	7.06	樹精固定試料
1017	IC-2	B	丸木	先端杭状	-5601479	-13293.34	7.40	7.11	樹精固定試料
1018	IC-2	B	割材	先端杭状	-5601473	-13293.40	7.29	7.04	樹精固定試料
1019	IC-2	D	割材小		-5601491	-13293.14	7.46	7.35	樹精固定試料
1020	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601498	-13292.75	7.31	6.95	樹精固定試料
1021	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	-5601503	-13293.03	7.36	6.94	樹精固定試料
1022	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	-5601486	-13293.07	7.41	7.09	
1023	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601494	-13292.99	7.41	6.99	樹精固定試料
1024	IC-2	B	割材	先端杭状	-5601475	-13293.24	7.39	7.01	
1025	IC-2	B	丸木	先端杭状	-5601487	-13293.29	7.38	7.22	先端部分。
1026	IC-2	D	丸木		-5601471	-13293.17	7.37	7.08	先端欠損。
1027	IC-2	D	みかん割材	先端杭状	-5601503	-13292.89	7.36	6.98	樹精固定試料
1028	IC-2	D	割材	両端杭状	-5601502	-13292.93	7.65	6.93	船用材小
1029	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601476	-13293.13	7.39	6.77	樹精固定試料
1030	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601469	-13293.14	7.47	7.29	樹精固定試料
1031	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601495	-13292.73	7.35	6.84	樹精固定試料
1032	IC-2	D	割材	両端杭状	-5601495	-13292.77	7.65	6.92	船用材小。
1033	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601487	-13292.87	7.43	7.12	樹精固定試料
1034	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601494	-13292.93	7.58	7.00	樹精固定試料
1035	IC-2	D	割材小	先端杭状	-5601487	-13292.92	7.53	6.98	
1036	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601458	-13293.00	7.29	7.10	樹精固定試料
1037	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601494	-13292.43	7.33	7.05	
1038	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601486	-13292.39	7.39	6.97	
1039	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601482	-13292.55	7.30	7.03	樹精固定試料
1040	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601493	-13292.60	7.31	6.95	樹精固定試料
1041	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601490	-13292.36	7.35	6.95	
1042	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601489	-13292.54	7.31	6.85	樹精固定試料
1043	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601489	-13292.72	7.31	6.93	樹精固定試料
1044	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601487	-13292.77	7.44	7.16	
1045	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601477	-13292.93	7.47	6.74	樹精固定試料
1046	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601479	-13292.89	7.38	7.17	樹精固定試料
1047	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601477	-13292.50	7.44	6.95	船用材小。
1048	IC-2	D	板状割材	先端杭状	-5601488	-13292.81	7.43	7.16	
1049	IC-2	D	不明	先端杭状	-5601486	-13292.78	7.34	7.13	
1050	IC-2	D	みかん割材	両端杭状	-5601486	-13292.81	7.42	7.04	
1051	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601483	-13292.82	7.46	7.32	
1052	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601483	-13292.65	7.36	7.04	
1053	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601478	-13292.57	7.61	7.18	船用材小
1054	IC-2	D	割材	先端杭状。表面小	-5601478	-13292.56	7.39	6.91	
1055	IC-2	A	割材	先端杭状。表面	-5601636	-13297.48	7.59	7.22	
1056	IC-2	A	丸木	先端杭状	-5601640	-13297.60	7.63	7.44	樹精固定試料
1057	IC-2	D	丸木	先端杭状	-5601472	-13292.79	7.37	6.91	樹精固定試料
1058	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601473	-13292.85	7.58	7.08	
1059	IC-2	D	半圓材	先端杭状	-5601465	-13292.80	7.44	6.89	
1060	IC-2	D	半圓材	先端杭状小	-5601460	-13292.85	7.34	6.99	樹精固定試料
1061	IC-2	D	丸木状	先端杭状。表面	-5601452	-13292.88	7.48	7.13	
1062	IC-2	D	板状	先端杭状	-5601469	-13292.70	7.32	7.13	
1063	IC-2	D	割材	先端杭状	-5601488	-13292.31	7.49	6.86	

## 第6節 遺物観察表

第5表 4区土器観察表

拝観 番号	掲載 番号	取上 番号	地区 T23- 75-	遺構 ・層位	種類	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色割	備考
14	Ps1	25	IC3	4溝 2層	弥生土器	要 高:△37 口:●167	外面:ヨコナテ 内面:(口縁部-胴部)ヨコナテ, (胴部)ヘラケズリ	青(50mm以 下の砂粒含む)	良好	外面:25Y5-1灰~25Y6-1灰 内面:25Y5-1灰~25Y6-1灰	
*	Ps2	123	IC3	4溝	土器部	要 高:△63	外面:ヨコナテ 内面:ヨコナテ	青(10mm以 下の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-3に赤い黄褐色~ 10YR8-3或黄褐色 内面:10YR8-3或黄褐色~ 10YR8-2に赤い黄褐色	
*	Ps3	25	IC3	4溝 2層	土器部	鉄脚坯 高:△22 底:5.1	外面:ナデ,ヨコナテ 内面:(口縁)しぎキ,(脚部)ヨ コナテ	青(10mm以 下の砂粒含む)	良好	外面:25Y5-1黄灰~10YR7-2 に赤い黄褐色 内面:10YR5-1黒灰~ 10YR7-3に赤い黄褐色	内外面採付者 外面採付層位へつ 工具具数
18	Ps4	8	IC3	7溝	土器部	要 高:△56 口:●233	外面:ヨコナテ 内面:ヨコナテ,ナデ	青(1cm以下 の砂粒,赤 褐色土粒,3 mm程度の小 礫を含む)	良好	外面:10YR7-2に赤い黄褐色~ 5YR7-2に赤い黄褐色 内面:25YR7/4に赤い黄褐色	
*	Ps5	431	IC3	7溝 下層	土器部	要 高:△53 口:●139	外面:ヨコナテ 内面:(口縁部-胴部)ヨコナテ, (胴部)ナデ,ヘラケズリ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-4或黄褐色~ 10YR7-4に赤い黄褐色 内面:10YR8-4或黄褐色~ 10YR7-4に赤い黄褐色~ 10YR8-3に赤い黄褐色	
*	Ps6	432	IC3	7溝 下層	土器部	要 高:△47 口:●160	外面:ヨコナテ 内面:(口縁部)ナデ,(口縁部) ヨコナテ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:75YR6-2灰帯~ 10YR6-2に赤い黄褐色 内面:10YR6-2に赤い黄褐色	外面採付者
*	Ps7	433	IC3	7溝 下層	土器部	密 高:△50 口:●172	外面:ナデ 内面:ヘラケズリ後ナテ,ナデ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-2に赤い黄褐色~ 10YR7-2に赤い黄褐色 内面:10YR7-2に赤い黄褐色~ 10YR6-3に赤い黄褐色	外面スタンプ文
*	Ps8	401 461	IC3	7溝 7溝・下層	土器部	高坪 高:△55 口:●206	外面:(口縁部)ヨコナテ,(口縁部) ハケメ後しぎキ 内面:(口縁部)ヨコナテ,(口縁部) ハケメ後しぎキ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:75YR7/4に赤い黄褐色~ 75YR7-4に赤い黄褐色 内面:10YR6-2或黄褐色~ 10YR6-3に赤い黄褐色~ 75YR6/4地	円盤状頭 層位のため一部調 整不明
*	Ps9	9	IC3	7溝	土器部	高坪 高:△113 口:●172 底:●103	外面:△ 内面:(脚部)ヘラケズリ,(脚 部)ナデ	青(1cm以下 の砂粒多く 含む)	良好	外面:75YR7/4に赤い黄褐色~ 75YR7-4に赤い黄褐色 内面:75YR7/4に赤い黄褐色~ 75YR7/4に赤い黄褐色	円盤状頭 層位のため一部調 整不明
21	Ps10	552	IC3	8溝	弥生土器	要 高:△100 口:●128	外面:(口縁部)3条の沈線文,(口 縁部-胴部)ヨコナテ,(胴部 -脚部)ハケメ,(脚部)板状 文,共による連続的突文 内面:(口縁部)ヨコナテ,(胴部) ナデ,(胴部-脚部)ヘラケズ リ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR5-2或黄褐色~ 10YR7-2に赤い黄褐色,10YR6-2或 黄褐色 内面:10YR6-2或黄褐色	外面採付者 内面採付器具具
*	Ps11	551	IC3	8溝	弥生土器	要 高:△73 口:●234	外面:(口縁部)平行沈線文,(口 縁部-胴部)ヨコナテ,4角部 ナデ,片割縁部による連続的突 文 内面:(口縁部)ヨコナテ,(口 縁部-脚部)しぎキ	青(1cm以下 の砂粒,4mm 程度の小礫 を含む)	良好	外面:25Y7-2灰帯~25Y7/3 或黄褐色 内面:25Y4-1黄灰~25Y6-1 黄灰,25Y6-3に赤い黄褐色	
*	Ps12	1301	IC3	8溝(新)	土器部	要 高:△54 口:●274	外面:ヨコナテ 内面:ヨコナテ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:25Y3-1黄帯~25Y6-3 に赤い黄褐色 内面:10YR7-3に赤い黄褐色~ 10YR6-3に赤い黄褐色	外面黒黒
*	Ps13	602	IC3	8溝 中層	土器部	密 高:△112 口:●363	外面:(口縁部-胴部)ヨコナテ, (胴部-脚部)ハケメ 内面:(口縁部)ヨコナテ,(胴部) しぎキ,ナデ,(脚部)ヘラケ ズリ	青(1cm以下 の砂粒,赤 褐色土粒含む)	良好	外面:10YR5-1黄灰,5Y2/1黒 内面:10YR7-3に赤い黄褐色~ 10YR4-1黒灰	外面採付者
*	Ps14	603	IC3	8溝 中層	弥生土器	付付 鉄脚坯 高:△32 底:●173	外面:ハケメ,3条の沈線,連続 的突文(スタンプ文),2条の 沈線,連続的突文 内面:ヘラケズリ後しぎキ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:25Y7-1黄帯~25Y8-1 黄灰 内面:10YR6-2或黄褐色~ 10YR7-2に赤い黄褐色	外面赤色色剥
*	Ps15	604	IC3	8溝 中層	土器部	小型器台 高:△36 口:●164	外面:(口縁部)ヨコナテ,(口 縁部)しぎキ 内面:(口縁部)ヨコナテ,(口縁部) しぎキ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:5YR7-6地,10YR7/4に 赤い黄褐色 内面:75YR7/4に赤い黄褐色, 5YR7-6地	
*	Ps16	553	IC3	8溝	土器部	鉄脚坯 高:△26 底:●101	外面:ヨコナテ 内面:(口縁部)ヘラケズリ,ナ デ,(胴部)ヨコナテ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-2或黄褐色~ 10YR7-2に赤い黄褐色 内面:10YR7-2に赤い黄褐色	
*	Ps17	60	IC3	8溝 中層	弥生土器	高坪 高:△110 底:8.0	外面:(脚部)シギキ,2条の沈 線文,縦状沈線+縦状菱形刺 突文,(脚部)ヨコナテ 内面:(口縁部)しぎキ,ヘラケ ズリ,(脚部)ヘラケズリ,ヨ コナテ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:75YR6-3に赤い黄褐色~ 10YR7-2に赤い黄褐色 内面:10YR7-3に赤い黄褐色~ 25Y8-2灰白	円盤状頭 外面採付のため, 調整不明
*	Ps18	871	IC3	8溝 下層	弥生土器	要 高:△80 口:●164	外面:(口縁部)3条の平行沈線文, (口縁部-胴部)ヨコナテ,(胴 部)連続的引文,(脚部-胴部) ハケメ後ナテ 内面:(口縁部-胴部)ヨコナテ, (胴部-脚部)ハケメ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:75YR6-3に赤い黄褐色~ 75YR6-3に赤い黄褐色,75YR3-1 黒帯 内面:75YR6-4に赤い黄褐色~ 75YR6-2或黄褐色,75YR3-1黒 帯	外面採付者
*	Ps19	874	IC3	8溝 下層	弥生土器	要 高:△44 口:●140	外面:(口縁部)4条の平行沈線文, (口縁部-胴部)ヨコナテ,(脚 部)ハケメ 内面:(口縁部-胴部)ヨコナテ, (胴部-脚部)ヘラケズリ	青(1cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面:25YR5-6赤黒帯~ 25YR6-6地	



探洞 番号	埋藏 番号	取上 番号	地区 T23- 75	遺構 ・層位	種類	法量 (cm)	特徴	出土	焼成	色調	備考
21	Pv00	65-3	IC3	8階 下層	供生土層	妻 高:△7.6 口:●17.2	外面:(口縁部)平行状溝文ナメ 溝し。(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (裏面-唇部)ハケメナデ、(唇 部)底状文 内面:(口縁部)ヨコナデ、(裏 面)ナデ、(裏部-唇部) ヘラケズリ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR5/2灰青黒 →10YR3/2黄緑 内面:10YR5/3に赤い黄緑	外面付着
	Pv01	65-1	IC3	8階 下層	土層部	妻 高:△4.3 口:●13.6	外面:ヨコナデ 内面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (裏面)ヘラケズリ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR7/2に赤い黄緑 →10YR6/2灰青 内面:10YR7/2に赤い黄緑	黒底
	Pv02	61-1	IC3	8階 下層	土層部	妻 高:△6.2 口:●12.8	外面:(口縁部)ヨコナデ、ハケ メ後ヨコナデ。(口縁部-裏面) ナデ 内面:(口縁部)ヨコナデ、(口縁 部-裏面)ナデ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:2.5Y7/2灰青→2.5Y7/3 灰黒、2.5Y6/1黄灰 内面:10YR7/1に赤い黄緑→ 10YR6/2灰青黒	外面付着
	Pv03	61-2	IC3	8階 下層	供生土層	密 高:△7.7	外面:(口縁部)平行状溝文、ス タンプ文、(裏面)ハケメ後ミ ギキ、スタンプ文、平行状溝文 内面:(口縁部)ナデ、ミギキ、(裏 部)ナデ	密(1cm以下 の砂粒、4mm 程度の小礫 含む)	良好	外面:10YR6/2灰青黒→ 10YR7/3に赤い黄緑 内面:10YR6/3に赤い黄緑→ 10YR6/2灰青黒	
	Pv04	65-4	IC3	8階 下層	供生土層	密 高:△9.8 口:●25.6	外面:(口縁部)ヨコナデ、14条 の平行状溝文、(裏面)ヨコナデ、 ハケメ後ナデ 内面:(口縁部)ヨコナデ、(口縁 部-裏面)ミギキ?	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR7/2に赤い黄緑→ 10YR6/2灰青 内面:10YR7/2に赤い黄緑→ 10YR6/2灰青黒	
	Pv05	90-1	IC3	8階 下層	土層部?	高坪? 高:△4.2 口:●28.5	外面:ヨコナデ、ナデ 内面:ヨコナデ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR6/2灰青黒→ 10YR5/2灰青 内面:10YR5/1黄灰→ 10YR1/黒灰、10YR6/2灰 青黒	外面付着
	Pv06	65-5	IC3	8階 下層	土層部	高坪 高:△15.7	外面:(口縁部)ヘラケズリ、ハケ メ後ナデ 内面:(裏面)ヘラケズリ、ハケ メ後ナデ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR6/2灰青黒、 5YR5/4に赤い赤黒 内面:10YR7/3に赤い黄緑、 2.5YR6/2に赤い黄緑	脚部穿孔(3方向)
	Pv07	87-2	IC3	8階 下層	供生土層	高坪 高:△8.4	外面:ナデ、4条単位の平行状溝 文(赤黒) 内面:シボリ、ナデ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR6/2灰青黒→ 10YR6/3に赤い黄緑 内面:10YR5/1黄灰→ 10YR5/2灰青黒	脚部5段穿孔(4 方向)
	Pv08	65-2	IC3	8階 下層	土層部	小型器台 高:△1.8	外面:ナデ、ハケメ後ミギキ 内面:ヨコナデ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:2.5YR7/3に赤い黄 →2.5YR7/4に赤い黄 内面:10YR7/6黄	風化のため一部調 整不明
	Pv09	95-1	IC3	8階 下層	供生土層	器台 高:△4.8 口:●21.6	外面:(口縁部)5条の平行状溝文、 (底面)ミギキ 内面:ミギキ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:2.5YR7/2に赤い黄 →10YR6/3に赤い黄緑 内面:10YR7/3に赤い黄緑→ 10YR6/2灰青黒	
	Pv10	72	IC3	8階 下層	土層部	鏡脚器台 高:△8.9 口:●17.0 底:●14.6	外面:ヨコナデ 内面:(唇部)ヘラケズリ後ミギキ、 (裏面)ナデ、(脚部)ヘラケ ズリ、ヨコナデ	密(2cm以下 の砂粒、赤 褐色土粒、3 mmの小礫 含む)	良好	外面:10YR7/2に赤い黄緑 →10YR8/2黄 内面:2.5YR6/2灰青 →10YR8/2黄	脚部面に工具痕
28	Pv01	53-1	IC3	9階 上層	土層部	壁 高:△4.3 口:●13.5	外面:ヨコナデ 内面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (裏面)ヘラケズリ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面:10YR8/2灰白	
	Pv02	56-1	IC3	9階 上層	土層部	妻 高:△13.2 口:●26.8	外面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (唇部-裏面)ナデ 内面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 唇ナデ、(裏部-脚部)ヘラケ ズリ	密(2.5cm以 下の砂粒含 む)	良好	外面:10YR8/2灰白→N3/ 灰 内面:10YR8/2	外面黒底
	Pv03	53-2	IC3	9階 上層	土層部	高坪 高:△10.5 底:●14.1	外面:(脚部)ハケメ、(脚部) ナデ 内面:(脚部)シボリ、ヘラケ ズリ、(脚部)ハケメ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:5YR7/6黄→2.5YR7/4 に赤い黄 内面:5YR7/6黄→2.5YR7/4 に赤い黄→10YR7/4に赤い 黄緑	風化のため一部調 整不明
	Pv04	48-1	IC3	9階 上層	土層部	高坪 高:△5.8 底:●18.2	外面:ナデ、ヘラケズリ 内面:シボリ、ヘラケズリ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面:2.5YR8/4→10YR8/3 灰青黒	脚部穿孔(3方向) 風化のため一部調 整不明
	Pv05	54-1	IC3	9階 下層	土層部	妻 高:△5.8 口:●13.5	外面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (唇部)ミギキ 内面:(口縁部)ヨコナデ、(裏面) ナデ、(裏部-脚部)ヘラケズ リ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:5YR7/8黄→10YR6/3 に赤い黄 内面:2.5YR6/8黄→2.5YR6/4 に赤い黄	
	Pv06	54-5	IC3	9階 下層	土層部	妻 高:△7.4 口:●13.6	外面:ヨコナデ 内面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、(裏 面)ナデ、(裏部-脚部)ヘラケ ズリ	密(2cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面:10YR7/3に赤い黄 緑→10YR8/3黄緑→ 2.5YR7/4に赤い黄	
	Pv07	81-2	IC3	9階 下層	土層部	妻 高:△8.0 口:●29.9	外面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (唇部)ハケメ後ヨコナデ 内面:(口縁部-裏面)ヨコナデ、 (裏面)ナデ、ヘラケズリ	密(2cm以下 の砂粒、赤 褐色土粒含 む)	良好	内外面:2.5Y7/1灰白→2.5Y7/2 灰黒	
	Pv08	54-2	IC3	9階 下層	土層部	密 高:△7.9 口:●11.8	外面:(口縁部)ナデ、(脚部)ヨ コナデ 内面:(口縁部)ナデ、(口縁部- 裏面)ヨコナデ、(脚部)ナデ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面:10YR8/2灰白→ 2.5YR8/3黄緑	風化のため調整不 明
	Pv09	54-3	IC3	9階 下層	土層部	高坪 高:△6.2 口:●20.6	外面:(口縁部)ナデ 内面:-	密(2cm以下 の砂粒多く 含む)	良好	外面:2.5YR7/6黄→2.5YR6/4 に赤い黄→2.5YR7/6黄 内面:2.5YR7/4に赤い黄→ 5YR7/6黄	風化のため一部調 整不明
	Pv10	54-6	IC3	9階 下層	土層部	高坪 高:△6.5 底:●11.0	外面:(脚部)ハケメ後ミギキ、 (脚部)ミギキ、器ササエ 内面:(脚部)シボリ、ヘラケ ズリ、(脚部)ハケメ、ナデ	密(1cm以下 の砂粒、虫 屑の類のほ かに小さい小礫 含む)	良好	外面:5YR7/8黄→10YR7/3 に赤い黄 内面:5YR7/8黄→10YR7/4 に赤い黄	円筒状の調整不 明
	Pv11	57-1	IC3	9階 下層	土層部	鏡脚杯? 高:△4.8 口:●19.6	外面:(口縁部)ナデ、(脚部)ミ ギキ、(脚部)ナデ 内面:(脚部)ナデ、(脚部)ミ ギキ	密(1cm以下 の砂粒、赤 褐色土粒含 む)	良好	外面:10YR8/2灰白→2.5Y5/1 黄 内面:10YR8/2灰白	
	Pv12	54-7	IC3	9階 下層	土層部	鏡脚杯 高:5.5 口:●19.5 底:●5.4	外面:(口縁部)ナデ、(脚部)ミ ギキ、(脚部)ナデ 内面:(口縁部)ナデ、(脚部)ミ ギキ、(脚部)ナデ	密(1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面:10YR8/3黄緑 内面:10YR8/3黄緑→ 5YR7/3に赤い黄	脚部面ヘラ記号

## 第3章 4区の調査成果

採石番号	掲載番号	取上番号	地区 T23-75	遺構・層位	種類	法量 (cm)	特徴	出土	焼成	色割	備考
28	Pv43	544	IC-3	9階下層	土師器 小型器台	高:△8.4 口:10.2	外面:(1)線部)ナゲ,ヨコナゲ,脚部)ミヅギ 内面:(1)線部)ナゲ,(坪部)ミヅギ,(脚部)シボリ,ヘラケズリ,(脚部)ナゲ	骨(15cm以下の砂粒,7~12cmの赤色土粒含む)	良好	内外面:25YR8-2灰白~10YR8-2白	風化のため一部調査不明
*	Pv44	161-1	IC-3	9階下層	土師器 長形器台	高:△6.9	外面:ヨコナゲ 内面:(変部)ミヅギ,(脚部)ナゲ,(脚部)ヘラケズリ	骨(25cm以下の砂粒,7~12cmの赤色土粒含む)	良好	内外面:10YR8-2灰白~10YR7-2に灰黄緑	
31	Pv45	169-3	IC-3	13階	縄文土器 深鉢?	高:△12.9	外面:船オサエ,ナゲ,頸目 内面:船オサエ,ナゲ	骨(2cm以下の砂粒多く含む)	良好	内外面:10YR7-2に灰黄緑	割目凸部文
*	Pv46	894	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△7.0 口:△19.0	外面:(1)線部)3条の平行線文,(1)線部)12条の平行線文,(脚部)ハケメ痕ナゲ,(脚部)ハケメ 内面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ,(脚部)ヘラケズリ,船オサエ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR5-1黒灰~10YR5-2灰黄緑 内面:10YR7-2に灰黄緑~10YR5-1黒灰~10YR5-2灰黄緑	外面磨付者
*	Pv47	180-2	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△4.0 口:△16.0	外面:(1)線部)ヨコナゲ,7条の平行線文文,(脚部)ヨコナゲ 内面:(1)線部)ヨコナゲ,(1)線部)船オサエ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:75YR2-1黒~75YR4-2灰黒 内面:75YR7-3に灰黄緑~75YR6-4に灰黄	外面磨付者
*	Pv48	180-1	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△3.9 口:△26.2	外面:(1)線部)ヨコナゲ,7条の平行線文文,(脚部)ヨコナゲ 内面:(1)線部)ヨコナゲ,(脚部)ミヅギ,ヘラケズリ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR4-1黒灰~10YR5-3に灰黄緑 内面:25Y7-4黒灰~25YR3に灰黄	
*	Pv49	891	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△6.4 口:△20.6	外面:(1)線部)ヨコナゲ,6~7条の平行線文文,(脚部)ナゲ,3条の平行線文文,(脚部)ハケメ,直紋文 内面:(1)線部)ヨコナゲ,(脚部)ヘラケズリ,船オサエ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-2灰黄緑~75YR6-2灰黒 内面:75YR2-1黒~75YR6-2灰黒	外面磨付者
*	Pv50	174-1	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△6.5 口:△16.0	外面:(1)線部)ナゲ,ヨコナゲ,11条の平行線文文,(脚部)ヨコナゲ 内面:(1)線部)船オサエ,(1)線部)ミヅギ,(脚部)ヘラケズリ後ナゲ	骨(15cm以下の砂粒含む)	良好	外面:25Y2-1黒 内面:10YR7-3に灰黄緑~10YR5-1黒灰	外面磨付者
*	Pv51	115	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△5.4 口:△23.8	外面:(1)線部)船オサエ,(1)線部)12条の平行線文文, 内面:(1)線部)船オサエ,ミヅギ,ヨコナゲ,(脚部)ヘラケズリ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:75YR6-3に灰黄~75YR6-4に灰黄 内面:75YR6-4に灰黄~75YR8-3灰黄	外面磨付者
*	Pv52	169-4	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△3.8 口:△13.8	外面:ヨコナゲ 内面:ヨコナゲ後ナゲ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:75YR6-4に灰黄~75YR6-2灰黒 内面:75YR6-4に灰黄	外面磨付者
*	Pv53	64-1	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△7.0 口:△14.2	外面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ,(脚部)平行線文文,(脚部)ヨコナゲ 内面:(1)線部)ヨコナゲ,(脚部)ナゲ,(脚部)船オサエ,ヘラケズリ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	内外面:5YR6-9黄~5YR6-4に灰黄~75YR7-4に灰黄	外面磨付者
*	Pv54	895	IC-3	13階	土師器 甕	高:△8.8 口:△19.6	外面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ,(1)線部)2条の平行線文文,(脚部)高伏文 内面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ,(脚部)ヘラケズリ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:25Y2-1黒 内面:25Y2-1黒~75YR6-4に灰黄	内外面磨付者
*	Pv55	180-4	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△5.4 口:△3.7	外面:(つまみ部)ナゲ,(体部)ヨコナゲ 内面:(つまみ部)ナゲ,(体部)ナゲ,ナゲ後ミヅギ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:25YR6-2暗灰黄~25YR6-2灰黄 内面:25Y4-1黄灰~25Y5-2暗灰黄	縦貫する穿孔有り(つまみ部穿孔(2方向))
*	Pv56	892	IC-3	13階	甕	高:△4.5 口:△5.9	外面:(つまみ部上面)ナゲ,(つまみ部)体部ナゲ,船オサエ 内面:船オサエ,ナゲ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-2灰黄緑,(上面)10YR5-1黒灰~10YR3-1黒 内面:10YR6-2灰黄緑	
*	Pv57	64-3	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△3.9 口:△5.9	外面:(1)線部)ナゲ,(脚部)3条の平行線文文,(脚部)直紋線に2条連続刺突文,(脚部)2条の平行線文文 内面:(1)線部)ナゲ,(脚部)ヘラケズリ,船オサエ,(脚部)	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7-2に灰黄緑~10YR8-2白 内面:10YR7-2に灰黄緑~10YR8-2白	ミシマ土器
*	Pv58	64-2	IC-3	13階	弥生土器 仔付笠形甕	高:△5.4 口:△16.8	外面:(脚部)4条の平行線文文,連続刺突文,(脚部)1条の直紋文,連続刺突文 内面:(つまみ部)ナゲ	骨(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR6-4に灰黄緑 内面:10YR7-2に灰黄緑~25Y7-2灰黄	外面赤色塗彩
*	Pv59	178-1	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△5.7 口:△18.3	外面:(1)線部)ヨコナゲ,4条の直紋文文,(脚部)ミヅギ 内面:(1)線部)ヨコナゲ,(1)線部)船オサエ	骨(2cm以下の砂粒,6mm程度の小骨含む)	良好	外面:75Y7-4に灰黄~5YR7-6黄 内面:75Y7-4に灰黄~25YR6-4	風化のため、一部調査不明
*	Pv60	893	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△11.6 口:△29.3	外面:(1)線部)ヨコナゲ,13条の平行線文文,(脚部)ハケメ痕ナゲ 内面:(1)線部)ミヅギ	骨(2cm以下の砂粒,3mm程度の小骨含む)	良好	外面:10YR6-3に灰黄緑 内面:10YR6-2灰黄緑	風化のため、一部調査不明
*	Pv61	174-2	IC-3	13階	土師器 甕	高:△4.4 口:△9.0	外面:ナゲ,船オサエ 内面:(1)線部)ナゲ,ミヅギ,(脚部)ヘラケズリ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7-3に灰黄緑~10YR6-1黒灰 内面:10YR7-3に灰黄緑	
*	Pv62	169-1	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△4.7 口:△11.4	外面:ヨコナゲ 内面:(1)線部)船オサエ,ヘラケズリ後ミヅギ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面:10YR6-2灰黄緑~75YR6-4に灰黄	
*	Pv63	169-2	IC-3	13階	弥生土器 甕	高:△8.5 口:△12.6	外面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ,(脚部)ハケメ痕跡による連続刺突文 内面:(1)線部)船オサエ,ヨコナゲ	骨(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7-2に灰黄緑~75YR6-2灰黒~5YR6-4に灰黄 内面:10YR7-2に灰黄緑~10YR6-3に灰黄	内面凹陥部有。着腐のため調査不明

## 第6節 遺物観察表

探洞番号	掲載番号	取上番号	地区 723-754	遺構・層位	種類	法量 (cm)	特徴	出土	焼成	色調	備考	
31	Pv64	93-1 873	IC3	13遺	弥生土層	高坪	高:△5.6 口:●248	外面:(I)線部 ナデ、5条の平行沈線文。(環部)ミガキ 内面:ミガキ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:25YR5/4に赤い赤褐色-10YR26/2灰青 内面:10YR7/3に赤い赤褐色-10YR26/2灰青	赤色塗彩
+	Pv65	180-3	IC3	13遺	弥生土層	窪台	高:△4.5 口:●208	外面:(I)線部 ヨコナデ、14条の平行沈線文。(環部)ミガキ 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ミガキ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7/3に赤い赤褐色-10YR26/2灰青 内面:10YR4/1に赤い赤褐色-10YR26/2灰青	
34	Pv66	174-1	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△9.9 口:●129	外面:(I)線部 ナデ、2条の沈線文。(環部)ハケメ 内面:(I)線部-環部 ナデ、磨ササエ。(脚部)ハケメ、(脚部)ハケメ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:25YR5/3に赤い赤褐色-7.5YR6/4に赤い赤褐色 内面:10YR6/3に赤い赤褐色-10YR6/4に赤い赤褐色	
+	Pv67	177-3	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△3.2 口:●156	外面:(I)線部 4条の沈線文 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ミガキ、ヘラケズリ	密(1cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR6/1黒灰-7.5YR7/3に赤い赤褐色 内面:7.5YR6/4に赤い赤褐色-10YR6/1黒灰	外面面部保存者
+	Pv68	94	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△2.4 口:●295	外面:(I)線部 ヨコナデ、3条の鈍い沈線文、ミガキ 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ハケメ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR2/2黒褐色-10YR4/2黒灰 内面:10YR5/2灰青-2.0Y5/2黒灰	外面面付き者
+	Pv69	106	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△3.9 口:●115	外面:(I)線部 ヨコナデ、磨目文。(環部)ハケメ後ヨコナデ、内面:ヨコナデ	密(15cm以下の砂粒多く含む)	良好	内外面:10YR4/1黒灰-2.0Y5/1黄灰	
+	Pv70	170-1	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△7.2 口:●190	外面:(I)線部 ヨコナデ、2条の沈線文。(環部)ハケメ後ナデ、内面:(I)線部 ヨコナデ、ハケメ後ナデ、(環部)ハケメ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:2.5Y7/2灰青-2.5Y6/2灰青 内面:2.5Y6/1黒灰-2.5Y1/1黄灰-2.5Y2/2灰青	風化のため内面一部調整不明
+	Pv71	177-1	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△6.1 口:●191	外面:(I)線部 2条の沈線文、ヨコナデ。(環部)ハケメ後ナデ、磨ササエ。一部刺突文 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ハケメ後ナデ、ヘラケズリ	密(2cm以下の砂粒含む)	やや不良	外面:10YR8/2黒褐色-10YR7/1黒白 内面:10YR7/3に赤い赤褐色-10YR4/1黒白	
+	Pv72	177-2	IC3	15遺	弥生土層	堦	高:△7.2 口:●173	外面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ハケメ 内面:(I)線部-環部 ヨコナデ、(脚部)ハケメ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR2/2に赤い赤褐色-10YR3/2黒褐色 内面:10YR2/3に赤い赤褐色-10YR3/2黒褐色	外面面付き者
+	Pv73	181-1	IC3	15遺	弥生土層	高坪	高:△3.6 口:●203	外面:(I)線部 ナデ、(下部下半)ミガキ 内面:(I)線部 ナデ、(下部下半)ミガキ	やや密(2cm以下の砂粒多く含む)	良好	外面:10YR2/2黒褐色-10YR6/3に赤い赤褐色 内面:10YR4/1黒白	
35	Pv74	67-1	IC3	11土坑	弥生土層	堦	高:△4.7 口:●204	外面:(I)線部 ヨコナデ、5条の平行沈線文。(環部)ヨコナデ 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ハケメ、ヘラケズリ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR6/2黒褐色-7.5YR6/4に赤い赤褐色 内面:7.5YR6/3に赤い赤褐色-10YR4/1黒白	内面面部に工具痕
37	Pv75	69-1	IC3	14土坑	弥生土層	堦	高:△2.4	外面:(I)線部 回転ナデ、5条の平行沈線文。(環部)ヨコナデ 内面:(I)線部 磨ササエ後ナデ、(環部)ナデ、ヘラケズリ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR6/4に赤い赤褐色-7.5YR7/4に赤い赤褐色 内面:7.5YR8/4成青	
39	Pv76	16	IC3	1層	瀬戸・美濃系	天目蓋類	高:△1.3 口:●39	外面:(底部)回転ナデ、施輪。(溝部)ナデ、(底面)回転未切手 内面:(底部)回転ナデ、施輪。(溝部)ナデ	密(15cm以下の砂粒多く含む)	良好	外面:(施輪部)7.5YR7/1黒。(溝部)7.5YR6/4に赤い赤褐色 内面:(施輪部)7.5YR6/4成青	外面面縁の垂れ下がりあり
+	Pv77	16	IC3	1層	瀬戸・美濃系	平灰	高:△2.9 口:●176	外面:回転ナデ、施輪 内面:回転ナデ、施輪	密(15cm大の砂粒僅かに含む)	良好(埋居)	外面:7.5Y7/3成青 内面:10Y7/2赤白 裏面部:5Y7/1灰白-5YR/1灰白	
+	Pv78	16	IC3	1層	瀬戸・美濃系	堦	高:△5.1	外面:(I)線部 ヨコナデ、(脚部)ハケメ後ヨコナデ、磨ササエ 内面:(環部)ヨコナデ、磨ササエ、(脚部)ハケメ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好(埋居)	外面:2.5Y6/2灰青 内面:7.5YR6/3に赤い赤褐色-10YR5/2灰青	
40	Pv79	158-1	IC3	2層	弥生土層	堦	高:△6.1 口:●347	外面:(I)線部 ヨコナデ、14条の磨目文による沈線沈線×文。(環部)ヘラケズリ 内面:(I)線部 ヨコナデ	密(2cm以下の砂粒、赤土粒含む)	良好	外面:2.5YR3/3成青-10YR7/3に赤い赤褐色 内面:2.5YR3/3成青-10YR7/3に赤い赤褐色	風化のため調整不明
+	Pv80	37-1	IC3	2層	土師器	堦	高:△7.8 口:●244	外面:(I)線部-環部 ヨコナデ 内面:(I)線部 ヨコナデ、(環部)ヘラケズリ	密(1cm以下の砂粒含む)	良好	内外面:10YR8/2灰白-2.5YR/1灰白	風化のため調整不明
+	Pv81	58-1	IC3	2層	土師器	堦	高:△6.7 口:●153	外面:(I)線部-環部 ヨコナデ、(脚部)ハケメ後ナデ 内面:(I)線部-環部 ヨコナデ、(脚部)ナデ、(脚部)ハケメ、ヘラケズリ	密(1cm以下の砂粒含む)	良好	内外面:2.5YR8/1赤褐色	
+	Pv82	39-1	IC3	2層	土師器	窪台?	高:△11.2	外面:ミガキ、7条の沈線文 内面:ヘラケズリ、ヘラケズリ後ナデ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:2.5YR5/6明赤褐色(赤部) 内面:10YR7/3に赤い赤褐色-7.5YR7/成青	外面面縁部 窪台面上下2段各4箇所穿孔
+	Pv83	39-2	IC3	2層	土師器	小型窪台	高:△6.7 口:●87	外面:- 内面:(脚部)ナデ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	外面:5YR6/6成青-10YR7/4に赤い赤褐色 内面:7.5YR6/6成青-10YR7/3に赤い赤褐色-2.5Y6/2灰青	窪台穿孔 風化のため一部調整不明
+	Pv84	37-2	IC3	2層	土師器	長形窪台	高:△8.1	外面:ヨコナデ 内面:(変形-環部)ヨコナデ、(脚部)ヘラケズリ	密(2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面:5YR8/4成青-10YR8/2灰白	風化。表面面縁のため調整不明

第6表 4区石器観察表

採洞番号	遺物番号	取上番号	地区 T23-7d	遺構	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重量		
22	S1	86	1C-2	8溝	下層	石眼	3.1	1.8	0.4	1.7	安山岩	
*	S2	98	1c-2	8溝	下層	石斧?	△8.7	6.0	3.1	258.1	輝緑凝灰岩	刃部欠損
*	S3	88	1C-2	8溝	下層	敲石	9.5	8.1	5.6	540	デイサイト	被熱
29	S4	52-1	1C-3	9溝	下層	磨石	11.1	8.5	4.4	668	輝緑凝灰岩	
*	S5	52-2	1C-3	9溝	下層	敲石?	11.9	9.3	5.3	762	安山岩	
32	S6	174	1C-2	13溝		凹石	6.1	5.1	3.1	△78.4	凝灰岩	
40	S7	45	1C-3		Ⅱ層	片刃石斧	5.9	5.1	1.2	51.2	輝緑凝灰岩	磨製

第7表 4区木器観察表

採洞番号	遺物番号	取上番号	地区 T23-7d	遺構	層位	種類	法量 (cm)			年輪 本数 間隔 (mm)	樹種 本取り	備考
							最大長	最大幅	最大厚			
23	W1	155	1C-2	8溝(新)	下層	鳥形木製品	26.7	12.1(6.1)	1.9	54 0.1~0.2	針葉樹 榎目	
*	W2	91	1C-2	8溝(古)	下層	直柄平鋸	30.7	△10.8	1.7	40 2~3	アカガシ系 榎目	
*	W3	152	1C-2	8溝(新)	下層	杓	9.2	9.1	7.0	35 1~2	針葉樹 志木	
24	W4	816	1C-2	8溝		杭	34.0	3.2	2.7	10 2~3	スギ 志木	杭列A 転用材
*	W5	590	1C-2	8溝		杭	△44.3	5.7	1.8	15 1~2	スギ 榎目	杭列B 転用材
*	W6	887	1C-2	8溝		杭	70.9	9.2	4.4	39 0.8~1.5	スギ 志木	杭列B 転用材
*	W7	607	1C-2	8溝		杭	68.5	7.6	6.1	30 1~3	スギ 志木	杭列B 転用材
*	W8	819	1C-2	8溝		杭	82.0	3.3(3.1)	5.0(2.1)	28 0.7~1	スギ 志木	杭列A 丸棒材 (転用材?)
*	W9	869	1C-2	8溝		杭	71.7	3.5	3.1	42 0.5~1	ヒノキ 志木	杭列B 角棒材 (転用材?)
*	W10	533	1C-2	8溝		杭	△58.6	7.5	3.4	35 1~2	スギ 榎目	杭列A 転用材
*	W11	586	1C-2	8溝		杭	59.8	7.0	4.6	78 0.5~1	ヒノキ 志木	杭列A 転用材
25	W12	970	1C-2	8溝		杭	56.3	12.2	7.3	123 0.5~1.5	エゴノキ 志木	杭列D ミカン割材
*	W13	551	1C-2	8溝		杭	59.8	9.2	7.2	46 1~1.5	スギ 志木	杭列A 割材
*	W14	690	1C-2	8溝		杭	83.5	8.5	4.8	56 0.3~0.9	スギ 志木	杭列B 半截材
*	W15	541	1C-2	8溝		杭	72.9	9.3	7.2	34 1.5~3	スギ 志木	杭列A 割材
*	W16	515	1C-2	8溝		杭	57.3	8.1	7.8	26 2~3	スギ 志木	杭列D 割材
*	W17	782	1C-2	8溝		杭	41.0	4.5	4.5	9 1.5~3	シイノキ系 志木	杭列C 丸木(自然木)
26	W18	1047	1C-2	8溝		矢板	50.7	11.7	5.6(5.3)	23 1~3	モミ属 榎目	杭列D 割材
*	W19	536	1C-2	8溝		矢板	56.8	7.6	3.5	43 0.7~1	ヒノキ 榎目	杭列A 転用材?
*	W20	803	1C-2	8溝		矢板	△44.2	14.3	2.5	47 1~1.5	スギ 榎目	杭列B 転用材
*	W21	522	1C-2	8溝		矢板	39.2	11.8	4.1(2.2)	35 0.4~0.8	スギ 志木	杭列A 割材
*	W22	643	1C-2	8溝		矢板	81.7	14.8(14.0)	5.5(5.3)	12 4~6	モミ属 榎目	杭列D 割材
*	W23	788	1C-2	8溝		矢板	82.4	10.9	5.7(4.4)	20 2~3	クリ 榎目	杭列B 割材
*	W24	735	1C-2	8溝		矢板	52.5	10.2	3.4	10 3~4	スギ 榎目	杭列B 割材

## 第4章 5区の調査成果

### 第1節 調査区の概要

5区は低位段丘上に立地し、調査前は水田として利用されていた。調査前の標高は、約8.6mである。当調査区の東側には約46mの距離に4区があり、西側には約42mの距離に6区がある。

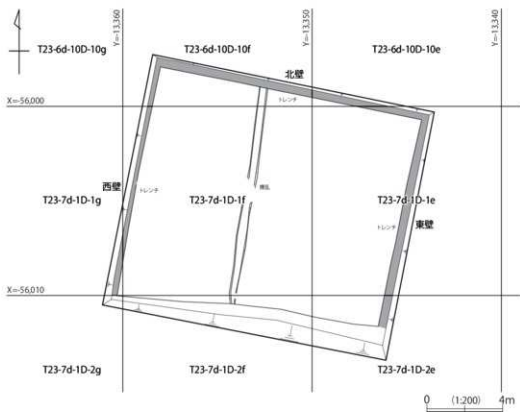
4区と同様に、鳥取市教育委員会による試掘調査の成果から、現代の耕作土を表土掘削の対象とし、それ以下を調査対象としている。

調査の結果、5層の基本層と2面の遺構面を確認した。表土掘削後に検出した第1遺構面では、古代から中世の溝4条、土坑3基を検出した。I層除去後に精査を行ったが、遺構を確認することはできなかった。II層除去後に検出した第2遺構面では、古代の掘立柱建物3棟、土坑2基、ピット11基（掘立柱建物を構成するピットを除く）を検出した。

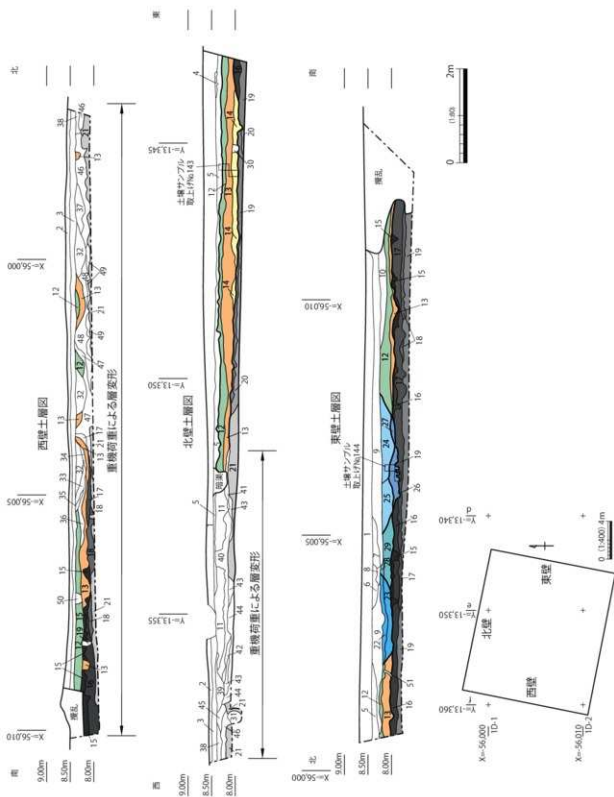
なお、調査区の北西から南西隅にかけては重機荷重による攪乱・変形が著しく、遺構の遺存状況は非常に悪い。

### 第2節 基本層序

本調査区では、調査区の北・西・東の三方向に土層観察用のトレンチを設定して断面観察を行った。



第41図 5区地区割り図



第42図 5区西壁・北壁・東壁土層断面図

表土	1	表土	32	荷重変形	75Y4/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)
表土	2	25Y6/2 灰黄色 細-中砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)	33	荷重変形	25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルト(混じる)
表土	3	25Y6/1 灰黄色 細砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)	34	荷重変形	75Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (粘性ややあり、しまりあり、2mm程度の小礫混じる)
表土	4	25Y1/1 灰白色 粗砂混じりシルト (粘性なし、しまりなし)	35	荷重変形	75Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (下部との境に25Y8/1 灰白色 細砂混じりシルトの水層を伴う)
表土	5	10Y2/2 黒色 細砂混じりシルト(プロックをまばらに含む)	36	荷重変形	75Y4/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (2-5mm程度の小礫混じる)
表土	6	10Y2/3 赤い、黄褐色 細砂混じり粘土 (粘性なし、しまりなし、管状試験含む)	37	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (75Y4/1 灰黄色 細-中砂混じりシルトと混じる)
表土	7	5Y6/1 灰黄色 細砂混じりシルト(プロック、管状試験を含む)	38	荷重変形	25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルト(プロックを含む)
表土	8	25Y1/1 灰白色 中-粗粒砂混じり粘土 (粘性ややあり、しまりやあり、灰、管状試験含む)	39	荷重変形	10Y2/1 灰白色 粗砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトと混じる)
表土	9	75Y5/1 灰色 粗砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)	40	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトが水柱に巻き上がる)
表土	10	10Y2/1 灰白色 細砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり、5mm程度の礫を含む)	41	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトとプロックをまばらに含む)
I層	11	75Y4/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (粘性ややあり、しまりあり)	42	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトが60%程度まばらに混じる)
II層	12	75Y6/1 灰黄色 細砂混じりシルト (粘性ややあり、しまりやあり)	43	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトがまばらに混じる)
III層	13	75Y6/1 灰黄色 細砂混じりシルト (粘性ややあり、しまりやあり)	44	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトがまばらに混じる)
III層	14	10Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)	45	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトがまばらに混じる)
III層	15	25Y7/1 灰白色 細砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)	46	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトがプロック状に混じる)
IV層	16	25Y7/1 灰白色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)	47	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトが巻き上がる)
IV層	17	10Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)	48	荷重変形	5Y5/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルトが巻き上がる)
IV層	18	10Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)	49	荷重変形	75Y4/1 灰色 粘土-中砂混じりシルト (25Y7/1 灰白色 細砂混じりシルトが混じる)
IV層	19	25Y7/1 灰白色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりあり)	50	横見	
V層	20	10Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性あり、しまりあり)	51	縦見	75Y2/2 黒黄色 砂質シルト (しまりなし)
V層	21	75Y8/4 淡黄色 細砂混じりシルト (粘性あり、管状試験を含む)			
V層	22	25Y8/3 淡黄色 細砂混じりシルト (粘性あり、しまりやあり)			
I層	23	25Y6/1 灰黄色 砂質シルト (粘性なし、管状試験を含む、中砂を多く含む)			
I層	24	5Y4/1 灰白色 砂質シルト (粘性なし、管状試験を含む、中砂を多く含む)			
2層	25	25Y6/2 灰黄色 砂質シルト (粘性なし、管状試験を含む)			
2層	26	5Y6/1 灰白色 砂質シルト (粘性なし、管状試験を含む)			
6層	27	75Y2/1 黒色 粘土 (粘性なし、しまりなし)			
6層	28	25Y4/1 灰黄色 粘土-中砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)			
7層	29	25Y4/1 灰黄色 粘土-中砂混じりシルト (粘性なし、しまりやあり)			
ピット	30	25Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性なし、管状試験を含む)			
35ピット	31	25Y2/1 黒色 粘土-中砂混じりシルト (粘性なし、管状試験を含む)			

5区西壁・北壁・東壁土層断面図(第42図)の土層註記

基本層には、各壁面の上層から番号を付し、遺構埋土と攪乱土、その他の堆積層については基本層名（12～21層）より後の番号を振っている（第42図）。

**I層（12層）** 古代から中世の遺物包含層である。灰色極細砂混じりシルトで、土壌化が著しい。層厚10～30cmを測り、調査区全体に堆積すると想定される。ただし、調査区北西部は重機荷重により著しく攪乱を受けている。炭化物を含み、管状斑鉄が顕著である。水田土壌と考えられる。上面で第1遺構面を検出した。

遺物は、土師質土器の坏・高台付坏・皿の他、管状土錘・紡錘車などの土製品が出土している。出土した土師質土器は、概ね10～12世紀の特徴を有している。基盤となる2層の堆積時期と出土遺物の時期から、I層が堆積した時期は11～12世紀頃と考えられる。

**II層（13・14層）** 古代の遺物包含層である。色調・粘性により上下2層に細分した。上層は褐灰色細砂混じりシルトで、やや粘性がある。層厚8～40cmを測り、調査区全体に堆積する。下層は褐灰色極細砂混じりシルトで、上層に比べ粘性が強い。層厚8～20cmを測り、調査区北東側に堆積する。上下2層とも土壌化が著しい。本層除去後に第2遺構面を検出した。

遺物は、土師質土器の坏・高台付坏・高台付皿の他、有孔石錘などが出土している。出土した土師質土器は、概ね10～11世紀頃の特徴を有している。後述するとおり、第2遺構面の遺構の時期が8世紀頃と想定されることから、第2遺構面を覆うII層が堆積した時期は、8～11世紀頃と考えられる。

**III層（15・16層）** 火山灰の二次堆積層と考えられる灰白色極細砂混じりシルトである。一部管状斑鉄を含み、明確に分けることができたため、2層に細分した。上層は北東・南東・南西隅に層厚5～20cmで部分的に存在する。下層は北東、南西隅に層厚20～40cmで部分的に存在する。

当層から遺物の出土はなく、堆積時期は不明である。

**IV層（17～19層）** 火山灰の二次堆積層と考えられる灰白色極細砂混じりシルトとそれが土壌化した層である。17・18層は調査区南側に、19層は調査区全体に堆積する。

当層から遺物の出土はなく、堆積時期は不明である。

**V層（20・21層）** 火山灰の二次堆積層である。淡黄色細砂混じりシルトが調査区のはほぼ全体に存在し、グライ化した明緑灰色極細砂シルトが調査区北東部に堆積する。

当層から遺物の出土はなく、堆積時期は不明である。



## 第3節 検出した遺構と遺物

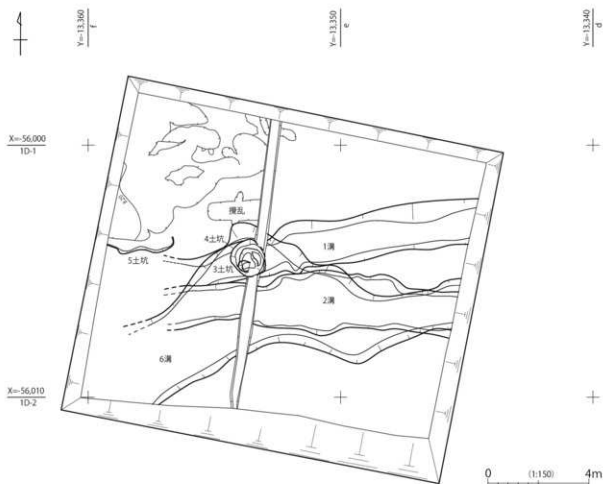
### 第1項 第1遺構面

第1遺構面は、表土除去後にI層及びII層上面で検出した遺構面である。標高8.1～8.4mで、北西から南東にかけて僅かに傾斜するが、ほぼ平坦面をなす。本遺構面において、溝3条、土坑3基を検出した(第43図)。東壁土層断面の観察から、溝がもう1条存在したと考えられるが、兩岸とも他の溝に切られているため、平面的に検出することはできなかった。また、調査区西側については、調査以前の重機荷重による攪乱・変形が著しく、遺構を検出することはできなかった。

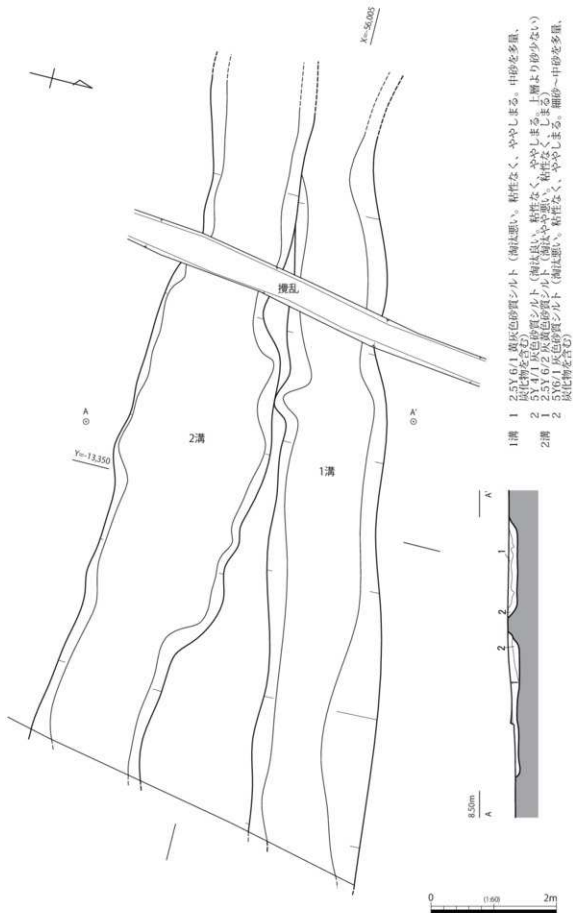
#### 1 溝

##### 1 溝 (第44図・第45図、写真図版23・30・32)

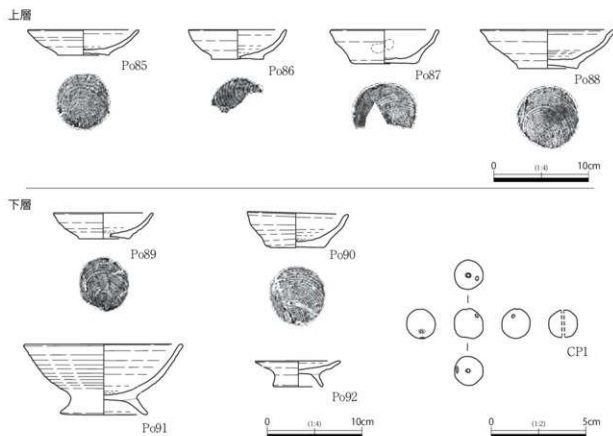
T23-7d-1D-1e～1f・2fグリッドに位置する西南西～東北東方向の溝である。標高約8.1～8.2mの平坦面に立地する。調査区外へ延びるため全体の形状は不明であるが、調査区内では直線状を呈し、僅かに蛇行している。断面形は不整な皿状を呈しており、底面は比較的平坦である。規模は、残存長約11.9m、最大幅約1.8m、深さ最大13cmを測る。西と東の比高差はほとんどない。主軸方位は、



第43図 5区第1遺構面遺構配置図



第44図 5区1溝・2溝



第45図 5区1溝出土遺物

概ねN-81°-Wである。

埋土は2層に分層でき、いずれも灰色砂質シルトである。上層は中砂を多量に含み、下層は上層に比べてやや色調が暗く砂が少ない。本来は水成堆積層と考えられるが、土壌化の影響が著しい。土壌化の進行により堆積構造は明瞭ではないが、形状と埋土の様相から自然流路と考えられる。

出土遺物は、土師質土器、土玉などが認められる。

**土器** Po85～Po88は、埋土上層から出土した土師質土器の坏である。全体的に器高は低く、体部はやや内湾する。いずれもロクロ成形で、回転ナデが顕著に認められるが、Po87はロクロ成形後に指オサエを施している。また、いずれも底面には回転糸切り痕が認められる。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

Po89～Po92は、埋土下層から出土した土師質土器である。Po89・Po90は坏で、底面には回転糸切り痕が認められる。Po89は特に器高が低く、体部は内湾する。Po90は、やや立ち上がり強い。いずれも内面はロクロ成形による回転ナデが顕著に認められるが、外面はやや乱れている。Po91は高台付坏で、「ハ」字状に開くやや高い高台を持つ。器高は高く、体部は内湾するが口縁部は僅かに外側に開く。内外面ともロクロ成形による回転ナデが顕著に認められ、特に外面の回転ナデの単位は細かい。坏部底面は丁寧にナデられており、回転糸切り痕は認められない。Po92は高台付皿で、「ハ」字状に開く高台を持つ。口径は小さく、体部は途中で上方に屈曲し、口縁部は外側へ開く。皿部底面は丁寧にナデられており、回転糸切り痕は認められない。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

**土製品** CP1は土玉である。縦方向の孔は貫通しているが、右側面斜め上方からと左側面斜め下方

から穿孔された孔は貫通しない。

出土土器の時期は概ね10世紀後葉から11世紀中葉頃であるが、基盤となる基本層I層の堆積時期から、遺構の時期は11～12世紀頃と考えられる。

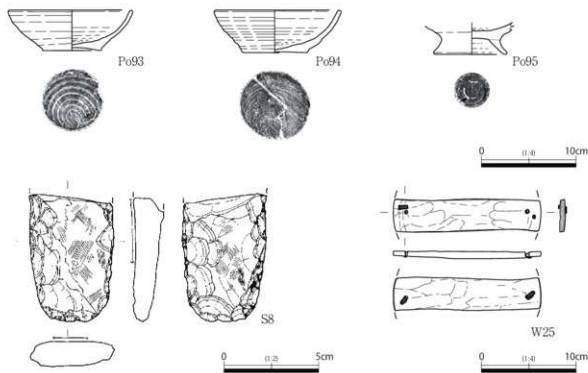
## 2溝 (第44図・第46図、写真図版23・30・33)

T23-7d-1D-1e～1fグリッドに位置する西-東方向の溝である。標高約8.1～8.2mの平坦面に立地する。調査区外へ延びるため全体の形状は不明であるが、調査区内では概ね直線状を呈し、僅かに蛇行している。断面形は、不整な皿状を呈する。規模は、残存長約11.2m、最大幅約2.6m、深さ最大18cmを測る。底面は、西から東に向かって0.11m下がる。主軸方位は、概ねN-90°-Wである。

埋土は2層に分層でき、上層が灰黄色砂質シルト、下層が灰色砂質シルトである。下層は、細砂～中砂を多量に含み、炭化物を含む。本来は水成堆積層と考えられるが、土壌化の影響が著しい。土壌化の進行により堆積構造は明瞭ではないが、形状と埋土の様相から自然流路と考えられる。

出土遺物は、土師質土器、石器、木器が認められる。

**土器** Po93～Po95は土師質土器である。Po93・Po94は坏で、体部が内湾する。Po93はロクロ成形による回転ナデが認められるが、外面はやや不明瞭な部分がある。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。Po94は内外面ともロクロ成形による回転ナデが顕著で、特に外面には工具によるロクロ目目に加えられ、多条の段が認められる。いずれも底面には回転糸切りの痕跡が認められる。11世紀後葉から12世紀中葉頃の特徴を示す。Po95は高台付坏の坏部底面から高台部の破片である。高台は「ハ」字状に開くもので、坏部内面にはロクロ成形による回転ナデが顕著に認められる。坏部底面には回転糸切りの痕跡が僅かに認められるが、高台接着時のナデによってほぼナデ消される。



第46図 5区2溝出土遺物

**石器** S8は凝灰岩製の砥石と考えられる。周縁から剥離調整が施され、正面の中央付近が顕著に摩滅している。

**木器** W25は曲物の底板である。針葉樹の板目材を素材とし、刀子状工具を用いて成形している。破片のため全体像は明らかでないが、側縁付近の対向する位置に2箇所ずつ穿孔されており、それらの孔には樹皮紐が通されている。上面には2孔の間に側板の当たり痕が認められ、側板と底板の接合方法が窺える。

遺構の時期は、最新相の土器から11世紀後葉から12世紀中葉頃と考えられる。

#### 6溝 (第47図・第48図、写真図版22・30)

T23-7d-1D-1e～1f、1D-2fグリッドに位置する西南西～東北東方向の溝である。標高約8.0～8.1mで検出した。調査区外へ延びること、1溝・2溝に大部分を切られることから、全体の形状は不明であるが、調査区内では、やや蛇行している。西から東にかけて溝の幅が狭くなっているように見えるが、これは東側の上部が2溝に切られているためである。断面形は、不整な皿状を呈する。規模は、残存長約15.1m、最大幅約5.0m、深さ最大9cmを測る。底面は、西から東へ向かって16cm下がっている。蛇行しているため主軸方位の計測は困難であるが、調査区内では概ねN-80°Eである。

埋土は、東壁2層に分層できるものの、概ね褐灰色極細砂混じりシルトの単層で、黒褐色極細砂混じりシルトのブロックを含む。部分的に細砂の濃集が認められる。本来は水成堆積層と考えられるが、土壌化の影響が著しい。形状や埋土の様相から、自然流路と考えられる。

出土遺物は、土師質土器、須恵器などが認められる。

Po96は土師質土器の皿である。底径は小さく、口縁部が大きく開く。体部は内湾する。内外面ともロクロ成形による回転ナデが認められ、底面には回転糸切りの痕跡が認められる。11世紀後葉から12世紀中葉の特徴を示す。

Po97・Po98は須恵器の高台付坏で、坏下部から高台部の破片である。「ハ」字状に開いた低い高台を持つ。坏部は、内外面ともロクロ成形による回転ナデが認められるが、坏底部内面の回転ナデは螺旋状にならない。坏部底面は高台接合時のナデのため不明瞭であるが、ヘラ切りの痕跡が認められる。7世紀末から8世紀前半の特徴を示す。

遺構の時期は、最新相の土器と基盤となる基本層I層の堆積時期から11～12世紀頃と考えられる。

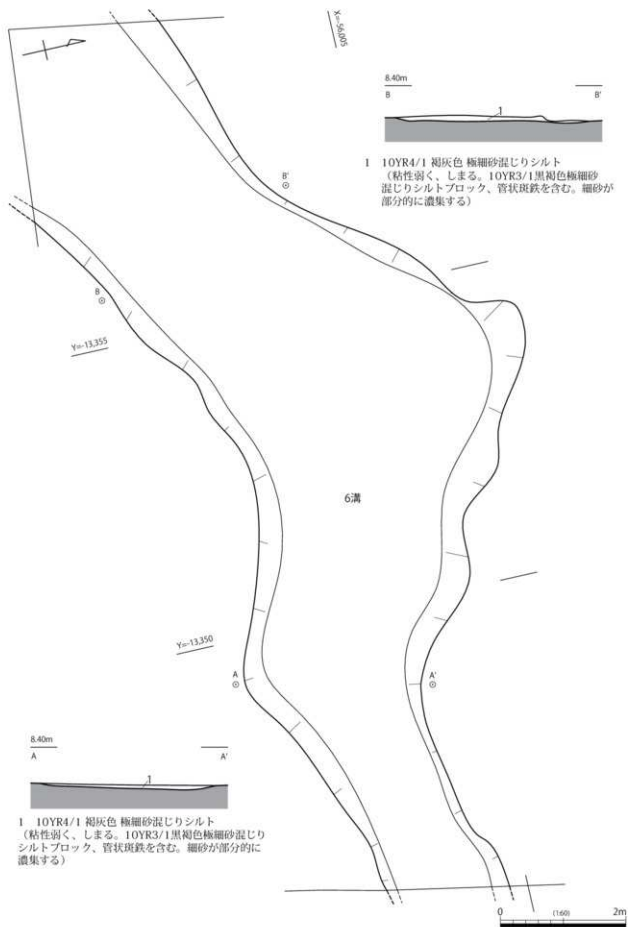
#### 7溝 (第42図・第49図、写真図版31・33)

T23-7d-1D-1fグリッドに位置する溝である。北岸を1溝、南岸を2溝に切られて大部分が失われているため、平面形、断面形は不明である。規模は、残存長約5.2m、残存幅約1.6m(底面)、深さ最大24cmを測る。

埋土は2層に分層でき、黄灰色極細砂混じりシルトおよび黄灰色細砂混じりシルトである。部分的にラミナが認められることから水成堆積層と考えられるが、土壌化の影響が著しい。埋土の様相から、自然流路と考えられる。

出土遺物は、須恵器、石器などが認められる。

**土器** Po99～Po101は須恵器である。Po99・Po100は坏である。いずれも内外面ともロクロ成形による回転ナデが認められるが、坏底部内面の回転ナデは螺旋状にならない。底面には回転糸切りの痕



第47図 5区6溝

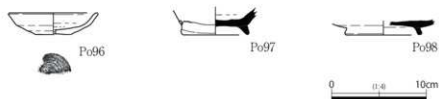
跡が認められる。Po99は底部が平底で、底部から内湾気味に立ち上がる。Po100は、底部が高さ4mm程度の台状を呈する。8世紀中頃から後半の特徴を示す。

Po101は高台付坯の坏底部から高台部の破片である。坏部は、内外面ともロクロ成形による回転ナデが認められるが、坏底部内面の回転ナデは螺旋状にならない。坏部底面には、ヘラ切りの痕跡が認められる。7世紀末から8世紀前半の特徴を示す。

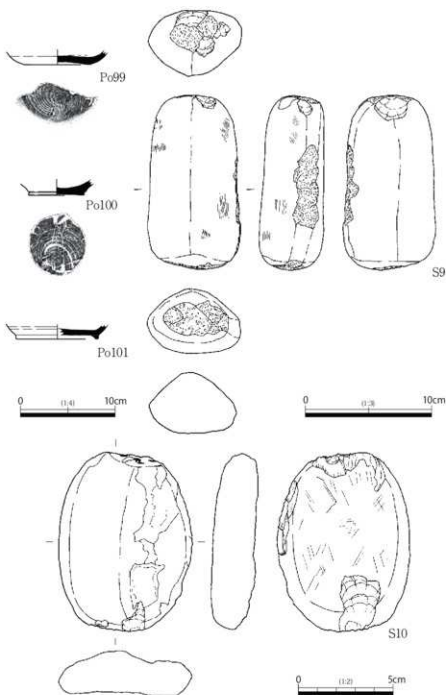
**石器** S9は敲石である。テイサイト製で、上下端部と右側縁に敲打痕が認められる。下端部の敲打痕には、一部に擦痕が認められ、敲打後に磨石状に利用したことが分かる。

S10は打欠石錘と考えられる。凝灰岩製で、上下端部に打ち欠きの痕跡が認められる。右側縁裏面側と上端部表面側により切削痕が認められる。

出土土器の時期は概ね7世紀末から8世紀後半であるが、基盤となる基本層I層の堆積時期から、遺構の時期は11～12世紀頃と考えられる。



第48図 5区6溝出土遺物



第49図 5区7溝出土遺物

## 2 土坑

### 3土坑（第50図、写真図版24・31）

T23-7d-1D-1fグリッドに位置し、標高約8.2mの平坦面に立地する。4土坑と重複しており、4土坑を掘り直した遺構と考えられる。平面形は、円形を呈すると想定されるが、東側を暗渠による攪乱で失っている。断面形は、逆台形を呈している。規模は、残存長径50cm、残存短径41cm、深さ最大20cmを測る。針葉樹製の曲木側板状の板が掘り方に張り付くように出土したが、この板は壁面を保護する枠として設置されたと想定される。

埋土は4層に分層でき、上から黄灰色シルト、暗灰黄色シルト質細砂～中砂、にぶい黄褐色中砂～粗砂、暗灰黄色シルト質細砂～中砂である。3土坑の掘削中、湧水が認められた。木枠は壁面崩落を防止する機能が想定されることから、3土坑は井戸として利用されたと考えられる。

出土遺物は、土師質土器が認められる。Po102は坏の底部片である。内面はロクロ成形による回転ナデが顕著で、底面には回転糸切りの痕跡が認められる。

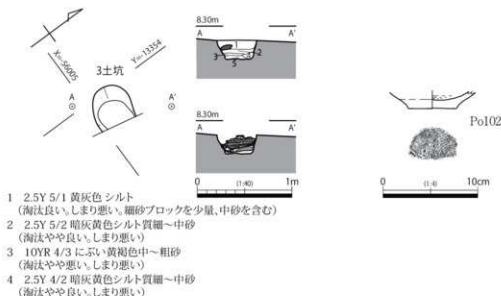
遺構の時期は、基盤となる4土坑の埋没時期から11～12世紀以降と考えられる。

### 4土坑（第51図、写真図版24・31・33）

T23-7d-1C-3jグリッドに位置し、標高約8.2mの平坦面に立地する。3土坑と重複しており、3土坑に先行する遺構である。

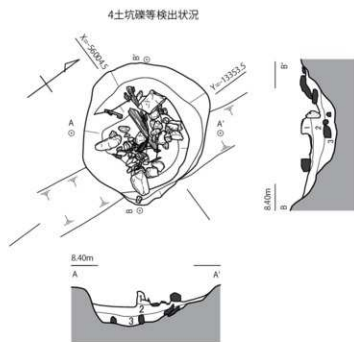
暗渠による攪乱で中央付近を失っているが、平面形はやや不整形な長方形を呈していたと考えられる。断面形はやや大きく開いた逆台形を呈し、中段を有する。複数の杭が打ち込まれているほか、底面付近からは多数の礫が出土した。規模は、残存長径約1.5m、残存短径約1.2m、深さ最大36cmを測る。

埋土は残存部で3層に分層でき、上から黒褐色極細砂～細砂混じりシルト、黒褐色極細砂混じりシルト、暗灰黄色シルト混じり極細砂～シルトである。中位から底面にかけて粒径が粗くなる傾向があり、木片を多く含んでいる。3土坑と同様、4土坑の掘削中においても湧水が認められた。4土坑の



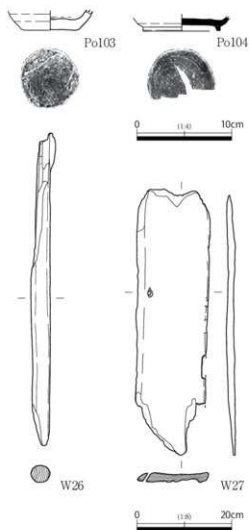
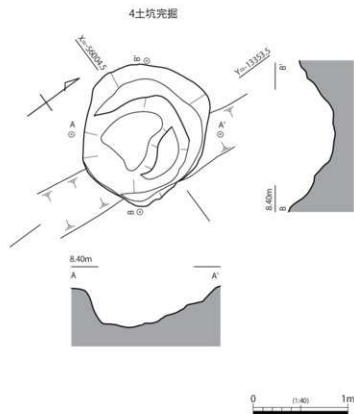
第50図 5区3土坑及び出土遺物





- 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂～細砂混じりシルト  
(粘性あり、やわらかい、中砂～極細砂、φ5mm程度の小礫を含む)
- 10YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト  
(粘性あり、やわらかい、細砂～中砂を含む)
- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり 極細砂～中砂  
(粘性なし、やわらかい、2.5Y7/2 灰黄色のブロックを少量、粗砂、極粗砂、φ2～10mm程度の小礫を含む)

- 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂～細砂混じりシルト  
(粘性あり、やわらかい、中砂～極細砂、φ5mm程度の小礫を含む)
- 10YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト  
(粘性あり、やわらかい、細砂～中砂を含む)
- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト混じり 極細砂～中砂  
(粘性なし、やわらかい、2.5Y7/2 灰黄色のブロックを少量、粗砂、極粗砂、φ2～10mm程度の小礫を含む)



第51図 5区4土坑及び出土遺物

杭や礫の様相及び3土坑の木杵の様相から、これらの遺構は井戸として利用されたと想定される。

出土遺物は、土師質土器、須恵器、木器などが認められる。

**土器** Po103は土師質土器の坏である。底部の破片で、底部内面には螺旋状でない回転ナデが認められる。底面は回転糸切りの痕跡が認められる。Po104は須恵器の高台付坏である。坏底部から高台部の破片で、高台は低いが丁寧に接合されている。底部内面は回転ナデの後に丁寧にナデで平坦に調整し、底面についても回転糸切りの痕跡をほぼナデ消している。

**木器** W26は杭である。針葉樹の芯去材を素材とし、先端の一部を削っている。W27は板である。針葉樹の板目材で、一箇所に孔が認められる。

遺構の時期は、基盤となる1溝の埋没時期から11～12世紀頃以降と考えられる。

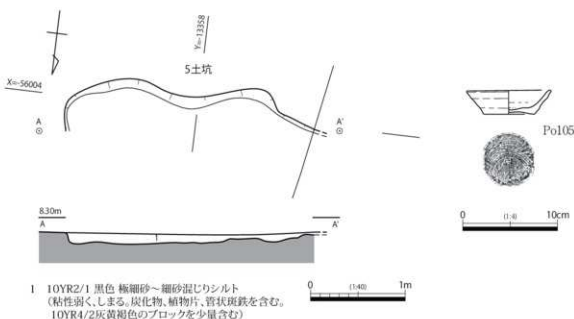
### 5土坑 (第52図、写真図版22・31)

T23-7d-1D-1fグリッドに位置する。標高約8.1mで検出した。北半が重機荷重の攪乱により失われているが、平面形は不整楕円形を呈すると考えられる。断面形は逆台形を呈するが、上部は攪乱により失われている。規模は、残存長径約2.7m、残存短径54cm、深さ最大11cmを測る。主軸方位は、N-83°-Eである。第2遺構面の掘立柱建物1(24ピット)を切る。

埋土は黒色極細砂～細砂混じりシルトの単層で、炭化物、植物片、少量の灰黄褐色シルトブロックを含む。遺構の性格は不明である。

遺物は土師質土器が認められる。Po105は皿である。器高が高く口縁部が外傾し、小型の環形状を呈する。底部内面はロクロ成形による螺旋状の回転ナデが認められ、底面は回転糸切りの痕跡が認められる。11世紀後葉から12世紀中葉頃の特徴を示す。

遺構の時期は、出土土器から11～12世紀と考えられる。



第52図 5区5土坑及び出土遺物

### 3 遺構の変遷 (第53図)

第1遺構面で検出した遺構の変遷をまとめると以下のようになる。

#### (1) 第1段階

第1遺構面の最も古い段階で、6溝と7溝が該当する。ただし、平面的な切り合い関係から7溝は6溝に先行する。

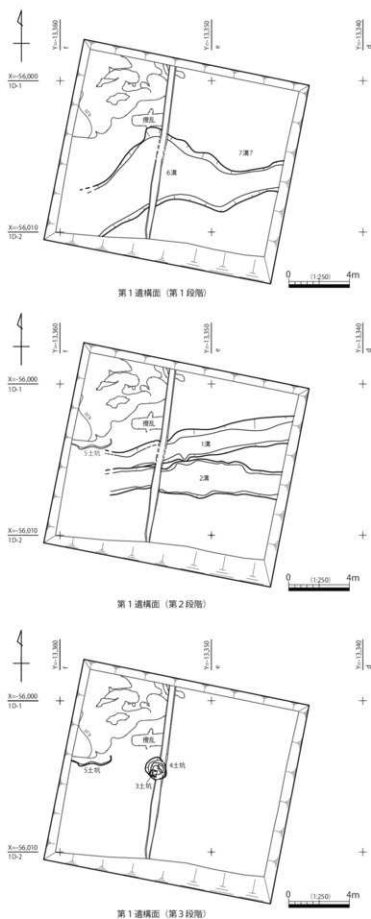
#### (2) 第2段階

6溝及び7溝が埋没した後の段階で、1溝及び2溝が該当する。1溝と2溝に直接的な切り合い関係が認められないことから、同時に併存した可能性がある。

#### (3) 第3段階

1溝及び2溝が埋没した後の段階で、3土坑、4土坑、5土坑が該当する。3土坑と4土坑については、1溝・2溝などの自然流路が埋没した後、湧水地点に井戸を設けた痕跡と考えられる。

5土坑は、1溝と重複する位置関係にあるが切られていないため、1溝に後続するものとして、この段階に含めた。



第53図 5区第1遺構面遺構変遷図

## 第2項 第2遺構面

第2遺構面は、基本層I層及びII層除去後に検出した遺構面である。検出面は、標高7.9～8.2mで、西から東にかけて僅かに傾斜する。本遺構面において、掘立柱建物3棟、土坑2基、ピット10基を検出した(第54図)。

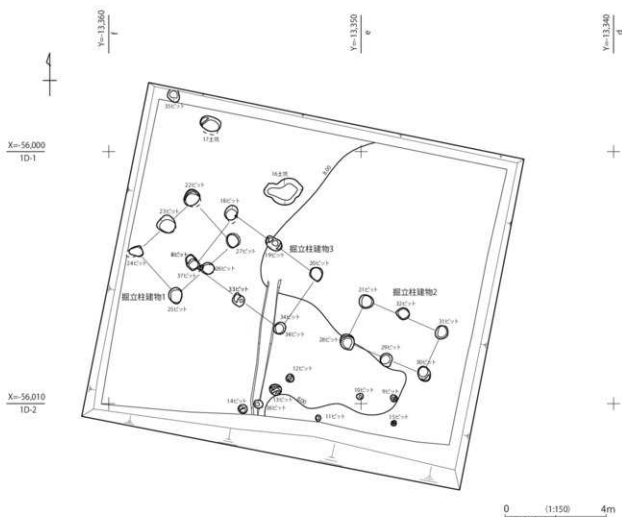
掘立柱建物は、調査区中央付近を東西に展開しており、掘立柱建物1と掘立柱建物3は重複する。また、掘立柱建物1と掘立柱建物2・3は主軸方向が異なっていることから、両者に時期差が存在する可能性がある。土坑は調査区北西側に所在し、ピット群は調査区南東側に集中する。調査区西半の遺構はいずれも重機の荷重痕による変形が認められた。

第2遺構面の遺構に伴う土器はほとんど認められないが、第1遺構面の6溝・7溝に8世紀頃の土器が散見されることから、8世紀頃の遺構群の可能性はある。

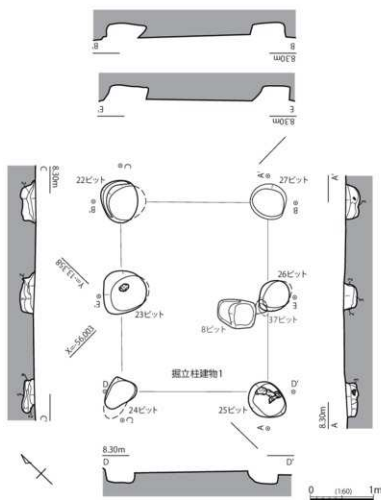
### 1 掘立柱建物

#### 掘立柱建物1(第55図、写真図版25・26)

T23-7d-1D-1fグリッドに位置する。標高約8.0～8.1mで検出した。



第54図 5区第2遺構面遺構配置図



## 22ピット

- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。2.5GY7/1明オリーブ灰色極細砂混じりシルトのブロックを20%程度, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)

## 23ピット

- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを50%程度, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。貫状痕跡を含む)
- 5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを50%程度, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。10YR6/3にふい, 黄褐色極細砂混じりシルトのブロックを少量, 貫状痕跡を含む)

## 24ピット

- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。木片, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y4/1 黄灰色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を少量, 磁粉を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを5%程度, 貫状痕跡を少量含む)
- 5Y7/1 灰白色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。2.5Y2/1黒色極細砂混じりシルトを少量含む)

## 25ピット

- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。10YR 4/1期灰色極細砂混じりシルト, 10YR 7/2にふい, 黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を少量含む)
- 5Y7/1 灰白色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。2.5Y2/1黒色極細砂混じりシルトの小ブロック, 貫状痕跡を少量含む)

## 26ピット

- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。2.5Y7/2灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y7/2 灰白色 極細砂混じりシルト(粘性弱く, しまる。10YR2/1黒色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 5Y7/1 灰白色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。10YR2/1黒色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)

## 27ピット

- 5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを10%程度, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを10%程度, 貫状痕跡を含む)
- 5Y7/1 灰白色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。10YR4/1期灰色極細砂混じりシルト, 2.5Y2/1黒色極細砂混じりシルトのブロックを20%程度, 貫状痕跡を少量含む)

第55図 5区掘立柱建物1

柱穴は6基(22・25・26・27ピット)で構成される。重機荷重によって、いずれも変形が著しかった。掘立柱建物3と重複しているが、新旧関係は不明である。24ピットは第1遺構面の5土坑に切られている。ピットの埋土は、基本的に黒色極細砂混じりシルトであるが、24～27ピットの底部には灰白色極細砂混じりシルトが認められる。

規模は、桁行2間×梁行1間で、桁行が西側柱列で約3.0m、東側柱列で約3.1m、梁行が南側柱列で約2.3m、北側柱列で約2.2mを測る。桁行の柱間は1.4m～1.6m、梁行の柱間は2.6～2.8mを測る。主軸方位はN46°-Eで、ピット底面の標高は約7.8～7.9mである。25ピットでは、底面付近で礫がまとまって出土しており、根石であった可能性がある。

ピット内からの出土遺物は、いずれも土器の細片で図化できなかった。遺構の時期は、前述のとおり8世紀頃の可能性がある。

#### 掘立柱建物2(第56図、写真図版27・28・31)

T23-7d-1D-1e-1fグリッドに位置する。標高約7.9～8.0mで検出した。

柱穴は6基(21・28～32ピット)で構成されている。ピットの埋土は基本的に黒色極細砂混じりシルトだが、30ピットでは黒褐色極細砂混じりシルトが認められる。他の遺構に比べてピット内の湧水が著しかった。

規模は、桁行2間×梁行1間で、桁行が約3.3m、梁行が約1.8mを測る。桁行の柱間は1.6～1.7m、梁行の柱間は1.7～1.8mを測る。主軸方位はN67°-Wで、ピット底面の標高は約7.3～7.5mである。

ピット内からの出土遺物は、少量の土器が認められた。Po106は29ピット埋土中層で出土した土師器の高台付坏である。高台は極めて低く、底部の最外周に丁寧に接合されている。内面はナデで仕上げられ、坏部底面はヘラ切りの痕跡をナデ消している。底部の小破片ではあるが、8世紀頃の特徴を有すると考えられる。遺構の時期は、出土遺物から8世紀頃と考えられる。

#### 掘立柱建物3(第57図、写真図版25～27)

T23-7d-1D-1fグリッドに位置する。標高約7.9～8.1mで検出した。

柱穴は6基(8・18～20・33・34ピット)で構成されている。掘立柱建物1と重複しているが、新旧関係は不明である。ピットの埋土は、基本的に黒色～黒褐色極細砂混じりシルトであるが、部分的に灰白色極細砂混じりシルトや灰黄色極細砂混じりシルトが認められる。

規模は、桁行2間×梁行1間で、桁行が約4.2m、梁行が約3.2mを測る。桁行の柱間は1.9～2.3m、梁行の柱間は3.2mを測る。主軸方位はN55°-Wで、ピット底面の標高は約7.7～7.8mである。

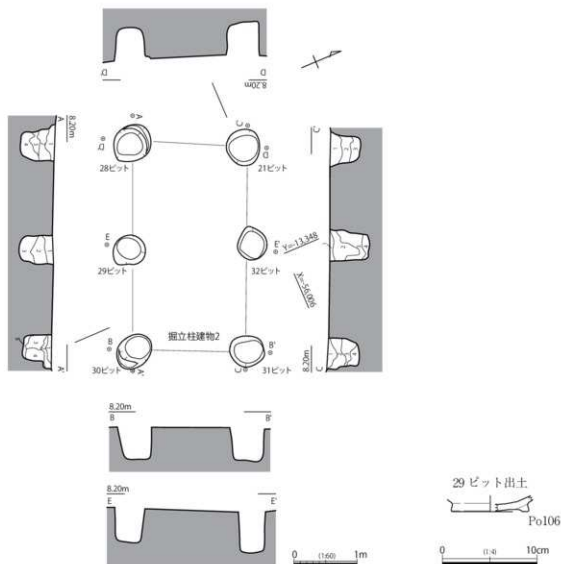
出土遺物はなかったが、同一遺構面の他遺構の時期から8世紀頃と考えられる。

## 2 土坑

### 16土坑(第58図、写真図版28)

T23-7d-1D-1fグリッドに位置する。標高約8.0～8.1mで検出した。

平面形は不定形な楕円形を呈し、断面形は上部が開いた逆台形を呈している。規模は、長径約1.6m、短径約1.1m、深さは最大10cmを測る。主軸方位は、N87°-Eである。埋土は、基本的に上から黒色～黒褐色極細砂混じりシルト、黒褐色シルト混じり極細砂、灰白色極細砂混じりシルトである。遺構



## 21ピット

- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性弱く, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルト, 10YR4/1期灰色極細砂混じりシルトの小ブロックを微量含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルト, 10YR4/1期灰色極細砂混じりシルトのブロックを30%程度含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを微量含む)

## 28ピット

- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。10YR7/2にふくみ・黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックをまばらに, 5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを5%程度含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを少量含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。10YR4/1期灰色極細砂混じりシルトのブロックが浮遊する)

## 29ピット

- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性弱く, しまる。10YR7/2にふくみ・黄褐色極細砂混じりシルトを少量, 層下部に炭化物をまばらに含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性弱く, ややしまる。炭化物を少量, 層との間に5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロック(φ1~50mm)を多量含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを少量含む)

## 30ピット

- 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。2.5Y7/2灰黄色極細砂混じりシルトのブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルト, 10YR4/1期灰色極細砂混じりシルトのブロックを40%程度, 貫状痕跡を含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性強く, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを微量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。10YR4/1期灰色極細砂混じりシルトの小ブロックを5%程度, 炭化物, 貫状痕跡を少量含む)
- 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト(粘性あり, やわらかい。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを含む)

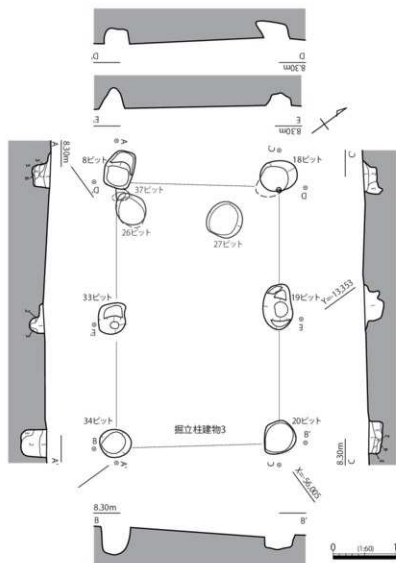
## 31ピット

- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性弱く, しまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを微量, 炭化物を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを多量, 炭化物を微量含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, ややしまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを少量含む)
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトを多量含む)

## 32ピット

- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを少量, 貫状痕跡を含む)
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, しまる。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを5%程度, 貫状痕跡を含む)
- 5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト(粘性あり, やわらかい。有機質に富む。5Y7/1灰白色極細砂混じりシルトのブロックを少量, 貫状痕跡を含む)

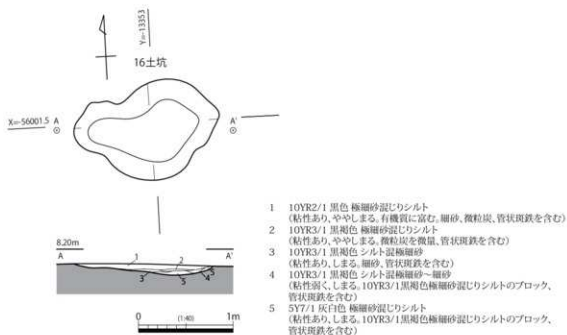
第56図 5区掘立柱建物2



- 8ビット
- 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性弱く、固くしまる。有機質に富む。φ5～30mmの小礫、貫状虫跡、2.5Y6/2 灰黄色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量含む)
  - 10YR1/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。有機質に富む。2.5Y6/2 灰黄色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量含む)
  - 10YR3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。有機質に富む。2.5Y6/2 灰黄色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量含む)
  - 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。有機質に富む。2.5Y6/2 灰黄色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量含む)
  - 2.5Y3/2 黒褐色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる)
  - 2.5Y6/2 灰黄色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる)
- 18ビット
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。有機質に富む。10YR7/2 に近い黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを5%程度、貫状虫跡を含む)
  - 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。有機質に富む。5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量、貫状虫跡を含む)
  - 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。有機質に富む。10YR7/2 に近い黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロック、5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを10%程度、貫状虫跡を含む)
- 19ビット
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。有機質に富む。5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルト、10YR4/1 褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを5%程度、貫状虫跡を含む)
- 20ビット
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。有機質に富む。5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量、貫状虫跡を含む)
  - 5Y7/1 灰白色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。2.5Y2/1 黒色極細砂混じりシルト、貫状虫跡を含む)
  - 2.5Y2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、しまる。有機質に富む。5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量、貫状虫跡を含む)
  - 2.5Y7/2 灰黄色 細砂～中砂 (粘性あり、ややしまる。2.5Y2/1 黒色極細砂混じりシルトを少量含む)
- 33ビット
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性弱く、ややしまる。有機質に富む。5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量含む)
  - 2.5Y6/2 灰黄色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。地がゆるかに湿る)
  - 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。10YR8/4 灰黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量含む)
- 34ビット
- 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる。10YR7/2 に近い黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを少量、貫状虫跡を含む)
  - 10YR2/1 黒色 極細砂混じりシルト (粘性あり、ややしまる (1層より濃い)、5Y7/1 灰白色極細砂混じりシルトの小ブロックをまばらに含む)
  - 2.5Y3/1 黒褐色 極細砂混じりシルト (粘性弱く、ややしまる。10YR8/4 灰黄褐色極細砂混じりシルトの小ブロックを多量含む)

第57図 5区掘立柱建物3





第58図 5区16土坑

の性格は不明である。

出土遺物は土器片1点のみで、図化はできなかった。遺構の時期は、同一遺構面の他遺構の時期から8世紀頃と考えられる。

### 17土坑 (第59図、写真図版29・31)

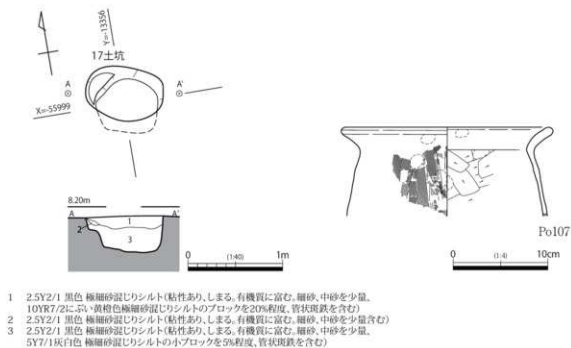
T23-6d-10D-10f グリッドに位置する。標高約8.1mで検出した。

平面形は、不定形な楕円形を呈するが、重機荷重によって変形していると考えられる。断面形は、逆台形を呈している。規模は、長径約0.8m、短径約0.6m、深さ最大38cmを測る。主軸方位は、N-78°-Wである。

埋土は、基本的に黒色極細砂混じりシルトで、底面付近に地山の小ブロックを少量含む。土坑の底面から土器(Po107)が出土した。遺構の性格は、土器の出土状況から貯蔵穴と考えられる。

出土遺物は、いずれも土器である。Po107は土師質土器の甕で、口縁部から胴部の破片である。口縁部は外反する単純口縁を呈し、口縁端部は内側に僅かに肥厚する。外面の調整は、口縁部がヨコナデ、頸部から胴部外面が縦方向のハケメである。内面の調整は、口縁部がヨコナデとナデ、頸部以下が丁寧なヘラケズリで、ヨコナデ・ナデとヘラケズリの境界には、明瞭な稜が形成される。

遺構の時期は、出土土器と同一遺構面の他遺構の時期から8世紀頃と考えられる。



第59図 5区17土坑

### 3 ビット

#### 9～15、35～37ビット (第60図・第61図、第10表、写真図版29)

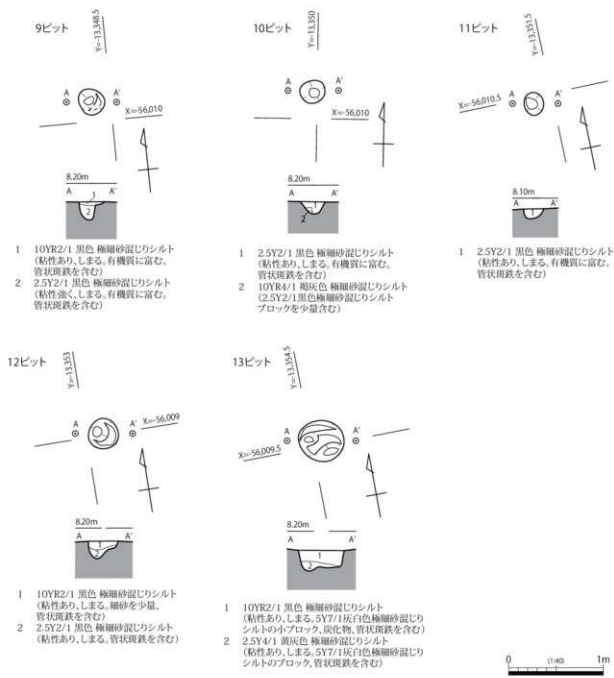
掘立柱建物を構成しないビットを10基検出した。

9～15、36ビットは、T23-7d-1D-1e・1f、2e・2fグリッドに位置する。このうち、9～12、14、15、36ビットは掘立柱建物を構成していたビットと比較して著しく小規模で浅い。13ビットは周辺のビットと比較してやや大きいのが、底面の凹凸が激しい。12～15ビットからは土器が僅かに出土しているが、いずれも細片で時期は不明である。

35ビットはT23-6d-10D-10fグリッドに位置している。北端は調査区外となる。土器の細片が1点出土しているが、時期は不明である。

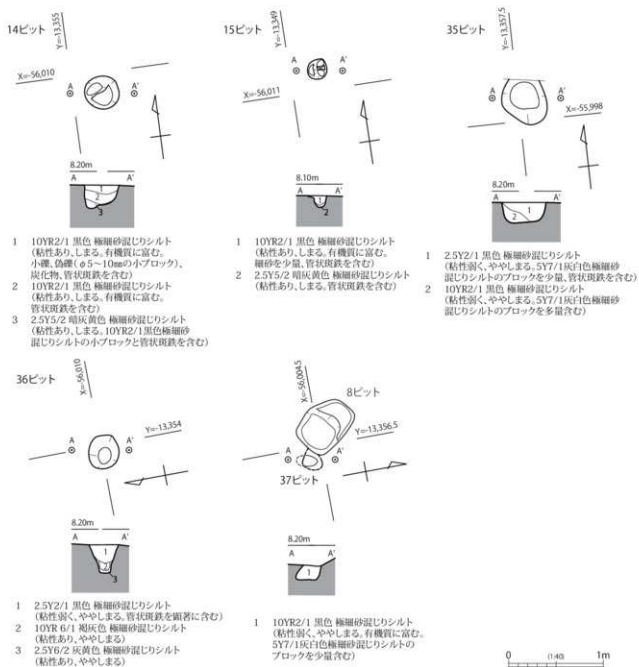
37ビットはT23-7d-1D-1fグリッドに位置している。掘立柱建物1・3を構成する8ビットと26ビットの間に位置し、遺構の規模は極めて小さい。現地では単独の遺構として調査を行ったが、周辺は重機荷重による変形が著しく、周辺のビットが変形した部分である可能性も考えられる。遺物は出土しなかった。

これらの遺構の性格は、不明である。



第60図 5区9ピット・10ピット・11ピット・12ピット・13ピット

第4章 5区の調査成果



第 61 図 5 区 14 ピット・15 ピット・35 ピット・36 ピット・37 ピット

## 第4節 遺構外出土遺物

### 第1項 I層出土遺物

I層からは、土師質土器、土製品などが出土した。主なものを図化して報告する。

#### 1 土器 (第62図、写真図版32)

Po108～Po111は土師質土器である。

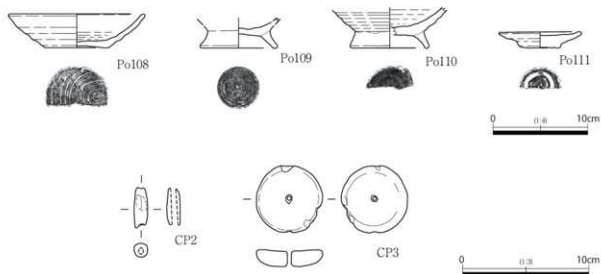
Po108は坏で、体部が内湾する。内外面ともロクロ成形による回転ナデが顕著で、外面の凹凸も顕在化しているが、底部内面の回転ナデは螺旋状ではない。底面には回転糸切りの痕跡が認められる。10世紀頃の特徴を示す。

Po109・Po110は、高台付坏の坏底部から高台部の破片である。いずれも「ハ」字状に開くやや高い高台を持ち、坏部底面は丁寧にナデられる。高台の接合は、やや粗雑である。坏部は内外面ともロクロ成形による回転ナデが顕著で、底部内面の回転ナデは螺旋状を呈する。Po110は、坏部外面に回転ナデによる段が顕著に認められる。器形の全体像は明らかでないが、残存部位では11世紀から12世紀頃の特徴を示す。

Po111は皿である。底部内面は平坦で、口縁部が上方に僅かにつまみ上げられる。底部は高台状の高まりが成形され、底面に凹線状の窪みが1条巡らされる。11世紀後葉から12世紀後葉の高台付皿や柱状高台を意識したものと考えられる。

#### 2 土製品 (第62図、写真図版32)

CP2は管状土錘である。孔内面に工具痕が認められないことから、粘土を棒に巻き付けて成形し、焼成したものと考えられる。CP3は紡錘車と考えられる。正面は平坦で、裏面は丸い凸状を呈する。孔の上下両端は、使用によりやや広がっている。



第62図 5区I層出土土器・土製品

## 第2項 II層出土遺物

II層からは、土師質土器、石器、木器などが出土した。主なものを図化して報告する。

### 1 土器 (第63図、写真図版32)

Po112～Po119は土師質土器である。

Po112・Po113は小型の坏で、底面には回転糸切りの痕跡が認められる。Po112は体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が僅かに外側へつまみ出される。内外面とも回転ナデが施されるが、痕跡は顕著ではなく、底部内面の回転ナデも螺旋状を呈さない。10世紀頃の特徴を示す。Po113は体部が緩やかに内湾しながら立ち上がる。内外面とも回転ナデが顕著に認められ、底部内面の回転ナデは螺旋状を呈する。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

Po114～Po116は坏で、底面には回転糸切りの痕跡が認められる。Po114は体部が僅かに内湾しながら立ち上がり、口縁部が上方につまみ上げられる。底部内面は平坦面がなく、播り鉢状を呈する。内外面とも回転ナデが顕著に認められ、底部内面の回転ナデは螺旋状を呈する。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。Po115は体部が内湾しながら立ち上がる。内外面とも回転ナデが顕著に認められる。Po116は体部が外傾しながら立ち上がり、口縁部が上方へ僅かにつまみ上げられる。内外面とも回転ナデが顕著に認められ、底部内面の回転ナデは螺旋状を呈する。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

Po117は高台付坏である。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は僅かに外側へつまみ出される。高台は「ハ」字状を呈し、接合は粗雑である。内外面とも粗い回転ナデの痕跡が顕著であり、坏底部内面の回転ナデは螺旋状を呈する。坏部底面は丁寧にナデられる。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

Po118は高台付皿である。皿底部から口縁部に向かって大きく外傾する。高台はやや高く、「ハ」字状を呈する。皿部は内外面とも回転ナデで、底面は高台の接合時に丁寧にナデられている。10世紀後葉から11世紀中葉頃の特徴を示す。

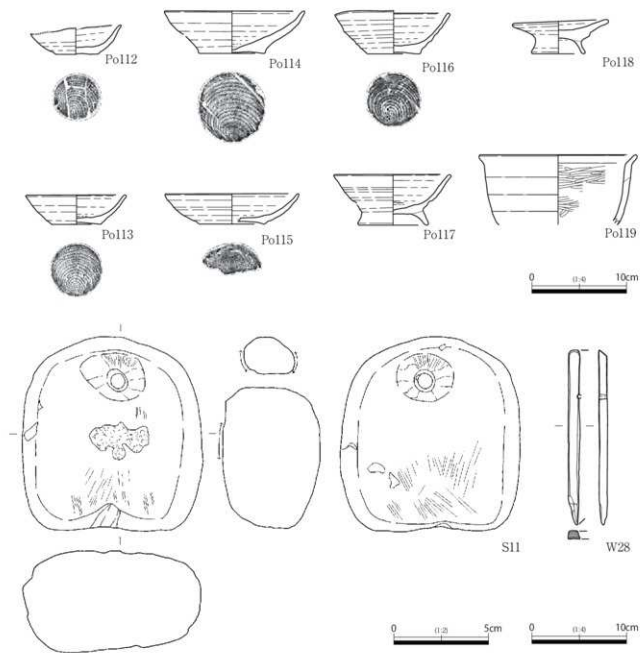
Po119は鍋の口縁部から胴部である。胴部は僅かに内湾しながら立ち上がり、口縁部は外側へつまみ出されて外傾する。外面は回転ナデ、内面は口縁部が回転ナデ、頸部から胴部がミガキである。

### 2 石器 (第63図、写真図版33)

S11は有孔石錘である。デイサイト製の礫を素材とし、礫の上部に正面裏面の両側から穿孔している。孔の上部は正面、裏面とも紐ずれ痕が認められる。正面中央付近には敲打痕が認められ、正面及び裏面の下半はやや摩耗している。

### 3 木器 (第63図、写真図版33)

W28は下端が切削によって尖らされ、やや上部よりに穿孔された板状の木製品である。針葉樹の板目材を素材とする。右半を欠損しており全体の形状が把握できないため、詳細は不明である。



第63図 5区Ⅱ層出土遺物

## 第5節 遺構計測表

第8表 5区掘立柱建物計測表

建物名 (集合遺構名)	地区 T23-	遺構 面	主軸	建物種類	平面規模 (桁行×梁行)	総長 (m) (桁行×梁行)	桁行 柱間 (m)	梁行 柱間 (m)	身倉 面積 (m <sup>2</sup> )	重複関係	備考
掘立柱建物1	76-1D-1f	2	N-46°-E	側柱建物	2間×1間	3.1×2.3	1.4~1.6	2.6~2.8	7.13	掘立柱建物3	
掘立柱建物2	76-1D-1e・1f	2	N-67°-W	側柱建物	2間×1間	3.3×1.8	1.6~1.7	1.7~1.8	5.94		
掘立柱建物3	76-1D-1f	2	N-54°-W	側柱建物	2間×1間	4.2×3.2	1.9~2.3	3.2	13.44	掘立柱建物1	

第9表 5区溝計測表

個別遺構名	地区名 T23-	遺構面	規模 (m)			備考 (※新>旧)
			検出長	検出幅	残存深	
1溝	76-1D-1f・2f・1e	1	11.9	1.8	0.13	1溝>7溝
2溝	76-1D-1f・2f・1e	1	11.2	2.6	0.18	2溝>6溝
6溝	76-1D-2e・2f・1f・1e	1	15.1	5.03	0.09	2溝>6溝>7溝
7溝	76-1D-2e・2f・1f・1e	1	5.2	1.6	0.24	6溝>7溝、1溝>7溝

第10表 5区土坑・ピット計測表

個別遺構名	集合遺構名	地区名 T23-	遺構面	規模 (cm)			備考
				検出長	検出幅	残存深	
3土坑		76-1D-1f	1	50	41	20	井Ⅱ
4土坑		76-1D-1f	1	150	124	36	井Ⅱ
5土坑		76-1D-1f	1	269	54	11	
8ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	1	64	49	33	
9ピット		76-1D-1e	2	29	26	9	
10ピット		76-1D-1e・1f	2	26	24	12	
11ピット		76-1D-2f	2	24	20	10	
12ピット		76-1D-1f	2	32	31	18	
13ピット		76-1D-1f	2	48	43	21	
14ピット		76-1D-2f	2	37	34	24	
15ピット		76-1D-2e	2	22	20	12	
16土坑		76-1D-1f	2	155	105	10	
17土坑		66-10D-10f	2	82	55	38	
18ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	2	58	47	28	
19ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	2	72	47	30	
20ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	2	57	51	21	
21ピット	掘立柱建物2	76-1D-1e・1f	2	57	52	47	
22ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	67	58	23	
23ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	73	71	21	
24ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	55	42	20	
25ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	65	53	19	礎あり。根石か?
26ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	51	39	21	
27ピット	掘立柱建物1	76-1D-1f	2	59	56	22	
28ピット	掘立柱建物2	76-1D-1f	2	66	56	53	
29ピット	掘立柱建物2	76-1D-1e	2	53	49	53	
30ピット	掘立柱建物2	76-1D-1e	2	61	49	46	
31ピット	掘立柱建物2	76-1D-1e	2	56	49	50	
32ピット	掘立柱建物2	76-1D-1e	2	53	46	63	
33ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	2	55	48	23	
34ピット	掘立柱建物3	76-1D-1f	2	50	44	40	
35ピット		66-10D-10f	2	55	47	21	
36ピット		76-1D-1f・2f	2	37	33	30	
37ピット		76-1D-1f	2	24	18	15	



## 第6節 遺物観察表

第11表 5区土器観察表

種別 番号	図 番号	取上 番号	地区 T23	遺構 ・位置	器種	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色調	備考
45	Ps85	64	76-1D-1f	1土 上層	土師貫 土器	高: 265 口: φ 117 底: 54	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 10Y8/4 - 7.5Y7/4浅 黄褐色 - 5Y7/6橙 - 7.5Y3/1 赤褐色 内面: 5Y8/6 Lに赤い橙	外面黒褐色
*	Ps86	32	76-1D-1f	1土 上層	土師貫 土器	高: 31 口: φ 10.3 底: φ 5.5	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (3.5cm以 下の砂粒含 む)	良好	外面: 7.5Y7/3 に赤い橙 内面: 10Y8/2 灰黄褐色	
*	Ps87	65-1	1D-17b	1土 上層	土師貫 土器	高: 36 口: φ 10.9 底: 6.8	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, 指ササエ、(底部) 回転糸切り 内面: (口縁部一底部) ココナデ, 指ササエ、(底部一底部) 回転 ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 10Y7/2 に赤い橙 内面: 10Y7/2 に赤い橙	外面黒褐色
*	Ps88	62	76-1D-1f	1土 上層	土師貫 土器	高: 41 口: φ 14.2 底: 6.2	外面: (口縁部一底部) ココナデ, 回転ナデ、(底部) 回転糸切り 内面: (口縁部) ココナデ、(口縁 部一底部) 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 10Y7/2 に赤い黄褐色 内面: 10Y7/2 に赤い黄褐色 7.5Y8/4 黄褐色	内面黒褐色
*	Ps89	73-1	76-1D-1f	1土 下層	土師貫 土器	高: 27 口: φ 10.4 底: 5.4	外面: (口縁部) ココナデ、(底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切り 内面: (口縁部一底部) ココナデ、 底部一底部) 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 10Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y8/2 灰黄褐色 - 7.5Y3/1 赤褐色	
*	Ps90	70	76-1D-1e	1土 下層	土師貫 土器	高: 37 口: 10.6 底: 5.6	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 2.5Y8/3 赤い - 2.5Y7/2 灰黄 内面: 10Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y8/3 に赤い黄褐色	
*	Ps91	35-1	76-1D-1e	1土 下層	土師貫 土器	高: 7.5 口: φ 36.5 底: 9.0	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, ココナデ、(底部一底部) ココ ナデ 内面: 回転ナデ	赤 (2cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面: 10Y7/3 に赤い黄褐色	
*	Ps92	35-2	76-1D-1e	1土 下層	土師貫 土器	高: 27 口: φ 49 底: 5.1	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部一底部) ココナデ 内面: 回転ナデ	赤 (2cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面: 10Y8/2 灰白 - 10Y7/2 に赤い黄褐色	
46	Ps93	49	76-1D-1f	2土 下層	土師貫 土器	高: 48 口: φ 13.0 底: 6.2	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 2.5Y7/2 灰黄 - 10Y8/4 3 に赤い黄褐色 内面: 10Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y7/2 に赤い黄褐色 - 2.5Y8/6 に赤い黄褐色	
*	Ps94	50・52	76-1D-1f	2土 下層	土師貫 土器	高: 45 口: φ 13.1 底: 7.0	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ, (底部) 回転糸切りナデ 内面: 回転ナデ	赤 (2cm以下 の砂粒、赤褐 色土粒含む)	良好	外面: 7.5Y8/4、5Y8/8 黄褐色 内面: 2.5Y7/2 灰白、5Y8/6 黄褐色	
*	Ps95	56	76-1D-1f	2土 下層	土師貫 土器	高: △ 24 底: △ 7.5	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切りナデナ、(高台) ナ デ 内面: 回転ナデ	赤 (1.5cm以 下の砂粒、赤 褐色土粒含む)	良好	外面: 10Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y8/2 灰白、5Y8/6 Lに赤 い黄褐色 - 5Y8/6 黄褐色	
48	Ps96	112-1	76-1D-1f	6土	土師貫 土器	高: 23 口: φ 25 底: φ 27	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ、 (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 7.5Y8/4 に赤い黄褐色 - 7.5Y7/4 に赤い黄褐色 - 内面: 10Y7/4 に赤い黄褐色、 7.5Y7/6 黄褐色	
*	Ps97	114	76-1D-1e	6土	煎茶器	高: △ 29 底: 6.9	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) へら切リナデナ、(高台) ココ ナデ 内面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転ナデナ	赤 (1cm以下 の砂粒、4・ 5mmの小礫含 む)	良好	外面: 2.5Y7/1 灰白 - 2.5Y4/1 10Y8/4 1 黄褐色 内面: 10Y8/1 黄褐色 - 10Y7/3 1 黄褐色	内面黒褐色
*	Ps98	130	76-1D-1f	6土	煎茶器	高: △ 17 底: φ 80	外面: (底部) ココナデ、へら切 リナデナ、(高台) ココナデ 内面: 回転ナデナ	赤 (2cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 5G7/1 4 リーフ灰 内面: 7.5Y6/1 灰 - 2.0Y6/2 灰 黄	
49	Ps99	124-1	76-1D-1f	7土	煎茶器	高: △ 16 底: φ 20	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切り 内面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転ナデナ	赤 (4.5cm以 下の砂粒含 む)	良好	内外面: 5Y5/1 灰 - 10Y8/2 灰黄褐色	
*	Ps100	124-3	76-1D-1f	7土	煎茶器	高: △ 17 底: 5.8	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (3cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 2.5Y8/1 灰白 - 10Y8/2 に赤い黄褐色	
*	Ps101	124-2	76-1D-1f	7土	煎茶器	高: △ 16 底: φ 25.5	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) へら切リナデナ、(高台) ココ ナデ 内面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転ナデナ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	良好	内外面: 5Y6/1 灰	
50	Ps102	79	76-1D-1f	3土坑	土師貫 土器	高: △ 18 底: φ 21	外面: (底部) 回転ナデナ、(底 部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (2.5cm以 下の砂粒含 む)	良好	内外面: 2.5Y8/6 3 に赤い橙	
51	Ps103	121-2	76-1D-1f	4土坑	土師貫 土器	高: △ 21 底: φ 29	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (2.5cm以 下の砂粒多 く含む)	良好	内外面: 10Y7/2 に赤い黄褐色 - 10Y7/3 に赤い黄褐色 含む)	
*	Ps104	121-1	76-1D-1f	4土坑	煎茶器	高: △ 16 底: φ 81	外面: (底部) 回転ナデ、(底部) 回転糸切り、(高台) ココナ デ 内面: 回転ナデ	赤 (1cm以下 の砂粒含む)	不良	外面: 2.5Y7/1 灰白 - 2.5Y4/1 10Y8/4 1 黄褐色 内面: 2.5Y7/1 灰白	
52	Ps105	102	76-1D-1f	5土坑	土師貫 土器	高: 2.50 口: φ 9 底: 5.4	外面: (口縁部一底部) 回転ナデ、 (底部) 回転糸切り 内面: 回転ナデ	赤 (3cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 7.5Y7/4 に赤い橙 - 10Y8/2 灰黄 内面: 10Y7/4 に赤い黄褐色	
56	Ps106	136	76-1D-1f	煎茶付持物 2 (29 ビット)	土師器	高: △ 17 底: φ 80	外面: ナデ 内面: ナデ	赤 (3cm以下 の砂粒含む)	良好	外面: 10Y7/2 に赤い黄褐色 - 10Y8/4 1 黄褐色 内面: 10Y8/3 1 黄褐色	
59	Ps107	127	76-1D-1f	17土坑	土師貫 土器	高: △ 94 口: φ 25.5	外面: (口縁部一底部) ココナデ、 口縁部一底部) 指ササエ、(底 部一底部) ハナメ、(口縁部 一底部) ココナデ、(口縁部 一底部) ナデ、指ササエ、(底 部一底部) ヘラ切リ	赤 (1cm以下 の砂粒多く含 む)	良好	外面: 10Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y8/2 灰黄褐色 内面: 7.5Y8/3 灰黄褐色 - 7.5Y7/3 に赤い黄褐色 - 10Y8/2 灰黄褐色	外面黒褐色

第4章 5区の調査成果

探図番号	掲載番号	取上番号	地区 T23-	遺構・層位	種類	法量 (cm)			特徴	胎土	焼成	色調	備考
						高さ	幅	厚さ					
62	Pol08	161	761D-II	1層	土師貫土器	杯	高：3.6 口：Φ 14.2 底：Φ 6.7	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	外面：10YR8/3 浅黄褐色～2.5YR7/4 に近い黄褐色 内面：10YR8/3 浅黄褐色		
*	Pol09	151	761D-Ie	1層	土師貫土器	高台付杯	高：△ 3.2 底：8.0	外面：(体部～高台) ナデ、(底部) 回転未切りナデ 内面：回転ナデ	密 (1cm以下の砂粒含む)	良好	外面：10YR8/2 灰白～10YR7/2 に近い黄褐色 内面：10YR6/1 黒灰～10YR5/1 黒灰		
*	Pol10	152	761D-Ie	1層	土師貫土器	高台付杯	高：△ 4.3 底：Φ 8.0	外面：(体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切りナデナデ、(高台) ココナデ 内面：回転ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面：2.5YR6/4 に近い黄褐色～10YR7/2 に近い黄褐色		
*	Pol11	114	761D-Ie	1層	土師貫土器	皿	高：1.75 口：8.5 底：4.0～4.4	外面：ナデ 内面：ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面：10YR7/3 に近い黄褐色		
63	Pol12	91	761D-Ie	Ⅱ層	土師貫土器	杯	高：3.1 口：Φ 30.5 底：4.6	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (1cm以下の砂粒含む)	良好	外面：10YR8/2 灰白～10YR7/2 に近い黄褐色 内面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR7/3 に近い黄褐色		
*	Pol13	106	761D-II	Ⅱ層	土師貫土器	杯	高：3.1 口：Φ 30.5 底：5.2	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (1cm以下の砂粒含む)	良好	外面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR6/2 灰黄褐色 内面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR7/3 に近い黄褐色		
*	Pol14	108	761D-Ie	Ⅱ層	土師貫土器	杯	高：4.5 口：Φ 34.7 底：6.9	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (1cm以下の砂粒、赤褐色土粒含む)	良好	外面：10YR7/3 に近い黄褐色～10YR6/2 灰黄褐色 内面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR7/2 に近い黄褐色		
*	Pol15	932	761D-II	Ⅱ層	土師貫土器	杯	高：3.2 口：Φ 34.0 底：5.2	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (1cm以下の砂粒、赤褐色土粒含む)	良好	外面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR6/2 灰黄褐色 内面：10YR7/3 に近い黄褐色		
*	Pol16	30	761D-II	Ⅱ層	土師貫土器	杯	高：4.05 口：11.9 底：5.6	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) 回転未切り 内面：回転ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	外面：10YR7/3 に近い黄褐色～10YR4/1 黒灰 内面：10YR6/2 灰黄褐色～10YR4/1 黒灰		
*	Pol17	105	761D-Ie	Ⅱ層	土師貫土器	高台付杯	高：5.4 口：Φ 12.1 底：7.2	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) ナデ、(高台) ココナデ 内面：回転ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面：10YR7/2 に近い黄褐色～10YR8/3 浅黄褐色		
*	Pol18	104	761D-Ie	Ⅱ層	土師貫土器	高台付杯	高：3.6 口：19.7 底：5.5	外面：(口縁部～体部) 回転ナデ、(底部) ナデ、(高台) ココナデ 内面：回転ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	内外面：10 Y 7/2 に近い黄褐色～10YR7/3 に近い黄褐色		
*	Pol19	931	761D-II	Ⅱ層	土師貫土器	鉢	高：△ 7.4 口：Φ 36.6	外面：回転ナデ 内面：(口縁部) 回転ナデ、(底部～胴部) ココナ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	外面：2.5Y2/1 黒、10YR3/1 黒褐色～10YR4/1 黒灰 内面：10YR4/1 黒灰～10YR5/1 黒灰	外面保存者	

第12表 5区土製品観察表

探図番号	掲載番号	取上番号	地区 T23-	遺構・層位	種類	法量 (cm・g)				特徴	胎土	焼成	色調	備考
						長さ	幅	厚さ	重量					
45	CP1	35	761D-Ie	1溝・下層	土瓦	1.6	1.5	1.5	3.2	ナデ	密	良好	10YR6/2 灰黄褐色	孔 (貫通1・未貫通2)
63	CP2	29	761D-Ie	1層	管状土師	3.2	1.1	1.1	3.3	ナデ	密 (1cm以下の砂粒含む)	良好	10YR4/1 黒灰～10YR5/1 黒灰	
*	CP3	27	761D-II	1層	粘板	5.3	5.3	1.3	34.4	ナデ	密 (2cm以下の砂粒含む)	良好	2.5YR/3 黄褐色	

第13表 5区石器観察表

探図番号	遺物番号	取上番号	地区 T23-	遺構	層位	種類	法量 (cm・g)			石材	備考	
							最大長	最大幅	最大厚			
46	S8	61	761B-I	2溝	下層	砥石	△ 6.8	4.5	1.6	△ 65.9	燧灰岩	
49	S9	126-1	761D-II	7溝		砥石	13.8	7.3	5.1	761	デイサイト	
*	S10	126-2	761D-II	7溝		打穴石錐?	9.4	7.0	2.4	166.5	燧灰岩	
63	S11	98	761D-II		Ⅱ層	有孔石錐	10.3	9.6	5.4	709	デイサイト	

第14表 5区木器観察表

探図番号	遺物番号	取上番号	地区 T23-7d-	遺構	層位	種類	法量 (cm)			年輪本数 間隔 (mm)	樹種 本取り	備考
							最大長	最大幅	最大厚			
46	W25	58	1D-I	2溝	下層	底板	△ 3.4	15.7	0.8	6 1～15	針葉樹 板目	
51	W26	142-1	1D-II	4土坑		枕	66.3	4.1	3.7	11 1.5～5	針葉樹 志木	
*	W27	142-2	1D-II	4土坑		板	56.5	15.6	2.2	16 1～1.5	針葉樹 板目	
63	W28	33	1D-Ie	Ⅱ層	不明		18.5	△ 1.4	0.9	8 1	針葉樹 志木・板目	

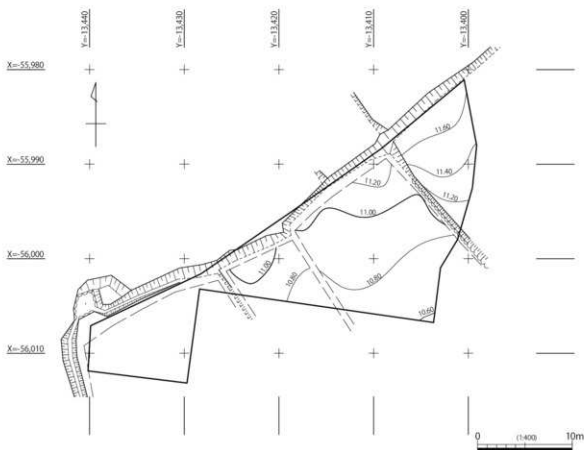
## 第5章 6区の調査成果

### 第1節 調査区の概要

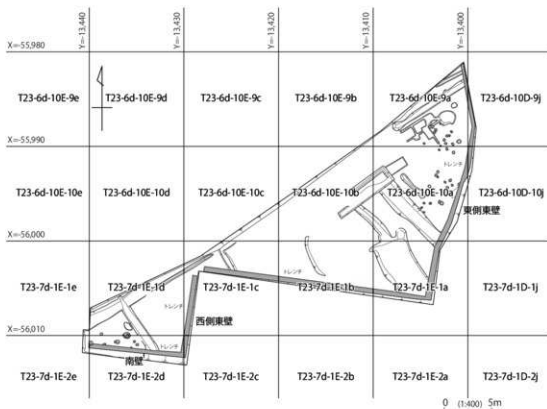
6区は、鳥取市大柵の北西に位置し、大柵・里仁・桂見・布勢に跨がる丘陵の南東斜面裾に立地する。河岸段丘上に立地する4区・5区よりやや高い場所であり、現在は区画された畑が段々に連続する。調査前の標高は、約10.6～11.6mである。

当調査区付近には、鳥取市教育委員会による試掘トレンチが2箇所（第5トレンチ・第6トレンチ）存在する。このうち、第5トレンチでは、近現代の耕作土や客土の直下から土坑や柱穴、奈良時代の甕が検出されており、近接する当調査区でも同時期の遺構の存在が想定された。そのため、当調査区においても近現代の耕作土や客土を表土掘削の対象とし、それ以下を調査対象としている。

調査の結果、大別7層の基本層と3面の遺構面を確認した。表土除去後に検出した第1遺構面では、中世から近世の掘立柱建物、ピット、近世の溝を検出した。I層及びII層除去後に検出した第2遺構面では、古墳時代前期の竪穴建物や掘立柱建物、溝、土坑等を検出した。また、III層除去後に検出した第3遺構面では、多数のピットを検出した。



第64図 6区調査前測量図



第 65 図 6 区地区割り図

## 第 2 節 基本層序

本調査区では、調査区の東側と南側に土層観察用のトレンチを設定し、断面観察を行った（第 66 図・第 67 図）。

**表土** 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルトは耕作土で、厚さ約 15～20cm を測る。一部にⅡ層とⅥ層が攪拌され、堆積した箇所がある。

**Ⅰ層** 5Y3/1 黒褐色シルトは土壌層で、厚さ約 16～37cm を測る。東側へ行くほど色調は黄色身を帯び、しまりは弱くなる。調査区南側には厚く堆積するが、大きく攪乱されており鳥状に残る。遺物は土師器・須恵器・瓦質土器等が出土した。

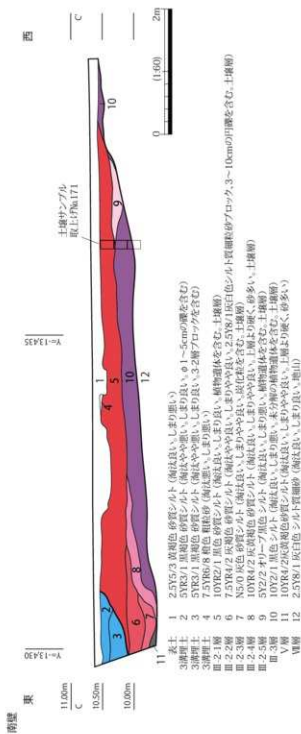
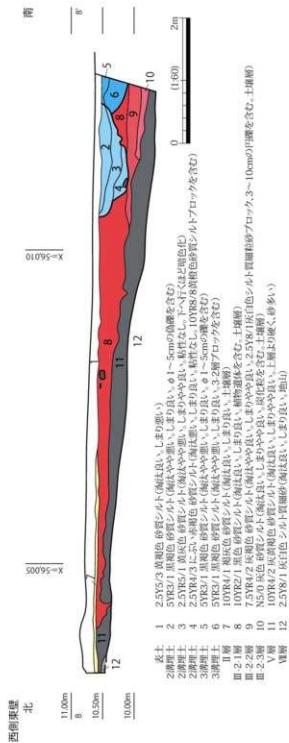
**Ⅱ層** 10YR4/1 褐灰色砂質シルトは土壌層で、厚さ約 16～25cm を測る。淘汰がやや悪く、しまりはやや悪い。範囲は T23-6d-10D-10j・10E-10a～c・T23-7d-1E-1a～c に広がり、谷の範囲に厚く堆積する。遺物は土師器・須恵器の他、天目茶碗の破片や備前焼の播鉢等が出土した。出土遺物の特徴から、奈良時代から中世末頃の包含層と考えられる。

**Ⅲ層** 土質により、Ⅲ-1層～Ⅲ-3層に細分できる。遺物は弥生土器、土師器などが出土した。

**Ⅲ-1層** 10YR3/1 黒褐色砂質シルトは土壌層で、厚さ約 15cm を測る。淘汰が良く、しまりはやや良い。調査区西側端には堆積していない。Ⅱ層と同様に谷の範囲に堆積するが、さらに狭い範囲に堆積する。

**Ⅲ-2-1層** 10YR2/1 黒色砂質シルトは土壌層で、厚さ約 20～43cm を測る。微量の 2.5Y8/1 灰白色シルト質細砂が混じるが淘汰が良く、しまりは良い。植物遺体を含む。Ⅱ層と同様に谷の範





第67図 6区西側東壁・南壁土層断面図

閉に堆積する。遺物は小片が出土した。

- Ⅲ-2-2層 Ⅲ-2-2～4層は、調査区東側南壁と東壁の交点付近、谷の範囲内から発生した溝状の窪みである。7.5YR4/2 灰褐色砂質シルトは土壤層で、厚さ約26cmを測る。淘汰がやや良く、しまりはやや良い。2.5Y8/1 灰白色シルト質細砂ブロック、3～10cmの円礫を含む。
- Ⅲ-2-3層 N5/0 灰色砂質シルトは土壤層で、厚さ約15cmを測る。淘汰が良く、しまりはやや良い。やや粘性があり、炭化粒を含む。
- Ⅲ-2-4層 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトは土壤層で、厚さ約15cmを測る。淘汰が良く、しまりはやや良い。上層より硬く、砂粒が多い。
- Ⅲ-2-5層 5Y2/2 オリーブ黒色シルトは土壤層で、厚さ約18cmを測る。淘汰が良く、しまりは悪い。植物遺体を含む。
- Ⅲ-3層 10Y2/1 黒色シルトは土壤層で、厚さ約25cmを測る。淘汰が良く、しまりが悪い。未分解の植物遺体を含む。谷の最下層にあたり、やや青味を帯びグライ化する。Ⅲ-2-1層と酷似しており、途中で層界が不明瞭になる。
- Ⅳ層 土質により、Ⅳ-1層とⅣ-2層に細分できる。
- Ⅳ-1層 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルトは地山で、厚さ約25cmを測る。10YR8/6 黄橙色シルトブロックを含み淘汰が悪く、しまりは悪い。土壌化が進んでいる。
- Ⅳ-2層 7.5YR6/8 橙色シルトは地山である。淘汰がやや良く、しまりは悪い。土壌化が進んでいる。
- Ⅴ層 5Y5/2 灰オリーブ色シルトは地山である。調査区東側端では淘汰が良く、しまりはやや良い。玻璃質の夾雑物を含み始良 Tn 火山灰層（AT層）と考えられるが、2次堆積の可能性もある。東側中ほどからは淘汰が悪く、10YR8/6 黄橙色砂質シルト・7.5YR6/8 橙色シルト・7.5Y4/1 灰色砂質シルトブロックを多く含む。しまりは良いが、雨破などの影響により土壌化が進んでいる。西側では、10YR4/2 灰黄褐色砂質シルトになり、淘汰がやや良く、しまりはやや良い。
- Ⅵ層 10YR8/6 黄橙色シルトは地山である。淘汰が良く、しまりはやや悪い。火山灰層と考えられる。
- Ⅶ層 2.5Y8/1 灰白色シルト質細砂は地山である。淘汰が良く、しまりは良い。

### 第3節 検出した遺構と遺物

#### 第1項 第1遺構面

第1遺構面は、耕作土直下及びⅡ層上面で検出した遺構面で、時期は中世から近世にわたる。遺構は掘立柱建物1棟・溝2条・ピット24基を検出した。

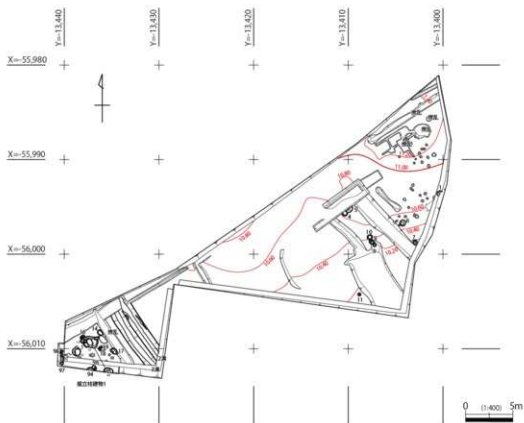
##### 1 掘立柱建物

##### 掘立柱建物1 (第69図、写真図版35・36)

T23-7d-1E-2dグリッドにあり、標高約10.5mのはほぼ平坦面に位置する。調査区南西端で検出した掘立柱建物で、調査区外へ延びる。建物を構成する柱穴は12・13・93・95ピットで、主軸方位はN-30°-Wを測る。

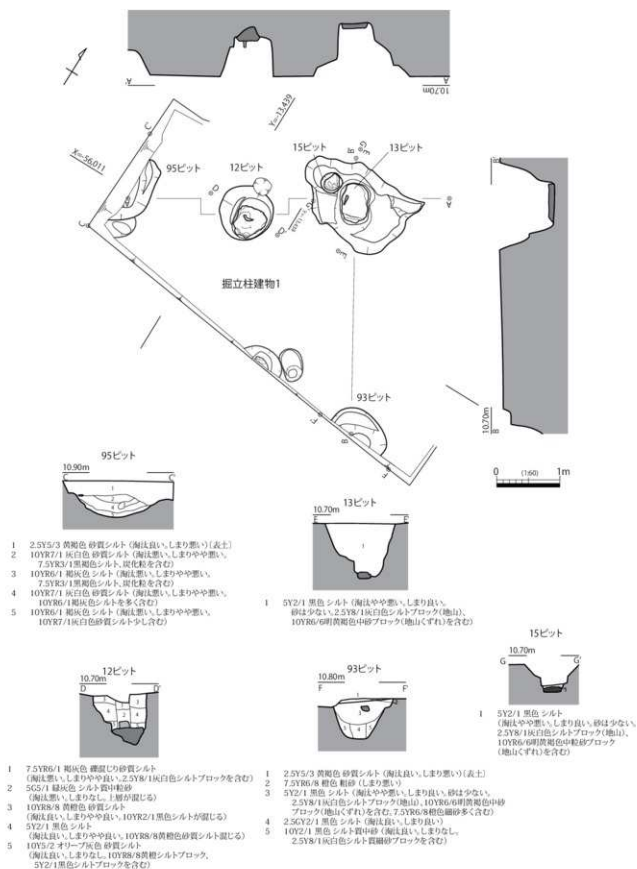
柱穴の掘方は、13ピット以外は円形もしくは楕円形で、直径0.96～1.26m、底面あるいは礎盤上面の高さは標高9.90～10.14mを測る。93・95ピットは調査区外に延びるが、柱間は95-12ピットが現幅2.00m、12-13ピットが1.65m、13-93ピットが現幅3.86mを測る。12ピットは柱間の想定線より南東へ約20cmずれるが、同じ建物を構成する柱穴と考えられる。

12ピットは規模が大きく、石製礎盤を伴う。掘方は円形で径86cm、深さ80cm、礎盤上面で標高10.00mを測る。礎盤は尖った山形の部分を下に向け、上面を水平に据えられている。埋土は5層に



第68図 6区第1遺構面遺構配置図





第 69 図 6区掘立柱建物1

分層できる。土層観察により柱痕が確認できる。出土遺物は、礎盤直上で元位置を保ったまま検出した柱根と礎盤がある。礎盤の石材は変成作用を受けており、チャート起源の変成岩類と思われる。他に遺物は出土しなかった。

13ピットは建物の北東隅に位置する。規模は大きく、石製礎盤を伴う。掘方は不定形で長軸約2.0m、短軸1.2m、深さ83cm、礎盤上面は水平に据えられており標高9.79mを測る。埋土は黒色シルトの単層である。建物廃絶後に柱穴の周囲を掘削し、柱を東北東の方向へ抜取った。そのため、当初の埋土は残っていない。出土遺物は、礎盤直上で検出した木器、礎盤がある。礎盤の石材は黒色含有物を多く含む細粒の黒雲母花崗岩を使用している。他に遺物は出土しなかった。

15ピットは13ピットの掘方内で検出した遺構で、石製礎盤を伴う。13ピットに立てられた柱を補強する目的を持つ添え柱の痕跡である可能性がある。検出時点の掘方は円形で径約33cm、深さ6cm、礎盤上面は水平に据えられており標高10.19mを測る。出土遺物は礎盤がある。石材は中粒の黒雲母花崗岩で、川原石を使用している。他に遺物は出土しなかった。

遺構の時期について、時期を示す土器が出土しなかったため、12ピットの柱根、13ピットの木器を用いて放射性炭素年代測定を行った（第6章第1節参照）。その結果によると、12ピットが $320 \pm 20BP$ （1492-1602, 1615-1644calAD）、13ピットが $330 \pm 20BP$ （1485-1640calAD）の年代を得ることができた。このことから、遺構の時期は中世末から近世初頭頃と考えられる。柱穴に大きな礎盤を使用していることや規模からすると、一般の建物ではなく大規模な建物が想定できる。

## 2 溝

### 2溝（第70図、写真図版36・37）

T23-7d-1E-1d・2dグリッドに位置する南東-北西方向へ直線に延びる溝である。3溝と並行するが、切り合い関係から3溝よりも新しい。規模は、検出幅1.4m、検出面からの深さ44cmを測る。断面はレンズ状を呈する。底面の高さは、北から南に向かって20cm程度低くなる。

埋土は6層に分かれ、上層（1～3層：にぶい赤褐色砂質シルト・褐色シルト質砂）、中層（4層：にぶい赤褐色砂質シルト・黄灰色砂質シルト）、下層（5・6層：褐色砂質シルト・褐色シルト質中～粗砂）の3層に大別できる。上・中層のにぶい赤褐色砂質シルトは、しまりがあり、地山である黄褐色砂質シルトブロックを含むことから、埋め戻し土と考えられる。同じ位置で2回の埋め戻し、掘り直しがあり、最終的にも埋め戻しを行っている。溝底部の堆積にはラミナなど自然堆積の状況はみえず、水が流れていた痕跡は確認できなかった。

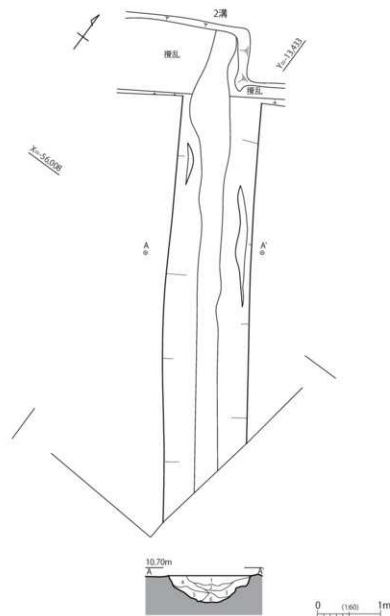
出土遺物には、唐津焼三島手の皿や備前焼播鉢の破片などがある。いずれも小片のため図化できなかった。

遺構の時期は、後述する3溝との切り合い関係から、近世と考えられる。

### 3溝（第71図、写真図版37・50）

T23-7d-1E-1d・2dグリッドに位置する南東-北西方向へ直線に延びる溝である。2溝と並行するが、切り合い関係から2溝より先行する。規模は、検出幅1.3m、検出面からの深さ36cmを測る。断面はレンズ状を呈する。底面の高さは、北から南に向かって20cm程度低くなる。

埋土は2層に分層できる。上層は黒褐色砂質シルトで、上位になるほど砂粒が増えてしまりが良く



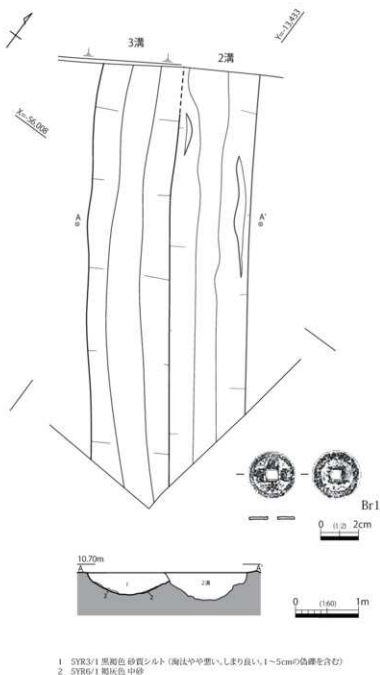
- 1 2.5YR4/3 に近い赤褐色 砂質シルト (腐乱悪い、しまりあり、粘性なし。5YR3/1黒褐色砂質シルト、10YR8/8黄褐色砂質シルトブロックを含む)
- 2 10YR5/1 褐色色シルト質砂 (腐乱やや良い、しまりなし、粘性なし)
- 3 2.5YR5/1 黄灰色 砂質シルト (腐乱やや悪い、しまりややあり、粘性なし。下へ行くほど暗色化)
- 4 2.5YR4/3 に近い赤褐色 砂質シルト (腐乱悪い、しまりあり、粘性なし。10YR8/8黄褐色砂質シルトブロックを含む)
- 5 5YR6/1 褐色色 砂質シルト (腐乱悪い、しまりあり、粘性なし。2.5Y3/1黒褐色砂質シルトブロックを含む、礫を含む)
- 6 7.5YR5/1 褐色色シルト質中-粗砂 (しまりなし、粘性ややあり)

第70図 6区2溝

なり、部分的に黄褐色砂質シルトブロックが少し混じる。ラミナなど自然堆積の状況はみえず、水が流れていた痕跡は確認できなかった。部分的に地山である黄褐色砂質シルトブロックが混じり、しまりが良いことから、埋め戻した可能性がある。下層の褐色中砂は、底面に薄く堆積する。

出土遺物には、伊万里焼、唐津焼、銭貨などがある。伊万里焼、唐津焼は、小片のため図化できなかった。Br1は寛永通寶である。正面・裏面とも砂礫が固着しているため拓本では分りにくいが、軟X線写真では肉厚の線で表現された文字が確認でき、古寛永と考えられる。

遺構の時期は、出土遺物から近世と考えられる。



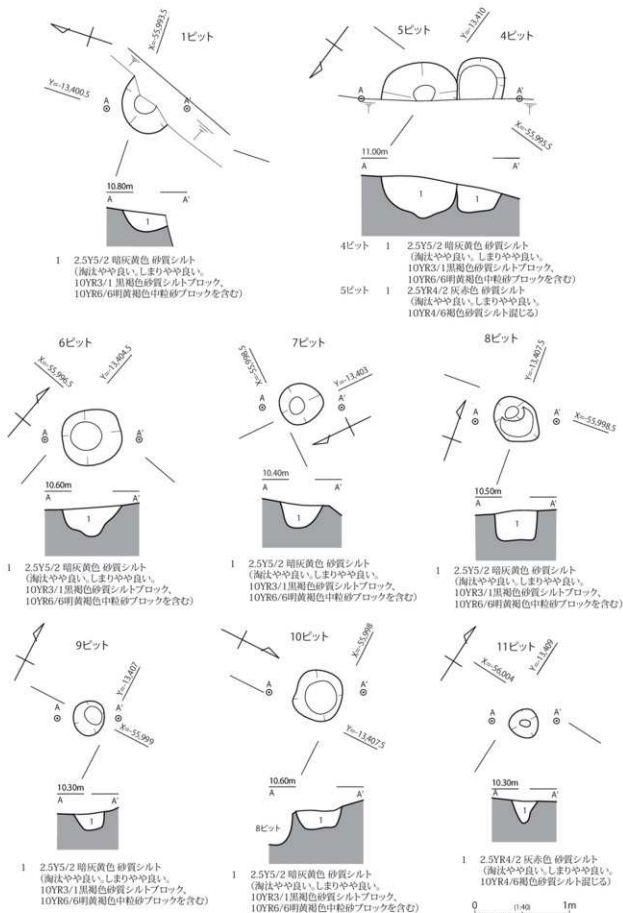
第71図 6区3溝

### 3 ビット

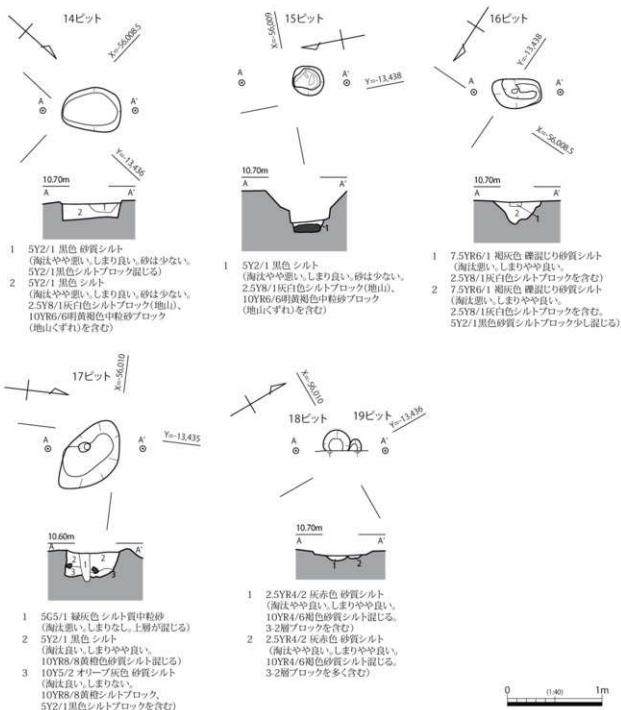
掘立柱建物を構成しないビットを18基検出した。これらは、調査区西端のT23-7d-1E-1d・2dグリッドと東側のT23-6d-10E-10aグリッド周辺に偏在し、西側のものは、ほとんどが掘立柱建物1の周辺に認められる。検出層位から、中世末から近世初頭以降の遺構と考えられる。各ビットの情報は、第18表に掲載することとし、ここでは主なものについて記載する。

#### 7ビット (第72図、写真図版37)

T23-6d-10E-10aグリッドに位置する。掘方は円形で径45cm、深さ29cmを測る。埋土は暗灰黄色砂



第72図 6区1・4・5・6・7・8・9・10・11ピット



第73図 6区14・15・16・17・18・19ピット

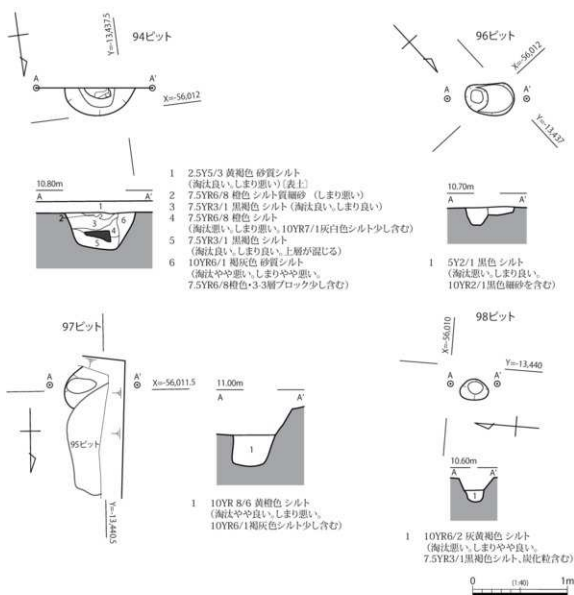
質シルトの単層である。

出土遺物には土師器があるが、小片のため図化できなかった。

### 10ピット (第72図、写真図版37)

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。掘方は方形で長軸 54cm、短軸 47cm、深さ 20cmを測る。埋土は暗灰黄色砂質シルトの単層である。

出土遺物には須恵器の坏蓋などがあるが、小片のため図化できなかった。



第74図 6区94・96・97・98ピット

## 17ピット (第73図)

T23-7d-1E-2d グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径85cm、短径51cm、深さ32cmを測る。埋土は3層に分層できる。柱痕は緑灰色シルト質中粒砂で、幅10cmを測る。幅は細く、掘方上層が混じることから、柱根抜き後の堆積と思われる。掘方上層は黒色シルト、下層はオリーブ灰色砂質シルトである。

出土遺物には土師器、須恵器の坏蓋があるが、小片のため図化できなかった。

## 第2項 第2遺構面

第2遺構面はⅡ層の砂質シルトを除去して検出した古墳時代から奈良・平安時代の遺構面である。遺構は、竪穴建物2棟、掘立柱建物1棟、溝8条、土坑1基、炉1基、集石遺構1基、土器溜り2基、ピット83基を検出した（第75図）。

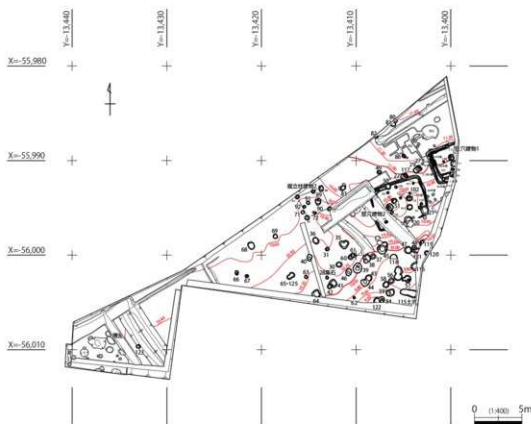
### 1 竪穴建物

#### 竪穴建物1（第76図～第78図、写真図版38・39・47）

T23-6d-10D-9f、T23-6d-10E-9dグリッドに位置する調査区北東側で検出した方形あるいは長方形の竪穴建物である。標高10.8～11.2mの緩斜面に立地する。主軸方位はN-68°-Eである。調査区外へ延びるため、全体像を明らかにすることはできないが、壁溝等の状況から複数回の建替えがあったことが分かる。

**第1段階** 109溝、111溝、74ピット、76ピット、78ピット、107ピット、108ピットで構成される段階である。109溝と111溝は、それぞれ西壁と南壁の壁溝に位置付けられ、76ピットは中央土坑、74ピット、78ピットは柱穴と考えられる。107ピット、108ピットは柱穴の可能性があるが、極めて浅い。

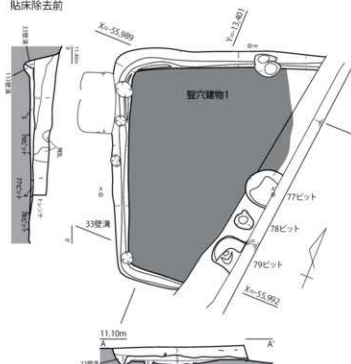
平面規模は、南北方向で最大2.9m、東西方向で2.5m以上を測る。109溝は幅12cm程度、深さ5cm、111溝は幅12cm程度、深さ5cm、74ピットは長径42cm、短径24cm以上、深さ46cm、76ピットは長径64cm、短径59cm、深さ38cm、78ピットは長径30cm、短径26cm、深さ18cm（想定する床面からの



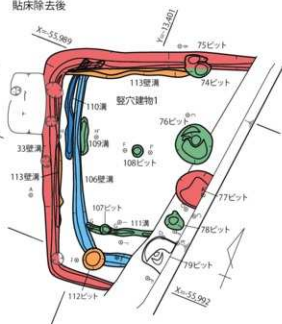
第75図 6区第2遺構面遺構配置図



貼床除去前



貼床除去後



## Aライン8ライン

- 7.5YR2/2 黒褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまり良い、7.5YR6/8褐色シルトブロック少し含む)
- 7.5YR2/2 黒褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまり良い、7.5YR6/8褐色シルトブロック少し含む)
- 7.5YR4/2 灰褐色 砂質シルト (海法悪い、しまりやや悪い、上層より砂少ない)
- 2.5Y5/3 黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、炭化粒を含む、砂少ない)
- 10YR6/1 黄褐色 砂質シルト (海法悪い、しまり良い、10YR8/6黄褐色砂質シルト、3.2層ブロックを含む) [腐炭]
- 10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、10YR8/6黄褐色砂質シルト少し含む)
- 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法悪い、しまりやや悪い、10YR8/6黄褐色砂質シルト、7.5YR6/8褐色シルト、3.2層ブロックを含む)



## 76ピット

- 7.5Y2/2 オリーブ黒色砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、塊土少し混じる、砂少ない)
- 2.5Y4/2 オリーブ褐色砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、7.5YR6/8褐色シルトブロックを含む、上層より砂少ない)



- 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、10YR8/6黄褐色砂質シルト少し、炭化粒を含む)



- 2.5Y7/3 浅黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまり悪い、10YR8/6黄褐色砂質シルト、炭化粒を含む)
- 2.5Y4/2 暗灰褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまり悪い、上層より砂少ない)

## 108ピット



- 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、3.2層ブロックを含む)

## 107ピット



- 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、3.2層ブロックを含む)

## 110溝 109溝



- 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法悪い、しまりやや悪い、10YR8/6黄褐色シルト、3.2層ブロック多く含む)
- 10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、7.5YR6/8褐色シルトを含む)

## 106壁溝



## 111溝



- 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (海法やや悪い、しまりやや悪い、3.2層ブロックを多く含む)

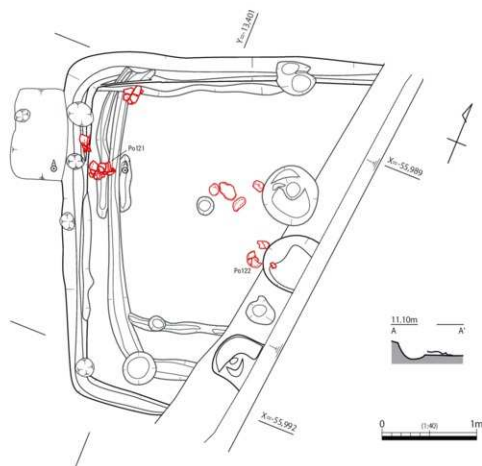
## 112ピット



- 7.5YR6/1 暗灰色 砂質シルト (海法悪い、しまりやや悪い、10YR8/6黄褐色シルト、3.2層ブロックを含む)



第76図 6区竪穴建物1



第77図 6区竪穴建物1遺物出土状況

深さ24cm)、107ピットは長径17cm、短径15cm、深さ15cm、108ピットは長径19cm、短径17cm、深さ3cmである。

埋土は、74ピット、76ピットが、オリーブ黒色砂質シルト・オリーブ褐色砂質シルトで、109溝、111溝、78ピット、107ピット、108ピットが、にぶい黄褐色砂質シルトである。

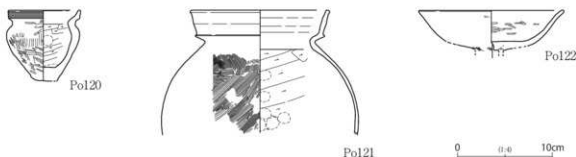
**第2段階** 106壁溝、110溝で構成される段階である。110溝は、106壁溝の西側に並列して認められ、この段階の後半に小規模な改修が行われたものと考えられるが、詳細は不明である。

平面規模は、南側に50cm拡張され、南北方向で最大3.4mを測る。106壁溝は幅13～24cm、深さ2～10cm、110溝は幅12cm程度、深さ3cmである。

埋土は、106壁溝、110溝とも灰黄褐色砂質シルトである。106壁溝は断面Aライン埋土7層（にぶい黄褐色砂質シルト）形成後に掘られていることから、第2段階施工前に床面の補修が行われたことが分かる。

**第3段階** 113壁溝、112ピットで構成される段階である。112ピットは柱穴の可能性があるが、極めて浅い。

前段階と比べて、西側へ40cm程度拡張されている。南側の壁溝が明らかではないが、106壁溝の南西屈曲部の西側に113壁溝の続きが確認できないことから、この段階で南側にも40cm程度拡張された可能性が高い。この場合、平面規模は、南北方向で最大3.9m、東西方向で3.4m以上を測る。113



第78図 6区竪穴建物1出土土器

壁溝は幅8～16cm、深さ9cm、112ピットは径35cm、深さ11cmである。

埋土は、113壁溝、112ピットとも褐灰色砂質シルトである。

**第4段階** 33壁溝、77ピット、79ピットで構成される段階である。竪穴建物1の最終段階と考えられる。

平面規模は、南北3.9m、東西3.4m以上を測る。検出面からの深さは、最も深い北壁部分で45cmである。33壁溝は幅15～20cm、深さ15cm、77ピットは長径61cm、短径47cm、深さ18cm（想定する床面からの深さ25cm）である。33壁溝は、断面A・Bライン埋土5層（褐灰色砂質シルト）形成後に掘られていることから、第4段階施工前に貼床が行われたことが分かる。貼床は厚さ約8cmを測り、上面には硬化面が認められる。

埋土は、33壁溝が褐灰色砂質シルト、77ピットが黄褐色砂質シルト・灰オリーブ色砂質シルトで、その上部は基本的に黒褐色砂質シルトで覆われている。

第1段階から第4段階を通して、明確な主柱穴が認められず、特に第4段階の貼床面には柱穴が認められない。このことから、主柱穴を持たない簡易的な建物であった可能性がある。

**出土遺物** 竪穴掘方上層（断面A・Bライン1層）から土師器の壺、甕、器台、高坏、裝飾壺、甕形土器、下層（断面Bライン2層）から弥生土器の甕、貼床直上から土師器の甕、低脚坏、甕形土器などが出土した。ただ、ほとんどの遺物は小片であり、図化できたのは3点のみである。77ピット上層から弥生土器の小型甕が出土したが、遺構が埋没する際の混入と考えられる。また、本遺構出土の甕形土器片は、後述する竪穴建物2出土の甕形土器（Pol25）と同一個体と考えられる。

Pol20～Pol22は、第4段階に伴う土器と考えられる。

Pol20は弥生土器である。77ピット、竪穴掘方上層、基本層I層から出土した土器が接合した。ミニチュア土器の甕で、口縁部は複合口縁を呈する。口縁部は垂直に立ち上がり、外面には6条の平行沈線が施される。外面には部分的にミガキが施される。弥生時代後期中葉の特徴を示す。

Pol21・Pol22は土師器である。Pol21は甕の口縁部から胴部の破片で、口縁部は複合口縁を呈する。第4段階の床面直上で出土したもので、33壁溝及び竪穴掘方下層出土土器と同一個体と考えられる。口縁部はやや外傾し、口縁端部には明瞭な平坦面を持つ。口縁下端部の側方への突出も明瞭である。口縁部から頸部には内外面とも強いヨコナデが施され、肩部から胴部外面には細かいハケメが施される。肩部から胴部の外面にはタキの痕跡と思われる細かい面が多数認められ、内面には特に胴部付近に指オサエの痕跡が多く認められる。頸部から胴部の内面には、指オサエの後にヘラケズリが施される。古墳時代前期前葉の特徴を示す。Pol22は高坏の坏部片である。77ピットから出土した。坏

部は皿状を呈し、口縁部は外反する。坏体部内面には丁寧なミガキが施されるが、坏底部内面にはハケメが残る。

遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅲ層の時期と第4段階の出土遺物から、古墳時代前期前葉と考えられる。4段階に及ぶ建替えについても、比較的短い周期で行われたと想定される。

## 竪穴建物2（第79図～第83図、写真図版40・41・47・50）

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する調査区北東側で検出した長方形の竪穴建物である。標高10.46～10.90mの緩斜面に立地する。壁溝等の状況から1回の建替えがあったことが分かる。

**第1段階** 114壁溝、55ピット、99ピット、101ピット、102ピット、103ピット、105ピットで構成される段階で、主軸方位はN-65°-Eである。114壁溝は東側と北西側に断続的に認められる。各ピットは柱穴の可能性があるが極めて浅い。52ピット、53ピットは土層の切り合い関係から第2段階に伴うことが明らかであるが、両者を結ぶ軸線が第1段階の主軸方位とほぼ重複（N-66°-E）することから、第1段階の主柱穴が52ピット、53ピットの位置に存在した可能性がある。

平面規模は、東西方向で約5.7mを測る。南側が削平されていることから、南北方向は不明である。114壁溝は幅12～30cm、深さ2cm、55ピットは長径38cm、短径33cm、深さ20cm、99ピットは長径24cm、短径21cm、深さ3cm、101ピットは長径20cm、短径18cm、深さ9cm、102ピットは長径23cm、短径20cm、深さ9cm、103ピットは長径27cm、短径26cm、深さ16cm、105ピットは長径32cm、短径27cm、深さ14cmである。

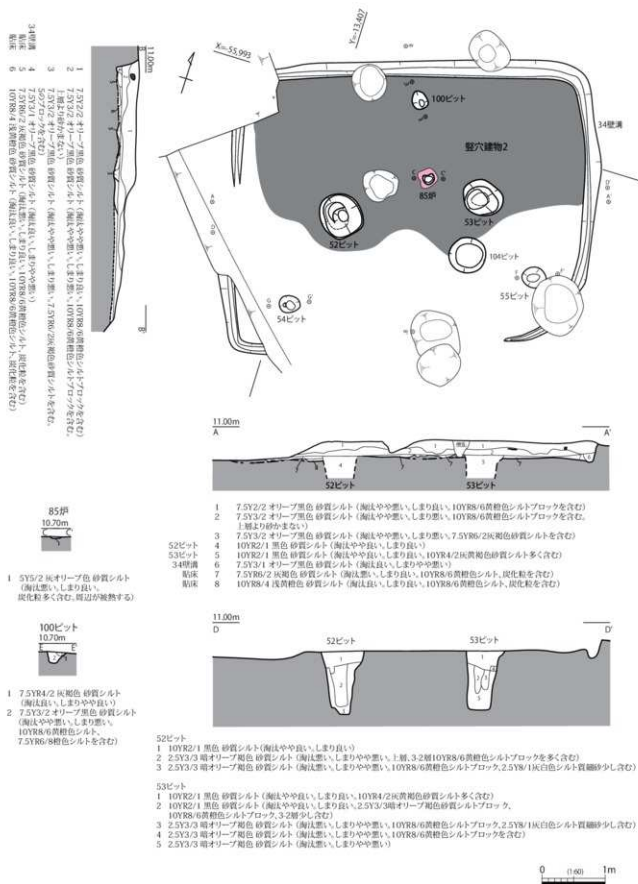
埋土は、55ピット、99ピット、101ピット、103ピット、105ピットが灰褐色砂質シルト、102ピットが褐灰色砂質シルトである。前者は、橙色シルトの小ブロックや炭化粒を多く含むなど、第2段階の貼床の土質と酷似している。一部に、第1段階に伴う貼床が認められる（断面Aライン8層、断面Bライン6層）。炭化粒を含む浅黄橙色砂質シルトで硬化面があり、厚さ約4cmを測る。

**第2段階** 34壁溝、85炉、52ピット、53ピット、54ピット、100ピット、104ピットで構成される段階で、主軸方位はN-72°-Eである。52ピット、53ピットは主柱穴と考えられるが、前述のとおり第1段階の掘方を踏襲した可能性が高い。54ピット、100ピットは柱穴の可能性があるが、極めて浅い。85炉は小ピット状を呈し、周囲に被熱痕が確認できる。床面には厚さ4～8cmの貼床が認められる。竪穴建物2の最終段階と考えられる。

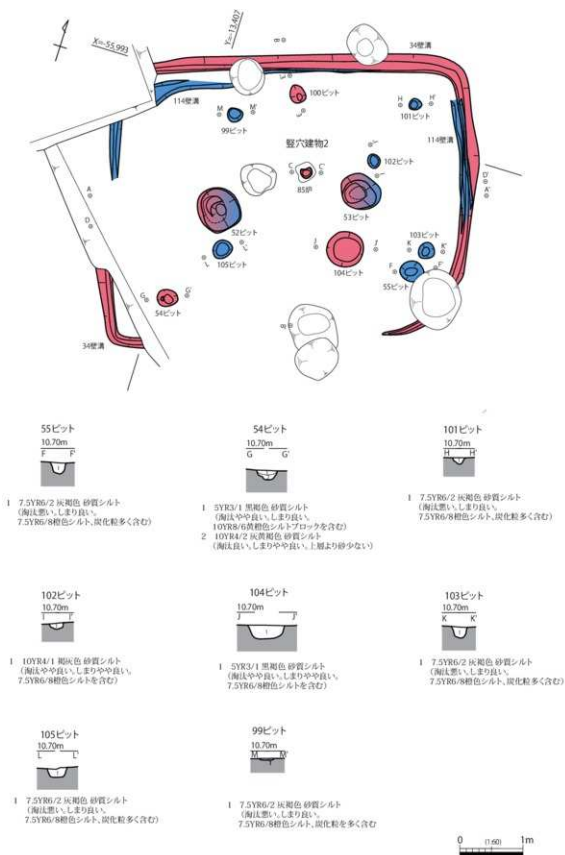
平面規模は、南北4.5m、東西5.8mで、面積は約26㎡を測る。検出面からの深さは、最も深い北壁付近で28cmである。主柱穴の52ピットは長径74cm、短径67cm、深さ100cm、53ピットは長径65cm、短径54cm、深さ93cmで、柱間は2.2mを測る。52ピットは底面に径14cmの柱当たりの痕跡を確認した。この他、34壁溝は幅14cm、深さ8cm、85炉は長径18cm、短径13cm、深さ2cm、54ピットは長径33cm、短径27cm、深さ14cm、100ピットは長径30cm、短径24cm、深さ17cm、104ピットは長径59cm、短径56cm、深さ21cmである。なお、54ピットは上面が攪乱されており、土色から第2段階の帰属とした。

埋土は2層に分層できる。上層はオリブ黒色砂質シルトで、下層は上層より砂が少ない。この他、壁溝、ピットについても、オリブ黒色砂質シルト（34壁溝）、黒色砂質シルト・暗オリブ褐色砂質シルト（52ピット、53ピット）、黒褐色砂質シルト（104ピット）など、暗い色調のものが目立つ。

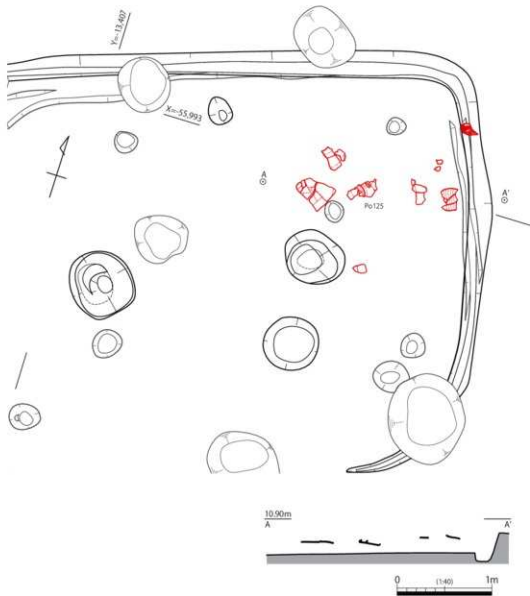
**出土遺物** 土師器の低脚杯、鼓形土器、甔形土器などが出土した。甔形土器は建物が機能した時の遺物ではなく、廃絶以降に建物の北東方向から埋土の中に廃棄されたものである（第81図）。



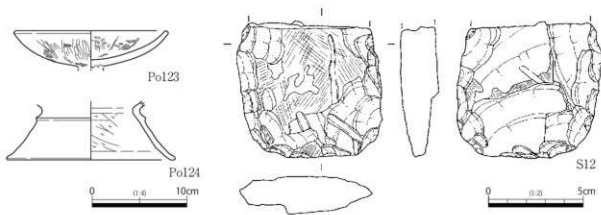
第79図 6区壁穴建物2 (1)



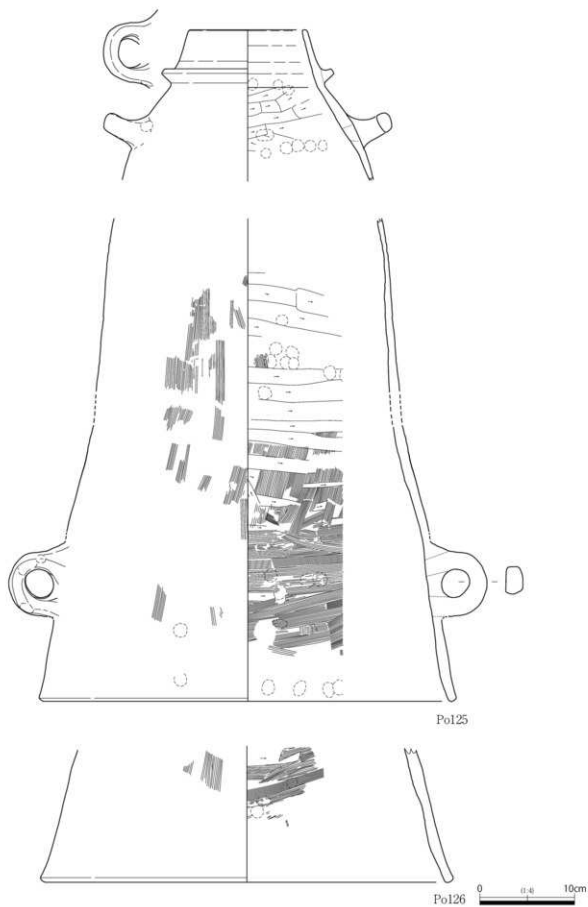
第80図 6区区穴建物2 (2)



第81図 6区竪穴建物2遺物出土状況



第82図 6区竪穴建物2出土土器(1)・石器



第83図 6区竪穴建物2出土土器(2)



Po123～Po126は土師器である。Po123は低脚坏の坏部で、貼床から出土した。浅い皿状を呈し、口縁端部には明瞭な平坦面を持つ。内外面とも丁寧なミガキが施される。Po124は鼓形器台の筒部から脚部の破片である。筒部下端の突出は弱く、筒部幅の縮減も進行していない。脚部内面にはヘラケズリが施される。

Po125・Po126は甔形土器で、いわゆる「山陰型甔形土器」である。Po125は、狭口部から肩部と、体部から広口部の破片で、接合はしないが同一個体と考えられる。狭口部下に貼付突帯が巡り、貼付突帯から狭口部端までは比較的長い。狭口部端と広口部端は、やや丸みを帯びる。肩部に横方向の把手、胴部下に縦方向の把手が付くが、いずれも一度貫通させた上で接合しており、内面に貫通した把手の痕跡が認められる。風化のため外面の調整は不明瞭であるが、狭口部がヨコナデ、把手部がナデ、体部が縦方向のハケメ、広口部は指オサエとハケメ、ヨコナデの痕跡が認められる。内面の調整は、広口部がヨコナデ、肩部が指オサエ後ヘラケズリ、胴部中央が指オサエ、縦方向のハケメ後横方向のヘラケズリ、胴部下が指オサエ後横方向のハケメ、広口部が指オサエ後ヨコナデである。前述のとおり、堅穴建物1出土の破片と同一個体と考えられる。古墳時代前期前葉頃の特徴を示す。Po126は広口部の破片で、広口部端はやや丸みを帯びる。外面の調整は、胴部下が縦方向のハケメ、広口部がヨコナデである。内面の調整は、胴部下が指オサエ、横方向のハケメ後横方向のヘラケズリ、広口部はヨコナデである。

S12は石楯である。板状安山岩製で、周縁から調整剥離が施される。正面及び裏面の一部に擦痕が認められる。上半を欠損する。

遺構の時期は、基盤となる基本層Ⅲ層の時期と出土土器から、古墳時代前期前葉頃と考えられる。

## 2 掘立柱建物

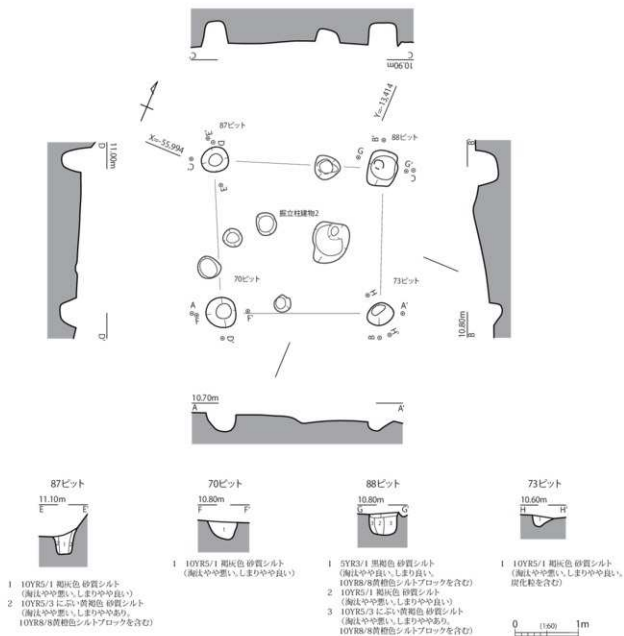
### 掘立柱建物2 (第84図、写真図版42)

T23-6d-10E-10b グリッドに位置する1間×1間の掘立柱建物である。標高10.52～10.73mの緩斜面で検出した。建物を構成する柱穴は70・73・87・88ピットで、主軸方位はN-69°-E、面積は1.4㎡を測る。

柱穴掘方は円形、もしくは楕円形で幅34～58cm、深さ21～38cm、底面の高さ標高10.25～10.33mを測る。柱間は70～73ピットが1.22m、73～88ピットが1.15m、88～87ピットが1.32m、87～70ピットが1.23mを測る。

87ピットの掘方は楕円形で長径43cm、短径38cm、深さ38cmを測る。埋土は2層に分層できる。柱痕跡は褐灰色砂質シルトで、幅14cmを測る。埋土は、にぶい黄褐色砂質シルトである。88ピットの掘方は方形で長辺62cm、短辺53cm、深さ35cmを測る。埋土は87ピットと同じで、柱痕跡は幅約14cmを測る。73ピットの掘方は楕円形で長径43cm、短径34cm、深さ11cmを測る。埋土は、炭化粒を含む褐灰色砂質シルトの単層である。70ピットの掘方は楕円形で長径50cm、短径47cm、深さ27cmを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。遺物は出土しなかった。

遺構の時期は、主軸方位が堅穴建物1 (N-68°-E) 及び堅穴建物2 (N-66°-E～N-72°-E) とほぼ同じことから、古墳時代前期前葉頃と推測する。遺構上面は大きく削平されており、柱間の間隔が狭いことから、堅穴建物の主柱穴のみ検出した可能性も考えられる。



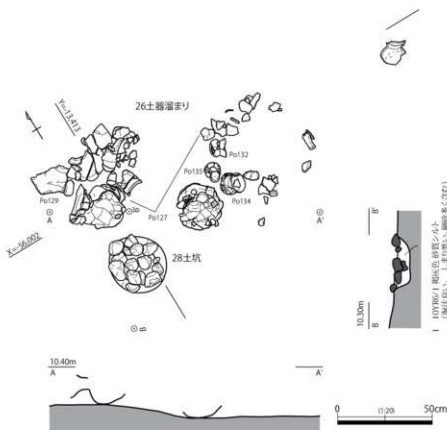
第84図 6区掘立柱建物2

### 3 土器溜り

#### 26 土器溜り (第85図・第86図、写真図版43・48)

T23-7d-1E-1b グリッドに位置し、標高 10.14～10.21 m の緩斜面に立地する。土師器の甕、壺、小型丸底壺、ミニチュア土器によって構成される。

竪穴建物2の西側、掘立柱建物2の南側に位置し、谷に向かう傾斜変換点付近で検出した。南側には28土坑が近接しており、両者は関連する遺構の可能性がある。遺構の範囲は東西2.1m、南北0.9mに広がる。大きく北西と南東の二群に分けることができるが、両者の間には接合関係が認められ、同時に廃棄されたことが明らかである。小型の壺やミニチュア土器などが出土することから、なんらかの祭祀が行われたと思われる。遺構の南端に位置する28土坑、南東側に位置する32土器溜りも、これに関連すると考えられる。



第85図 6区26土器溜り・28土坑

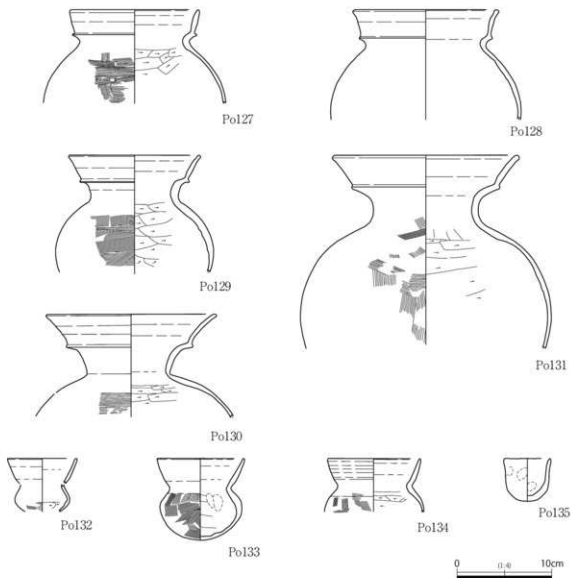
Pol27・Pol28は甕で、いずれも複合口縁を呈する。Pol27は口縁部から胴部の破片で、口縁部が外傾する。口縁端部は僅かにつまみ上げられ、口縁下端部は側方へ強く突出する。口縁部から頸部は内外面ともヨコナデ、頸部から胴部は外面はハケメ、内面はヘラケズリである。Pol28は口縁部から胴部の破片で、口縁部はやや外反する。口縁端部には平坦面を持ち、口縁下端部は側方へ突出する。風化による剥落のため、調整は不明である。

Pol129～Pol131は壺で、いずれも複合口縁を呈する。Pol129は口縁部から胴部の破片で、口縁部が大きく外傾する。口縁端部は僅かにつまみ上げられ、口縁下端部は側方へ突出する。肩部から胴部外面のハケメは、横方向を主体とする。Pol130は口縁部から肩部の破片で、口縁部は大きく外反する。口縁端部は丸くおさめられ、口縁下端部は側方へやや突出する。肩部外面には横方向のハケメが施される。Pol131は口縁部から胴部の破片で、口縁部は大きく外反する。口縁端部にあまい面を持ち、口縁下端部は側方に僅かに突出する。

Pol132～Pol134は小型丸底壺である。いずれも口縁部は外傾・やや内湾し、球形の胴部を持つ。Pol132は他に比べて胴部の張り出しが強い。頸部と底部を欠損する。Pol133は口縁端部が僅かにつまみ上げられる。底部内面はヘラケズリが及ばず、指オサエの痕跡が残る。Pol134は口縁部から胴部の破片で、口縁端部は僅かにつまみ上げられる。

Pol135はミニチュアの手捏ね土器である。全体的に指オサエの痕跡が認められる。

胎土や焼成の違いにより、色調が明瞭に異なるものが混在している。やや古い特徴を持つものもあるが、全体としては古墳時代前期前葉頃の特徴を示す。



第86図 6区26土器溜り出土土器

遺構の時期は、出土土器から古墳時代前期前葉頃と考えられる。

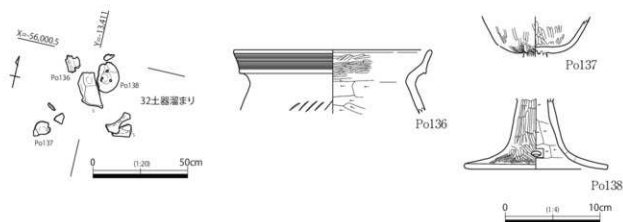
### 32土器溜り（第87図、写真図版43・48）

T23-7d-1E-1b グリッドに位置し、標高 10.20 m の緩斜面に立地する。弥生土器の甕、土師器の高坏、角礫などで構成される。26土器溜りの東側で検出した。

Pol36 は弥生土器の甕である。口縁部から肩部の破片で、口縁部は複合口縁を呈し、やや外反する。口縁部外面には8条の平行沈線が施され、口縁部下端部はやや下垂する。弥生時代後期後葉の特徴を示すもので、混入したものと考えられる。

Pol37・Pol38 は土師器の高坏である。Pol37 は坏部の破片で、碗形を呈する。古墳時代前期前葉から中葉の布留系高坏の特徴を示す。Pol38 は脚部で、脚柱部から脚端部に向かって大きく開く。外側から内側に向かって穿孔された円形透しが3箇所に認められる。

遺構の時期は、出土土器から古墳時代前期前葉から中葉頃と考えられる。



第87図 6区32土器溜り及び出土土器

#### 4 土坑

##### 28土坑（第85図、写真図版43）

T23-7d-1E-1b グリッドに位置し、標高 10.14 m の緩斜面に立地する。26 土器溜りの南端で検出した。掘方は円形で、径 30cm、深さ 7cm を測る。

埋土は褐灰色砂質シルトの単層で、細砂を多く含むが淘汰は良く、やや粘性がある。

土坑上面で、集石（15 個の礫群）が出土した。石材は安山岩で加工痕はなく、いわゆる川原石である。他に遺物は出土しなかった。

遺構の時期を示す遺物は出土しなかったが、遺構の位置から 26 土器溜りに関連したもので、古墳時代前期と考えられる。特に積んだような形跡はないが、祭祀の意味合いがあると思われる。

##### 115土坑（第88図、写真図版43・49）

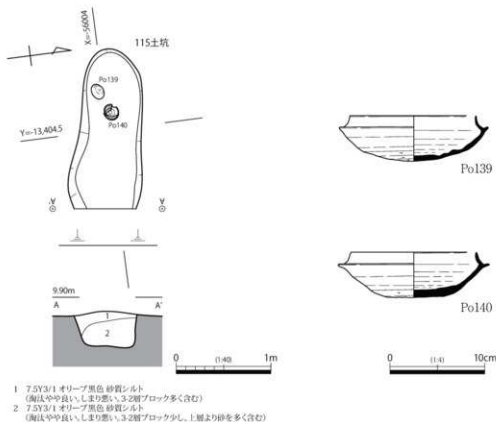
T23-7d-1E-1a グリッドに位置し、標高 9.8 m の緩斜面に立地する。調査区外へ延びるため、全体の形状は不明であるが、概ね不整長楕円形を呈する。規模は、検出長 1.7 m、幅 78cm、深さ 37cm を測る。

埋土は 2 層に分層できる。2 層とも基本の埋土となるオリープ黒色砂質シルトは同じで、上層はⅢ - 2 層ブロックが多く、下層はⅢ - 2 層ブロックが少なく、上層より砂を多く含む。

出土遺物には、底面からやや浮いた状態で出土した須恵器の坏身が認められる。土坑西側で、Pol140 は口縁を上、Pol139 は口縁を下にした状態で出土した。

Pol139 は口径 13.3cm、受部最大径 15.8cm と大型で、口縁端部と受部先端は丸くおさめられる。たちあがり高は 1.3cm、たちあがり角度は 31° である。底部は丁寧な回転ヘラケズリによって丸く成形される。回転ヘラケズリの範囲は最大径の 1/2 程度を占め、回転方向は時計回りである。Pol140 は口径 13.3cm、受部最大径 16.0cm と大型で、口縁端部と受部先端は丸くおさめられる。たちあがり高は 1.2cm、たちあがり角度 31° である。底部外面は、ヘラ切り後未調整で、あまい平坦面となる。その周辺は、粗い回転ヘラケズリによって成形される。回転ヘラケズリの範囲は限定的で、回転方向は時計回りである。いずれも、陶邑編年 TK10 型式併行と考えられる。

遺構の時期は、出土遺物から古墳時代後期（6 世紀中頃）と考えられる。



第 88 図 6 区 115 土坑及び出土土器

## 5 ビット

調査区東側、谷状に窪んだ部分で多く検出した。45～64 ビットの間で、ビットが集中するラインがある。建物や柵列等を復元できるかについては、さらに検討が必要である。各ビットの情報は、第18表に掲載することとし、ここでは主なものについて記載する。

### 41 ビット (第 91 図、写真図版 44・50)

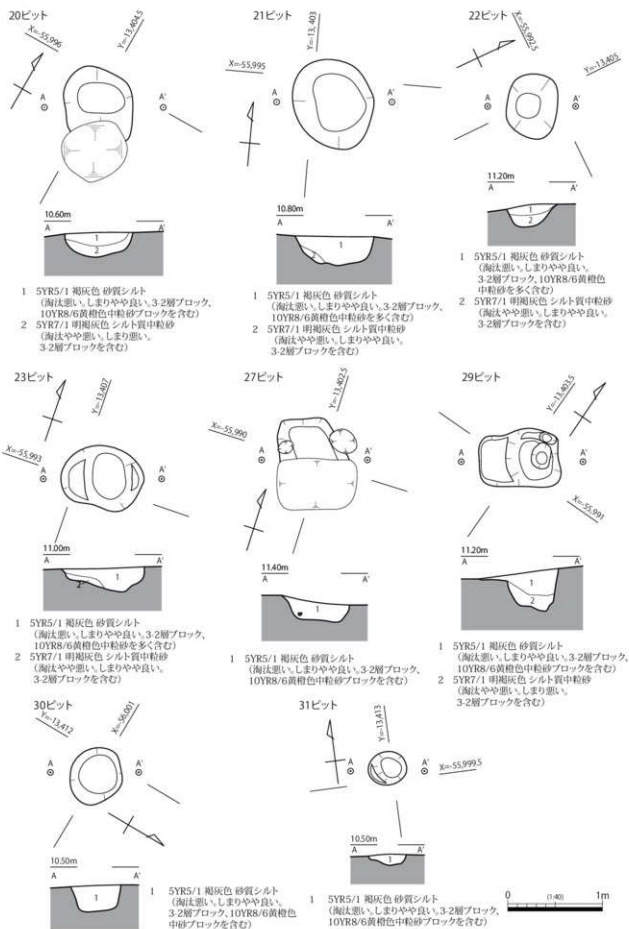
T23-7d-1E-1b グリッドに位置する。42 ビットと接している。掘方は方形で長軸 81cm、短軸 68cm、深さ 15cm を測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は土師器、須恵器、磨製石斧がある。土師器、須恵器は、小片のため図化できなかった。S13 は、ダイサイト製の両刃石斧である。棒状の礫を素材とし、研削によって一端を両刃に成形している。刃部以外にも、一部に研削の痕跡が認められるが、大部分は素材面のまま放置されている。左側縁及び正面の一部を欠損する。

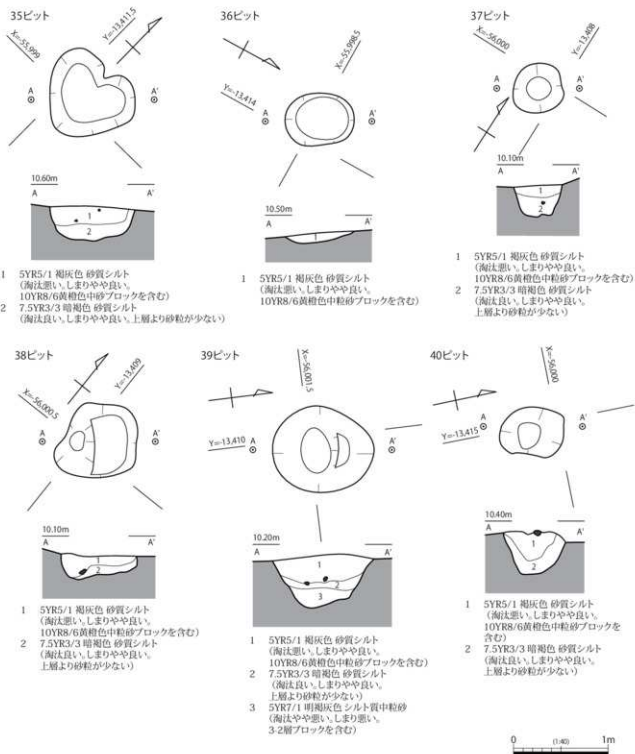
### 43 ビット (第 91 図、写真図版 44)

T23-7d-1E-1a グリッドに位置する。44 ビットと接している。掘方は円形で径 68cm、深さ 13cm を測る。埋土は 2 層に分層でき、上層は褐灰色砂質シルト、下層は暗褐色砂質シルトである。

出土遺物は土師器・須恵器の坏蓋 (TK47 型式併行か?) があるが、小片のため図化できなかった。



第89図 6区 20・21・22・23・27・29・30・31ピット



第90図 6区 35・36・37・38・39・40ピット

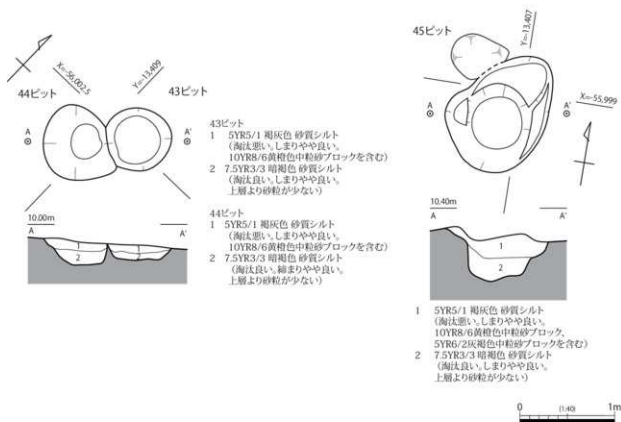
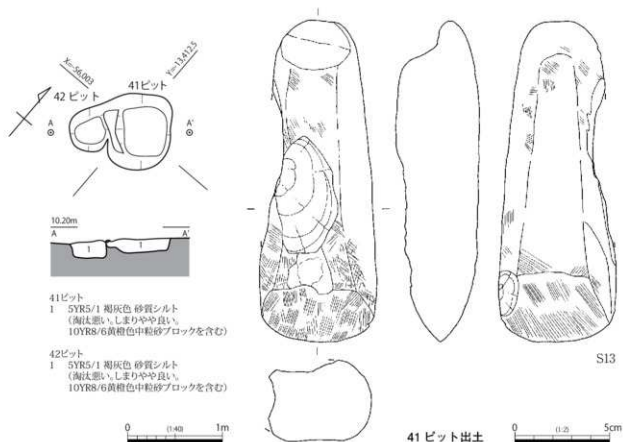
45ピット (第91図、写真図版44)

T23-7d-10E-10a グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径1.3m、短径1.0m、深さ52cmを測る。埋土は2層に分層することができ、上層が褐灰色砂質シルト、下層が暗褐色砂質シルトである。

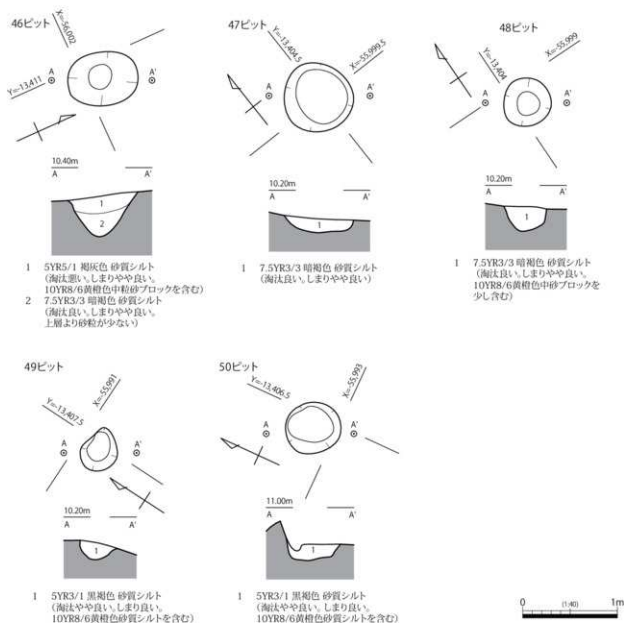
出土遺物は、下層出土の土師器・須恵器環があるが、小片のため図化できなかった。

遺構の時期は、高台が底部の外周辺に接合する、低い貼付け高台の須恵器の環が出土しており、奈良時代後半から平安時代と考えられる。





第91図 6区41・42・43・44・45ピット



第92図 6区46・47・48・49・50ピット

#### 46ピット (第92図)

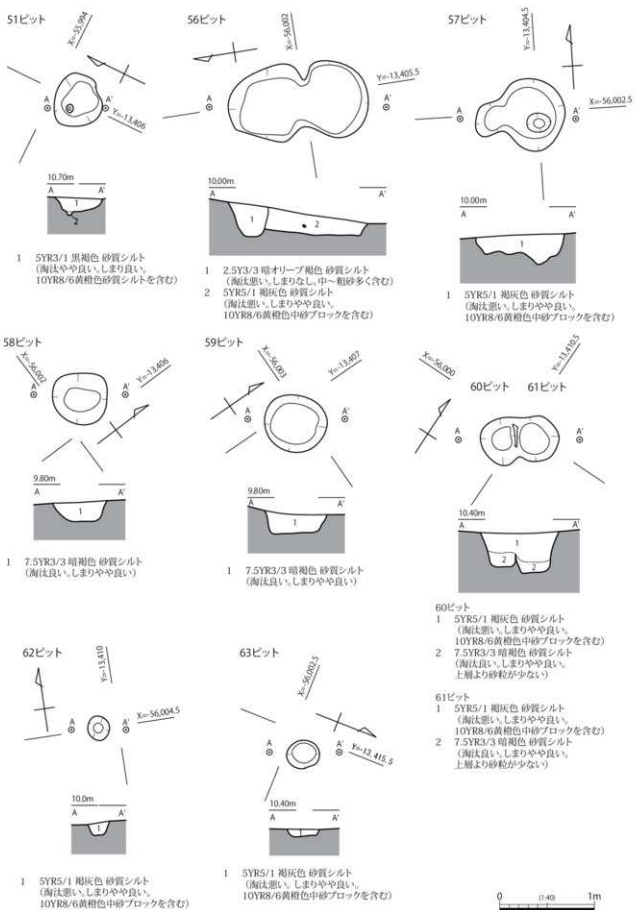
T23-7d-1E-1b グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径74cm、短径57cm、深さ42cmを測る。埋土は2層に分層することができ、上層が褐灰色砂質シルト、下層が暗褐色砂質シルトである。出土遺物は上層から土師器・須恵器がある。小片のため図化することはできなかった。

遺構の時期は、坏、あるいは壺・鉢類が想定できる底部回転切りの須恵器の底部が出土しており、奈良時代後半から平安時代と考えられる。

#### 67ピット (第94図)

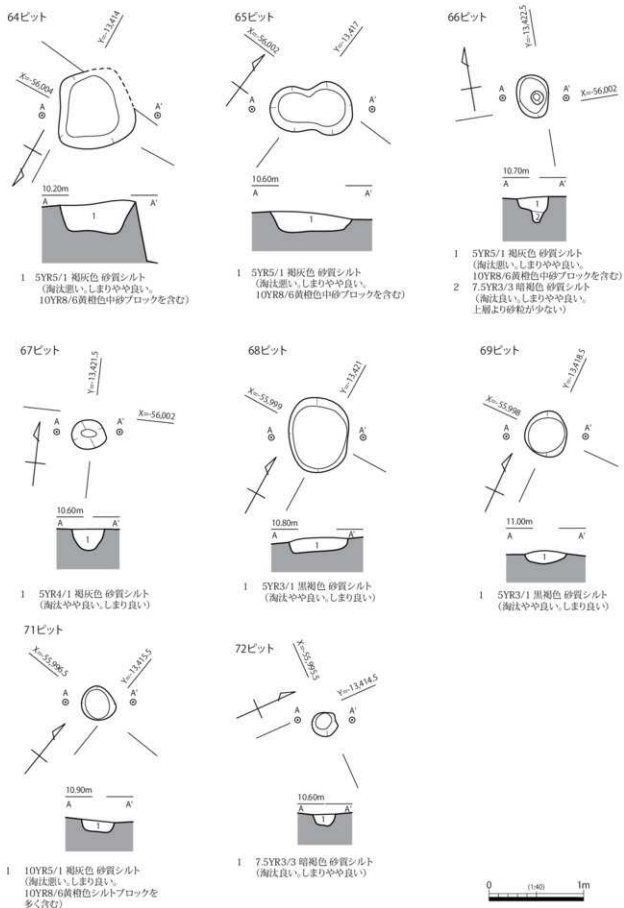
T23-7d-1E-1c グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径36cm、短径30cm、深さ22cmを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は土師器がある。小片のため図化することはできなかった。

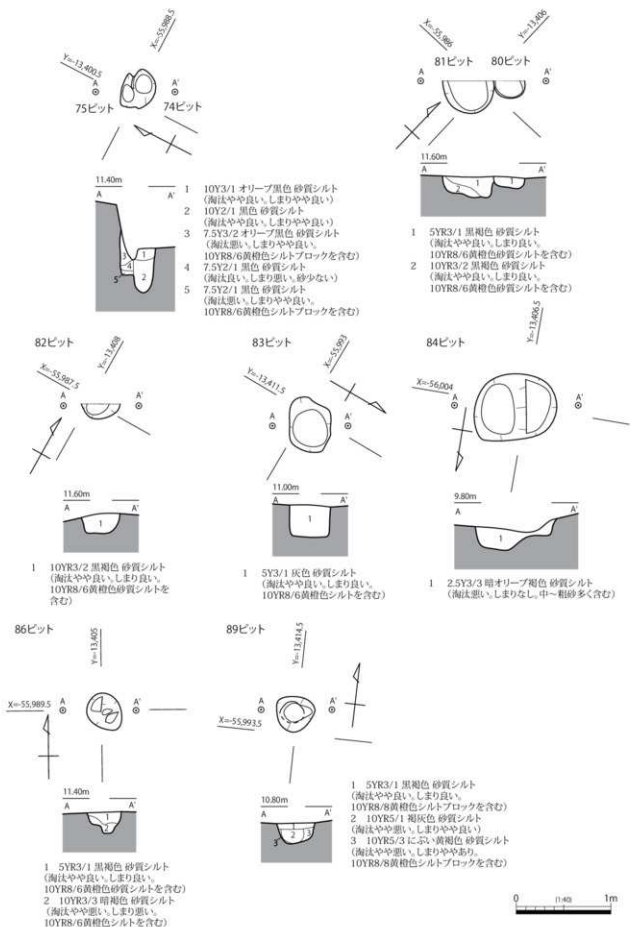


第 93 図 6区 51・56・57・58・59・60・61・62・63ピット

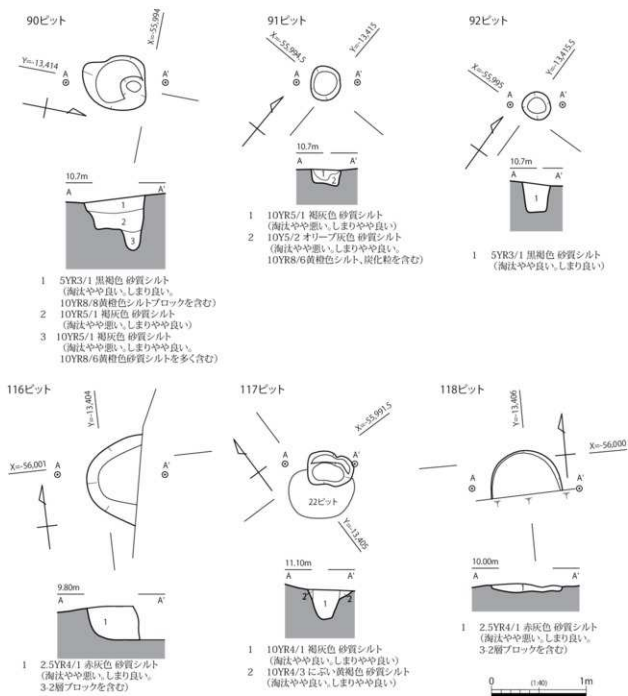
第5章 6区の調査成果



第94図 6区64・65・66・67・68・69・71・72ピット



第95図 6区 74・75・80・81・82・83・84・86・89ピット



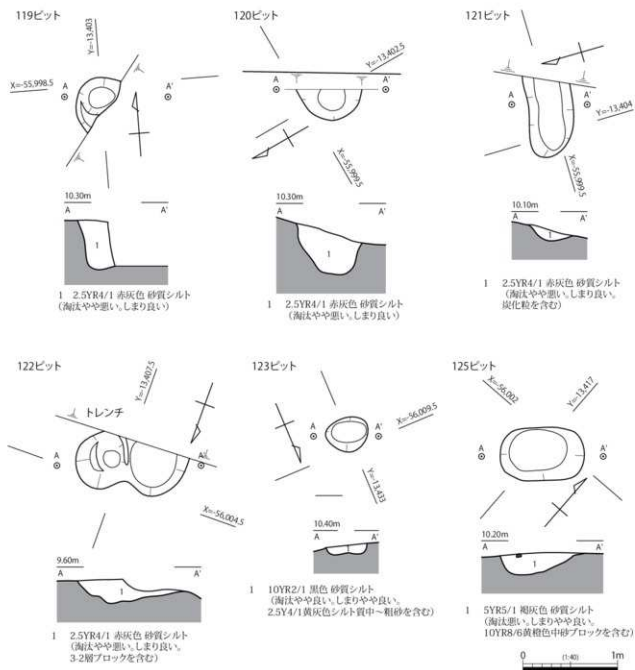
第96図 6区90・91・92・116・117・118ピット

68ピット (第94図)

T23-6d-10E-10c グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径79cm、短径66cm、深さ6cmを測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。

出土遺物は須恵器がある。小片のため図化することはできなかった。

遺構の時期は、断面四角形の低い貼付け高台付の須恵器坏が出土しており、奈良時代後半から平安時代と考えられる。



第97図 6区 119・120・121・122・123・125ピット

## 119ピット (第97図)

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。南東側はトレンチに側溝に切れ欠失するが、掘方は楕円形で径約 65cm、深さ 50cmを測る。埋土は赤灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は土師器・須恵器の甕がある。小片のため図化することはできなかった。

## 120ピット (第97図)

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。東側は調査区外へ延びる。掘方は楕円形で長径 70cm、短径 32cm、深さ 47cmを測る。埋土は赤灰色砂質シルトの単層である。

遺物は出土しなかった。

**121 ビット (第97図)**

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。南東側はトレンチに側溝に切れ欠失する。掘方は溝状で長軸90cm、短軸49cm、深さ11cmを測る。埋土は赤灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は奈良から平安時代の土師器杯・製塩土器がある。

**122 ビット (第97図)**

T23-7d-1E-1a グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径120cm、短径70cm、深さ21cmを測る。埋土は3-2層を含む赤灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は土師器があるが、小片のため図化できなかった。

**123 ビット (第97図)**

T23-7d-1E-2d グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径45cm、短径36cm、深さ10cmを測る。埋土は黒色砂質シルトの単層である。

出土遺物は土師器があるが、小片のため図化できなかった。

**125 ビット (第97図、写真図版45)**

T23-7d-1E-1b グリッドに位置する。65ビットと重複する。掘方は楕円形で長径89cm、短径56cm、深さ20cmを測る。埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。

出土遺物は、土師器の坏・製塩土器があるが、小片のため図化できなかった。

遺構の時期は、出土遺物から奈良時代から平安時代と考えられる。



### 第3項 第3遺構面

第3遺構面はⅢ層の砂質シルト・シルトを除去して検出した遺構面である。この掘削で谷状地形の変化が少なくなり、北西側は平坦地、南東側は緩やかな斜面となる。遺構はピット 15 基を検出した。

#### 1 ピット

調査区東南側、斜面の部分を中心に散在する。遺物が出土したのは 127 ピットのみである。各ピットの情報は、第 18 表に掲載することとし、ここでは主なものについて記載する。

#### 124 ピット (第 99 図)

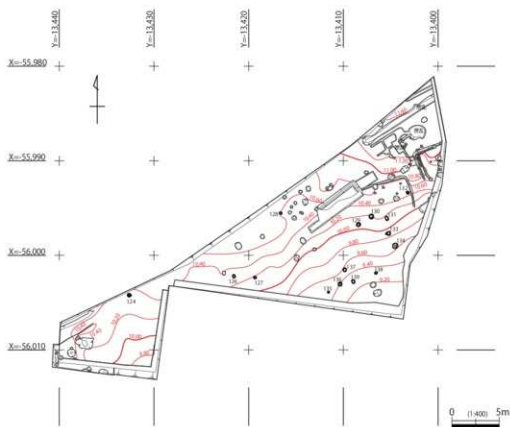
T23-7d-1E-1d グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径 42cm、短径 37cm、深さ 18cm を測る。埋土は 2 層に分層でき、上層は黄灰色シルト質細～中粒砂、下層は黒色シルトである。

遺物は出土せず、遺構の時期は不明である。

#### 127 ピット (第 99 図、写真図版 46)

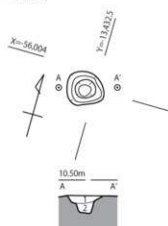
T23-7d-1E-1b グリッドに位置する。掘方は円形で径約 31cm、深さ 28cm を測る。埋土は黒褐色砂質シルトの単層である。

出土遺物には土師器があるが、小片のため図化することができず、遺構の時期は不明である。



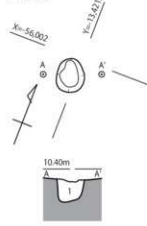
第 98 図 6 区第 3 遺構面遺構配置図

124ピット



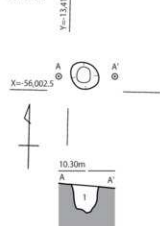
- 1 2.5Y5/1 黄灰色シルト質細～中粒砂  
(海汰悪い、しまり悪い、  
3.2層、7.5YR6/8褐色シルトを含む)
- 2 2.5Y2/1 黒色シルト  
(海汰やや良い、しまりなし、細～中粒砂少し混じる)

126ピット



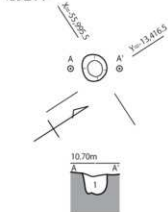
- 1 5YR3/1 黒褐色 砂質シルト  
(海汰やや良い、しまりやや良い)

127ピット



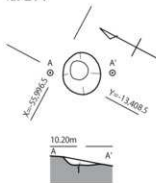
- 1 5YR3/1 黒褐色 砂質シルト  
(海汰やや良い、しまりやや良い)

128ピット



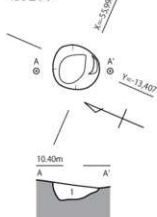
- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
7.5YR6/8褐色シルトを多く含む)

129ピット



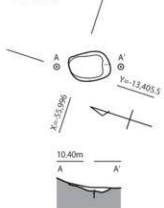
- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
7.5YR6/8褐色シルトを多く含む)

130ピット



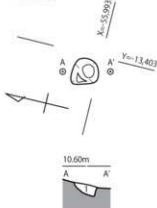
- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
3.2層を含む)

131ピット



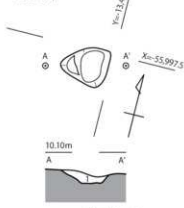
- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
3.2層を含む)

132ピット

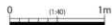


- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
3.2層を含む)

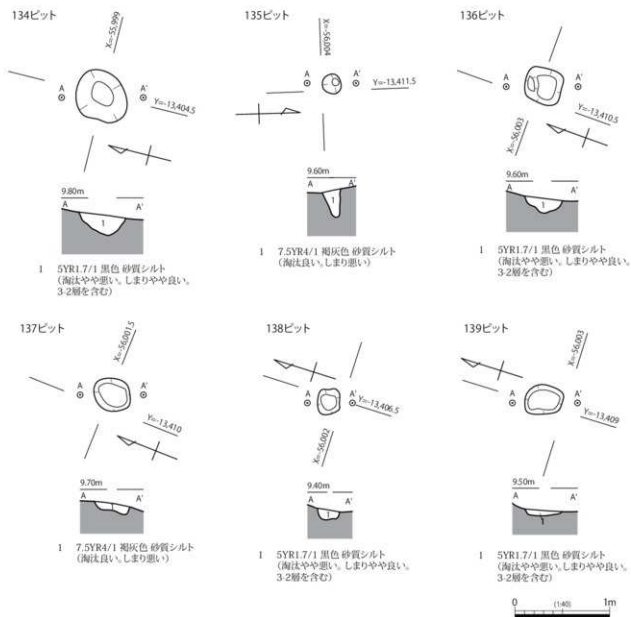
133ピット



- 1 5YR1.7/1 黒色 砂質シルト  
(海汰やや悪い、しまりやや良い、  
3.2層を含む)



第99図 6区 124・126・127・128・129・130・131・132・133ピット



第100図 6区 134・135・136・137・138・139ピット

## 130ピット (第99図)

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径50cm、短径47cm、深さ17cmを測る。  
埋土は黒色砂質シルトの単層である。遺物は出土しなかった。

## 135ピット (第100図)

T23-6d-10E-10a グリッドに位置する。杭状で掘方は円形で径20cm、深さ29cmを測る。  
埋土は褐灰色砂質シルトの単層である。遺物は出土しなかった。

## 139ピット (第100図)

T23-7d-1E-1a グリッドに位置する。掘方は楕円形で長径42cm、短径32cm、深さ6cmを測る。  
埋土は黒色砂質シルトの単層である。遺物は出土しなかった。

## 第4節 遺構外出土遺物

### 第1項 I層出土遺物

須恵器、土製品、石器などが出土した。須恵器は古代の資料を中心とするが、Ⅱ層から中世の遺物が出土しているため、本層の時期を決定するものではない。二次的に埋没したものと考えられる。

#### 1 土器 (第101図、写真図版49)

Po141～Po146は須恵器である。

Po141・Po142は、杯蓋の破片である。Po141は、頂部を回転ヘラケズリで成形された後、輪状つまみが接着される。内面は著しく摩擦しており、硯に転用された可能性がある。Po142は、頂部を回転ヘラケズリとナデで成形された後、宝珠状つまみが接着される。内面は一部が摩擦する。

Po143は高台付坏である。体部から底部の破片で、底部最外周に低い高台が付く。底部外面には回転糸切りの痕跡が認められるが、一部ナデ消されている。底部内面は回転ナデの後になでを施し、平坦に仕上げている。

Po144～Po146は壺である。Po144・Po145は口縁部から頭部の破片で、口縁部は外反し、端部は上方へ折り曲げられる。内外面とも、回転ナデが施される。Po146は体部から底部の破片で、底部の最外周に高台が付く。体部は内外面とも回転ナデが施されるが、外面には前段階のヘラケズリの痕跡、内面には粘土継ぎ目の痕跡が認められる。

#### 2 土製品 (第101図、写真図版50)

CP4は管状土錘である。胎土を円柱状に成形した後、上下両端から穿孔している。孔の貫通部分は、上下からの穿孔部分より一段細くなっており、穿孔は3段階に分けて行われた可能性がある。裏面を一部欠損する。

#### 3 石器 (第101図、写真図版50)

S14は、板状安山岩製の石鎌である。剥片を素材とし、周縁から剥離調整が施される。右側縁の一部には、刀子状工具による切削痕が認められる。使用により、全体的に摩耗している。

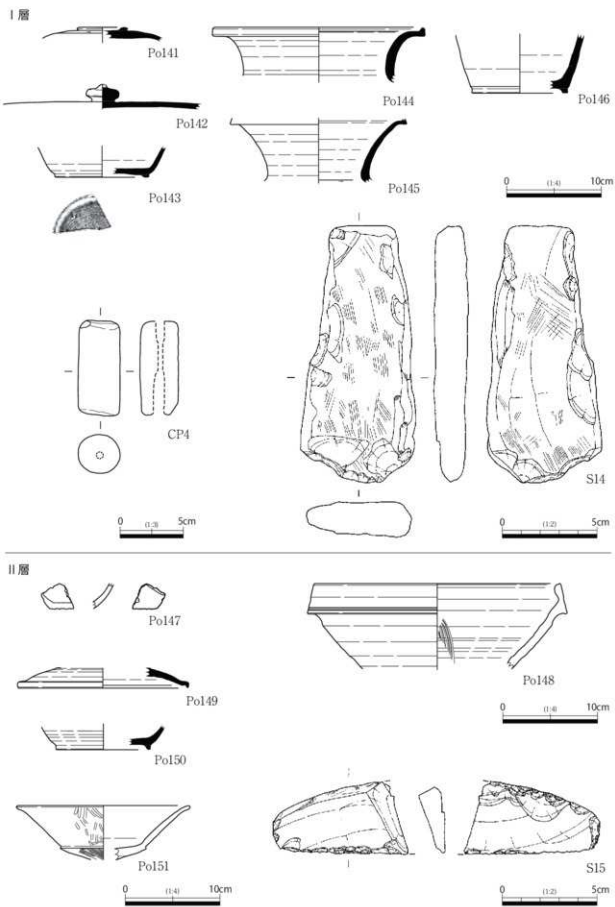
### 第2項 Ⅱ層出土遺物

瀬戸・美濃系天目茶碗、備前焼播鉢、土師器、須恵器、石器などが出土した。

#### 1 土器 (第101図、写真図版49)

Po147は、瀬戸・美濃系天目茶碗の破片である。全面に鉄釉が施される。

Po148は、備前焼の播鉢である。口縁部から体部の破片で、口縁部は上方に拡張された口縁帯が形成される。口縁帯は内抱え気味で、断面が「く」字状となっている。口縁帯下部には、2条の沈線が施される。口縁端部は上角を強くナデで尖り気味とし、口縁端部からやや下がった内面にも稜線を持



第101図 6区遺構外出土遺物(1)

つ。内外面とも回転ナデが施され、内面には櫛状工具による粗いスリメが施される。16世紀初頭から中葉頃の特徴を示す。

Po149・Po150は須恵器である。Po149は坏蓋の口縁部から肩部の破片である。口縁内部に身受けのかえりを持たないもので、口縁部は屈曲して下方に折れる。Po150は、高台付坏の体部から底部の破片である。底部の最外周に低い高台が付く。高台はやや華奢で、端部はあまい面を持つ。

Po151は土師器の高坏である。坏部の破片で、口縁部は外反し、屈曲部に明瞭な段を持つ。古墳時代前期頃の特徴を示す。

## 2 石器 (第101図、写真図版50)

S15は、デイスait製のスクレイパーである。剥片を素材とし、下縁に剥離調整によって刃部を形成する。裏面上部は厚みを調整するための剥離調整が施される。右半部を欠損する。

## 第3項 Ⅲ層出土遺物

弥生土器、土師器、石器が出土した。

### 1 土器 (第102図、写真図版49)

Po152～Po155は弥生土器である。

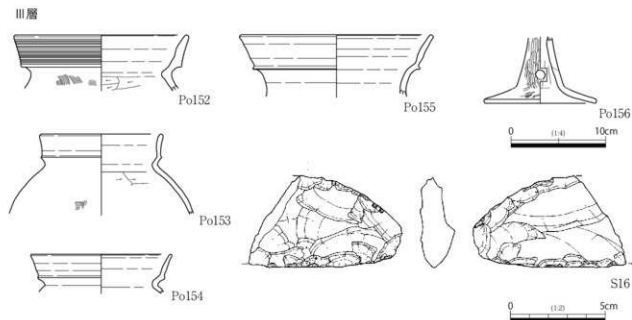
Po152～Po154は甕で、口縁部は複合口縁を呈する。Po152は口縁部から頸部の破片で、口縁部は外傾する。口縁部外面には10条の平行沈線が施される。弥生時代後期後葉の特徴を示す。Po153は口縁部から胴部の破片で、口縁部は僅かに外傾する。口縁部の器壁は薄手で内外面とも強くヨコナデされ、口縁端部は丸くおさまられる。弥生時代終末期の特徴を示す。Po154は口縁部から頸部の破片で、口縁部は外傾する。口縁部の器壁は薄手で、内外面とも強くヨコナデされる。口縁端部は丸くおさまられ、口縁下端部は側方へ僅かに突出する。弥生時代終末期の特徴を示す。

Po155は、壺の口縁部から頸部の破片である。口縁部は複合口縁を呈し、口縁部は大きく外傾する。口縁部端部は丸くおさまられ、口縁下端部は斜め下方へ突出する。弥生時代終末期の特徴を示す。

Po156は、土師器の高坏である。脚部の破片で、脚柱部から脚端部に向かって大きく開く。外面から内面に穿孔された円形透かしが認められる。古墳時代前期頃の特徴を示す。

### 2 石器 (第102図、写真図版50)

S16は、安山岩製のスクレイパーである。やや厚手の剥片を素材とし、周縁からの剥離調整によって成形する。左半部は、節理面で欠損する。



第102図 6区遺構外出土遺物(2)

## 第5節 遺構計測表

第15表 6区竪穴建物計測表

建物名 (集合遺構名)	地区 T23-	遺構面	主軸	平面形	主柱穴数	規模 (m)				備考
						長軸	短軸	深さ	柱間寸法	
竪穴建物1	第1段階	6d-10D-9b 6d-10E-9d	2	N-68°-E	方形 or 長方形	-	>2.5	29		
	第2段階					-	>2.5	<3.4		
	第3段階					-	>3.4	<3.9		
	第4段階					-	>3.4	39	0.45	
竪穴建物2	第1段階	6d-10E-10a	2	N-65°-E N-72°-E	長方形	22	5.7			
	第2段階					2	5.8	4.5	0.28	22

第16表 6区掘立柱建物計測表

建物名 (集合遺構名)	地区 T23-	遺構面	主軸	建物種類	平面規模 (桁行×梁行)	総長 (m) (桁行×梁行)	梁行柱間 (m)	桁行柱間 (m)	身舎面積 (m <sup>2</sup> )	重複 関係	備考
掘立柱建物1	7d-1E-2d	1	N-30°-W	-	-	-	1.65 ~ 2.00	3.86	-		石製礎盤
掘立柱建物2	6d-10E10b	2	N-69°-E	棚柱建物	1間×1間	1.23×1.32	1.22 ~ 1.32	1.15 ~ 1.23	1.4		

第17表 6区溝計測表

個別遺構名	地区名 T23-	遺構面	規模 (m)			備考 (中 新>古)
			検出長	検出幅	残存深	
2溝	7d-1E-1c・7d-1E-2c 7d-1E-1d・7d-1E-2d	1	6.81	1.36	0.44	・2溝>3溝。 ・下層から近世陶磁器出土。
3溝	7d-1E-1d・7d-1E-2d	1	7.99	1.30	0.36	・2溝>3溝。 ・東端立ち上がり部分を壊される。 ・近世陶磁器、銭貨出土。

第18表 6区土坑・ビット計測表

個別遺構名	集合同遺構名	地区名 T23-	遺構面	規模 (cm)			備考 (※新>古)
				検出長	検出幅	残存深	
1ビット		6d-10E-10a	1	67	35	19	・調査区東側東側掘削時に検出
4ビット		6d-10E-10a	1	49	42	27	・5ビットと重複するが、新旧関係は不明
5ビット		6d-10E-10a	1	80	40	43	・4ビットと重複するが、新旧関係は不明
6ビット		6d-10E-10a	1	65	61	30	・6ビット>20ビット>竪穴建物2
7ビット		6d-10E-10a	1	45	43	29	
8ビット		6d-10E-10a	1	55	43	30	・須恵器片出土 ・45ビット>8、9ビット
9ビット		6d-10E-10a	1	36	32	16	・45ビット>8、9ビット
10ビット		6d-10E-10a	1	54	47	20	
11ビット		7d-1E-1a	1	30	30	24	
12ビット	掘立柱建物1	7d-1E-2d	1	85	82	80	・径21cmの柱痕の下部に遺存状態の悪い柱材が残存 ・底面に礎盤石 (長軸55cm×短軸50cm×厚さ32cm 重量72.7kg)あり
13ビット	掘立柱建物1	7d-1E-1d	1	195	124	83	・底面に礎盤石 (長軸61cm×短軸41cm×厚さ13cm 重量45.4kg)あり ・埋土基礎(柱痕、柱材は検出されず) ・15、16ビットとの新旧関係は不明
14ビット		7d-1E-1d	1	62	49	17	・柱痕あり ・15>14ビット
15ビット		7d-1E-1d	1	33	31	6	・底面に礎盤石(22cm×27cm×8.5cm 86kg)あり ・柱痕、柱材は検出されず ・15>14ビット・13ビットとの新旧関係は不明
16ビット		7d-1E-1d	1	50	30	25	・13ビットとの新旧関係は不明
17ビット		7d-1E-2d	1	85	51	32	・掘り方に径8cm-16cmの礎を3点含む ・柱痕あり ・須恵器片出土
18ビット		7d-1E-2d	1	27	21	4	
19ビット		7d-1E-2d	1	12	12	3	
20ビット		6d-10E-10a	2	90	77	25	・6ビット>20ビット>竪穴建物2
21ビット		6d-10E-10a	2	99	80	30	・21ビット>竪穴建物2
22ビット		6d-10E-10a	2	68	53	24	・22ビット>竪穴建物2・117ビット
23ビット		6d-10E-10a	2	87	67	24	・23ビット>50ビット>竪穴建物2 ・須恵器出土
27ビット		6d-10E-9a	2	72	43	22	・27ビット>竪穴建物1
28土坑		7d-1E-1b	2	30	30	7	・上面に集石あり
29ビット		6d-10E-10a	2	85	62	43	
30ビット		7d-1E-1b	2	63	45	27	
31ビット		6d-10E-10b	2	40	44	12	
35ビット		6d-10E-10b	2	93	89	36	
36ビット		6d-10E-10b	2	73	55	9	
37ビット		7d-1E-1a	2	57	53	33	
38ビット		7d-1E-1a	2	95	83	25	
39ビット		7d-1E-1a,1b	2	107	91	54	
40ビット		7d-1E-1b	2	71	56	44	
41ビット		7d-1E-1b	2	81	△68	15	・42ビットと重複するが新旧関係は不明 ・磨製石斧出土
42ビット		7d-1E-1b	2	48	△40	18	・41ビットと重複するが新旧関係は不明
43ビット		7d-1E-1a	2	68	66	13	・44ビットと重複するが新旧関係は不明
44ビット		7d-1E-1a	2	86	73	24	・43ビットと重複するが新旧関係は不明
45ビット		7d-10E-10a	2	134	100	52	・45ビット>8、9ビット
46ビット		7d-1E-1b	2	74	57	42	
47ビット		7d-10E-10a	2	74	72	16	
48ビット		7d-10E-10a	2	52	50	24	
49ビット		6d-10E-10a	2	46	38	18	
50ビット		6d-10E-10a	2	58	54	△17	・23ビット>50ビット>竪穴建物2
51ビット		6d-10E-10a	2	57	52	18	・51ビット>竪穴建物2 ・竪穴建物2の基底を壊す
52ビット	竪穴建物2	6d-10E-10a	2	74	67	100	・維持柱
53ビット	竪穴建物2	6d-10E-10a	2	65	54	93	・維持柱
54ビット	竪穴建物2	6d-10E-10a	2	33	27	14	・柱穴
55ビット	竪穴建物2	6d-10E-10a	2	38	33	20	・柱穴
56ビット		7d-1E-1a	2	148	82	34	
57ビット		7d-1E-1a	2	96	78	31	
58ビット		7d-1E-1a	2	61	58	20	
59ビット		7d-1E-1a	2	66	60	24	
60ビット		7d-1E-1b	2	51	△39	37	・61ビットと重複するが新旧関係は不明
61ビット		7d-1E-1b 6d-10E-10b	2	48	△44	43	・60ビットと重複するが新旧関係は不明
62ビット		7d-1E-1b	2	25	22	12	
63ビット		7d-1E-1b	2	35	29	7	
64ビット		7d-1E-1b	2	85	81	38	
65ビット		7d-1E-1b	2	87	54	22	
66ビット		7d-1E-1c	2	46	35	28	
67ビット		7d-1E-1c	2	36	30	22	



個別遺構名	集合遺構名	地区名 T23-	遺構面	規模 (cm)			備考 (※新>古)
				検出長	検出幅	残存深	
68 ビット		6d-10E-10c	2	79	66	6	・ローム面にて検出
69 ビット		6d-10E-10b	2	48	44	4	・ローム面にて検出
70 ビット	掘立柱建物 2	6d-10E-10b	2	50	47	27	・ローム面にて検出
71 ビット		6d-10E-10b	2	36	36	11	・ローム面にて検出
72 ビット		6d-10E-10b	2	27	25	12	・ローム面にて検出
73 ビット	掘立柱建物 2	6d-10E-10b	2	43	34	11	・ローム面にて検出
74 ビット		6d-10E-9a	2	42	△24	46	・74 ビット> 75 ビット> 竪穴建物 2 ・竪穴建物 1 の壁面から陥り床で検出
75 ビット		6d-10E-9a	2	36	△13	45	・74 ビット> 75 ビット> 竪穴建物 2 ・竪穴建物 1 の壁面から陥り床で検出
76 ビット	竪穴建物 1	6d-10E-9a 6d-10D-9b	2	64	59	38	
77 ビット	竪穴建物 1	6d-10D-10j	2	61	47	18	・調査区外に延びる ・土層から取土No.134 窓 (湧き) 出土 ・調査区東壁面の観察では、陥り床は載っていない
78 ビット	竪穴建物 1	6d-10D-10j	2	30	26	18	
79 ビット	竪穴建物 1	6d-10D-10j	2	70	35	27	
80 ビット		6d-10E-9a	2	53	34	22	・80 ビット> 81 ビット ・調査区外へ延びる
81 ビット		6d-10E-9a	2	32	18	11	・80 ビット> 81 ビット ・調査区外へ延びる
82 ビット		6d-10E-9a	2	41	10	19	
83 ビット		6d-10E-10b	2	61	47	17	
84 ビット		7d-1E-1a	2	91	74	28	
86 ビット		6d-10E-9a	2	42	25	22	
87 ビット	掘立柱建物 2	6d-10E-10b	2	43	38	38	・ローム面にて検出
88 ビット	掘立柱建物 2	6d-10E-10b	2	62	53	35	・ローム面にて検出
89 ビット		6d-10E-10b	2	40	38	22	・ローム面にて検出
90 ビット		6d-10E-10b	2	73	60	56	・ローム面にて検出
91 ビット		6d-10E-10b	2	36	31	16	・ローム面にて検出
92 ビット		6d-10E-10b	2	30	29	30	・ローム面にて検出
93 ビット	掘立柱建物 1	7d-1E-2d	1	96	48	77	・調査区南西拡張部分にて検出
94 ビット		7d-1E-2d	1	75	29	51	・調査区南西拡張部分にて検出 ・礎石出土 → 94 ビット> 96 ビット
95 ビット	掘立柱建物 1	7d-1E-2c	1	113	33	56	・調査区西端拡張部分のローム面にて検出
96 ビット		7d-1E-2d	1	52	24	18	・調査区南西拡張部分にて検出 → 94 ビット> 96 ビット
97 ビット		7d-1E-2c	1	52	28	△32	・調査区西端拡張部分のローム面にて検出 ・95 ビットと重複するが新旧関係は不明
98 ビット		7d-1E-2c	1	29	22	△12	・調査区西端拡張部分のローム面にて検出
99 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	24	21	3	
100 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	30	24	17	
101 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	20	18	9	
102 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	23	20	9	
103 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	27	26	16	
104 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	59	56	21	
105 ビット	竪穴建物 2	6d-10E-10a	2	32	27	14	
107 ビット	竪穴建物 1	6d-10E-10a	2	17	15	15	
108 ビット	竪穴建物 1	6d-10E-10a	2	19	17	3	
112 ビット	竪穴建物 1	6d-10E-10a	2	35	34	11	
115 土坑		7d-1E-1a	2	168	78	37	・TK10 型式併行須恵器坏身出土
116 ビット		7d-1E-1a	2	96	55	35	
117 ビット		6d-10E-10a	2	49	38	31	・22 ビット> 117 ビット> 竪穴建物 2
118 ビット		7d-1E-1a	2	75	46	8	・3層掘削時に検出。南半を消失
119 ビット		6d-10E-10a	2	65	32	50	・東側は傾溝掘削時に消失
120 ビット		6d-10E-10a	2	70	32	47	・大部分は調査区外へ延びる
121 ビット		6d-10E-10a	2	90	49	11	・東側は傾溝掘削時に消失 ・48 ビット> 121 ビット
122 ビット		7d-1E-1a	2	120	70	21	
123 ビット		7d-1E-2d	2	45	36	10	
124 ビット		7d-1E-1d	3	42	37	18	・ローム層上面にて検出
125 ビット		7d-1E-1b	3	89	56	30	・風割木直上面にて検出 → 2面目での検出漏れ (埋土から判断)
126 ビット		7d-1E-1c	3	35	29	24	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
127 ビット		7d-1E-1b	3	31	27	28	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
128 ビット		6d-10E-10b	3	28	26	22	・ローム層上面にて検出
129 ビット		6d-10E-10a	3	44	39	6	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
130 ビット		6d-10E-10a	3	50	47	17	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
131 ビット		6d-10E-10a	3	45	33	21	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
132 ビット		6d-10E-10a	3	32	28	10	・ローム層上面にて検出
133 ビット		6d-10E-10a	3	55	42	11	・ローム層上面にて検出
134 ビット		6d-10E-10a	3	60	51	21	・ローム層上面にて検出
135 ビット		7d-1E-1b	3	20	19	29	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
136 ビット		7d-1E-1b	3	45	32	15	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
137 ビット		7d-1E-1a	3	42	35	9	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
138 ビット		7d-1E-1a	3	30	26	10	・ローム層上層の暗褐色土層で検出
139 ビット		7d-1E-1a	3	42	32	6	・ローム層上層の暗褐色土層で検出

## 第6節 遺物観察表

第19表 6区土器観察表

発掘 番号	図数 番号	取上 番号	地区 T23	遺構・層位	器種	法量 (㎤)	特徴	胎土	焼成	備考	
78	Pol20	6	66-10E-10a	1層	弥生土器	高:△7.5 口:Φ7.5 底:2.5	外面:(口縁部)ヨコナデ、6条の平行波線文(胴部)ヨコナデ、ミギキ、(肩部)ハクメ横2ガキ、(底部)ナデ 内面:(口縁部)ヨコナデ、(胴部)ナデヤエ、(底部)ハクメ横2ガキ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR8-4浅黄褐色・10YR6-3に濃い黄褐色 内面:7.5YR8-4浅黄褐色・10YR6-3に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		72	66-10E-8a	1層							
134	66-10E-10f	弥生建物1・7ビッド	土師器	高:△13.2 口:Φ14.1	外面:(口縁部)ヨコナデ、(胴部)ナデヤエ、(底部)ハクメ横2ガキ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-4灰白・10YR8-3に濃い黄褐色 内面:10YR8-2黄褐色・10YR4-2黄褐色 外面厚部:8Y・9Y同一黄褐色			
		94 (81) (95)	66-10E-10a 66-10E-10a 66-10E-8a	弥生建物1 (弥生建物1)下層 弥生建物1・9ビッド	土師器	高:△13.2 口:Φ14.1	外面:(口縁部)ヨコナデ、(胴部)ナデヤエ、(底部)ハクメ横2ガキ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-4灰白・10YR8-3に濃い黄褐色 内面:10YR8-2黄褐色・10YR4-2黄褐色 外面厚部:8Y・9Y同一黄褐色	
		98	66-10E-10a	弥生建物1	土師器	高:△4.2 口:Φ15.3	外面:ナデヤエ、ハクメヤエ 内面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(底部)ハクメヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR8-4浅黄褐色・10YR6-3に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
82	Pol23	152	66-10E-10a	弥生建物2 船体	土師器	鉄製 高:△2.9 口:Φ16.0	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ハクメ横2ガキ 内面:ミガキ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:2.5YR6-6青・5YR6-4に濃い黄褐色 内面:2.5YR6-6青・7.5YR6-4に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		108	66-10E-10a	弥生建物2	土師器	鉄製 高:△6.2 口:Φ17.6	外面:(唇部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ 内面:(唇部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR8-4浅黄褐色 内面:黄褐色	風化のため一部調整不明
83	Pol27	73 104 105	66-10E-10a	弥生建物2	土師器	高:△67.2 口:Φ12.4 底:Φ43.0	外面:(横口部)ヨコナデ、(把手)ナデヤエ、(胴部)ハクメ横2ガキ、(底部)ナデヤエ、(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ、(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(2㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-2・2.5YR8-4黄褐色・2.5YR4-2黄褐色 内面:7.5YR7-4に濃い黄褐色・10YR8-3に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		107 108 109 (99)									
		85	66-10E-10a	弥生建物2・下層	土師器	高:△14.2 口:Φ42.0	外面:(横口部)ヨコナデ、(把手)ナデヤエ、(胴部)ハクメ横2ガキ、(底部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR7-4に濃い黄褐色・7.5YR8-3浅黄褐色 内面:10YR7-4に濃い黄褐色・10YR6-3に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
86	Pol27	50 43 42	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:△9.9 口:Φ13.5	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ、(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7-4に濃い黄褐色 内面:10YR7-4に濃い黄褐色・7.5YR8-8明褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		61	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:△11.6 口:Φ14.9	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-4浅黄褐色 内面:10YR7-2に濃い黄褐色・10YR8-4浅黄褐色	風化のため調整不明
		70	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:△12.3 口:Φ13.8	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1.5㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR8-2灰白・10YR7-3に濃い黄褐色 内面:10YR8-2灰白・10YR7-2に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		59・60 40	76-1E-1b	26土器群 1層	土師器	高:△10.9 口:Φ17.9	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1.5㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:5YR5-8明褐色・5YR5-6黄褐色 10YR6-4に濃い黄褐色 内面:7.5YR5-6明褐色・5YR5-6明褐色・10YR8-2黄褐色・2.5Y5-2黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明 1層出土器と統合
		63 40・41	76-1E-1b	26土器群 1層	土師器	高:△20.4 口:Φ19.4	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(3㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:5YR6-8明褐色・7.5YR6-8明褐色 内面:5YR6-8明褐色	風化のため一部調整不明 1層出土器と統合
		69	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:△7.2 口:Φ7.2	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1.5㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:10YR7-3に濃い黄褐色 内面:10YR7-4に濃い黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		68 59	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:8.6 口:Φ9.1	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:7.5YR8-8明褐色・5YR8-6黄褐色 内面:5YR8-8明褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		66	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:△5.6 口:Φ9.8	外面:(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	内外面:5YR6-6黄褐色	外面厚部 外面風化のため調整不明
		64	76-1E-1b	26土器群	土師器	高:4.5 口:Φ4.8	外面:ナデヤエ、ナデヤエ 内面:ナデヤエ、ナデヤエ	青(1㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:5YR5-8明褐色・7.5YR6-6黄褐色 内面:7.5YR5-8明褐色	手捏土器
87	Pol36	77-1 76-1E-1a	76-1E-1b	32土器群 1層	弥生土器	高:△6.7 口:Φ20.8	外面:(口縁部)8条の平行波線文、(口縁部)ナデヤエ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ 内面:(口縁部)ヨコナデ、(胴部)ナデヤエ、(唇部)ナデヤエ	青(2㎜以下の砂粒含む)	良好	外面:5YR7-4に濃い黄褐色・10YR8-2灰白 内面:5YR7-4に濃い黄褐色・7.5YR8-3浅黄褐色	1層出土器と統合
		77-2 47	76-1E-1b 76-1E-1a	32土器群 1層	土師器	高:△4.3	外面:ミガキ、ハクメ横2ガキ 内面:ミガキ	青(2㎜以下の砂粒含む)	良好	内外面:5YR6-4に濃い黄褐色・7.5YR7-4に濃い黄褐色	1層出土器と統合

発掘 番号	埋蔵 番号	出土 番号	地区 T23	遺構・部位	器種	法量 (G)	特徴	胎土	焼成	色調	備考
87	Pa138	76	76-1E-1b	32土器群リ	土師器 高坏	高:△7.4 底:13.1	外面:(脚柱部)ヒガキ、(脚部)ハ コナテナ 内面:(脚柱部)ヘウケズリ、(脚部) ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒、5mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:5YR7/4に よる 1層～7.5YR2/3 の 1層 内面:5YR8/2 に よる 7.5YR8/2 1層	脚部穿孔(3方向)
88	Pa139	158	76-1E-1a	115土坑 2層	灰意器 坏身	高:4.8 口:13.3 底:15.8	外面:(口縁部-体部)回転ナテ、(体 部-底面)回転ヘウケズリ 内面:(口縁部-底面)回転ナテ、(底 面)回転ナテ後ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒、5mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:5Y5/1灰～ 10Y5/1灰 内面:5Y5/1～N3/ 灰	
+	Pa140	159	76-1E-1a	115土坑 2層	灰意器 坏身	高:4.8 口:13.3 底:16.0	外面:(口縁部-体部)回転ナテ、(体 部)回転ヘウケズリ、(底面)ヘウ ケズリ 内面:(口縁部-底面)回転ナテ、(底 面)回転ナテ後ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒、5mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:5Y6/1灰～ 2.5Y6/1黄灰 内面:5Y5/1～N3/ 灰	
101	Pa141	44-1	76-1E-1a	1層	灰意器 坏蓋	高:△1.15	外面:(つまみ)回転ナテ、(上部)脚 部ヘウケズリ、回転ナテ 内面:	厚:1mm 以下の砂 粒を含む	良好	内外面:5Y6/1灰	内面磨滅により調 整不明
+	Pa142	44-2	76-1E-1a	1層	灰意器 坏蓋	高:△0.25	外面:(つまみ)ナテ、(上部)回転ヘ ウケズリ 内面:ナテ	厚:1mm 以下の砂 粒を含む	やや 良好	内外面:7.5YR/1灰 白～2.5Y7/2灰黄	
+	Pa143	44-3	76-1E-1a	1層	灰意器 高台付坏	高:△3.3 口:9.8	外面:(体部)回転ナテ、(底面)回転 ヘウケズリ、(高台)ヨコナテ 内面:(体部)回転ナテ、(底面)ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:2.5Y6/1黄灰 内面:2.5Y7/1灰白 ～10YR7/1灰白	
+	Pa144	170	76-1E-1b	1層	灰意器 壺	高:△5.8 口:9.2	外面:回転ナテ 内面:回転ナテ	厚:2.5 mm以下の 砂粒を含む	良好	外面:N2黄灰～ N4灰 内面:5Y6/1黄灰	
+	Pa145	10 42	76-1E-1b 76-1E-1c	1層	灰意器 壺	高:△6.8	外面:回転ナテ 内面:(口縁部-頸部)回転ナテ、(頸 部)ナテ、ヘウケズリ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:5Y6/1灰～ N6灰 内面:2.5Y6/1黄灰 ～2.5Y6/2灰黄	口縁部欠損
+	Pa146	44-4	76-1E-1a	1層	灰意器 高台付坏	高:△6.3 底:9.101	外面:(体部)回転ナテ、回転ヘウケ ズリ 内面:(口縁部)回転ナテ、(高台)ヨコナ テ 内面:回転ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	内外面:5Y6/1灰～ 2.5Y6/1黄灰	
+	Pa147	52	76-1E-1c	II層	瀬戸・ 美濃系 天目茶碗	高:△2.7	外面:縁輪 内面:縁輪	厚:(0.5 mm以下の 砂粒を含む)	良好	縁輪部:N2黄～ 2.5Y7.5/1オリーブ 灰 露部部:10YR7/2に よる	
+	Pa148	15	76-1E-20	II層	備前焼 磁鉢	高:△9.0 口:9.259	外面:(口縁部-体部)回転ナテ、(口 縁部下部)2条の沈線 内面:(口縁部-体部)回転ナテ、(体 部)スリヤ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:2.5YR4/2灰赤 ～5YR3/1黄灰 内面:5YR3/2暗赤 ～	
+	Pa149	13-1	76-1E-1a	II層	灰意器 坏蓋	高:△2.2 口:9.180	外面:回転ナテ 内面:回転ナテ	厚:3mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:10YR7/1灰白 内面:10YR6/1灰赤 ～10YR5/1灰赤	内面灰輪付着
+	Pa150	13-2	76-1E-1a	II層	灰意器 高台付坏	高:△2.6 底:9.9	外面:(体部)回転ナテ、(高台)ヨコ ナテ 内面:回転ナテ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	内外面:2.5YR/1灰 白～2.5Y7/2灰黄	灰化のため外面底 部調整不明
+	Pa151	13-3	76-1E-1a	II層	土師器 高坏	高:△5.7 口:9.181	外面:(口縁部)ヒガキ、(坏部)ヒガ キ、ハコメ後ヒガキ 内面:	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:7.5YR7/6黄～ 7.5YR7/8黄黄 内面:7.5YR7/8黄黄	灰化のため内面調 整不明
102	Pa152	155-1	76-1E-1a	III層	弥生土器 罌	高:△5.9 口:9.182	外面:(口縁部)10条の平行沈線、 ヨコナテ、(頸部)ハコメ 内面:(口縁部-頸部)ヨコナテ、(頸 部)ヘウケズリ	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:10YR6/2灰黄 ～7.5YR7/3に よる 1層～7.5YR8/3 灰黄 内面:10YR7/2に よる 1層～10YR7/3 に よる 1層	
+	Pa153	155-2	76-1E-1a	III層	弥生土器 罌	高:△8.5 口:9.125	外面:(口縁部-頸部)ヨコナテ、(口 縁部)ハコメ 内面:(口縁部-頸部)ヨコナテ、(頸 部)ヘウケズリ	厚:3mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:2.5YR6-6黄～ 7.5YR8/6黄黄 内面:2.5YR7/4赤黄 ～7.5YR8/6黄黄	灰化のため一部調 整不明
+	Pa154	155-3	76-1E-1a	III層	弥生土器 罌	高:△4.1 口:9.148	外面:ヨコナテ 内面:(口縁部)ヨコナテ、(頸部-) 調整不明	厚:2mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:10YR7/4に よる 1層～10YR8/3 灰黄 内面:10YR8/2灰白 ～10YR7/3に よる 1層	
+	Pa155	155-4	76-1E-1a	III層	弥生土器 壺	高:△6.6 口:9.201	外面:ヨコナテ 内面:ヨコナテ	厚:(1.5 mm以下の 砂粒、赤 褐色土粒 を含む)	良好	外面:10YR8/3灰黄 内面:10YR7/2に よる 1層	灰化のため調整不 明
+	Pa156	165	76-1E-1a	III層	土師器 高坏	高:△7.1 底:9.117	外面:ヒガキ 内面:(脚柱部)シヨリ後ナテ、(脚部) ナテ	厚:1mm 以下の砂 粒を含む	良好	外面:10YR7/3に よる 1層～10YR9/2 灰黄 内面:10YR7/3に よる 1層～10YR6/3 に よる 1層	脚柱部彫込かし

第20表 6区土製品観察表

種目 番号	図記 番号	取上 番号	地区 T23-	遺構・層位	器種	法量 (cm・g)				特徴	胎土	焼成	色調	備考
						長さ	幅	厚さ	重量					
101	CP4	40	7d-1E-1b	I層	管状土師	7.5	3.4	3.1	△900	ナテ	赤 (1mm以下の 砂粒含む)	良好	10) 97.3に赤、黄褐色 - 7.5Y 98.4 或黄 色、2.5Y 7.1 黄白、2.5Y 4.1 黄灰	孔 (直径1) 一部欠損

第21表 6区石器観察表

種目 番号	遺物 番号	取上 番号	地区 T23-	遺構	層位	種類	法量 (cm・g)				石材	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重量		
82	SI2	74	6d-10E-10a	壁穴建物 2	I層	石蹴	△7.2	7.7	2.0	△135.5	板状安山岩	
91	SI3	130	7d-1E-1b	41ピット		両刃石斧	16.9	△6.2	4.4	653	デイスサイト	磨製
101	SI4	48	7d-1E-1a		I層	石蹴	13.6	6.1	1.8	307.3	板状安山岩	
-	SI5	148	6d-10E-10b		II層	スクレイパー	△3.8	△7.2	△1.4	△34.3	デイスサイト	
102	SI6	150	7d-1E-1b		III層	スクレイパー	△8.1	4.8	1.8	△67.6	安山岩	

第22表 6区銭貨観察表

種目 番号	遺物 番号	取上 番号	地区 T23-	遺構	層位	種類	法量 (mm・g)						備考	
							外縁		内縁		厚			重量
							外径	内径	外径	内径	外縁	文字面		
71	Br1	27	7d-1E-1d	3溝	銅銭 (寛永通寶)	24.31 23.81	19.10 19.21	7.67 7.69	5.33 5.40	1.40	1.07	2.6 <sup>g</sup>	付着物あり	

## 第6章 自然科学分析

### 第1節 大柵遺跡15(4~6区)の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

大柵遺跡(鳥取市大柵所在)は、野坂川中下流域に位置する遺跡で、縄文時代晩期から人間活動がみられ、弥生時代から古墳時代には大きな集落跡であったことがわかっている。また、奈良から平安時代の遺物・遺構も多数みつがっている。今回の分析調査では、4~6区で検出された遺構の構築年代に関する情報を得ることを目的として放射性炭素年代測定を実施する。また、4~6区の溝埋土試料について珪藻分析、花粉分析を行い、堆積物の堆積環境や古植生に関する情報を得る。

#### 第1項 放射性炭素年代測定

##### 1 試料

放射性炭素年代測定用試料は、4区8溝下層518木器(試料番号1)、4区8溝下層542木器(試料番号2)、4区8溝下層629木器(試料番号3)、4区8溝下層780木器(試料番号4)、4区8溝下層874木器(試料番号5)、4区8溝下層910木器(試料番号6)、4区8溝(新段階)950木器(試料番号7)、4区8溝(古段階)1042木器(試料番号8)、5区32ピット上層(試料番号9)、5区29ピット下層炭化物(試料番号10)、6区12ピット35木器(試料番号11)、6区13ピット36木器(試料番号12)の12点である。各試料の一覧を第23表に示す。

第23表 年代測定試料一覧

試料No.	取上番号	調査区	地区名	遺構			年月日	種別	区画	座標			重量	備考
				番号	名	層位				X	Y	H		
1	518	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150521	木器	○				0.79g	出土位置:D
2	542	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150521	木器	○				1.38g	出土位置:A
3	629	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150526	木器	○				0.74g	出土位置:C
4	780	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150601	木器	○				0.96g	出土位置:C
5	874	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150609	木器	○				0.85g	出土位置:A
6	910	4区	T23-76-1C-2	8	溝	下層	150610	木器					1.00g	出土位置:B
7	950	4区	T23-76-1C-2	8	溝(新)		150625	木器	○				1.29g	出土位置:B
8	1042	4区	T23-76-1C-2	8	溝(古)		150629	木器					0.81g	出土位置:D
9	-	5区	T23-76-1D-1f	32	ピット	上層	150703	炭化物					0.06g	5区孤立柱建物1 埋土水洗選別抽出試料
10	-	5区	T23-76-1D-1e	29	ピット	下層	150706	炭化物					0.03g	5区孤立柱建物2 埋土水洗選別抽出試料
11	35	6区	T23-76-1E-2d	12	ピット		150428	木器	○	-56010.435	-13438.619	10.099	0.75g	6区孤立柱建物1 柱材
12	36	6区	T23-76-1E-1d	13	ピット		150428	木器	○	-56009.290	-13437.499	9.811	0.64g	6区孤立柱建物1

## 2 分析方法

木材及び炭化物試料は、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を物理的に除去する。塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。

これらの試料を燃焼させて二酸化炭素を発生させ、真空ラインで精製する。その後鉄を触媒として還元し、グラファイトを得る。得られたグラファイトをカソードにプレスしてターゲットを作成する。タンデム加速器のイオン源に装着し、 $^{14}\text{C}$  の計数、 $^{13}\text{C}$  の濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )、 $^{14}\text{C}$  の濃度 ( $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) の測定を行う。測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシユウ酸 (HOX- II) とバックグラウンド試料の測定も行う。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (yrBP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma 68%) に相当する年代である。

暦年校正に用いるソフトウェアは CALIB var.7.1 である。また、このソフトウェアで用いられる校正曲線の最新のものは 2013 年に発表された Intcal13 (Reimer et al. 2013) である。なお、年代測定値は、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるが (Stuiver and Polach 1977)、将来的な校正曲線ならびにソフトウェアの更新に伴う再計算ができるようにするため、丸めない値 (1 年単位) を記す。暦年校正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、及び半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期  $5730 \pm 40$  年) を校正することによって、暦年代に近づける手法である。

## 3 結果

結果を第 24 表、第 103 図に示す。各調査区別に同位体補正を行った年代値及び括弧内に測定誤差  $2\sigma$  の暦年代を示す。

### (1) 4区8溝下層・8溝(新)

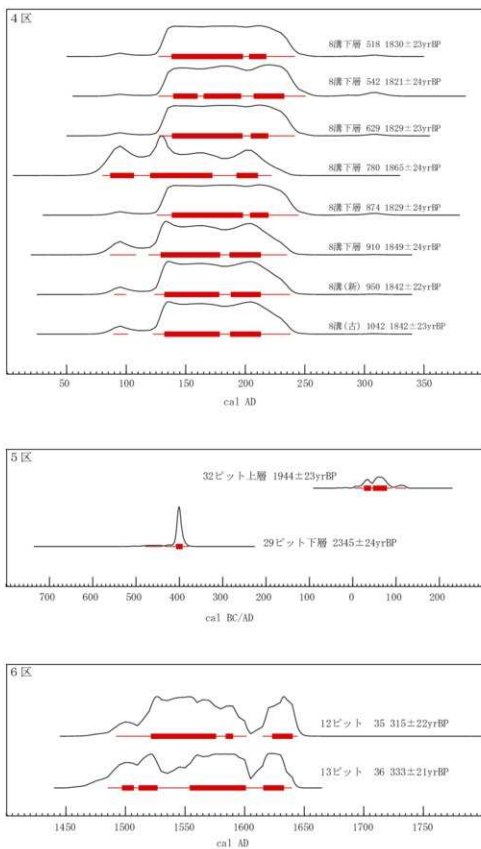
溝下層で確認された杭材の年代値は、518 木器 (試料番号 1) が  $1830 \pm 20\text{BP}$  (1820 ~ 1710 calBP)、542 木器 (試料番号 2) が  $1820 \pm 20\text{BP}$  (1820 ~ 1700 calBP)、629 木器 (試料番号 3) が  $1830 \pm 20\text{BP}$  (1820 ~ 1710 calBP)、780 木器 (試料番号 4) が  $1870 \pm 20\text{BP}$  (1870 ~ 1728 calBP)、874 木器 (試料番号 5) が  $1830 \pm 20\text{BP}$  (1820 ~ 1710 calBP)、910 木器 (試料番号 6) が  $1850 \pm 20\text{BP}$  (1830 ~ 1720 calBP) を示し、誤差範囲内ではほぼ一致する年代値を示した。

得られた年代値は西本編 (2006・2007) による考古年代と  $^{14}\text{C}$  年代との比較検討結果に基づくと、弥生時代終末~古墳時代初頭に比定されるが、本溝の発掘調査結果に基づく時代は、古墳時代前期であり、得られた年代値がやや古い年代を示していることになる。西暦 100 年から 200 年頃の日本産木材資料の年輪の  $^{14}\text{C}$  年代は、Intcal に比較して古い年代を示すことが確認されている (箱根産スギ埋没材で 30 ~ 40 年程度: Sakamoto, et al. 2003、屋久島産スギ材で 45 ~ 60 年程度: 吉光・中村 2012)。これらは大気中  $^{14}\text{C}$  濃度が地域的に均一でないこと (地域効果) によって生じる誤差と考えられている。したがって、今回の結果についても同様の誤差が生じている可能性が高い。このように年代によっては、Intcal による暦年校正において真の暦年代を示さない場合があり、箱崎 (2013) は日本産資料の  $^{14}\text{C}$  年代を高精度に暦年校正するためには、暦年代の明らかな日本産資料の  $^{14}\text{C}$  年代測

第24表 大橋遺跡4~6区の放射性炭素年代測定結果

区	試料番号	遺構名 取上番号	種類	分析 方法	測定年代 yrBP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 yrBP (暦年校正用)	暦年校正年代				Code No.	
								年代値			相対比		中央値
4 区	1	8溝下層 518	木材	AAA	1910 ± 20	-29.69 ± 0.22	1830 ± 20 (1830 ± 23)	$\sigma$	cal AD 138 - cal AD 198	cal BP 1812 - 1752	0.810	calAD 181	IAAA- 152716
								$2\sigma$	cal AD 203 - cal AD 218	cal BP 1747 - 1732	0.190		
	2	8溝下層 542	木材	AAA	1890 ± 20	-29.22 ± 0.23	1820 ± 20 (1821 ± 24)	$\sigma$	cal AD 140 - cal AD 160	cal BP 1810 - 1790	0.252	calAD 187	IAAA- 152717
								$2\sigma$	cal AD 207 - cal AD 233	cal BP 1743 - 1717	0.340		
	3	8溝下層 629	木材	AAA	1920 ± 20	-30.21 ± 0.29	1830 ± 20 (1829 ± 23)	$\sigma$	cal AD 138 - cal AD 198	cal BP 1812 - 1752	0.796	calAD 182	IAAA- 152718
								$2\sigma$	cal AD 205 - cal AD 219	cal BP 1745 - 1731	0.204		
	4	8溝下層 780	木材	AAA	1930 ± 20	-28.87 ± 0.23	1870 ± 20 (1865 ± 24)	$\sigma$	cal AD 87 - cal AD 107	cal BP 1863 - 1843	0.225	calAD 144	IAAA- 152719
								$2\sigma$	cal AD 120 - cal AD 172	cal BP 1830 - 1778	0.586		
	5	8溝下層 874	木材	AAA	1890 ± 20	-28.39 ± 0.25	1830 ± 20 (1829 ± 24)	$\sigma$	cal AD 138 - cal AD 198	cal BP 1812 - 1752	0.786	calAD 182	IAAA- 152720
								$2\sigma$	cal AD 204 - cal AD 219	cal BP 1746 - 1731	0.214		
	6	8溝下層 910	木材	AAA	1890 ± 20	-27.46 ± 0.26	1850 ± 20 (1849 ± 24)	$\sigma$	cal AD 129 - cal AD 179	cal BP 1821 - 1771	0.650	calAD 168	IAAA- 152721
								$2\sigma$	cal AD 86 - cal AD 108	cal BP 1864 - 1842	0.072		
	7	8溝(新) 950	木材	AAA	1790 ± 20	-21.92 ± 0.28	1840 ± 20 (1842 ± 22)	$\sigma$	cal AD 119 - cal AD 125	cal BP 1831 - 1715	0.928	calAD 174	IAAA- 152722
								$2\sigma$	cal AD 132 - cal AD 178	cal BP 1818 - 1772	0.637		
	8	8溝(中) 1042	木材	AAA	1840 ± 20	-24.75 ± 0.33	1840 ± 20 (1842 ± 23)	$\sigma$	cal AD 90 - cal AD 100	cal BP 1860 - 1850	0.021	calAD 174	IAAA- 152723
								$2\sigma$	cal AD 124 - cal AD 237	cal BP 1836 - 1713	0.979		
	9	32ピット 上層	炭化物	AAA	1980 ± 20	-27.12 ± 0.24	1940 ± 20 (1944 ± 23)	$\sigma$	cal AD 132 - cal AD 179	cal BP 1818 - 1771	0.642	calAD 174	IAAA- 152723
								$2\sigma$	cal AD 187 - cal AD 213	cal BP 1763 - 1737	0.338		
	10	29ピット 下層	炭化物	AAA	2310 ± 20	-23.06 ± 0.29	2350 ± 20 (2345 ± 24)	$\sigma$	cal AD 89 - cal AD 102	cal BP 1861 - 1848	0.036	calAD 174	IAAA- 152723
								$2\sigma$	cal AD 123 - cal AD 238	cal BP 1827 - 1712	0.974		
	11	12ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 26 - cal AD 42	cal BP 1924 - 1908	0.281	calAD 57	IAAA- 152831
								$2\sigma$	cal AD 47 - cal AD 79	cal BP 1903 - 1871	0.719		
	12	13ピット 36	木材	AAA	330 ± 20	-24.67 ± 0.22	330 ± 20 (333 ± 21)	$\sigma$	cal AD 4 - cal AD 90	cal BP 1946 - 1860	0.902	calAD 57	IAAA- 152831
								$2\sigma$	cal AD 98 - cal AD 123	cal BP 1852 - 1827	0.098		
13	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal BC 408 - cal BC 393	cal BP 2357 - 2342	1.000	calBC 402	IAAA- 152724	
							$2\sigma$	cal BC 479 - cal BC 440	cal BP 2428 - 2389	0.076			
14	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal BC 433 - cal BC 379	cal BP 2382 - 2328	0.924	calAD 1561	IAAA- 152725	
							$2\sigma$	cal AD 1521 - cal AD 1576	cal BP 429 - 374	0.718			
15	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 1584 - cal AD 1590	cal BP 366 - 360	0.075	calAD 1561	IAAA- 152725	
							$2\sigma$	cal AD 1623 - cal AD 1640	cal BP 327 - 310	0.207			
16	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 1492 - cal AD 1692	cal BP 458 - 348	0.783	calAD 1561	IAAA- 152725	
							$2\sigma$	cal AD 1615 - cal AD 1644	cal BP 335 - 306	0.217			
17	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 1497 - cal AD 1507	cal BP 453 - 443	0.081	calAD 1565	IAAA- 152726	
							$2\sigma$	cal AD 1511 - cal AD 1527	cal BP 439 - 423	0.170			
18	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 1554 - cal AD 1601	cal BP 396 - 349	0.544	calAD 1565	IAAA- 152726	
							$2\sigma$	cal AD 1616 - cal AD 1633	cal BP 334 - 317	0.205			
19	11ピット 35	木材	AAA	330 ± 20	-26.12 ± 0.28	320 ± 20 (315 ± 22)	$\sigma$	cal AD 1485 - cal AD 1640	cal BP 465 - 310	1.000	calAD 1565	IAAA- 152726	
							$2\sigma$						

- 1) 計測には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1を使用。
- 2) yrBP年代値は、1950年を基点として暦年値であるがを示す。
- 3) 付記した数字は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
- 4) A/Aは、酸、アルカリ、無機塩、A/Aは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。
- 5) 計測には炭化された木炭の屑を使用している。
- 6) 1層目を丸めるのが困難だが、暦年校正曲線や暦年校正プログラムが改正された場合の再計測と比較が行いやすいように、1層目を丸めていない。
- 7) 統計的に1 $\sigma$ の値が入る確率は68%、2 $\sigma$ は95%である。
- 8) 相対比は、 $\sigma$ 、2 $\sigma$ のそれぞれを1とした場合、標準的に1の値が存在する比率を相対的に示したものである。
- 9) 中央値は、確率分布面の面積が二分される年代値に換算したものである。



第103図 放射性炭素年代測定結果



定を年代的・地域的に広範囲にわたって実施していく必要があることを指摘している。

一方、8溝(新段階)の950木器(試料番号7)は $1840 \pm 20BP$ ( $1830 \sim 1710$  calBP)を示す。この年代値は8溝下層と一致する年代値であり、両遺構の構築時期差がほとんどないことが示唆される。

## (2) 5区

掘立柱建物1の柱穴より出土した炭化物は32ピット上層(試料番号9)が $1940 \pm 20BP$ ( $1950 \sim 1830$  calBP)、29ピット下層炭化物(試料番号10)が $2350 \pm 20BP$ ( $2430 \sim 2330$  calBP)を示した。このようにピット内の炭化物の年代値は、バラツキが大きい。また、掘立柱建物跡は古墳時代前期の層位より上位で検出されていることから、明らかに古い年代を示していることになる。ピット内を充填する堆積物の成因を踏まえた評価が必要であるが、何らかの過程を経て古い炭化物が埋土中に取り込まれているものと思われる。

## (3) 6区

掘立柱建物1の柱穴より出した木器は、12ピット35木器(試料番号11)が $320 \pm 20BP$ ( $460 \sim 310$  calBP)、13ピット36木器(試料番号12)が $330 \pm 20BP$ ( $470 \sim 310$  calBP)を示し、誤差範囲内で一致する年代を示した。得られた年代値は15世紀後半から17世紀前半を示しているが、残存部位が伐採時の最外年輪に相当するか否かは判断ができないため、遺構構築年代の下限年代として捉えておく必要がある。

## 第2項 珪藻分析・花粉分析からみた堆積環境・古植生

### 1 試料

珪藻分析、花粉分析用試料は、4区2層(試料番号1)、4区9溝9層(試料番号2)、4区9溝10層(試料番号3)、4区9溝11層(試料番号4)、4区9溝13層(試料番号5)、4区9溝15層(試料番号6)、4区9溝16層(試料番号7)、4区8溝(新段階)18層(試料番号8)、4区26層(試料番号9)、4区13溝30層(試料番号10)、4区15溝31層(試料番号11)、5区2溝24層(試料番号12)、5区7溝26層(試料番号13)の13点である。

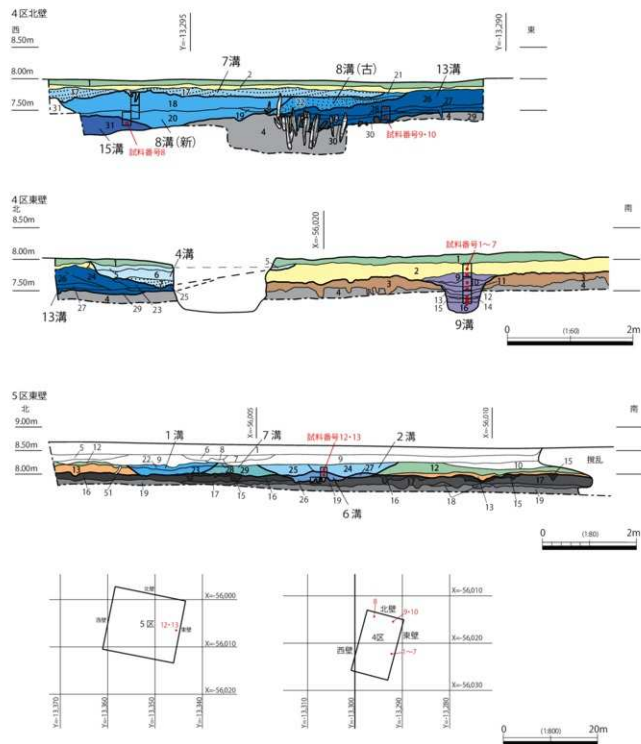
### 2 分析方法

#### (1) 珪藻分析

湿重約3gをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満し放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4~5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のブリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努めた。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot(2000)、Hustedt(1930-1966)、



第104図 試料採取位置

Krammer & Lange-Bertalot (1985 ~ 1991)、Desikachari (1987)などを参考にする。

群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類する。結果は、生態分類も含め、同定・計数結果の一覧表、及び主要珪藻化石群集の分布図として表示する。また、試料中の化石全体の保存状態と産出頻度を相対的に表したものを記号



第25表 珪藻分析結果

種 類	生態性		環境 指標種	1段:地点・遺構名		2段:遺構名		3段:層位			4段:試料番号					
				4区東壁						4区北壁			5区東壁			
				9溝						8溝 新	13溝		15溝	2溝 7溝		
				境分	pH	流水	2	9	10	11	13	15	16	18	26	30
<i>Nitzschia plana</i> W.Smith	Meh		DI,EI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	5
<i>Achnanthes crenulata</i> Grunow	Ogh-ind	al-bi	l-ph	T	-	7	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-
<i>Amphora affinis</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Amphora ovalis</i> var. <i>affinis</i> (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
<i>Caloneis leptosoma</i> Krammer & Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	l-ph	RB	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Caloneis silicula</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2
<i>Caloneis silicula</i> var. <i>intermedia</i> A.Mayer	Ogh-ind	al-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	3
<i>Caloneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Cocconeis placentula</i> var. <i>lineata</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	r-ph	T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cocconeis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Craticula cuspidata</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	S	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cymbella aspera</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O,T	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
<i>Cymbella heteroplaura</i> var. <i>minor</i> Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-ph		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella mesiana</i> Cholnoky	Ogh-ind	al-bi	l-bi	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
<i>Cymbella naviculariformis</i> Auerwald	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Cymbella tamida</i> (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Cymbella</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	2	-	2	1	1	-	3	-	1	-
<i>Diploneis ovalis</i> (Hille) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	ind	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Diploneis parva</i> Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Diploneis</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Encyonema silesiacum</i> (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	3
<i>Epithemia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Eunotia bilunaris</i> (Ehr.) Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
<i>Eunotia fallax</i> Cleve	Ogh-hob	ac-bi	ind	RA	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Eunotia incisa</i> W.Smith ex Gregory	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Eunotia pectinalis</i> (Dilwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>minor</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5
<i>Eunotia pectinalis</i> var. <i>undulata</i> (Ralfs) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Eunotia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	6	-
<i>Fragilaria capucina</i> Desmazieres	Ogh-ind	al-il	ind	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
<i>Fragilaria capucina</i> var. <i>gracilis</i> (Oestr.) Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-ph	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2
<i>Fragilaria parviuscula</i> (W.Smith) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Fragilaria sulcata</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	-	2	2	-	3	-	2	1	-	-	5	2
<i>Fragilaria</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	3	10	3	5	4	3	5	-	2	1	6
<i>Frustulia</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
<i>Gomphonema angustatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Gomphonema angustum</i> C.Agarth	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Gomphonema gracile</i> Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	14
<i>Gomphonema</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	-
<i>Hantzschia amphioxys</i> var. <i>vivax</i> (Hantz.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
<i>Laticula mutica</i> (Kuetz.) D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	3
<i>Meridion circulare</i> var. <i>constrictum</i> (Ralfs) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	r-bi	K,T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
<i>Navicula confervacea</i> (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	3
<i>Navicula elgnetensis</i> var. <i>neglecta</i> (Krass.) Patrick	Ogh-ind	al-il	r-ph	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula mutica</i> var. <i>ventricosa</i> (Kuetz.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Navicula placentula</i> (Ehr.) Kuetzing	Ogh-ind	al-il	l-bi	T	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Navicula radiosa</i> Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Navicula rhynchocephala</i> Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Navicula tenelloides</i> Hustedt	Ogh-unk	unk	r-ph	J,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Navicula tokyoensis</i> H.Kobayasi	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2
<i>Neidium ampliatum</i> (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
<i>Neidium hutchinsonii</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Neidium tridactylus</i> (Ehr.) Cleve	Ogh-hob	ac-il	l-bi	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	7
<i>Neidium</i> spp.	Ogh-unk	unk	unk	unk	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Nitzschia brevissima</i> Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Pinnularia acrospira</i> W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	22
<i>Pinnularia braunii</i> (Grun.) Cleve	Ogh-hob	ac-bi	l-ph	S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Pinnularia brevicostata</i> Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
<i>Pinnularia brevicostata</i> var. <i>sumatrana</i> Hustedt	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
<i>Pinnularia divergens</i> W.Smith	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3



第26表 花粉分析結果

種 類	1段:地点・遺構名 2段:遺構名 3段:層位 4段:試料番号														
	4区東壁							4区北壁				5区東壁			
	9溝							8溝新		13溝		15溝	2溝		7溝
	2	9	10	11	13	15	16	18	26	30	31	24	26		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13			
木本花粉															
モミ属	-	-	-	-	-	7	-	9	15	13	1	9	17		
ツグ属	1	-	-	-	-	-	-	2	4	4	-	5	13		
トウヒ属	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-		
マツ属単維管束亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
マツ属複維管束亜属	1	-	-	-	-	3	-	16	24	29	-	77	44		
マツ属(不明)	3	1	2	3	2	9	4	18	26	25	4	28	23		
スギ属	-	-	-	-	7	1	7	51	35	100	8	49	46		
イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	4	4		
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2		
ケルミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
クマシダ属-アサダ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	7	1		
カバノキ属	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-		
ハンノキ属	-	-	-	-	1	-	1	1	-	1	-	-	4		
ブナ属	-	-	-	-	1	1	-	4	-	8	-	11	10		
コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	1	5	2	3	-	17	29		
コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	-	-	3	1	1	4	-	2	7		
クリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1		
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	-	-	2	-	2	-	11	-	17	5		
シキミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
カラスザンショウ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-		
キハダ属	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	-	1		
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3		
ウコキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
ミズキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
イボタノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1		
草本花粉															
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2		
イネ属型	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	55	19		
他のイネ科	2	-	1	3	3	5	1	3	1	31	6	199	120		
カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	2	-	22	7	1	-	7	9		
ホシクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
ミズアオイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
サナエタダ属-ウナギツカミ節	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	18	17		
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-		
アカザ科	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	1	1	3		
ナadeshiko科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	3		
アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
アカバナ属-ミズユキノシタ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
セリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-		
ヨモギ属	-	-	-	1	-	-	-	2	1	7	-	3	10		
キク亜科	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	1	2		
タンポポ亜科	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	1		
不明花粉															
不明花粉	-	-	-	-	-	1	-	-	2	1	-	1	1		
シダ類胞子															
デンジツウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1		
他のシダ類胞子	5	26	44	9	23	8	14	36	53	159	6	91	64		
合 計															
木本花粉	6	1	2	3	11	23	17	114	113	206	15	231	212		
草本花粉	2	0	1	4	6	7	2	32	14	47	7	288	188		
不明花粉	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	1		
シダ類胞子	5	26	44	9	23	8	14	36	53	159	6	91	65		
合計(不明を除く)	13	27	47	16	40	38	33	182	180	412	28	610	465		



結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

### 3 結果

#### (1) 珪藻分析

結果は、第25表、第105図に示した。分析が行われた13試料のうち4区の1試料を除く12試料からは、珪藻化石が検出された。ただし、産出をみた試料も産出率は全体に低く、10試料は30個体未満(殆どは10個体未満)であり、200個体以上が検出されたのは5区の2試料のみである。

化石の保存状態は、大半の個体は半壊しているだけでなく、溶解が進んだ個体も認められることから、状態としては不良～極不良である。

検出された分類群は、ほとんど淡水生種のみといってもよい組成であるが、5区の2試料は、極低率に淡水～汽水生種と1個体の汽水生種が認められた。

#### (2) 花粉化石

結果を第26表、第106図に示す。分析残渣は全体的に少なく、いずれの試料も50 $\mu$ l以下である。このため、分析残渣の約半分を検鏡する。保存状態は全体的に不良である。また、花粉化石が少ない試料も多く存在する。

4区の試料のうち、試料番号1～7、11の8点は、シダ類孢子とマツ属が多少認められる程度で、花粉化石が少なく、保存状態も悪い。試料番号8～10も保存状態は悪いが、花粉化石がある程度検出される。木本花粉では針葉樹が大半を占める。スギ属が全体のおよそ半分を占め、次いでマツ属、モミ属、ツガ属が検出される。広葉樹花粉はブナ属やコナラ亜属、ニレ属―ケヤキ属などがみられるものの、少ない。草本類は全体的に低率でイネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属がみられる。栽培種としてソバ属が検出される。

5区の試料番号12、13は、木本花粉と草本花粉がほぼ同量である。木本花粉ではマツ属が多く、次いでスギ属、コナラ亜属、モミ属、ツガ属、ニレ属―ケヤキ属の順に多い。草本花粉はイネ科が多く、イネ属型も含まれる。イネ属型はイネ科全体の2割程度だが、保存状態が悪くイネ属と判別できなかったものも「他のイネ科」に含めているため、実際の割合はこれより高い。オモダカ属、ホシクサ属、デンジソウ属といった水生植物のほか、カヤツリグサ科、サナエタデ節―ウナギツカミ節、ヨモギ属等が検出される。

### 4 堆積時の水文環境

以下、調査区毎に産出した珪藻化石群集から推定される堆積環境について述べる。

#### (1) 4区

低率に検出された種は、流水不定性種の *Fragilaria ulna*、流水不明種の *Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. 等である。これらの種群の生態性は、まず、流水不定性種の *Fragilaria ulna* は、貧塩不定性、好アルカリ性及び流水不定であり、広域頒布種の一種で広範のさまざまな水域から見出される。本種は、生育時の生産力が高く、比較的、殻のシリカの沈着が厚いことから化石として残りやすい種である。



次に、流水不明種の *Fragilaria* spp.、*Pinnularia* spp. 等は、いずれも湿地に最も特徴的に認められ、主要な構成種になる属である。

本区では極端に産出率が低い為、検出された少ない個体(種群)から堆積環境の推定を行うのは危険であるが、前述した種群と産状等を基に若干の考察を行うと以下のように考えられる。

本分析結果のように化石の産出率が低く、化石の保存状態も極めて不良である場合の堆積時の環境は、経験的には水域ではなく、好気的な環境である場合が多い。陸域の低地などにおける好気的環境、すなわち大気に曝された場所での堆積は、通常、ほとんど無いに等しいが、低地などの場合には河川等の氾濫によって堆積が進行する。その場合、堆積速度が速いために、堆積物中の化石の絶対量は少ない傾向にある。

以上のように、本区の分析試料も産出率が特に低いことから、基本的に好気的な場所であり、堆積物自体は氾濫によってもたらされた可能性が示唆される。

## (2) 5区

特徴的に認められた種は、淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula*、淡水生種で流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、*Pinnularia gibba* var. *linearis*、*Pinnularia microstauron*、*Pinnularia rupestris*、*Pinnularia viridiformis*、止水性種の *Pinnularia acrosphaeria*、*Stauroneis phoenicenteron*、陸生珪藻の *Luticora mutica*、*Navicula confervacea* 等である。

特徴的に認められた種の生態性または生育環境は、まず淡水～汽水生種の *Rhopalodia gibberula* は、好塩性種であり、*Amphora ovalis* var. *affinis* とともに海成層から検出された例も多く認められる(安藤・南雲 1983: etc.)。また、田中(1987)によると、群馬県で発掘された古代水田からも本種が多産しており、当時の水田土壌に、多量に出現したことは、水田の水が塩類を豊富に含んでいたことを示しているとしている。さらに、奥平温泉(田中・中島 1985)、四万温泉(福島 1950)など塩類を多く含んだ温泉からの報告も多い。また、Cholnoky(1968)によれば、本種は高 pH の水域を好むとしている。次に、流水不定性種の *Pinnularia gibba* var. *linearis* は、好酸性(最適 pH6 付近)、富栄養から貧栄養種、湧泉・小川等にみられる着生種とされ(中島他 1978)、経験的には湿原あるいは湿地に多産する種である。さらに、*Pinnularia microstauron* は、富栄養化した湿地に認められる場合が多く、Asai and Watanabe(1995)によれば、好汚濁性種とされている。また、*Pinnularia rupestris* は、貧塩～嫌塩性種、好酸性、流水不定性種であり、比較的広範に生育するが、湿原、湿地あるいは沼沢地などに生育していることの多い種である。一方、止水性種の *Pinnularia acrosphaeria* は、湿地や池沼、湖の沿岸部に見られるとされる(Patrick and Reimer 1966)が、通常、湿地に爆発的に発生することが多い種である。同じく止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* は、比較的、広範に止水域に認められる種であるが、Cholnoky(1968)は最適 pH を 6.8 に持つ種類であるとしている。本種も湿地や池沼・湖沼の縁辺等の止水域に生育する種である。陸生珪藻の *Luticora mutica*、*Navicula confervacea* は、水中や水底の環境以外の例えばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群(小杉 1986)である。特に、本試料から産出した陸生珪藻は、離水した場所の中で乾燥に耐えうることのできる群集とされる(伊藤・堀内 1989; 1991)。なお、*Navicula confervacea* は、塩類を豊富に含んだ水田等に爆発的に出現することが知られている。本種は、経験的には陸生珪藻の側面より、前述の *Rhopalodia gibberula* と共に、閉鎖的で高塩類の水域に優占種として認められることが多い種である。

以上のような特徴種の産状と認められた群集の種構成から、本層準の堆積時は、地下水位が比較的高く、安定的な湿地の環境下にあったものと推定される。ただし、水の出入りが少なく、排水不良のため、水中の塩類濃度等が高まった水域であった可能性が高い。このような環境は、自然の中で認められることは少なく、普遍的に認められるのは水田である。

## 5 古植生

今回の花粉分析の結果をみると、全体的に花粉化石の保存が悪い。特に4区の9溝や13溝では花粉化石が少ない。花粉化石は好気的環境下による風化に弱く、かつ広葉樹に比べて針葉樹やシダ類胞子の方が風化に対する耐性が強いという特長をもつ(中村 1967 など)。立地や堆積物の状況からみて、堆積物の母材が氾濫等の河川堆積物であることは間違いないであろうが、その後風化を受けやすい環境下におかれることによって、花粉化石が分解したと考えられる。これら花粉化石の保存が悪い試料では、シダ類胞子や針葉樹花粉の割合が多い。これは、針葉樹花粉やシダ類胞子は、広葉樹花粉に比べ、スポロポレニンの量が多く(Stanley & Linskens 1974)、風化に対する耐性があることが影響していると考えられ(徳永・山内 1971)、周辺植生との関連性は薄い。

4区で花粉化石が検出された3点(試料番号8、9、10)も花粉化石の保存が悪い。9溝同様針葉樹やシダ類胞子が多いのは、風化に耐性のあるためと思われる。それに加えて、マツ属やスギ属は花粉生産量が多く、実際の周辺植生の割合より出現率が高くなる傾向にある。以上のことから、周辺では、マツやスギが生育していたと思われるが、花粉化石群集が示すほど多くなかったと思われる。スギの生育地として考えられるのは低地である。スギは現在では山間部にその分布が限られているが、富山県入善町には低地にスギの天然林が存在しており、富山県魚津市の海底からはスギの埋没林が検出されている。また、北陸地方の遺跡からはスギの木製品や自然木が多数検出されていることから、以前は、低地周辺にもスギが多く生育していたと考えられている(鈴木 2002 など)。これまでの分析例でも、約2000年前を中心としてスギ属の花粉化石や埋没林が、山陰から北陸の日本海側において多く検出されており、スギ林が分布を拡大していったと考えられている(高原 1998)。またマツ属は遺跡が海岸に近いことから、海岸沿いの砂丘など通常の植物が生育しにくい場所に二次林を構成していた可能性がある。一方、開発によって本来の植生が失われた場所に、先駆的に侵入し、マツの二次林が形成されたとも考えられる。ただし、別途分析を行った大桧遺跡(1-4区)の結果と照らし合わせてみると、後者の可能性の方が高いと考えられる。その他、モミ属、ツガ属、コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属などが認められる。これらは成長が早く、萌芽による再生が容易な種類であるため傷害に強いので、河畔や林縁に明るい林地を構成していたと考えられる。草本花粉は風化によって失われている可能性はあるが、イネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属が含まれており、栽培種のソバ属もみられることから、ソバ栽培など耕地化され開けた場所が存在していた可能性がある。

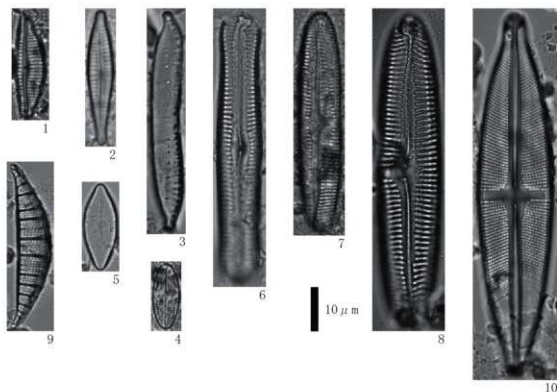
5区の2溝・7溝の2試料は、本遺跡(1-4区)東西トレンチの花粉組成に似ており、マツ属が多産する。このような花粉化石の産状は古代以降の堆積物で確認される場合が多い。マツ属が増加した理由は、開発によって本来の植生が失われた場所に、先駆的に侵入し、マツの二次林が形成されたのが原因と思われる。草本花粉の割合が高くなり、それに合わせてイネ属花粉が検出されることから、低地林が切り開かれて耕地化し、草地が広がったと考えられる。なお、モミ属、ツガ属、コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属などの花粉化石も検出されることから、これらは林縁や河川沿いなど土地を利用し

にくい場所に、森林が残っていたと推測される。また、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク科なども開けた草地を好む種類であり、周辺に生育していたと思われる。オモダカ属、ホシクサ属、ミズアオイ属、デンジソウ属など水湿地性の種類が検出されており、これらが生育可能な沼沢域が存在していたと考えられる。またイネ属の花化石が検出されることから、周辺での稲作が推定されるが、これらの水生植物は水田雑草として普通にみられることから、水田開発によってこれらの水生植物が増加した可能性もある。

#### 引用文献

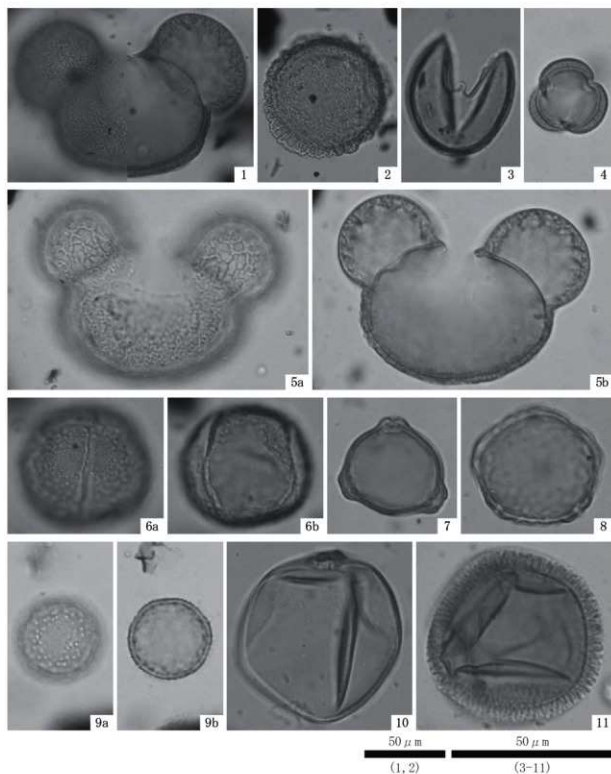
- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42 (1990), 73~88, aNN, Tohoku Geogr. Assoc.
- 安藤一男・南雲 保, 1983, 埼玉県, 荒川低地沖積層のケイソウ. 日本歯科大学紀要, 1983 (12), 241-249.
- Asai, K. & Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. *Diatom*, 10, 35 - 47.
- Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, Madras. Printed at T.T. Maps & Publications Private Limited, 328, G. S. T. Road, Chromepet, Madras-600044. 1-13. Plates: 401-621.
- Erdtman G., 1962, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I) .Almqvist&Wiksell, 539p.
- Erdtman G., 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteridophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II) .147p.
- Feagri K. and Iversen Johs., 1989, Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p.
- Horst Lange-Bertalot., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA : Annotated diatom micrographs. Witkowski, A., Horst Lange-Bertalot, Dittmer Metzeltin: Diatom Flora of Marine Coasts Volume 1. 219 pls. 4504 figs. 925 pgs.
- 藤本利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.
- Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz, unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
- 箱崎真隆, 2013, 高精度暦年校正に向けた北日本産樹木の放射性炭素年代測定. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XXIV: 42-51.
- Hustedt, F., 1937-1938, Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ III. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p. 1-155p, 274-349p.
- Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz, unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
- Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz, unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
- 伊藤良永・堀内誠示, 1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討 —— 陸生珪藻の細分 —— . 日本珪藻学会第10回大会講演要旨集, 17.

- 伊藤良水・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, 日本珪藻学誌, 6, 23-44.
- 近藤謙三, 2010, プラント・オパール図譜, 北海道大学出版会, 387p.
- 小杉正人, 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義-わが国への導入とその展望-, 植生史研究, 1, 9-44.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用, 第四紀研究, 27, (1), 1-20
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae, *Bibliotheca Diatomologica*, vol. 9, p. 250. Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa*, 2 (1) : 876p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2 (2) : 596p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2 (3) : 576p.
- Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, *Susswasser flora von Mitteleuropa* 2 (4) : 437p.
- 三好教夫・藤木利之・木村裕子, 2011, 日本産花粉図鑑, 北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純, 1967, 花粉分析, 古今書院, 232p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標徴 I II (図版), 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録 第12.13集, 91p.
- 中島啓治・田中宏之・吉田武雄・服部幸雄, 1978, 奥利根地域の珪藻類, 群馬県奥利根地域学術調査報告書(Ⅲ), 146-165.
- 西本豊弘, 2006, 新弥生時代のはじまり 第1巻 弥生時代の新年代, 雄山閣, 143p.
- 西本豊弘, 2007, 新弥生時代のはじまり 第2巻 縄文時代から弥生時代へ, 雄山閣, 185p.
- Patrick, R. and Reimer, C. W., 1966, The diatoms of the United States exclusive of Alaska and Hawaii. Vol. 1, 688p. *Monographs of Acad. Nat. Sci. Philadelphia* 13.
- Reimer PJ, Bard E, Bayliss A, Beck JW, Blackwell PG, Bronk Ramsey C, Buck CE, Cheng H, Edwards RL, Friedrich M, Grootes PM, Guilderson TP, Halldason H, Hajdas I, Hatté C, Heaton TJ, Hoffmann DL, Hogg AG, Hughen KA, Kaiser KF, Kromer B, Manning SW, Niu M, Reimer RW, Richards DA, Scott EM, Southon JR, Staff RA, Turney CSM, van der Plicht J, 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 55, 1869-1887.
- Sakamoto M, Imamura M, van der Plicht J, Mitsutani T, Sahara M, 2003, Radiocarbon calibration for Japanese wood samples. *Radiocarbon*, 45 (1) : 81-89.
- 島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態, 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.
- Stanley Robert & Linskens Hans, 1974, *Pollen: biology, biochemistry, management*, Springer-Verlag Berlin Heidelberg New York, 307p.
- Stuiver Minze and Polach A Henry, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. *Radiocarbon*, 19, 355-363.
- 鈴木三男, 2002, 日本人と木の文化, 八坂書房, 255p.
- 高原 光, 1998, スギ林の変遷, 図説 日本列島植生史, 安田喜憲・三好教夫編, 朝倉書店, 207-223.
- 田中宏之, 1987, 群馬県高崎市北部から発掘された古代水田の珪藻, 群馬県立歴史博物館紀要 8, 1-20.
- 徳永重元・山内輝子, 1971, 花粉・胞子, 化石の研究法, 共立出版株式会社, 50-73.
- 吉光貴裕・中村俊夫, 2012, 日本産樹木年輪の炭素 14 濃度測定および IntCal09 との比較検討, 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, XXIII: 57-62.



1. *Encyonema silesiacum* (Bleisch in Rabenh.) D. G. Mann (No. 12)
2. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (No. 12)
3. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (No. 12)
4. *Luticola mutica* (Kuetz.) D. G. Mann (No. 12)
5. *Navicula confervacea* (Kuetz.) Grunow (No. 12)
6. *Pinnularia acrosphaeria* W. Smith (No. 13)
7. *Pinnularia microstauron* (Ehr.) Cleve (No. 13)
8. *Pinnularia rupestris* Hantzsch (No. 13)
9. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Mueller (No. 13)
10. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (No. 13)

写真1 珪藻化石



- 1. モミ属 (No. 12)
- 3. スギ属 (No. 12)
- 5. マツ属 (No. 12)
- 7. カバノキ属 (No. 12)
- 9. オモダカ属 (No. 12)
- 11. デンジソウ属 (No. 12)

- 2. ツガ属 (No. 12)
- 4. ヨモギ属 (No. 12)
- 6. コナラ亜属 (No. 12)
- 8. ニレ属—ケヤキ属 (No. 12)
- 10. イネ属型 (No. 12)

写真2 花粉化石